

- 二三三、相原祐弥
 - 1 大正一二年 六月一九日 協議員御達承諾 田村子爵同席にて菅原氏へ吉川氏に対する決算一条交渉顛末を報告し相談
 - 2 大正一三年 二月二六日 菅原氏金融事情に付田村様と意見交換の結果此際決行方可然との意見 小生此度台湾高等法院長就任の為伯爵家協議員当分御免相願たし
 - 3 大正一三年 二月二八日 菅原氏伯爵家の金策に当り背任行為を免れさる次第にて此際断然協議員解囑を相当と認む
- 二三四、青木戒三
 - 1 昭和 六年 七月 二日 御退任に際し従来の御高恩を拝謝 昭和水利も御決定の方針にて進行
 - 2 年 七月一〇日 管下徳川郡元羅業者原料購入困難云々の通信記事に関し調査報告
- 二三五、青木周蔵
 - 1 明治三九年 三月一九日 旅順港全景の写真恵贈感謝
- 二三六、青木庄蔵
 - 1 昭和 八年 二月一日 同志社大学で「日の出る国」と題し演説 昨夜の閣下の御放送にも「日の出る国」の御言葉アヤツル繰り返され欽喜雀躍
- 二三七、青木信光
 - 1 年 三月二三日 画帖揮毫依頼
- 二三八、青木亮野
 - 1 昭和 九年 九月一五日 御願御聴許下さり草津町民一同深く感謝
 - 2 昭和 九年 月 日 揮毫御礼
- 二三九、青地太右衛門
 - 1 昭和 九年一二月二五日 明治四三年殉難者十四将兵の為め佐久間神社創立許可依頼
- 二四〇、青柳綱太郎
 - 1 昭和 二年 一月 五日 毎日申報経営相叶候はば政治の趣旨を斯民に徹底 京日社よりの分離独立希望 副島社長と小生との対鮮私見は氷炭相容れざるもの
 - 2 昭和 二年 一月三〇日 方今諺文の新聞機関放漫杜撰にして動もすれば政治の徹底を妨げん 邦字新開は既に心ある士民
- の信用を失墜 京日社の幹部更迭の場合は両社兼務京城新聞は長野直彦に三箇年経営を委任
 - 3 昭和 五年一二月二五日 類焼見舞御礼
 - 4 昭和 年一十一月一四日 黄海道は朴箕陽知事以来李範益内務部長時代に於ても内鮮人猛烈に反目対抗 野田鞞雄氏内務部長赴任後反目対抗を一掃然るに新聞の伝へし君の勇退説は意外 今回の御内達は朝鮮統治の為遺憾至極
- 二四一、赤井喜海
 - 1 昭和 五年 一月 一日 恭賀新年

- 二四二、赤井忠真
 - 1 明治三三年 五月二二日 少将被任祝詞 海軍学校入学の恩人田辺との会見を望む 田辺を罪陥れ金銭払込の遅速を争はんとするは何事ぞや
- 二四三、赤池 濃
 - 1 大正 九年 二月二五日 三月一日又は五日に事を起こさんと風評 鮮人の不退運動は宣教師等をして屈服させたし 宋乗峻の帰鮮は何卒御中止せしめられたし 成北問題に関し弱腰外交を批判 議会にて応酬御迷惑と案申上候
 - 2 大正 九年 三月二五日 南朝鮮地方御巡察小官随行 成北国境の情况当分平穩に帰するものと存じ候 平北地方陰悪なる情勢親日派に対し極力保護を加えて民心の安評を期す
 - 3 大正 九年：戸一一日 間島の善後策総督府の意志によりて経営 総領事の任免権を収め警察を増置し支那官憲を懐柔するを三要綱 万不得已の場合は総督府の機密費を散じて一挙に大勢を制したく切願
 - 4 大正一一年 一月二四日 朝鮮人事務官適当の人選願上 万歳騒及華府会議に蠢動せる者の減刑岡野大臣賛成 間島事件に付総理内田外相諒解
 - 5 大正一一年 五月二九日 外務省の会議に於て大臣に御指示の廉具申 大臣には張作霖敗軍の状況は不案内にて西比利亞事情も余り判明せざる由 一朝有事の際朝鮮総督府として必要なる自衛の手段を取る事に就ては充分に諒解を得候
 - 6 大正二年七月二四日 特任の賞典御礼
 - 7 大正一五年 五月 一日 目下と誤認して佐応氏等を襲へる狂漢あり候由 幸に伽無事■賀至極
 - 8 大正一五年 六月一一日 若槻首相の内閣改造研究会と有合を策せる逃歴然 有志と共に研究会を去る所以
 - 9 昭和 五年一二月：二日 リンゴ御礼
- 二四四、明石順三
 - 1 昭和 九年 九月 六日 御面晤御礼
 - 2 昭和一一年 一月二〇日 ルサフォード判事ラジオ演説内容記載の書面入手 御手許に差し出したく日時御指示賜はらば幸甚
- 二四五、明石元二郎
 - 1 年 五月 八日 十日日本倶楽部への御籠招参趣致兼
- 二四六、明石少佐
 - 1 年 八月 五日 馬尼刺及香港出張中御厚情を蒙り感謝
- 二四七、赤塚正助
 - 1 大正 八年 二月 五日 ハルピン地方にて不退逞人の懐柔に従事の裴貞子紹介 金銭的援助を依頼 (付1) 兎島中将電報写 石阪少将宛 一一月七日付裴貞子特務機関の為功績事実なりや 石阪少将返電写 兎島中将宛 一一月一〇日付 実績なし (付2) 大橋中佐書翰写 太田少佐宛 一一月九日付 鄭鳳鎮は裴貞子と本春来全く関係を断絶
- 二四八、赤羽四郎
 - 1 明治年月六日馬場大尉の届けに対し國務省より回答有之候に付通知
- 二四九、赤星弥之助
 - 1 明治二〇年一二月二四日 去る一八日樺山次官及随行諸君御安着 ダイナマイト砲我国海軍購入の義に付御配慮相願たし
- 二五〇、秋沢篤馬
 - 1 年 五月二一二日 御申越の義直に高田殖産局長へ申入 猶ほ僉議致し呉るる約束にて履歴書渡し置候

• 二五一、 秋月左都夫

- 1 大正 九年 九月二三日 砂里院・平壤・鎮南浦・兼二浦を巡遊 昨朝仁川に無事到着 来月一日に帰途の心算 面会依頼 古賀拓殖局長昨夜面会 電話にて連絡を乞う
- 2 大正 九年 九月二七日 潮の満干利用研究に従事致し居る人と面会 朝鮮統治上に付て意見ある由にて其内閣下の元にも参上可致
- 3 大正一〇年 二月 九日 (郡山智宛) 斎藤総督よりの御話承はり候 京城日報を唯地方的械関新聞として片付けて仕舞はれぬ丈のものに致したし定期刊行の小冊子本月末か来月初に発行決心 (付) 電報郡山智宛大正一〇年二月一四日付 当地にて既に決まり居る人あるやうな話を聞いた
- 4 大正一〇年 二月一〇日 郡山氏を経て御通しの件に付ては可成引受条件を数多陳列致せしは折角の厚志を全ふせん為念を入れたる次第
- 5 大正一〇年 三月 四日 例の件打合の為御目に懸りたし
- 6 大正一〇年 三月二八日 京城日報社九年度・十年度予算表は特に取寄には及ばず 数年の見込に付委はしき説明を与ふる準備を以て上京する様藤村氏に御通し下されたし 迂生の知りたきは両三年間何程の金額を使ひ得るかの点
- 7 大正一〇年 四月 四日 七日午後二時参上可致
- 8 大正一〇年 四月二九日 山県氏意見書転送正に落手 右意見は實際上多少の困難あるべし 記者に相当の者ありとの由其内実況を審にしたる上にて何とか可致 私居住の家は篤と取調の上決定致したし
- 9 大正一〇年 五月一八日 沙里院東拓支店長京城転任に付面会依頼
- 10 大正一三年 九月一三日 今般京城日報社長退任に際しては御町嚀なる御詞と莫大なる金子を忝ふし感佩
- 11 昭和一〇年一二月一〇日 天孫降臨紀会の迫田義光氏御紹介
- 12 大正 年 三月一五日 京城日報に関する閣下の方針に付ては先般晤を得て想像の誤らざりしを承知 政務総監以下の考を無視するは面倒出来の掛念あり 煙草専売の程度の問題に関しては弁論の自由を得たきもの
- 13 大正 年三月二八日京城日報計算並社員名簿御手数乍ら拙宅へ御届けしめ下されたし
- 14 年五月一九日三日内に一時間余御割当下されたし
- 15 年一〇月 九日 海軍省の機密書類中に属す李鴻章の上奏二通入手 入賞覧候
- 16 年一二月 九日 陸奥伯に面会 同伯は宣教師問題軽視すべからざる事直接彼等に接する者の人選忽にすべからざる事に同意せしも自分は健康が許さず自信なしとの返答
- 17 年一二月一一日 三好に左の通り打電大抵で引き受けてはどうだ
- 18 年一二月一二日 二万円支給御礼 十四日夕出発東上 一月下旬迄滞在の心組

• 二五二、 秋庭直衛

- 1 明治三二年 四月二五日 本艦工事もマスト・後部煙突取付終了懸念は甲鉄板工事の遅延

• 二五三、 秋元俊吉

- 1 昭和 四年一〇月一三日 (英文) 借用の切り抜き返却
- 2 昭和 七年一〇月一五日 (英文) リットン報告書に対し有色人種の不平等の反論を事実をもって展開すべし 東洋と西洋の対決は彼らの生命線 人種問題解決への努力によりリットン報告書や日中間の満州をめぐるいざこざは忘れられる 最初の行動は政府レベルでなく国民レベル
- 3 昭和 八年 三月二七日 (英文) 議会の無事終了を祝う 残るは官僚・軍の効率化 国際関係における宣伝重要

• 二五四、 秋山真之

- 1 明治三五年 一月二五日 米国大使館付武官より受領の米国海軍拡張案実施後の本年十月に於ける進行程度表及び新聞切抜 送付
- 2 明治三五年 一月一九日 陸軍が演習を利用して大に朝野人士の歡心を買ひ得たり 海軍も第二期拡張を機に東京湾にて天皇臨席の下一大観船式を挙行建言 第三期拡張案の成立を期す
- 3 明治四三年 月 日 待命中佐千秋泰二郎未だ自己の非を自覚致さず就ては閣下より今一度嚴重訓示を願いたし
- 二五五、秋山定輔
 - 1 年 一月一五日 社員藤田劍吾欧州より便乗の御厚配煩はし不堪感謝
- 二五六、秋山雅之介
 - 1 大正 九年 七月一五日 山東鉄道管理以来既に五年を経過 偏に御高庇の然らしむる処と感謝 山東風景写真帖、山東鉄道旅行案内御高覧に供す
- 二五七、芥沢銀蔵
 - 1 大正 七年 五月 一日 新茶送付
- 二五八、浅井将秀
 - 1 大正 六年 八月一七日 故有栖川元帥宮殿下御銅像建設に付旨趣書起草の上建設委員会合別紙の通成案を得 就ては此成案に異議なくば直に発表 一付一故有栖川元帥宮殿下御銅像建設旨趣書大正六年八月
 - 2 大正 六年 八月二三日 故有栖川宮銅像建設旨趣書別紙の通印刷に付し発表 (付1) 故有栖川元帥宮殿下御銅像建設委員書翰 大正六年八月付 釀金額標準に付通報 一付2) 故有栖川元帥宮殿下御銅像建設旨趣書 大正六年八月付
 - 3 年 五月一四日 河内殉難者墓碑の件につき体裁・文句・履歴等に関し御垂示仰ぎたし
- 二五九 朝枝惟一
 - 1 明治二八年 一月一五日 旅順鎮守府への招集依頼
- 二六〇、浅田賢介
 - 1 大正一三年 一月 一日 年賀状
- 二六一、浅野総一郎1 明治三八年 八月 二日 弊社新造船に関し御高話拝承致したし
 - 2 大正一四年 二月 五日 釜山港埋立の件は生田局長の中介を以て希望相達し清足 昨日藤原秘書官に仁川港埋立計画を差出
 - 3 大正一四年 七月一七日 釜山埋立の件に就き技術上の説明の為技師関毅派遣
- 二六二、浅野長勲
 - 1 年月日、日本国勢総攬推奨
- 二六三、朝比奈知泉
 - 1 明治三八年 一月一六日 十三日着艦 三須中将の為の宴会を旗艦吾妻にて行はせられ小生も列席
 - 2 昭和 四年 九月二三日 総督再任祝詞
 - 3 明治三八年 二月一四日 運送船捕拿の為去月十九日宗谷に向ひ昨一三日函館に入港 有事の日に御奉公致したく一旦解職御取計願
- 二六四、浅利三朗1 昭和 二年 一月 三日 東拓爆弾事件捜査の結果大体輪画も明に相成 京城日報の事件目下注意中 国外鮮人の入鮮不穩計画の情報頻にあり極力内偵防止に腐心

- 2 昭和 二年一二月三〇日 全北裡里に端を發する支那人迫害事件各道に派及 山梨総督着任後も種々中海あり未だ人心安定を得ざる有様 朝鮮の政党化は国家の深憂
- 3 昭和 三年 八月一〇日 丸山鶴吉氏来鮮は親戚の不幸により見合 小生転任説流布せられ候も朝鮮を党化せんとの総督周囲の策動に過ぎず総督も此等雜輩の裏面を看破
- 4 昭和 四年 七月三一日 朝鮮現時の状勢は政変に伴ひて頗る暗雲低迷 総督総監への事情報告が徒に小生の排斥運動悪宣伝を以て酬ひちれし事遺憾
- 二六五、 蘆野敬三
 - 1 大正 五年 七月一六日 御品恵投御礼
- 二六六、 麻生音波
 - 1 大正一五年 二月 四日 豆満江岸の鉄道敷設に付き菅原通敬に相談し東拓の池辺・岡田理事に資金尽力を御願 北鮮鉄道の許可期限一カ年延期認可願 鉄道社長には菅原通敬に御願ひし実際の従事員は総督府鉄道局より指定方願上
- 二六七、 麻生三郎
 - 1 明治四三年 一月二八日 交魚一籠輝久王殿下より被為贈侯
- 二六八、 安達謙蔵
 - 1 昭和一〇年一二月二八日 内大臣就任祝詞
 - 2 年 六月一二 渡辺鷹治郎君は四十年間朝鮮に在職し退官後窮地に沈淪 御高配依頼
 - 3 年一〇月 四日 衆議院議員小山令之・木村義雄・岡野竜一今般間島及成鏡北道方面視察の途次御地罷出に付き御引見願
 - 4 年一〇月六日 総督府逋信局と大日本国民中学会との間に講義録購入の件に付き行違就ては中学会代表小野謙一御引見願の上相当の御処置を仰ぎたし
- 二六九、 安達房次郎
 - 1 昭和 二年 六月 三日 総督府土地改良部官制發布小生同部長事務取扱拝命 委員会を組織し既設水利組合の救済策研究安州水利組合に付ては内務局と協議を重ね至急水源調査着手
 - 2 昭和 年一〇月 二日 八月末台湾より帰京 日月潭水電再興問題は拓務大蔵共に大体の了解を得たる模様
- 二七〇、 安達峰一郎
 - 1 昭和 元年一二月二七日 新聞記者ピエールデン氏引見御礼 帰国後同氏に会い朝鮮統治問題を議論
 - 2 昭和 二年 六月一〇日 今般大命を拝せられ着欧慶賀の至
 - 3 昭和 五年 五月一一日 不戦条約の結果国際紛争は国際才判所の処理に委任 小生国際才判所判事候補に立つことを承諾 落選せざる様画策中
 - 4 昭和 七年 五月二七日 組閣祝詞 日支問題当法廷に来るべしとは一般の信念 法律問題として当法廷の判決に付せられれば各員の一笑を買ふのみ
 - 5 年 四月 八日 一時帰朝に付き御懇書賜はり感謝 六月十五日には経米赴欧の筈
- 二七一、 穴沢濟吾
 - 1 年一〇月二六日 軍医を断念 赤十字社救護班の救護区員等にて国家を利益し傷病兵を慰め他日開業の準備を希望
- 二七二、 安彦武彦
 - 1 明治三二年 一月 一日 謹奉賀新年

- 二七三、阿部磯治
 - 1年 二月一九日 戸籍抄本送付
- 二七四、阿部栄吉
 - 1年 一月三十一日 石越鷺沢高田鉱山間に馬車軌道敷設認可申請の為本町長上京に付き後藤内相へ御紹介迅速認可方御取計願上
- 二七五、阿部銀子
 - 1年 五月 六日 貯金奨励に付本会奨励員横須賀鎮守府在港軍艦乗員工廠等に勸説し式万有余の郵便据置貯金召紙配布 永遠継続の方法を講ずべく本人大阪へ出発
- 二七六、阿部宣之介
 - 1年 九月一四日 高橋前蔵相御紹介願出の件御口添奉願 額面染筆願上
- 二七七、阿部辰之助
 - 1 大正一〇年 二月一九日 一昨年七月より全鮮旅行中は鮮人有力者に逢い意見交換 官民衝突の防止、内鮮融和の調査に従事 著書に発表し能はざる件も有り御会见申出
 - 2 昭和 四年一二月二七日 大陸調査会「慶尚北道及南道実査旅行報告」
 - 3 大正 五年 四月 七日 八道へ巡回講演の為出張（付）京畿道外七道巡回講演日割
 - 4 昭和 五年 六月 六日 大陸調査会「京畿道内ノ報告」「御内報ノ件」
- 二七八、阿部彝徳
 - 1 明治 年 一月 一日 謹奉賀新正
- 二七九、阿部鶴之輔
 - 1 大正一〇年一一月 日（電話）政友会最高幹部会高橋蔵相を後任首班に推薦の模様
 - 2 昭和 五年 六月一四日（電報）宇垣陸相辞任 後任は南朝鮮軍司令官の模様
 - 3 昭和 九年 月 日（メモ）鈴木政友会総裁の窮状から政友会幹部も愈々行詰り床次氏を訪問現状打開策を懇請
- 二八〇、阿部信行
 - 1 昭和 五年 五月二九日（電報）本日軍事参議官会議開催 財部海相・加藤部長一步も譲らず散会（電報）軍事参議官会議政府に非ありと唯今決定
- 二八一、阿部久太郎
 - 1 大正 八年 九月一〇日 本月二日不逞鮮人の暴挙に付御見舞
- 二八二、阿部松之進
 - 1 明治二九年 六月 九日 金鷄勲章功四級に御栄叙祝賀
 - 2 明治三〇年一一月 五日 去月御回航の大任を被相違候由 賀儀奉呈
 - 3 明治三〇年一一月 八日 林檎不日配送
 - 4 明治三七年 四月一四日 今回渡米の儀に就ては御厄介に相成御礼 一昨朝ビクトリア着 鮭漁は七月一日より開始にて夫迄は言葉の稽古
 - 5 大正 九年 六月 九日 昨日無事帰宅 老父母は思の外元氣にて帰朝を満悦 御恵与の珍菓御礼
 - 6 大正 九年 六月一八日 小生加奈陀日本人会長に就職の儀に関し御警告を賜はり恐害懼 固辞致候も本年も重任 数年来太平生

命事件に関し御高配感謝

- 7 昭和 五年 四月二一日 今回齊様御渡欧の趣使命を果され御帰朝の様熱禱 昨夕私迄御相伴の栄に預り恐縮
 - 8 昭和 五年 四月二二日 本春は養蠟業反予想の結果に了し候 御高庇に依りて鯧工船漁業に活路を開きたし 岩ヶ崎中村氏息男 今回修学継続の趣 大竹氏より依頼あり若し適當の処有様なれば御厚配に預りたし
 - 9 昭和 五年 五月 九日 御願申上候御揮毫の件猶念の為め左に申上
 - 10 昭和 五年一二 一日 此度東上御厄介に相成土産物迄頂戴仕り拝謝 明日軍役会議開催其上にて帰宅の予定
 - 11 昭和 五年一二月一五日 工船事業本年不振増資すべきか借款すべきか総会に諮問 養蠟の方は小生等の分は舞鶴呉佐世保方面に納入
 - 12 昭和 六年 七月二九日 養蠟資金の儀事業不振の為め弁済の義務を果し得ざる実状 昨秋脇谷氏に会見打開策を懸命に画策 (付) 音羽書翰 斎藤夫妻宛 七月二九日付 暑中見舞
 - 13 昭和 七年 一月一〇日 朝鮮産このわた小包にて送上 脇谷博士依頼免官試験場技手整理我々養蠟の方にも影響 (付一平松角 治書翰 阿部松之進宛 昭和七年一月六日 このわた特に小生指導精製せしめ其内御送付
 - 14 昭和 七年 一月一四日 小生は全く平癒仕り音羽も大辺宜敷 御心配のみ掛上げ申訳なし
 - 15 昭和 八年 六月一三日 老母死去に付き弔問御礼
 - 16 昭和一〇年 二月二八日 熊本県天草の炭鋳調査技師に拠れば炭質砒腺共に良好 中国御旅行の由無理なき様祈願
 - 17 昭和一〇年 四月二六日 音羽病氣悪化 通知を要する方面は此際御知らせする方可然と医師の警告
 - 18 昭和一〇年 五月一一日 今回音羽死去に就き弔電御香料を賜はり万謝
 - 19 昭和 二年 四月 五日 一春子・齊・静子宛一実相院殿一周忌記念に意義深き御品御送付御礼 当地の追悼法会に府尹宛御謝電 御礼
 - 20 九年一二月二六日 梨数日前送付
 - 21 年 四月二六日 例金四月分として小為替券同封
 - 22 年一一月 六日 本年の鯧は非常の豊漁拾数万円の純益を挙げ得るも併し本夏北洋漁業で約二十数万円の赤字にて北鮮の豊漁も相殺
- 二八三、阿部充家
- 1 大正 八年 八月一三日 昨日書類差出し置き申候 朝鮮人の遠慮なき告白にて今後御施政上にも幾分の補益も可有之 今回国事 犯罪人に対する恩赦人心寛和の第一業にして朝鮮人の平和を維持する所以と被存候
 - 2 大正 八年 九月一〇日 赴任に際し意外の不祥事出来 憂ふべきは近眼者が直に朝鮮人を見限り頑民視する一事 朝鮮人の友人に其感想を徴し居り別紙好資料転視を仰ぎ申候 (付) 差出人不明 阿部充家宛書翰 朝鮮独立運動者から見ても大失策 日本人の同情熱も此が為冷却して仕舞はせんかと心配 (後半欠一
 - 3 大正 八年 九月一六日 横井時雄氏米国に赴く事に内定 宣伝的使命を帯ひての事と被存 当人は永く英国に在留此方面の経験もあり 米国には特に各種の好関係もあり
 - 4 大正 八年 九月二九日 (書状は差出人日付不明阿部宛書翰か一総督府の新政宣伝の講演会は其人選何等民意を代表するに価値なく李伯も大に嘆し申候 昨夕斎藤総督に概況を申上 総督少も御存知ない様子
 - 5 大正 八年一〇月 一日 別紙は京城在留の内地人より寄せたる朝鮮観に有之候 一付一権藤四郎介書翰 阿部充家宛 斎藤総督如何にも人格高く水野亦官僚中の逸物 此二者は盛り立て・成功させたきの希望在住内地人一般の与論
 - 6 大正 八年一二月 三日 呂雲亨招致一件は端なく世論を激成しかけ居申候模様にて一波瀾を惹起せしむるも難計
 - 7 大正 八年 月 日 尹用求・韓圭高其他辞爵したる氏等の奮起必要 此等の人の起用願上
 - 8 大正 九年 四月二七日 王世子殿下御結婚も目出度相済み同慶の至り 恩赦令の発布は其効果顕著なるもの可有之 国家の為め

慶賀此事 小生朝鮮行き既に徳富社長承諾を得

- 9 大正 九年 五月 二日 大塚局長より言上致したる筈と存候ふが繡画学校の分校を京城に設置は朝鮮の現状に恰合
- 10 大正 九年 五月 一 二日 先の釜山にて慶南銀行一派を始め実業家の人々より招かれ一夕の交歓 京城に直行し一昨夜は東亜日報の主催にて歓迎会 金生珠・張徳峻・金明植等と歓を尽し申候
- 11 大正 九年 七月 二 八日 議会も本日をも以て閉局 更迭沙汰も之れなかるべく愚考 併し海相陸相辞任の説あり 先達て申上げ候ふ国際問題に関する件は信夫淳平氏御受け仕るべく最も効果あるべし
- 12 大正 九年 八月 一 八日 米国議員団の通過に際し多少の波瀾を見たる模様なるも未発に防止は御同慶の至り 国際関係に就て朝鮮人の宣伝的の施設希望
- 13 大正 九年 九月 二 〇日 (野田卯太郎と連名) 李王職事務官権藤四郎介氏御引見願上
- 14 大正 九年 一 二 月 一 八日 李承晩等の上海渡航は事実 米国に於ける宣伝部の拡張は英仏にも及ぶ由にて外務省と御策応の急務を生ずべし 人心収攬の方策は良民階級を懐柔し経済的方面より導くが一番の捷徑
- 15 大正 九年 一 二 月 二 五日 普通選挙問題物価調節等に多少の波瀾は免れざるも結局本会議は無事終局可仕 併し原内閣に対しても多少人心厭怠
- 16 大正 九年 一 二 月 二 六日 鮮干の借金は外部に洩れたら面働 参謀本部や外務省に於ては鮮干の仕事につき認識したる点砂からず総督府に於ても残酷など申す世評を予め避ける工夫必要
- 17 大正 一 〇 年 一 月 四 日 鮮干に関する再度の御教示委曲拝承 床次内相へも面会 内相申すには先づ伊集院に推撰し彼に用ひさせ再び渡米せしむるが宜かるべく若し其方出来ずば自分手許に用ひ見たしとの事
- 18 大正 一 〇 年 一 月 五 日 先便の通り徳富の諒解を得申候 東京の書生間にも太平洋会議迫近に従ひ多少空気陰悪気味
- 19 大正 一 〇 年 三 月 二 〇日 美濃部氏に面会依頼可申存じ居たる所老父病気の電報に接し帰鮮未だ其尽になり居り候 中枢員議員御任命あらば固城の金基永も候補者の一人として御詮義願上
- 20 大正 一 〇 年 四 月 一 日 上海の方も到底統一ある運動は出来申間敷 彼等の運動は一は李東運を中、心として浦塩より一は李商晩・安昌浩等を中心として米国に拠るの形勢 近時往々総督府内警務局戕虐の世評
- 21 大正 一 〇 年 四 月 一 九日 . 実業方面より鮮人啓発の御企画願上 山本条太郎氏に邂逅実業協会設置の計画承り申候 党派的色彩を帯ひざる御注意肝要
- 22 大正 一 〇 年 五 月 一 日 朝鮮人学生間の実力養成と申す新傾向を善導し奨励する御考案切望 たとへば京城東京の優良の生徒に対し在学中は勿論其卒業後の出身上等徹底的に御世話切望
- 23 大正 一 〇 年 六 月 二 五日 今少し新聞操縦の妙用も可然 崔南善仮出獄可相成は早を望ましく候
- 24 大正 一 〇 年 六 月 二 六日 曾祢氏と電話にて話を致し既に要領を得たる所に御手紙を辱ふし一層明白になり安心 崔南善仮出獄の件願上
- 25 大正 一 〇 年 八 月 六 日 現内閣を厭ふの氣勢相加はれども原の向に立つ有力な政治家なく 反対党の微弱にては致方なし 米国方面の風行頗る陰悪海軍問題の決定を見たるは聊か人意を強ふせしの事
- 26 大正 一 〇 年 九 月 六 日 内鮮実業家等を御招集の機会に於て産業上に立脚したる団体を組織せしめ彼等の実力養成論に結び付け教育殖産の二大綱目を目標となさしめる御方針確立熱望
- 27 大正 一 〇 年 九 月 二 〇日 別紙間島よりの来信の一部御覧に入れ候 李東運一派の浦塩方面に於ける運動の一端をも認め得べき資料とも被存候
- 28 大正 一 〇 年 一 二 月 二 九日 開元植・鮮干的の運動にては到底一大勢力を支配する事六ヶ敷 間接射撃に依る外良策なし 此れ度仮出獄の連中特に崔麟は恰合の資料
- 29 大正 一 一 年 一 月 九 日 東亜日報より米国に派遣したる金東成御紹介

- 30 大正一一年 一月二四日 沈友燮よりの別紙御覧に入れ申候 崔南善の雑誌の資金調査に付き美濃部総裁にも諒解を得口きたる所別紙秦学文の手紙に依れば相当の抵当を出して借る金に有之 少しは融通を計り呉れてもと思考
- 31 大正一一年 五月一九日 李王世子殿下御帰鮮諸事滞りなく民心に及ぼす効果も多大 晋殿下薨去は千秋の遺憾 崔南善出願の雑誌未だに許可ならぬ由にて同人間に生活の資料なく頗る困迫 (付1) 黄信徳書翰 阿部充家宛 五月一二日付 (前文破損) 姉出獄御礼 (付2) 秦学文書翰 阿部充家宛 五月一〇日付 雑誌は出願以来既に半年 崔君や小生聊か根負け
 - 32 大正一一年 五月二九日 本日守屋秘書官に面会 崔南善雑誌御許可の事安心 是に依て朝鮮思想界の悪化を救い且つは秦学文・李光洙輩の生活費の出所となさば一挙兩得
 - 33 大正一一年 六月二三日 上海に在る鮮人赤化運動に付き適當の消息通見出し申候 鹿兒島人にて堺枯川の秘書を致し居たる者にて報告を取る様に致したれば多少の効果 崔南善に衣食の途を与ふる事は金性洙以上の効果あるやも不可知
 - 34 大正一一年 七月 六日 間島方面紛擾 奉天吉林辺に緩和地帯を設くる必要 二三日政務総監に御面会致し愚見開陳
 - 35 大正一一年 七月一六日 此の間金性洙の弟金季洙に面会 高等教育を受けたる朝鮮人の心理諒解 朝鮮人の事業に直接間接に有力なる人物配置急務 金俊淵・崔斗善の如きは最も注目すべき人物 社会主義者の運動の系統の概略の原稿閣下の御手許に差出す様事務官に依頼
 - 36 大正一一年 七月二二日 別紙権藤よりの書状御参考の一助にもと存じ現書の俣に差上
 - 37 大正一一年 七月一七日 (権藤四郎介書翰 阿部充家宛) 我社は従来に行掛りを一掃し新総監を援助 目下無料の御用記事を満載 只総督閣下も之に対し当然と心得居る様にては聊か心外
 - 38 大正一一年 八月二九日 別紙中村健太郎よりの書状御覧に入れ申候 (付) 中村健太郎書翰 阿部充家宛 大正一一年八月二三日付毎日申報を退社拓殖局に朝鮮語に通ずる者を置くやの噂もあり御探り下され間敷や
 - 39 大正一一年九月三日 留学生共産主義の思想に傾向し朝鮮独立論は勢力を滅殺思想悪化の傾向に対して穩便なる思想の確立を見んとする傾向ある復た喜ぶべき事盧昌成の學術講演会も非常の好結果
 - 40 大正一一年 九月 九日 白上祐吉氏転任の一事は朝鮮の為め嘆惜に堪へず 小生は朝鮮人の心理状態を諒解する深が為め同情の感に堪へず敢て潜越の言を開陳するを禁ずる能はず
 - 41 大正一一年一〇月 三日 海外発展問題に関し野田大塊翁も今回政友会九州大会を機とし提唱する筈 此の機会に総督府勢力圏の進展の御企画切に祈上
 - 42 大正一一年一〇月一七日 生活の安定は第一の急務 東拓移民の廃止・満州に於ける朝鮮人発展の上に各種の便利を与ふるなどは最も時機を得たる事 今日成るべく朝鮮人をして論争せしむる途を与へしめ当局は各自相牽制せしむる様切望
 - 43 大正一一年一二月二四日 朝鮮經濟上の施設の更新急務 是には第一が朝鮮銀行の改革断行せしむるに在り 朝鮮東拓満鉄三社連合の力を以て満州に於ける移民の生計上の安定の途を開く政策切望
 - 44 大正一二年 一月二七日 別紙は崔南善・閔大植両人の手紙 殖産銀行有賀・石井の両人も内地の朝鮮事情に疎く且つ冷淡なるを慨し居り申候 (付1) 閔大植書翰 阿部充家宛 大正一二年一月一日付 「バン」の問題解決は朝鮮人産業の振興保護上無差別又は適当な地方(例は満州)へ移住便宜を与へるのか一つの方策 (付2) 崔南善書翰 阿部充家宛 大正一二年一月一六日付 計画致居った処の新聞も 当局の無理解にて或は実現不能に了るのぢやあるまいか
 - 45 大正一二年 四月 四日 明治大学卒業生金寿哲御紹介
 - 46 大正一二年 四月二三日 是非此際高等政策の御変更切に願上 崔麟・崔南善・金俊淵が候補 鮮人中に内地の勢力を借りて朝鮮当局を脅威する手段を講し居るを看取此方の御防備肝要
 - 47 大正一二年 五月 二日 崔南善に関し小生の案にては寧ろ御許可ありたる方得策 金俊淵に対する御好意感謝
 - 48 大正一二年 五月二五日 宋福信も出発の準備中向上館の件に付き奔走中經濟界非況にて今回は単に頼むに止め近々帰鮮貴族院連中の朝鮮視察中止となり残念

- 49 大正一二年七月二日 今回の京城滞在中の所感の一は警察中心の傾向漸く改り内務行政の端緒開られ来りたる事政務總監の率直峻峭な態度が各方面に問題となり特に内務大蔵の方面の感情面白からずと伝聞
- 50 大正一二年 八月一九日 各方面より加藤内閣の永續を危まれ閣下の動静に注目する者多くなり来る 時節柄御含まで
 - 51 大正一二年 八月二〇日 外来の圧力は加藤首相の決心を促かし内閣更迭推測さる 内閣更迭問題が起きれば閣下が其問題の中心とならる、傾向あり
 - 52 大正一二年 八月二八日 後継内閣問題も案外速やかに解決 山本伯も最後の御奉公群議を排して大掃除の覚悟にてかかられたく切望
 - 53 大正一二年 八月三十一日 山本内閣九分通り成立 変体内閣批難の声薄く山本伯奮起の好機 政界の有力者を網羅し貧弱の観は無之も後藤・田の葛藤を惹起 田中を容れたるも一禍機の伏在
 - 54 大正一二年 九月 六日 朝鮮人に対する種々奇怪な宣伝行はれ忽ち四方に伝播して乱暴惨刻なる迫害行はれ殺傷死者も多数小生も警保局警視庁の間を往来し種々愚見も披陳
 - 55 大正一二年一〇月 三日 今回の事件は禍根を残したるは事実 此の慰撫緩和は当局に於て等閑に附せられざる様折上 李承晩に面会した劉某の話に彼は独立など申すより先づ相親和を第一にと伝えて呉れと申候由
 - 56 大正一二年一〇月一六日 東京も事実の真相を明なるに従ひ鮮人死者の数案外に少く昂奮漸次冷却の傾向 其筋の人々も冷静なる体度を以て臨まれたく切望に堪へず
 - 57 大正一二年一〇月 一日 東京学生も追々帰来 鮮人学生を嫌悪する傾向多く問題の解決に付ては白上氏の力が頼み
 - 58 大正一二年一〇月九日 (前半欠) 米國が頻りに支那に於ける無線電信に力を入れつ・あるを見て一種の杞憂を感じ申候 此の度支那の人心を緩和し尠くとも張作位は日本掌中のものたらしめたし 左なくば朝鮮の外郭を失ふの危険
 - 59 大正一二年一〇月一五日 東支鉄道問題の紛糾 次に来るものは満州鉄道の還付問題ならん 此の問題惹起せん乎第一に来るものは朝鮮人心の動揺に可有之
 - 60 大正一二年一〇月二八日 今回の災厄に際し国民新聞の仕事を辞し朝鮮及満州に於て骨を埋める決心
 - 61 大正一二年一〇月 五日 女医専門卒業生韓小濟氏紹介
 - 62 大正一二年一〇月 七日 東京女医専門学校卒業生韓小濟御引見願
 - 63 大正一二年一〇月 五日 今回女医専門学校を卒業せる吉盃石氏御紹介
 - 64 大正一二年一〇月一九日 臨時議會も中々面働にて山本伯も骨が折れ過ぎ所謂単身重責を負担して活動 本日を以て復興案の運命相決し政友会の改正を容れ一難関通過
 - 65 大正一三年 二月二九日 先達来願出の件遠からず正式認可 卒業生の仕用訓練講じ置く必要可有之 都下の朝鮮学生を世話し居る団体個人間の連絡調和の必要 認可と同時に実地に着手
 - 66 大正一三年 三月 二日 前便差上げたる不穩便は内地人の手になりたるものと推し白上氏も同様の見にて内鮮連合運動に対する方策を講ずる必要あり 今少し踏込んで学生間の色分を分明にする要あり白上とも協議
 - 67 大正一三年 三月一〇日 学生指導の件御承認を承り感謝 今後学校を出て来る卒業生の捌口を作るが第一の要務 諸会社の諒解の必要可有之 秦学文上京
 - 68 大正一三年 三月二〇日 東亜日報に対抗の意味にて新聞設置の計画を密々裡に致し居るもの崔南善一派の外に崔麟を推して計画中のものあり目下宋乘峻の朝鮮日報を買収の談判を開始
 - 69 大正一三年 四月二八日 警務局長の遣り方余りに偏頗 特に朴春琴に対する優待余りに露骨方針一変の御英断祈上
 - 70 大正一三年 七月二三日 京城日報社長として副島伯御招房の由 実に愉快な事に候 此の伝承にして実ならば小生をして望蜀の感を切ならしむものは白上氏の御擢用に御坐候
 - 71 大正一三年一二月 三日 東京留学朝鮮女学生の領袖劉英俊今回女医専門学校卒業 御引見願

- 72 大正一三年一二月一九日 加藤内閣の不人望は追日相加はり候ふも政機轉換は議會閉会后と存申候
- 73 大正一四年 三月 四日 政界の様も此頃は悲觀説頻りと伝唱 加藤伯逝去後憲政会の内部に不統一認められ候ふ為め政友本党に憲本暗約政界の無事切り抜の思束なきを感せしめ此までの趨勢に一變化
 - 74 大正一四年 三月一六日 東京も貴族院に於て普撰・貴革・鉄道諸案に関し面働を生し内閣の運命にも関係する様の形勢東京に於ける留学生卒業生の頭数が年々増加 当局に於ても信切に輔導の途を開かれたし
 - 75 大正一四年 三月一八日 富士辰馬西比利亞米作問題に付き有益なる視察をなし帰り申候 高橋農相をも動かし政党間にも此空気を作り出す筈 政友会の一部に田中義一男を推して此政機轉換を目論見居る連中あり
 - 76 大正一四年 三月一九日 研究会勅撰組普撰・貴革・鉄道の諸問題に対し一勢に修正を加へ政府に突き戻す方針 田中大將引出し運動は大分勢力を昂め岡野将次郎氏推戴の連中も田中説に傾きかけたりとの由
 - 77 大正一四年 四月 二日 現内閣永続六ヶ敷 田中推戴の運動や、可能性を帯ひかけ来りたるやに被存候
 - 78 大正一四年 五月 二日 東京電報にて昇爵を承知 改めて日出度御同慶申上
 - 79 大正一四年 五月一八日 東京の書生も一月会を中心に社会主義者を標榜 内地の主義者と連絡面働至極 ねずみ色の連中を方向轉換せしむべく考案中 此節は渡鮮崔麟などにも面会心中を叩く覚悟なりしも残念此事
 - 80 大正一四年 六月一二日 別紙兼ねて申し上げ置きたる主義者の朝鮮担当の高津より寄せ来りたるもの御一覽に供し申候
(付) 高津正道書翰 阿部充家宛 八日付原稿を貴覽に供します
 - 81 大正一四年 六月二四日 (簾原秘書官宛) 一昨日総督閣下より御手紙拝受 機を見て必ず御返事
 - 82 大正一四年 七月一二日 方台栄に御心配の御言葉感激 社会主義者の間に内地との連絡漸次取れか、り居る事は将来の禍根
 - 83 大正一四年 七月一六日 東京も不相変政治不安の状体打続き予算に及ばず関係上当局も頗る苦衷の様子 井上準之助氏熱心に朝鮮に関する世上の注目を喚起
 - 84 大正一四年 七月一八日 漢江の水勢更に加はり沿岸の惨害非常に相見え憂慮の至り御心労の程御祭申上
 - 85 大正一四年 七月二五日 貴地の新聞到着 水害の概要分明非常な惨状にて御心労深く察上
 - 86 大正一四年 七月三〇日 昨日布哇より帰りたる宋鎮禹来訪 李商晩・徐載弼は宋の話の端より想像して自治制度の下に實際的に朝鮮民族幸福の増進に努めると云ふ傾向
 - 87 大正一四年 八月九日 今度の政友合同に付いては大木伯・山梨・水野・鈴木の四人男の計画斡旋山梨の目標は朝鮮に在りなどの噂 総督府給費徹底せしむる必要 養蚕場果樹園に付いては渡鮮時御目か、り開陳
 - 88 大正一四年 八月一七日 加藤内閣の司法省の更新など何の意味か相分り申さず 露国が朝鮮に手を着けぬかと憂心此事之に拮抗する一勢力を作る必要 崔麟・金性洙・宋鎮禹輩を連合せしむる計画熟慮中
 - 89 大正一四年 九月二二日 馬場英一氏北海道協会が同道の発展に効果あることを認め是非朝鮮にも其必要あること力説目下計画中
 - 90 大正一四年 九月二五日 帝大の生徒長篇の論文を持込み京日に掲載の紹介を貰いに来り申候 何分にも吉野博士の縄張り固く手が付き兼ね居れど今日此方面の開拓恰合 総督府貸費問題と熊本寿平の補仁会貸費問題の為め各地の高等校や工業商業学生より書や来訪多を加へ出来る丈世話
 - 91 大正一四年 一〇月七日 高津正道来訪 鮮人青年間に共産主義の空気が日々濃厚を加へ居る一事は我々の心を強ふする所以であると申し居り候
 - 92 大正一四年一二月一六日 東京も追々政治期節に入りかけ加ふるに支那の動乱拡大 頗る人心の緊張を来たし申候 政府と政友本党が教育費と地租一分減の相殺にて妥協成立の噂 朝鮮協会も着々歩を進め居り申候
 - 93 大正一四年 月 日 (崔麟氏との問答覚書) 崔曰く朝鮮議會を設置する一事は朝鮮統治の実を全ふし民心の安定を計る上に於て最も肝要 余も民衆の信任さへ得れば必らず一員たるを辞せざるなり一付一朝鮮事情研究会・新派主義者の人名

- 94 大正一五年 一月 五日 議会は無事に結了可仕 地租と自作農免租・教育費の増額等妥協点は既に出来居る事と推測 朝鮮協会の方も渋谷子方面の諒解も出来居り近日一会催ふ筈
- 95 大正一五年 一月 一日 昨冬は漢城銀行に関する噂を承り朝鮮に於ける金融機関御監督上御注意を熱望 産米増殖計画は勢の赴く所は或は土地兼併大地主現出の結果となり易く此の対策としては農会及諸組合法の活動に待つの外なし
 - 96 大正一五年 一月 二九日 若槻氏の継続内閣は当然成立して今直に政変来の憂は無之候ふも比まで保証され居た議会の解散は思束なくなり申候
 - 97 大正一五年 一月 三〇日 議会閉会後には内閣の改造は免れさるべく若槻新首相の手腕に依って此の内閣の新運命もトせられ可申乎
 - 98 大正一五年 二月 七日 議会終結後には種々の波瀾を惹起し若槻内閣の運命も未だ知り得られざるものありと被存候
 - 99 大正一五年 二月 一八日 憲本の妥協成立天下は泰平 産米増殖案通過後の諸設備に関する決定を見ず藤井松山等の人は寧ろ総督府に於て執らんとしつ・ある東拓を一方に他方に従来此等の経験ある人々を結合せしめ年々計画さる、仕事を折半して之を代行機関とせんとする案
 - 100 大正一五年 四月 三〇日 本日白武なるもの来訪 今回新義州の主義者の巨頭拘引を機に纏りたる新団体の正友会とソール青年会と相対立二大分派を現出する趨勢との事
 - 101 大正一五年 六月 九日 国葬も愈明日 小生知り得る限り本気の計画はなし 今後李王薨去後の昌徳宮の跡始末御近親に対する各種の処分起り来る問題にて糾紛を覚悟
 - 102 大正一五年 六月 一〇日 只今新聞にて金性洙鐘路署に拘留されたる趣承り驚愕 今回の如く政治的に来るに於ては其結果も別様な影響を来すあらんと憂慮
 - 103 大正一五年 六月 一四日 今回の事件に就て各種運動の中心力が青年学生の手に移りつ・あるものを察知 東京京城に於ける趨勢を見ても分解時代に在りて派中相軋るの状況
 - 104 大正一五年 六月 一九日 東京も憲本連合失敗 研究会招納策も頗る不評判 政友会は多年専横を極め人気集らず 政本は人気不足 近頃内地に於て相愛会と朝鮮の労働総同盟との間に争闘問題を惹起
 - 105 大正一五年 六月 二二日 別紙は上海に在る小生の知人にて元社会主義たりしもの・送りしもの
 - 106 大正一五年 六月 二九日 若槻首相も改造問題を解決し政界の小康を得たれども此の俛にては到底暮の議会切り抜けば到底六ヶ敷政本の援助を得されば解散か辞職の外なかるへし
 - 107 大正一五年 七月 五日 露国側にて西別利亜に朝鮮人労働共和国設立の意向 李東輝・呂運亨兩人に其組織一切の立案を命し候も同人等其能力を欠如し応ずる事出来さりし為め青少年少壮派間に評判悪し
 - 108 大正一五年 七月 九日 伊東伯政界乗出しの噂につき白井が頻りに例の運動にて各方面かけ廻り後藤子も内々尻推をして居る模様もあり
 - 109 大正一五年 七月 一日 別紙は社会主義者某の小生に寄せたるもの
 - 110 大正一五年 七月 一六日 政界も頗る混沌にて政府部門にては鉄省次官問題にて紛糾を加へ研究会との関係頗る面白からず 或は同会出身の政務次官参与官連袂辞職を申出て若槻首相言1遂行を迫る意気なるやに御坐候
 - 111 大正一五年 七月 三〇日 御上京を機会に満州に於ける日本勢力の確立を期し朝鮮問題とも連系して各種の問題解決並に朝鮮に於ても空気一新人心振超を祈上 安昌浩・呂運亨近接し居るやに付早速李光洙に確認 (付)李光洙書翰 阿部充家宛 大正一五年七月二三日 安氏は決して動くことは無いと信じます
 - 112 大正一五年 八月 二一日 支那一帯の空気頗る寒心に堪へず我国特に朝鮮に及ぼす影響重大 泉博士既に京城に到着統治に關し御尊慮を諒解して帰る様切望金昌世米国より帰來興士会の現況など御聴取願上
 - 113 大正一五年 九月 一三日 所謂怪写真問題意外に発展 上村判事の始末書が鈴木氏の目を透して居る關係上刑務局や裁判所方

面に累を及ぼすと頗りに噂 支那予想外の変乱にて支那南北觀察上に一転化

- 114 大正一五年 九月一九日 現内閣存続の程も疑はれ種々の策士連中各方面に運動 政友本党の川原らは後藤内閣を夢み頻りに往復 床次の若槻訪問は杉山茂丸の入智恵 一部には上原元帥を担ぎかけ或は枢密院平沼は超然内閣の外なしとするなどの噂
- 115 大正一五年 九月二一日 政府は議会解散の臍を固め準備を進め居るものと察せられ此れに就て西園寺の腹が読めない一事は政府に苦痛 政本党も憲本連合を必要とする時の用意に苦心
- 116 大正一五年 九月二三日 朴烈事件の紛糾が議会まで継続したならば内閣辞職が議会解散か此の二つに出る外なし 政府は之を回避する一策として海軍補充費を以てする方針など噂あり
- 117 大正一五年 九月二四日 研究会の内部も只今では中々議論の一致を見ず渡辺千冬牧野忠篤両子は硬派の頭目と見られ本党をして其決、心を固めしめたるは渡辺子と床次氏の往復接渉の力多きに居るなど噂され居申候
- 118 大正一五年 九月二七日 内閣の持続を疑はる、空気濃厚 研究会が頻りに其引際に就て評議 此間首相・法相・蔵相・逋相が相前後して西園寺公を訪問 首相の報告に対しては何等捉ふて得べき返答を与えさりし由
- 119 大正一五年一〇月 二日 政府は前便申上の通り解散の臍を固め候 而して政局の安定と西園寺公の意向は容易に断定し得ざるものあり 更に研究会其向背何れに決するか今日に於て判別出来ず
- 120 大正一五年一二月二七日 各種学校の卒業生は益其数を増加今日の俛にして放置せば所謂処士横議の弊を増長朝鮮日報の申錫雨も悔恨の情を閣下に吐露 松寺局長に向つて情願を試み見る覚悟
- 121 大正一五年一二月一五日 昨今各思想団体が實際運動を開始 放置が一番の上策と存候 昨今の啓蒙運動かやがては統治上の面働を生ずる日たる覚悟なかるべからず
- 122 大正一五年 月 日 産米増殖問題に関連して出来たる土地会社も暫時中央朝鮮協会事務所と同居する事になり井上準之助氏熱心に鞭策 黄信徳の手紙御覧に入れ申候 (後半欠)
- 123 大正一年一月二六日卒業生の分配調節は今後其必要を加へ可申候露国が頻りと東支鉄道に向つて其爪を研きつ、あり憂慮 此事 張作霖との協同防禦の外なし
- 124 大正 年 六月一八日 秦学文御引見当人の申出も御聴取なし下されたし
- 125 大正 年 六月二八日 今関寿磨氏御紹介
- 126 大正 年 六月三〇日 京都帝大生徒谷村敬介氏御紹介
- 127 大正 年 七月一〇日 高等工業学校生徒慮昌成御引見願
- 128 大正 年 九月九日 毎日申報主幹中村健太郎氏御紹介
- 129 大正 年 一二月 三日 社会主義者に対する応酬策としても一寸昨今の空気に触着し世く必要あり 来鮮を促かし来るもの尠からず此の小春の候二十日間ばかりを期し罷出
- 130 大正 年 二月 六日 朝鮮協会問題は御示教に従ひ政党の色彩を帯びざる様に意を用い山県公・渋沢子方面と交渉中今回の渡鮮に付ては崔麟・宋鎮禹などに面会 右傾的団体の現出を促かし一方養蚕・果樹園等卒業生の着場を見出すべき各種の交渉を試みる筈
- 131 大正 年 月 日 (意見書) 人心を新ならしむる事東京に於ける留学生に対する方針確立 南北満州に日本人発展の素地を作らんが為の計画
- 132 昭和 二年 一月 九日 殖産銀行石井理事六日を以て辞表提出 非公式に御諭し下されば留任せしめ得べし
- 133 昭和 二年 一月一四日 研究会方面の策動は可なり注意すべし 殖銀問題も金石理事引止め出来ず有賀頭取の上京を待て後書策相講じ申すべし 此の事新聞に素破抜かれ大分各方面の話頭や議題に上り居り申候
- 134 昭和 二年 一月二一日 政界も三党首の妥協懇談にて本年度予算の保険は出来管下の主なる施設が安全に御遂行出来御同慶の至り 各派に非常の衝動を起し色々な飛説流言行はるの状況

- 135 昭和二年一月二三日 若槻の考慮の二字は在野党は円満辞職の意味と固執 憲政党成るべく軽き意味に取り可申 石井殖銀理事の辞職問題一昨日辞表を受附け東京に於ける債券募集は有賀頭取を補佐との申合にて取りを附け申候
- 136 昭和二年二月一八日 支那も南軍の氣勢少しも衰へず 一般民衆の国権発揚の氣勢は日に濃厚東三省より辿りて我朝鮮に対する長策大計の確立切に祈上
 - 137 昭和二年三月九日 憲本連合も益歩を進め居るも若槻の辞職が実現した暁政権が直に床次の手に帰する形勢となるかは多少政局の推移を見定めたる後ならざるべからず
 - 138 昭和二年四月二日 鮮人側有識者をして其後進者を指導する目標を与ふる様兼ての御腹案出現切に祈上 一昨日警務局長に面会恰も小生の持論と符節を合わせたる如き所論を承り愉快
 - 139 昭和二年四月五日 鮮人側経済的自覚の結果参政権要望の趨勢 朝鮮人をして一条の光明を認め得べき暗示を御与へ下されば時下に対する一種の鎮経剤と相成り申すべし
 - 140 昭和二年四月八日 李商在の喪儀は総督政治に対する一種の示威運動 是非代理総督が親しく任地に來られ人心鎮定の基礎を据へられたく切に祈上
 - 141 昭和二年六月六日 田中内閣も内部の折合頗る紛雜を極め今後何処に落付くやと見極も附き申さざる状態
 - 142 昭和二年六月二一日 陸軍特に参謀本部に於て南方同情者を生じ援北援用の相違は今回の東方会議に於て事毎に調停の必要を生じ来りて会議の結果は何事も徹底を欠き微温的なものが作りあげられん乎を恐れ申候
 - 143 昭和二年九月六日 新幹会は発会式までには何等かの破端 富平水利組合の不正工事問題は今期議会の一問題たるは今日より覚悟せざるへからざる事と被存候
 - 144 昭和二年九月二七日 田中内閣の不統一依然継続内閣の運命も来年の総選挙にて決するものあり社会主義者公判は朝鮮より率直なる感想御聴取願上 教育制度改革を要す 崔麟に関し小生は彼の心事を疑はず
 - 145 昭和二年一一月二八日 東京の政界も不相変の混乱状態 銀行問題未決のまゝに、残され世論も追々紛糾
 - 146 昭和二年一二月二日 西比利亜の米作問題につき後藤子の露国行同行の田中清次郎氏に面会 人口調査会にて渡辺課長満州西比利亜の朝鮮人移殖の状況陳述注意を喚起の由 其委員長たる藤村男とも近日面会
 - 147 昭和二年一二月五日 一昨日牧野内府に面謁 内府も現内閣に頗る憂色 高橋是清翁も嘆情を漏らし居申候 世間は閣下御辞任の朝鮮の今後を憂慮
 - 148 昭和二年一二月六日 政府部内で閣下の後任として山梨大将を擬しつゝ、あり 世間の反対猛烈を加へ今日も山梨説を固守するもの只た田中首相・鈴木内相のみ 御進退も慎重になし下されたし
 - 149 昭和二年一二月七日 山梨後任説に就ては不相変不人気千万にて首相井に内相は昨今は大分考へ込みたる模様
 - 150 昭和二年一二月一〇日 御辞表御聴許の趣拝承 改めて多年の御寵遇と洪恩に対し満腔の謝意 小生一身の安定及書生に対する御給与・各方面の御関係もあり来年中相支へ得る様願上
 - 151 昭和二年一二月一二日 崔麟が愛蘭土首相と会見に及び英国と妥協して往く外ないとの述懐に感得 彼の洋行は朝鮮人覚醒に多大の好影響
 - 152 昭和二年一二月五日 毎月の御送分一杯 くに支出し何の貯もなく直に窮迫する外なし御病中も顧みず懇願申上候小生も実は朝鮮を埋骨の地と覚悟し奉公の決心なりしも其望も絶へ居り候
 - 153 昭和二年一二月二八日 満州に於ける鮮人問題紛起 二三地方に於ては暴行を在留支那人に加ふ 新総督も朝鮮協会に枉駕 井上馬場十余名の幹部連と面談
 - 154 昭和三年一月三一日 山梨総督に対する御添止拝読 過分の御言葉を戴き面目此上なし 本日李学務局長と加藤寛治氏の国民農学校参観 当今の弊風を一括する对症剤として適當の教育法を施し居り頗る痛快
 - 155 昭和三年二月一二日 山梨総督と面会 小生の身上の件は三月以後に致し呉ねとの事 所謂民族運動なるもの次第に勢力を

得つ、あり 崔麟の帰朝と共に何等か纏り付き申すべく歎

- 156 昭和 三年 二月 五日 支那の形勢も頗る険悪 国民軍中朝鮮の亡命兵の消息を知り居る鮮内青年客気の徒には既に一種の刺激を与へ鮮内人心既に動揺の兆あり
- 157 昭和 三年 七月 三日 丸山君と一緒に中央朝鮮協会の用務にて渡鮮其間の消息は御聴取の事と存上げ申候 (付) 今関寿磨書翰 阿部充家宛 六月一九日付 当地は前月初旬より日本人動揺を生じ加ふるに済南事件あり 小生は別に不安認める点なし
- 158 昭和 四年 六月 二三日 今関氏より来翰 御一覽に供し申候 (付) 今関寿磨書翰 阿部充家宛 六月一六日付 要するに南京政府を改造せば多少面目を一新 南京政府は対外に成功対内にはメチャメチャ
- 159 昭和 四年 七月 一五日 朝鮮側は頻りに兎玉伯の去就に不安若し政党内閣の功労者たる関係のみにて朝鮮人の自尊心を毀けるが如き総督を戴く事あらば其影向真測られず
- 160 昭和 四年 九月 一七日 今回再任何とも感激の至り 老生も残軀を捧げて奉公 朝鮮側の思想の善導し之を満州に及ぼし候ふ事は閣下御再任に際し最も緊切
- 161 昭和 四年 九月 三〇日 此節松田拓相が高調せし人事の移動は内鮮両側の人心に頗る衝動 博覧会中は内地の新聞に手を付けられ内地より見物客を招来するに非らずんば甲斐なし
- 162 昭和 四年 一〇月 二五日 朝鮮側の実力日に相進み朝鮮目下大切なる時期に際会 早く其の鬱気を散し之を利導し之を教養して其至らんと欲する所に至らしむる外なし
- 163 昭和 四年 一一月 二日 朝鮮人の自覚し来る傾向は頗る激甚を加へ居りやがては参政権の要望に一段の氣勢を添へ来ることは自然の順序 適応する所の人格の教養訓練が第一に必要
- 164 昭和 四年 一一月 五日 朝鮮人をして口を籍く所なき様に思想犯人に対する検挙及予審裁判の上更らに一段の注意を払ふ様切望 序で新聞紙条例の改正も必要
- 165 昭和 四年 一一月 八日 印度に於ける自治問題は鮮人側頻りに羨望の情を誘発 中堅勢力を作り対外鮮人の穏和派に諒解せしむる必要 崔麟を支那視察に名を托し安昌浩などに面会せしめ置く必要あり
- 166 昭和 四年 一一月 一一日 自治制度の運用機関には中堅人物を網羅した勢力を作り出すが一番の良策 韓相竜に坂本竜馬の役を取らしめ崔麟・意尹致昊・許憲・朴栄詰などを打って一丸となす事決して出来難き事に非らず
- 167 昭和 四年 一二月 二日 学校騒動を露国の魔手など騒ぎ出し神経を尖らすなど日本国民の体面上頗る面白からぬ事と嘆息
- 168 昭和 四年 一二月 一三日 早稲田大学の朝鮮学生主催となり明晩光州学生騒擾事件批判演説会を開く由 該問題は東京在留の朝鮮学生を痛く刺激
- 169 昭和 四年 一二月 九日 政界も愈緊張 現内閣も疑獄の飛沫で頗る悲観 選挙の結果は恐らく絶対多数は六ヶ敷ろうと申す評判 光州の騒擾に付ては内鮮学生間に関する差別的裁断はなきやの事情が何時も附添
- 170 昭和 四年 一二月 一五日 疑獄進展 倭商相の身辺も頗る怪しくなりかけ政府も解散を早め一時を糊塗せしめん意向なりなど推測し居るものもあり
- 171 昭和 四年 一二月 一八日 検事側の態度は世上の刺激に随伴して其強を加へ小橋氏も近々召喚取調解散は免れざるべし
- 172 昭和 五年 二月 六日 東京も撰挙沙汰にて持切り 現内閣今回の総撰挙に於て多数を制し得ても所謂疑獄事件に依って内訌あり 政治の前途も中々複雑
- 173 昭和 五年 五月 七日 李桐公漸く東上の運と相成り多年の懸案無事に結了 内閣も絶対多数の与党を率い居る今日憂は寧ろ内に在りて第一は宇垣内相今一つは枢密院
- 174 昭和 五年 六月 一一日 (電報) 本日イワシタ第一課長は谷口大将の軍令部長転補を伝達
- 175 昭和 五年 六月 一五日 (電報) 陸相辞意を翻す
- 176 昭和 五年 六月 二三日 財界不況の趨勢は日に深刻 少し位の過失が世間から我慢されるのが内閣何よりの強味各種政党内

題続出 政治法制各種専門の智識必要となり近來は江木鉄相が首相の相談相手たる状勢

- 177 昭和 五年 七月一七日 目下の満州に於ける日支関係は将来容易ならぬ面働を惹起の兆時々發展満州の形勢に一転化を見候はば朝鮮の治安上油々敷一大事
- 178 昭和 五年 八月二〇日 海軍問題に関しては実情を披瀝して国民に訴へ憂国心を刺激し士氣発揚の方向に轉換せしめば反対党の攻撃位は何等の寸効もなしと愚考
- 179 昭和 五年 九月 七日 東京も枢府に於ける条約案審査会と不景氣救済問題とが世論の中心となり紛糾 交那排日運動は国民全斑に亘る空氣 露國が漁業問題其他種々の圧迫を加へ此の兩國に尤も密接の関係ある朝鮮として更に一段の警戒を加ふべし
- 180 昭和 五年 一二月一四日 京城大学就職希望の李東濟氏紹介
- 181 昭和 五年 一二月二一日 浜口も事を開く位の健康は復し申すべく臨時首相は幣原で推透し江木が浜口を補佐し議會文は切り抜け申すべし
- 182 昭和 六年 四月 日 崔麟氏上京 京都大学の教授連中を紹介し洛中名蹟を案内
- 183 昭和 六年 六月 四日 老生古稀の記念品御惠贈御礼
- 184 昭和 六年 六月一八日 大任御辞退遺憾千万 御氣永に御静養の程祈上
- 185 昭和 七年 一二月二〇日 朝鮮に於ける支那人襲撃の騷擾は案外に大きく別紙の如き報導小生の手に入り申候間御覽に入れ申し候
- 186 昭和 八年 一〇月二九日 朝鮮画家李道栄氏李広福氏同道参上 御引見願上 (付) 家庭精神作興會趣旨
- 187 年 一月三〇日 小生友人李辛魯氏御入国を祝する微衷朝鮮上米献上
- 188 年 二月 一日 帝大農科林学部の卒業生朴定根氏紹介
- 189 年 二月 五日 (玉廷珍書翰 阿部充家苑) 人類の幸福の爲めに尽す事夥多ならん事を謹祝申し上げます
- 190 年 二月 五日 佐世保の通信者より伊知地参謀長より門鑑など御下附と相成り然るべく御礼甲上呉れよとの事申来 不取敢御礼申上
- 191 年 二月一〇日 廉昌燮氏紹介
- 192 年 二月一七日 島津家出願の干托事業従事の野田氏紹介
- 193 年 二月二七日 閣下銀行者集會の御演説は彼等の間に於て朝鮮に対する諒解を相加へたる由にて今回新たに殖銀債券に応募したる三菱側にて非常の満足と承候
- 194 年 三月 三日 目下帝大に数学研究中の崔允植紹介
- 195 年 三月 九日 東京高等工業学校卒業生羅景錫氏紹介
- 196 年 三月一六日 朝鮮學生に対する注意を喚起する必要あり副島伯と会見し更らに白上氏を併せ三人會合の事に談合致し二十日會見の事に取極め置候
- 197 年 三月一九日 内地に於て鮮人に対する同情援助の空氣を作り出すべく副島伯・白上氏と相談 例の研究會を其機関たらしめんと存じ先づ此処より手を下さん考に御坐候
- 198 年 四月五日 画家鶴田五郎氏紹介
- 199 年 四月二〇日 今関氏よりも先日来手紙参り居れど医者より外出を禁せられ居候間別紙封入御覽に入れ候
- 200 年 五月 四日 二ヶ月分有難拜受 減額出来まじきやとの御下問拜承当方の事情も一応御諒解願上 社会主義者に関係ある山上正義に學校廻りをして貰う事に致し四人分の学費は従来通りにして別に五千元支給願上
- 201 年 六月一二日 日本宿氏御紹介
- 202 年 六月二〇日 別紙は小生の知人にして李王職の醜體に就て特に書面に認めさせ御内覽に供する事と致し申候
- 203 年 七月一四日 露國南下に対し第一影響を受ける朝鮮にして是非比際確固たる対策を御樹立切に祈上

204 年七月一九日 山上正義御引見願

- 205 年 七月二一日 盧昌成の養母八幡たま紹介
- 206 年 七月二二日 此状持参の人は別紙宣言書の趣旨を以て活動開始 閣下の御賛成も願ひたく紹介
- 207 年 八月 二日 四日には御来京に従ひ午前八時頃まで伺候仕り可申上候
- 208 年 八月 七日 政務總監に関する東京に於ける各方面の感触面白からざる傾向乎と憂慮
- 209 年 八月一〇日 平壤に於ける陳情書御一覽に供し申し上げ候 此種に関する犯罪に対し一掃的御処分伏して泰仰東京私立女子美術学校学生張善禧の別封御受納願上
- 210 年 八月二三日 総督は滿蒙西別利亞に於ける内鮮人発展の総司令官たらしむる必要 米作に托し鮮人移住の便路を開き滿蒙西別利亞に於ける日本発展の鍵鑰を手中に収めらるゝに於ては朝鮮予算に対する有力なる発言権を有せらるゝ事となり一挙兩得
- 211 年 九月一七日 三浦義明氏紹介
- 212 年 九月二九日 別紙は鮮人より忌憚なき所を申し送りたるもの 御参考まで差出
- 213 年一〇月一〇日 其節御覧に入れる筈の処が持参する事を忘却 改めて御送り申候
- 214 年一〇月一七日 朝鮮蟹醬献上
- 215 年一〇月一七日 李爽氏紹介
- 216 年一〇月一七日 瑋春に金融会社設立し露領の朝鮮移民の生活安定を図らんとする計畫書に就き面謁希望の島田元太郎・阿部野利恭兩人御引見願上
- 217 年一〇月二〇日 学生宿舍建築の件につき伺候の姜昌基紹介
- 218 年一〇月二〇日 御帰途各地に有益なる御視察を遂げられ親しく内地に在ってたよりなき生活を致し居る鮮人には此上なき慰藉にて人心緩和の上に及ぼす影響深且大
- 219 年一〇月二四日 慶尚南道金海の面長金慶鎮御引見願
- 220 年一〇月二六日 美術学校在学の任珪宰御紹介申上
- 221 年一二月三日 (翠雲書翰無仏大居士宛前半欠) 朝鮮の統治を官憲自から其衝に當りて独力を以て効果を挙げんと企図すること極めて拙策 在鮮三十五万の内地人を統治上利用するの聡明と度量あらば日鮮人の融和は陪加すべし
- 222 年一二月五日 此状持参の人は小生と毎日申報以来の友人にして目下東京留学生学友会の会頭御引見願上
- 223 年一二月一八日 慶州の崔浚氏伺候仕り候は、情願御聴取願
- 224 年 月 日 (前半欠) 拓殖銀行の石井光雄氏に一言御奨励の言葉願上
- 225 年 月 日 (山上正義書翰 阿部充家宛) 御指図の上海の事情右別紙の程度しか解りません 在日本朝鮮人とは近日中面会 新しい事実ありましたら御報告申し上げます

• 二八四、阿部鶴之輔

- 1 大正一二年 八月二四日 (電報) 加藤友三郎首相倒れる (付) 宮手電報 総督宛 大正一二年八月二四日付 加藤總理今死んだ

• 二八五、阿部鶴之輔

- 1 昭和 五年 五月一九日 (電報) ロンドンより財部全権入京 海軍内部対立

• 二八六、安保清康

- 1 明治三六年 九月 五日 清種の義万一開戦の場合新式大艦内にて見事に戦死せしめし速に転乗尽力希望
- 2 明治三六年 九月二八日 本日の官報を一見するに八雲に転乗するのみならず意外にも昇進の榮を蒙り感喜の至
- 3 明治三七年 五月二〇日 佐伯大佐吉野艦と共に陣没 右に付き一級進められんことを内願の為め日本省訪問

- 4 明治 年 四月二六日 一月インフル熱に罹り転地保養
- 二八七、天岡大器
 - 1 昭和一〇年 一月 日 新春を迎ふに当り閣下の福寿無量を祈上
- 二八八、鮎貝房之進
 - 1 年 五月 九日 邦宗様御伝達の軍使木拝見 別紙調査書御執成方御願
- 二八九、荒井久要
 - 1 明治二〇年一一月 七日 御舎弟サクラメントへ転移 (付1) 荒井久要書翰 斎藤実宛 明治二〇年一一月七日付 小生も昨十九年兵学校航海術教授に補任 本艦三十日にて桑港到着 明二十一年六月帰朝予定 (付2) 荒井久要書翰 明年は卒業生九十名もあり遠洋航海は当年限りと伝承 一付3) 荒井久要書翰 帰朝の段岩崎大尉本人へ教示
- 二九〇、荒井恭三 (註1)
 - 1 年一月二八日東北振興問題に関し御高話拝聴仕りたく御来臨案内
- 二九一、荒井泰治
 - 1 大正 八年一一月 二日 全羅北道苗浦湾干潟開墾出願の五組合併経営との道庁勧告に対し島津長丸外巻名のみ床次内相の了解ありとか申居り独り合併に反対
 - 2 大正一四年 五月二四日 招待御礼
- 二九二、荒川五郎
 - 1 昭和 八年九月二三日 米穀対策は生産消費を双方利する為には差損補償法制定によるの外なし
 - 2 昭和 九年 二月 九日 尊氏問題は国家精神の大本を紊る重大事 殊にクロムウェルの如き革命家に比して尊氏推称は驚くべき事 昨日の御英断にて松本氏を得られ閣下の努力を拝謝
 - 3 昭和 九年 四月 二日 日本精神作興建設の事一読賜はりたく文部大臣として訓示の場合にも御参考願上
 - 4 昭和 九年 九月一四日 揮毫御礼
 - 5 昭和 年 九月一三日 米穀対策に関する意見は不日提出 教育国策も教育の自営化の件は閣下の御偉力により実現切願
 - 6 年 月 日 呉港内第三区の入出許可区域に対しては通行船舶一般に対し簡易の入出を許されたし
- 二九三、荒川重秀
 - 1 明治二〇年 五月一四日 写棄御恵与御礼
- 二九四、荒川已次
 - 1 大正 八年 九月二五日 伊達氏身上に関し陸奥伯を経て本人の希望を尋遣はし候処茲に封入の同伯書面の通り申来 (付) 陸奥広吉書翰 荒川已次宛 九月二三日付 斎藤男爵よりの御申越の件伊達多件へ申送候処同人より家計一ヶ月百五十円乃至其以上必要との回答あり
 - 2 昭和一一年 一月一六日 内大臣後任御拜命の趣慶賀 現内閣組織の節に重臣枢密議長加はり政黨員外の岡田大将詮術に依る決定大に安堵 前記の外に陸海軍大将代表を加へ候はゞ一層強固
- 二九五、荒木貞夫
 - 1 昭和 九年 一月二〇日 陸軍大臣拝辞御執奏依頼 別冊を以て所信を提議につき御洞察の上実行方切願外務軍部の密接なる協力一致の下に我が正当なる主張の貫徹への努力を希望

- 二九六、 荒城二郎
 - 1 昭和 年 三月二七日 朝鮮に関する有益なる書籍類多数恵贈御礼
- 二九七、 荒木徳三郎
 - 1 昭和 七年 一月二四日 揮毫御礼
- 二九八、 荒木彦郷
 - 1 昭和 七年 五月一一日 膳石妙葉御教示を辱ふし御礼
- 二九九、 荒木楽山
 - 1 年 一月二九日 手続体格検査相済み甲の上にて合格 京畿道轄内の各警察署を巡視
- 三〇〇、 荒木臨時敷設部司令
 - 1 明治二八年一〇月 五日 水船式隻新規渡付方臨敷一三二号を以て上申せしも今以て御指令なし 至急御指令相成たし
- 三〇一、 蟻坂七五郎
 - 1 大正 七年 六月 八日 宗隆様男爵議員団に加入の事昨日決心
 - 2 大正 七年 六月 八日 議員団とは議員となるべき人を選挙する同士の会にて閣下希望の会への入会手続きは閣下より御申出を願上げたる事に御座候
- 三〇二、 有地品之允
 - 1 明治二八年一二月 九日 (上村彦之丞常備艦隊参謀長・斎藤参謀長宛) 海軍大監よりの推問書に対する答案等別段御異存なくば早々御認め御送付奉願
 - 2 明治三四年 五月 九日 男爵補欠選挙今日の形勢は敵方小野男の勢力強力にて勝負相決せり 千田男爵は将来の補欠及び次期の総選挙には必ず当選希望 島津男は当選の見込なく今回棄権方島津家に御忠告願上
 - 3 明治四一年五月一四日 義勇船桜丸八月中には試運転執行適當の名義にて一時貸与御認可の程願上
 - 4 明治四二年 七月二四日 海事協会義艦の件は戦時遠ざかり募集も困難 海軍御用地御不用の分赤羽の工廠跡及び品川水吸場跡のニヶ所は帝国海事協会に払下の説あるも如何
 - 5 明治 年 五月一一日 沈みたる敵艦の内アラガラーの如きは将来の義勇艦として適當 御払下願
 - 6 明治 年 六月二二日 ラッサ号本月中に横浜入港の筈 入港の上は協会の造船委員諸氏に参観を依頼致すべし
 - 7 大正 七年 二月二六日 煙草沢山贈与御礼
 - 8 年 一月一一日 来る十七日大臣官邸に海軍出身議員集合の件通知了承 貴族院中各団体幹事交渉委員悉皆集合の方可然との注意もあり 小生は海軍人中のみにて出来得る限り内情を承りたく希望
 - 9 年 二月 七日 戦時補助船舶に関する奨励法提出の件は貴族院中各派に内議中 法文に付ては内田局長と内議の末別紙の通決定
 - 10 年 五月 七日 帝国海事協会臨時大会を三軍県津市にて来る十二日開会 其節軍艦を同市巡回艦相成たく願上
 - 11 明治 年 五月一八日 明後二十日午後二時協会の理事会及び造船委員会開催 暫時にても出席相成たし
 - 12 明治 年一二月一〇日 (上村参謀長・斎藤参謀宛) 推問書に対する答書早々進達の様次官より申来
 - 13 明治 年一二月一二日 大臣には明後十四日戦争操線の節は勢力を示す様致したく発砲可能との意見につき此旨貴官迄申進議員の同行実見の件も司令長官へ御申入下されたし
 - 14 年一二月二六日 予算の件に付ては幸倶楽部中目賀田男を主とし坪井・東郷両男補助となりて調査の事に申合
- 三〇三、 有馬新一

1 明治三〇年 一月 七日 富士回航委員として御渡英祝詞

- 2 明治三三年 八月二〇日 本艦隊も先般来諸操練等専ら訓練に努めありし処各艦共多少の修理を要し当港にて修理に着手
- 3 明治三三年 一月 二日 病氣見舞 特軍検閲結了後太沽方面派遣内定の趣につき上京の上将来の御方針等相伺たし
- 4 明治三四年 一月 一三日 山海関及び当地は平穩 松島は清国居住帝国臣民保護の任を解き佐世保へ回航せしむる様取計らふべしとの大臣御訓電接手
- 5 明治三八年 四月 一日 旅順方面沈没敵艦の兵器等調査の為其向の者御派遣の趣 呉工廠有坂少監最も適任ながら新艦兵装計画等多忙に付き山内中将出張方御取計願上
- 6 明治四〇年 一月 一日 艦隊射撃本日にて全部結了 練習艦隊司令官には吉松少将最も適任
- 7 年 一月 二〇日 来る二十六日は小生の生日に付御高話相伺勇麗酒差上たし

• 三〇四、有馬頼軍

- 1 大正一五年 三月 一九日 同愛会五周年記念事業後援寄付広告依頼
- 2 昭和 三年 三月 一一日 三月 二一日 大雄院一周忌案内
- 3 昭和 四年 三月 一七日 三月 二一日 大雄院三周忌案内
- 4 昭和 四年 五月 二五日 六月 六日 法会案内
- 5 昭和 四年 六月 四日 過日御願早速御承引下され有難く存じ候 尚東郷・山本兩伯の御内諾賜りし趣御通知感謝
- 6 昭和 八年 三月 一一日 三月 二一日 大雄院七周忌案内
- 7 昭和 八年 九月 一四日 石黒農林次官貴族院議員勅選の件は論功行賞の意味よりも又貴族院に於ける農村問題討議の必要から是非実現したし
- 8 昭和 九年 四月 一日 文相後任後藤農相適任 農相には三土鉄相適任 後任鉄相を政友会より選べば其選任比較的容易なるべし 貴族院勅選の補充として石黒農林次官・下村宏氏・岡実氏を御推挙頂きたし
- 9 昭和 年 六月 三〇日 東北の雪害を研究せる山形県選出衆議院議員松岡俊三君紹介

• 三〇五、有馬良橘

- 1 昭和 九年 三月 二四日 妻栄死去に際しての弔詞・供物御礼.

• 三〇六、有松英義

- 1 明治三七年 二月 一七日 旅順海戦公報到着の儀伝承 兼て願上の通御内示を被りたし
- 2 明治四〇年 九月 二四日 男爵御拝受祝詞
- 3 大正一〇年 一月 四日 御品御恵贈御礼
- 4 大正一四年 四月 一〇日 御栄爵御昇進祝詞

• 三〇七、有吉忠一

- 1 大正一一年 七月 四日 伊勢参宮の上京城に着任の予定 大蔵大臣次官より補助金減額の了解を求めらるも断然拒絶 官制改正案も行政整理の余波を受け一応法制局に於いて調査の上更めて決定せらるる事に相成
- 2 大正一一年 一月 一四日 (電報) 菊地謙讓の件外務省は数回に区分し支給されたしとの意見
- 3 大正一一年 一月 二四日 予算は首相は大体異存無之も公債は多少折衝必要 朝鮮銀行総裁の件は迂余曲折にて数日の内に決定致すべし 山県五十雄後任は三好氏適任
- 4 大正一一年 一月 六日 朝鮮銀行総裁の選任に付ては蔵相の態度不可解の点多く予算問題よりも此方却て面倒なる事態露国避難民救護の費用支出の件も或は一時朝鮮の特別会計の剰余金よりと云ひ或は一般会計よりと言ひ決定致さず
- 5 大正一一年 一月 二日 鮮銀の状態は日一日と危殆を加ふるも美濃部の放漫なる貸出は随分甚し此際同人を交迭するにあ

らざれば到底同行の整理は見込なし

- 6 大正一一年一二月 日 鮮銀総裁後任の件に付き本日加納氏来談の筈 住友男時には其同意を得るも本人決定致さず
- 7 大正一一年一二月九日 鮮銀問題は行詰 市来蔵相は到底加納氏にては同意致間敷に付き兎に角美濃部を止めしめ此際鮮銀の改革は断行するとして加納氏採用を見合す事にて妥協しては如何と水野内相より勧誘 後任者に関しては水野氏とも協議の上蔵相とも交渉
- 8 大正一一年一二月二三日 (電報) 蔵相改革断行を明書 明夜出発帰任の上委細申上
- 9 大正一一年 月 日 (電報) 朝鮮銀行業務資金掛井理事より申出大蔵大臣と交渉の上十分な援助を乞う
- 10 大正一二年 二月 一日 (前半欠) 弓削は留任平北には米田慶北には青木専売局には今村を挙用 建碑問題に付李長官朝鮮貴族を集め相談 高等普通学校卒業生の内地高等諸学校に入学資格の件に付校長をして篤と説明せしめ無事結了
- 11 大正一二年 二月九日 李王城改革の件は今日迄は速に円満に進行 一昨日李王職長官及び上林次官自発的に引責辞職申出あり昨日李完用に大体の説明を与へ後任関泳綺には昨夜総督の意思を伝達 鮮銀総裁に関し御 内示相承早速御通電 国境方面へ丸山警務局長を派遣今後の措置を定めたし
- 12 大正一二年 二月二日 西村殖産局長によれば鈴木商店に許可せる黄海道の蘆田の返還を閣下の御承認を得て申渡せし趣なるも巷間には既に種々の風聞あり一応事実を確めたし
- 13 大正一二年 三月三日 鉄道社債元利保証失敗は当方の手落到相違なく遺憾李桐公叙勲の件に付き宮内次官より発表の時機に関し問合 ソウルプレス山県氏の申出は意外千万なるも相当の額を給与する必要あり
- 14 大正一二年 四月 六日 首相と面会朝鮮の事情開陳併せて資金融通の方策実行を希望 満鮮經濟會議の外に関東庁長官と共に大蔵大臣と協議致したく予備調査の爲め本府財務局長・関東庁事務総長・大蔵省理財局長反 拓殖事務局長と会合一種の案を作成せしむる事に申合
- 15 大正一二年 七月 四日 福原男新会社々長たらんとし研究会・公正会・鉄道省等に抛り盛んに運動中
- 16 大正一二年 八月二八日 大命は山本伯に降下せし趣
- 17 大正一二年 九月 四日 過刻御相談の件後日の配慮必要 万一の場合は現在社会局第一部長河原田稼吉氏適任
- 18 大正一二年 九月一〇日 金文奎逮捕一件は外交上不面白事件と相成べき憂充分にあり
- 19 大正一二年 九月一四日 鮮人虐殺の報導に鮮人激昂の徴候 帰來鮮人には可成厚遇を与え其感情を融和せしめんと釜山に救護事務所を設置し併せて鮮内より内地への慰問品の取扱を開始
- 20 大正一二年 九月一五日 共進会を機会に種々画策あり適當なる機会に中央政府へ総督府の心事説明方好都合 内地より歸來する鮮人も途中の歓待に満足の様子
- 21 大正一二年一〇月一四日 十二日大阪着直に資本団代表トーマスに面会政府保証を必要条件とするや否や確認 大阪府当局とは数次会談鮮人救済施設に関し本府より一万円大阪府及び市より一万円位支出と相定
- 22 大正一二年一〇月二五日 廿日鮮人虐殺事件の発表に就て朝鮮総督府に何等打合なし 内務省より行違の廉を陳謝 月曜日首相に面会緩和の策として虐殺されたる者の遺族に金を贈る方法を講せられたき旨陳述
- 23 大正一二年一一月 八日 補給金は前年通り公債は全部打切るも特に朝鮮の事情を酌量し千万円を補給金として交付 満鉄に對し責に任すべき次第につき小生退職を願ふの外途なしと決意
- 24 大正一二年一一月 九日 避難露人取扱方に関し外相並に次官・松平局長等に面会 速に支那官憲に交渉して避難露人の通過を許容せしむる様取計らひありたしと申置
- 25 大正一三年 二月二日 (電報) 今回受爵叙位叙勲の李完用・李恒九・韓相竜一趙鎮泰は本日小官を訪問 閣下に対する謝辞を述べたり
- 26 大正一三年 四月一八日 中枢院顧問には任期の規定あり 李載克は長官を止めたままにて権重頭は復職に色気権は関丙爽・

伊徳栄等と権衡もあり当分現在の儘と致すべし

- 27 大正一三年 五月二三日 過日国境御巡視の際不慮の出来事 白昼公然と十数人も隊をなして発砲するを防ぐ能はざりしの如きは支那側警備に誠意なきを示す確証 政府より嚴重なる交渉必要
 - 28 大正一二年 二月二〇日 李季王職長官辞表及関泳綺の履歴書御手許迄差出 関男には現職との関係上親任待遇の御沙汰仰ぎたし 李載克は中枢院顧問に推薦致しては如何
 - 29 大正一三年 六月二二日 財務局長後任につき庁内より抜擢に御異存なき趣御返電に接す 大蔵次官と面会朝鮮補充金は一千万円との旨につき到底其衝に当り能はざる旨申置 水野内相も多少の減額は不得已事との言
 - 30 大正一三年 八月一〇日 帰任通知
 - 31 大正一三年 九月 三日 政務総監退任挨拶
 - 32 大正一三年 九月 三日 井上準之助氏今般歐洲漫遊より帰朝 朝鮮問題の重要なるを感じ実況研究のため来月初旬頃より渡鮮希望 好き機会に付き充分便宜を与へられては如何
 - 33 大正一三年 九月二八日 支那の内情注意必要 予算編製忙関し下岡君も近く上京の由 退任に際して貴族院議員に勅選方加藤総理迄申出下され御配慮感佩
 - 34 大正一三年一〇月一四日 勝手の依頼早速御快諾夫々御書面差出下され感謝
 - 35 大正一三年一〇月三〇日一 黃海道安岳郡の未墾地処分案につき兼て面白からぬ風評ありし西村局長に対し平北知事より鮮人救護に利用希望の申出ある事情も申渡し考慮に加ふるべく注意
 - 36 大正一三年 一月二五日 鮮銀整理に関し大体御打合の儀拝承 復興公債如何に拘らず社債保証の儀切望
 - 37 大正一三年 二月 六日 閣下の御進退に関し種々の風聞あり 大命降下又は御退任の場合は一応小生迄御内示を蒙りたし
 - 38 大正一四年 四月一〇日 陸爵祝詞
 - 39 昭和 二年 四月 二日 小生身上の件に就き種々御高配下され深謝
 - 40 昭和 四年 五月 一日 妙薬御恵贈御礼 来る六日にて任期满了に付き其後は閑地にて静養
 - 41 昭和 四年 七月二一日 妙薬御恵贈御礼任期满限に際し諸人の懇請により抛却なく再任
 - 42 昭和 五年 五月一〇日 此度貴族院に勅選の栄を蒙り感佩 貴族院論議の様子の悉く党派的感情より出で居るものの如き傾向遺憾 内地も鮮人問題は漸く深刻と相成横浜市七千の失業者中の四千弱は鮮人
 - 43 昭和 五年 八月二五日 先般御上京の節は横浜市復興の状況視察下され感謝 鮮地の事世人の無関心には驚くの外なく犠牲的奉公の誠厚きに非ざれば辛抱なり難き次第
 - 44 昭和 七年 五月 八日 母歌子逝去の節の弔詞・供物御礼
 - 45 昭和 七年 三月二三日 好物御恵贈御礼
 - 46 昭和一八年一二月二四日 (齊苑一華菓御恵贈御礼)
- 三〇八、有賀光豊
- 1 大正一〇年 二月 日 昨年十一月の全鮮蚕糸業者大会を機とし朝鮮蚕糸会創立 不肖今回会頭に就任 一付一朝鮮蚕糸会会則
 - 2 昭和 五年 二月一二日 同民会会長候補者物色方御願 副会長二人辞任申出 副会長を増員し朴氏と併立せしめては如何との渡辺氏の意見あり
 - 3 昭和 六年 四月 五日 朝鮮山村会第一回大会開催御案内
 - 4 昭和 八年 九月 四日 元勸業模範蚕業試験場長宮原忠正氏銅像へ撰文揮毫依頼
 - 5 昭和 九年 八月二〇日 朝鮮蚕糸会館会議室正面に掲載の扁額揮毫依頼
 - 6 昭和 九年 九月一〇日 朝鮮蚕糸会館会議室正面に掲載の扁額揮毫依頼
 - 7 昭和 九年 九月二七日 揮毫御札

- 8年三月二〇日朝鮮三浪津産梨果御笑納下されたし
- 9年九月二四日開城産葡萄試味を蒙り候はゞ光荣
- 10年一〇月二七日朝鮮名産平壤栗御笑味下されたし
- 11年一一月一四日朝鮮産咸從栗御笑味下されたし
- 12年一一月一九日朝鮮産咸從栗御届
- 13年一一月二六日朝鮮平壤産栗御笑味下されたし

- 三〇九、粟野伝之丞
 - 1大正八年一二月二七日昨年十一月渡鮮平壤の宗教学校では独立思想を鼓吹しあり本年一月長谷元帥並に学事当事者に此事を話せしも馬事東風宗教学校に於ける内地人の位置不安定

- 三一〇、安藤袈裟一
 - 1大正一二年一〇月九日本道管内匪賊の出没被害増加意の儘に討伐検挙の実績を揚げ得ざるを遺憾目下賊徒頻出地の警察署にて捜査隊二組及び討伐隊三組を出動

- 三一一、安藤正清
 - 1年月四日東京どこでも皆少女は先生にごうかんされているのだ政府の大臣おほえていろ

- 三一二、安楽兼道
 - 1年四月一四日海軍演習地御臨幸の義は小官外出致兼ね就ては秘書の高瀬に御示し下されたし
 - 2年七月二六日岩手県属今野東吾の当局へ採用の義は同県知事とも相談の上取極
 - 3年四月二三日過日来御配慮御礼大臣閣下へ宜敷御執りなし下されたし

- 三一三、飯田延太郎
 - 1大正一五年一一月一一日天図鉄道延長問題につき張作霖・張作相らと折衝小生個人の経済援助願
 - 2昭和四年一〇月一一日朝鮮博覧会開会式参列の節の御高配御歓待御礼
 - 3年一月六日外務対大蔵省の問題は富田局長も相当了解の趣と三木参与官より報告あり明日小生木村氏に面会の上一日も早く富田氏と妥協方相談
 - 4年一一月一一日目下天図鉄道布設着手の絶好期にて迅速に低利資金貸付を切望総督閣下より大蔵大臣へ御懇談を願ひたし

- 三一四、生田清三郎
 - 1昭和三年一月一四日江原道麟蹄郡居住李時榮より同郡名産蜂蜜箱一個捧呈

- 三一五、池田有親
 - 1大正四年二月八日阿部松之助様に御頼致し当地鉄鉱日本に輸出の途なきや御伺申上候処卸教示を辱し奉謝
 - 2昭和八年七月一九日下飯坂武彦氏今度シャートル大学を卒業帰国の筈同氏に当地の昆布数ノ子を托す
 - 3昭和九年七月六日内閣更迭は遺憾の次第閣下及御輿様御一所に御撮写との事に付き小生に一葉御恵贈願
 - 4年五月二一日御紹介の高橋光威・古賀廉造氏に面会小生在住の北崎の石油産出地御取調の御高見拝承

- 三一六、池田寒山
 - 1昭和七年九月一一日閣下組閣に付き寸志明日より製作に従事し出来次第持参
 - 2昭和八年七月一七日脳軟化で一時危険閣下より先に此世を去り可申子等に目をかけ下さる様依頼
 - 3年九月九日札幌にて式千余円の注文且つ今月二十六日より五日間展覧会相開き相当の収入あるべき見込閣下の御厚意なくん

ば今回も決して如比結果を見る能はず

- 4年 九月 九日 北海中学講堂への揮毫依頼
- 5七年 一月一 二日 友人永島忠重に拝芝の栄を賜はりたし

• 三一七、池田成彬

- 1 昭和一〇年 八月 四日 中央教化団体連合会寄附行為の件に関し松井理事と面会希望

• 三一八、池田秀雄

- 1年 七月二 七日 総監閣下に鉱務課長復命の趣旨御話申上 小生・鉱務課長に山本事務官を加へ審議の意見郵送
- 2 昭和 二年 四月 八日 閣下御不在の爲め代理として鎮海共進会開会式に参列
- 3 昭和 二年一 二月 一日 病氣見舞
- 4 昭和 二年一 二月一 九日 朝鮮総督御辞任の際に於て従來の御高誼に対し御礼
- 5 昭和 三年 三月一 二日 御下命の件委細拝承 一昨日政務総監より突然辞表提出方御諭示あり昨日辞表提出
- 6 昭和 三年一 〇月二 九日 昨日は御案内を悉くし難有御札申上
- 7 昭和 五年 七月二 一日 十勝の農場の件は御期待に副ふべく尽力 日本殖民学校の件につき栃本拓銀頭取に拝趨のため御指導願上
- 8 昭和 六年 五月一 五日 本日茂原氏来訪相成り十勝農場の件も御希望通り解決
- 9 昭和 六年 六月一 一日 進退問題充分御熟慮の上断行せられる事と承知
- 10 昭和 六年 六月一 八日 愈々総督辞職御決行の由 一日も早く御回復祈上
- 11 昭和 六年 七月一 六日 御全快御内祝御礼
- 12 昭和 七年 五月二 二日 陸軍は統制の緒につくも海軍の中佐以下の士官等には首脳部に対し不平鬱積 若し大命降下の場合には時難匡救のため奮起を切望
- 13 昭和 七年 九月二 二日 対外方針は少数の文武元勳を御集合御決定が適当と愚考 満鉄の綱紀振肅の爲め正副総裁両者更迭の外なし後任は水町枢府顧問官最適任
- 14 昭和 七年一 二月 四日 政友会に政権を円満に授受の噂あり 今回の組閣は非常時局打開への大責任と大覚悟あらせられたる事と愚察 小問題は兎に角大問題につきては決して妥協的態度に出らるる事なく処世を講ぜられたし
- 15 昭和 八年 八月 一日 揮毫御礼
- 16 昭和 八年一 二月 一日 堀切書記官長への電話にて情勢曙光を認め居る由 対立譲らざる場合は総理裁断一任の外打開の途なし
- 17 昭和 九年 四月 六日 高橋蔵相辞任の意志牢固の伝聞不思議の至 高橋蔵相を留任せしめられ困難突破方御尽力切願

• 三一九、池田秀治（註2）

- 1 昭和 七年 五月二 一日 陸軍部内の単一政党内閣反対の空氣濃厚 鈴木氏の声望失墜 今日の帝国を背負ふ者は閣下の外なしとの空氣濃厚

• 三二〇、池辺吉太郎

- 1年一 二月 三日 此書持参の者は海軍記事担当の社員黒沢十太氏 御巡見下さらば大幸

• 三二一、石井菊次郎

- 1 昭和 三年 一月一 〇日 寿府海縮会議に関するサイモンズ氏評論御惠送御礼

• 三二二、石井佐市

- 1 昭和 九年 八月三十一日 本所区横川橋畔震災記念碑落成を告げ九月四日午後二時除幕式に御賁臨の栄を得たく御案内
- 三三三、石井省一郎
 - 1 明治 年 六月 一日 過刻願上の件御許容御礼
- 三二四、石井隼太
 - 1 明治二〇年十一月一八日 ニューヨーク、ボストン南港の実測図入手出来ず
 - 2 明治二〇年二月二〇日 ニューヨークよりリバプールを経てグリーンツジ着 兵学校等見学
 - 3 明治二一年 四月二七日 仏国留学被仰付 伊太里国境の如き砲兵連隊に付届 実地的の研究を志願願
 - 4 年 二月 五日 ロンドン・ベルリン観光報告 留学地仏国と決定
 - 5 年 二月一八日 ベルリンを経てパリ着 志願の通り仏国留学の命を蒙る 一日も早く通弁役の手を切り本務に従事致したし
- 三二五、石川栄
 - 1 年 九月一八日 九月十六日附二十五弗証券入の御書状拝受 九鬼公使と面会 細君には殊外の不快にて大いに心配
- 三二六、石川千代松
 - 1 大正一四年 九月 八日 脇谷場長ハワイ行の事は如何 スタンフォード大学ジヨルダン先生の手元の材料・文献閲覧許可願
 - 2 大正一四年 九月一二日 脇谷洋次郎のハワイ及サンフランシスコ行御許可御礼
 - 3 大正一五年 六月一三日 友人岡田信利が今回朝鮮の科学博物館属托就任に付き宜しく御願申上
 - 4 大正一五年 八月二五日 ドイツ人遺伝学者牟Richard Goldschmidt氏朝鮮訪問の節は何卒宜しく御願申上
- 三二七、石川登盛
 - 1 昭和 五年 二月一四日 徳安面の土地分割処分は当時の調査の結果適当 国有未墾地貸付は困難 (付) 金時衛歎願書 斎
- 藤実宛 昭和五年一月一八日付 徳安郡所在河川敷地占用願提出の処分割許可せられたるは遺憾 にして望隅洞所在草生地貸付御許可を望む
 - 2 年 五月 二日 珍らしき品々沢山御恵贈御礼 地方官更迭に当り大沢参事も徳島県に栄転 御援助の賜
- 三二八、石黒英彦
 - 1 昭和 年 八月 八日 予て御依頼の御蔵書の件は岩手県立図書館にて目下整理中
- 三二九、石坂伸吉
 - 1 昭和 九年 九月一七日 本月一五日金沢医科大学に於ての御講話御礼
- 三三〇、伊地知源五郎
 - 1 明治二一年 一月三十一日 高千穂艦は充分の成果を得たりと聞き満足 此度艦隊巡邏にて各艦の伝染病流行・大和葛城の砲車損傷等二三の故障出来
 - 2 年 月 日 今回従弟高崎安彦御地留学何卒御教諭下されたし
- 三三一、伊地知季珍
 - 1 明治三三年 五月 八日 御依頼の品購入方川島中佐へ依頼 常盤の便に托し御送附
 - 2 明治三八年 九月二三日 (黒水公三郎宛) 其後日に増精神も沈静 目下の処非常手段を施す必要もなし 御安神下されたし (付1) 第二艦隊司令長官書翰大臣宛九月一七日付三笠艦長十六日二階の窓より飛落ち面部一個所負傷只今入院静養 (付2) 八代六郎書翰 黒水公三郎宛 九月二二日付 三笠艦長昨今は沈静に赴く (付3) 八代六郎書翰 黒水公三郎宛 九月二四日付 三笠艦長

容体は心配なし

- 3 明治三三年九月二五日 仁礼家御注文の獵銃御落掌相成候由につき安心
- 4 明治四四年 六月 八日 今般進級の挨拶
- 5 明治四四年一一月 八日 五十口径十吋砲発射用砲架アダプター目下製造中
- 6 大正 元年一一月二七日 御病氣追々御快方のことを加藤長官より拝承 尚加療速に快復祈上
- 7 大正 八年 九月 四日 爆弾投下事件御見舞
- 8 大正一五年 五月二八日 過日参上の折の御優遇御土産御礼
- 9 年 八月二五日 英国滞在の田中造兵大技士は依田大佐の唯一の輔佐として必要 帰朝延期を希望

- 三三二、伊地知彦次郎
 - 1 明治四四年 八月一八日 木村壮介医務局長来話診断愈々本多博士と一致 一層注意摂生の必要自覚 下村大尉への御伝言早速申送り 本日別書の通り返事を得 (付) 下村忠助書翰 伊地知彦次郎宛 明治四四年八月一七日付 病氣見舞 大臣の伝言御礼

- 三三三、石塚英蔵
 - 1 明治三三年一二月 八日 尊父逝去弔詞
 - 2 大正一〇年一〇月一〇日 産業調査委員会に出席の砌御厚遇を添うし深謝
 - 3 昭和一一年 一月一九日 昨今右翼運動指頭側近諸公へ攻撃開始 結局一木男の処決不可避に付き後任は牧野伯を煩すが上策 平沼昇格は下策なるも志操堅固なる副議長を任命して之を牽制せしむるも一策
 - 4 昭和一一年二月二三日 十七日牧野伯訪問相沢事件に付き証人召喚の拡大阻止強調枢府問題も伯の意向は現状維持併し勢が之を許すべきや 最近の美濃部襲撃事件の如き不祥事は今後も保証の限に無し
 - 5 年一二月二九日 黄海道載寧郡に於ける農監の行為に付き御懇書を賜はり深謝 今後駐在員制の普及と共に漸次農監を廃し小作人関係の改善及農事の改良奨励に努力
 - 6 年 月一二日 有志者会合の件は別紙会則案の形を以て出現 谷森・木内・頭本諸氏は不同意 小生は第二回以下は参会致さず阪谷男も同様 同会は単に浪人独占の機関と相成べき運命

- 三三四、石塚信造
 - 1 昭和 七年 九月 九日 政財界学界其他社会上の有力者を網羅せる本会合により政友会の反政府熱を阻止牽制し得べし是非本件御採托を希望
 - 2 昭和 七年一〇月一四日 リットン報告問題等に関し各種調査も致し卑見開陳致したく一兩日中に拝謁の存念 柳田囑托なるもの好講につき多少御警戒必要
 - 3 昭和 八年 五月 五日 宇垣氏は民政党方面及び国民同盟代議士に魔手を延ばし懐柔に努力 政友会方面は鈴木総裁に大命降下せざる場合分解作用の起る可能性
 - 4 昭和 九年 三月三〇日 政友会は院外の倒閣運動に多額の費用を支出し表面不即不離を装ふ老獪し難し 民政党は政変期待 軍部方面は松井石根等策動し近衛公擁立に懸命 鳩山氏補充問題は岡田忠彦氏が適當
 - 5 昭和 年 月二四日 国民同盟方面にては軍部間に暗躍 末次中将の一派は各種策動機会の到来を待ち構へあり

- 三三五、石原留吉
 - 1 大正一三年 八月 一日 高松市長就任を承諾 退官の御詮議願出 何れ帰途御引見を仰ぎたし

- 三三六、石本貫六
 - 1 昭和 八年 二月二三日 陸海軍将校有志「西園寺元老とは何者耶」

- 三三七、石本恵吉
 - 1 大正 年 二月一九日（鑄木秀胤と連名）北鮮と寧古塔を連絡する鉄道敷設に関し松岡満鉄理事と親交ある床次氏と相談総督府に於て同様の計画あるやの由なるも我々に於て之を成立せしめる様懇願
 - 2 昭和 五年 九月 八日 琿春の軽鉄の問題は東拓との交渉順潮進捗につき御安心下されたし 天図鉄道に中野氏を入れること御賛成賜はりたし
 - 3 昭和 六年 四月一〇日 例の軽鉄の件は児玉総監から補助金の事を穂積外事課長より直接東拓に話を進めよとの御話あり外事課長と十分懇談好意を以て御尽力下さるとの旨にて安心
 - 4 昭和 七年一〇月二三日 鉄道事業の進捗につき十一月末又は十二月上旬には必ず開通運行予定 更に露満国境の土門子まで延長いたしその次には浦塩と連結いたしたし

- 三三八、石本新六
 - 1 明治三六年 一月一四日 下ノ関海軍省用地付近以外の土地使用の有無を御垂示下されたし
 - 2 明治 年 一月一六日 召集旅費は将来実行すべき三個師団の動員の費用に充つる見込
 - 3 明治 年 六月二四日 御申越の件は明日回答

- 三三九、伊集院兼志
 - 1 一〇年一二月一〇日 昨朝拝眉の栄を賜り深謝
 - 2 昭和一〇年一二月二九日 内大臣就任祝詞

- 三四〇、伊集院五郎
 - 1 明治四二年一〇月三十一日 去る二十七日附御下問の趣謹承 藤井較一並に財部彪二名を指定 右の内より一名御撰出願
 - 2 年一二月 五日 別紙上海新聞抄訳封入

- 三四一、伊集院彦吉
 - 1 大正一一年 四月二二日 美国メーボン氏の件は中止可然 其代に仏国エキセルンホ記者につき御配慮依頼 同文会根津氏後任に菊地氏採用の説あるも反って同氏の為め気の毒

- 三四一、石渡敏一
 - 1 大正 七年 三月 六日 御書面の趣拝読 来る十一日紅雪軒にて拝顔の折り御届すへし

- 三四三、亥角仲蔵
 - 1 大正一四年一二月一八日 水力電気事業計画の内容及実地に付き視察せし技師の談に依れば規模拡張せば一層有利且つ大量の発電を得て南鮮開発上一大活動が期待（付）亥角東津水利組合長書翰藤原秘書官宛 大正一四年一二月二八日付 電気事業経営の件に関し最初出願の通当水利組合関係者に於て中心となりたし 総督及関係局長に御含置相成様御伝を請ふ
 - 2 年 四月二四日 財務監督局位置決定に関し全州市民常軌を逸したる行動に走り誠に相済不申 同問題については近日出府の上事情相陳べ御指揮相仰ぎたし

- 三四四、泉田利宗
 - 1 年 月 日 当地方産西瓜御笑納願上

- 三四五、泉谷氏一
 - 1 明治三一年一〇月二九日 小笠原写真帖二冊及マニラ写真送付

- 三四六、板垣征雄
 - 1 年八月二七日当地産物別送
- 三四七、一井保
 - 1 年 五月一五日 御尽力により大蔵省金庫等一見相叶御礼
- 三四八、市川鶴松
 - 1 昭和 年一二月二三日 若草観音奉賛会八月十九日より寄附金募集に着手 本年歳末迄に七万八千余円の申込あり
- 三四九、市来乙彦
 - 1 昭和 年一二月一八日 一夕御光臨を賜りたし 差支無之候は、松田拓相に御同席を御願ひ申したく存候が如何
 - 2 年 三月 九日 一夕御枉駕御願ひ申上げ御高話拝聴致したく懇願
 - 3 年 三月一三日 来十七日午後六時戌辰倶楽部へ御枉駕下されたく御案内
 - 4 年 四月一九日 樋渡正一を此上とも御引立て下されたく御願
- 三五〇、一木喜徳郎
 - 1 大正 七年 三月 五日 先般帝国ホテルにて拝承の件漸く出来候間一枚別便を以て差出 宜敷御取計下されたし
 - 2 大正一四年一二月 六日 皇太子妃御分婉内親王誕生通知
 - 3 大正 年一一月一八日 李桐公直奏の件結末相付き厚く感謝 摂政殿下に書面御下付を願ひ同封差出に付き本人へ御返戻方依頼
 - 4 昭和 七年 一月一二日 今回の不祥事件に就き御見舞御礼
 - 5 昭和 八年一二月 七日 関屋貞三郎氏勅選御礼
 - 6 昭和一〇年 四月二〇日 日本青年館建築も進捗し九月中には完成の運び 就ては貴下の揮毫仰ぎたし
 - 7 昭和 年 五月 八日 李桐公御苑に招待の折御光臨下されたく御案内
- 三五一、市田保太郎
 - 1 昭和 七年 九月二七日 野田豁通閣下の写真郵送 (付) 野田豁通写真一葉
- 三五二、一戸兵衛
 - 1 大正一四年 四月一二日 陸爵祝詞
 - 2 昭和 四年一〇月二一日 野沢如洋氏御紹介
 - 3 年二月二一日先晩の御馳走御礼
 - 4 昭和 二年 二月一一日 細井氏の著書八冊御恵贈御礼
- 三五三、一宮
 - 1 年月三一日外務大臣秘書官より外務大臣至急閣下と話致したく 当局迄出張の儀御申越あり
- 三五四、市村讚次郎
 - 1 大正一三年 三月二〇日 京城滞在中の御厚待感謝 東国通鑑一部御恵贈下され感佩の至
- 三五五、井出謙治
 - 1 明治 年一一月 一日 大臣明朝八時三十分汽車にて横須賀に行くことに決定万一の場合に横須賀にて御道筋変更の義は宮内省書記官に内々申入置くこと如何取計可然か伺出
 - 2 明治四四年 九月 六日 駐英大使来る十日当地出発帰京 神戸の艇の機関到着目下試運転中 仏国へ潜水艇二隻注文決定の由拝

承 宮治少佐を駐在員として英国へ派遣せられたし

- 3 明治四四年一月一〇日 十月二十三日付御芳墨拝見御下命の品郵船会社便にて送附支那事件は帝国にとりて最大の事件海軍拡張の問題もあることとて一方ならざる御心労と恐察
 - 4 明治四五年 二月一五日 御封入の書状取調の上届け方取計 土二号潜水艇機関の件目下取調中 雑誌Aconomistは日本財政破産の状況にあり列国にて監視する必要ありと極論
 - 5 明治四五年 三月一二日 モートルカアの広告三四日内に取まとめ御送付 清国事変は帝国の関係する大なること故一刻も早く平静に強固の政府となることを祈上 金剛進水期日又々延引し五月十八日と決定
 - 6 明治四五年 五月一五日 四月十八日付御芳書拝見 御申付の書状は先方へ送付 金剛いよいよ五月十八日進水の筈もストライキのため遅るる恐れ
 - 7 明治四五年 六月一九日 宮治少佐去る六月六日無事着英 御下命の紋の義は目下取調べ中 金剛工事思う様に進捗せず独国海軍案通過の結果英国も追加案七月中に提出の予定 無線電話会議徐々に進捗
 - 8 大正 元年一月二五日 第十三潜水艦のこと拝承 目下ヤング中佐をして各国潜水艦の状況取調しめ居候 金剛竣工延引
 - 9 大正 三年 四月一一日 去る八日付書状領収 シーメンス事件より予算不成立辞表提出につき御心労御察申上
 - 10 大正 四年 六月一二日 春日・日進を率ひて七日舞鶴発浦塩へ出港
 - 11 大正 四年 六月一三日 当隊行動も先方の準備都合上延引 止むを得ず本年度作業の残部を繰返し施行中
 - 12 大正 六年 四月 九日 先日電話にて賛意を得候件来る二十日会合のことに決定
 - 13 大正一〇年 四月二九日 平壤鉱業所移管問題の相談に関し何時頃当省より当事者を差出べきか伺
 - 14 大正一一年一月一五日 東洋遊覧の為め来邦中の米国人エルキントン氏御引見依頼
 - 15 昭和 三年 五月二一日 御下命の書状山口市へ旅行中の貞永磯関大佐へ送附
 - 16 年九月16日 御依頼の物品送呈
- 三五六、伊藤卯三郎
 - 1 大正一五年一月一五日 黄海道庁にて一般職員に対し今回徹底的に朝鮮語奨励（付）黄海道知事官房主事「朝鮮語奨励二関スル件」（秘乙第二五六号）大正一五年一月五日
- 三五七、伊藤乙次郎
 - 1 大正 八年一〇月一四日 別便にて在米杉機関中佐よりの米書郵送
 - 2 大正 八年一月 一日 米国出版書籍の儀は十月二十日附書留小包にて発送 矢部氏の件宜しく願上
 - 3 大正一一年 四月一五日 御挨拶旁々何候希望
 - 4 大正一三年一月二二日 義勇財団海防義会事業並会務以御陰無事順調に進捗運行
 - 5 大正一四年一月一六日 二十四日海防義会臨時評議員会開会通知
 - 6 大正一五年 三月一三日 KB型全金属製水上飛行機完成 飛行状態を貴覧に供したく案内
 - 7 大正 年 四月二八日 御寵招御礼
 - 8 昭和 三年 四月二〇日 義勇財団国防義会の通常及臨時評議員会開会通知
 - 9 昭和 三年一〇月二〇日 川島清治郎著書の件に就ては海防義会より千式百円支出購入方決定
 - 10 昭和 八年 四月一八日 義勇財団海防義会通常及臨時評議員会開会通知（付1）同会案内状（付2）同会議案
- 三五八、伊藤一隆
 - 1 明治 年一月二三日 在米中の御厚情御礼 貴地発各地で調査の後四日当地着 ベヤード君死去に付き北水協会報告へベヤード君の伝を掲載の積 ウィラード大尉より御依頼の件は目下調査中

- 三五九、伊藤佐市
 - 1 昭和 六年 四月一八日 四谷区史編纂内容充実を期し貴邸沿革問合（付）斎藤実覚書 昭和六年五月二七日付 明治年間松田道之氏の邸たりしと聞く
- 三六〇、伊東四郎
 - 1 大正 八年一二月 一日 東三省及極東三州在住鮮人の大勢観察 目下鮮人綏撫方法に関し浦汐派遣軍司令部も立案討議中本件は全く朝鮮総督の権下に口て施設努力すべし 鮮人諜報の諸機関の相互連絡及総督府の各所に対する連絡甚だ不充分
- 三六一、伊東二郎丸
 - 1 昭和 五年一〇月一五日 師団対抗演習見学の際の歓待御礼
- 三六二、伊東祐亨
 - 1 明治三四年 二月二三日 研究会来る二十七八日頃議場にて増税問題を叩きつづすとの世間嘯御参考迄申上
 - 2 明治 年 三月一十九日 鍵和田大尉露国出張の希望あり差遣の御詮議もあらば御採用願
 - 3 明治四一年一二月一十九日 黒竜会の西南紀伝閣下に一部献じたき旨申出あり 御引見御受取下されたし
 - 4 明治 年 一月一三日 義勇艦隊建設に付き海軍部内貴婦人負担出金額別書の通草按相認に付き御意見御加減下されたし
 - 5 明治 年 一月一五日 義勇艦隊建設義指金出額官等割の義は取止め任意の方至当 拙者の妻は三拾円を出金
 - 6 年 一月一四日 艦隊に於て人員調査の節将校准将校の列席は如何御施行なされ居るや伺（付）斎藤実覚書 席次現行の振合左に上答
 - 7 年 三月 一日 粗酒差上たく御案内
 - 8 年 五月二八日（向山慎吉・斎藤実・竹田国太郎宛）拙宅にて麴酒差上げたく御来駕願
 - 9 年六月四日 艦内に於て麴飯差上たし
 - 10 明治 年七月三〇日 明三十一日将校及准将校の進級会議に付き葛城乗員大尉藤井較一拔擢 名簿御差出相成たし
 - 11 明治 年 八月二二日 宴席にて不穩当の言語を發し実に遺憾 宴会又は人込にて職務上の嘯は殊に相慎む様決心
- 三六三、伊藤武彦
 - 1 大正 八年一二月二〇日（電報）東条大佐は十二月一日進級待命の予定
 - 2 大正 九年 五月一〇日 御申越の論文の件は西村局長に御話申上東上の本府属官に委託御届の事に致置 李王世子御婚儀目出たく終了 爾後内鮮人の通婚盛となり真の内鮮融合の根基を作るもの多かるべし
 - 3 大正一〇年一二月二九日 総督府爆弾犯人遂に慶南にて逮捕 外人視察者其数を増し欣快 米国ミヅリー新聞学校長ウイリヤム博士二十七日夜来城本府自動車にて通訳官に案内せしめ二十八日総監邸にて晚餐会
 - 4 大正一〇年一二月 二日 水野総監宛御電報相成候同光会内田一派の上奏案写別紙謄写の上送付
 - 5 大正一一年 二月二二日 ジョツフル元帥歓迎無事終了 米国パブリックレッチャー記者ノルトン夫妻来城種々の便宜を供与
 - 6 昭和 三年 二月一四日 御染筆を賜はり拝謝
 - 7 昭和 九年 三月 三日 先日面謁を賜はり御礼 郷里小学校のため揮毫願
 - 8 大正 年 七月 二日 教育令に付き水野総監・馬場参事官・古賀局長に談合 普通学校修養年限六年を原則にする事で諒解 学友会長金俊淵本月七日鮮内巡回講演に出発 鮮干鏑によれば地方人士と会し不逞思想を酒養するものとの噂あり
- 三六四、伊藤雋吉
 - 1 年 二月一十九日 被仰越の趣に付ては予て両院の景況相伺候処流行風にて日々療養 上院の景況は速記録新聞上にて掛念 応分の尽力覚悟

- 2年三月一〇日 兼て相願候物品代価に付き伺
- 三六五、伊藤博邦
 - 1 明治四二年一二月一五日 亡父博文の遺物贈呈
- 三六六、伊藤博文
 - 1 明治四一年 二月一三日 韓国皇帝陛下より大勲李花大綬章御贈与に就き御査収相成たし
 - 2 明治 年 六月 九日 鎮海湾軍港予定地買収の件結了 防備隊司令官に宮岡少将兼任の儀御執計相成たし
- 三六七、伊藤勇吉
 - 1 明治 年 九月一五日 御訂正の図面拝見 至極結構に存候
- 三六八、伊東義節
 - 1 昭和一〇年 五月二日 閣下の御尽力により窮地より脱し再起 御影様にて新会社も設立を了し愈々事業開始 将来共御指導御鞭撻の程願上
- 三六九、伊藤利三郎
 - 1 大正一四年一〇月二日 此種重要案件は財政緊縮の折柄とは云へ了解を得らるべき事と確信 閣下今回の出勤に一同期待
- 三七〇、稲垣喜多這
 - 1 明治二一年 一月一六日 ダイナマイト砲製造会社に付き二月末或は三月貴地に相出御示教相仰たし
 - 2 明治二一年 四月 七日 十四日リバプール出發暫時新育滞在 ダイナマイト会社に付き一応出張製造所も実見致したし
 - 3 明治二一年四月二四日 ダイナマイト砲会社の件に付き御礼御帰朝御都合伺
- 三七一、稲葉岩吉
 - 1 大正一四年一二月 日 別冊月刊雑誌「朝鮮史学」発刊一部贈呈
 - 2 大正一五年 三月 四日 本年度予算に於て対馬文書購入 藤田修史官海外派遣の件は十五年度内に実現願上
- 三七二、稲畑勝太郎
 - 1 昭和 二年一二月一九日 枢密顧問官御任官祝詞
- 三七三、犬養毅
 - 1 大正一三年 七月一九日 朝鮮人蓼御惠贈御礼
 - 2 大正一三年 八月三日 橋本秀次郎氏此度三越支店長として赴任に付き御指教依頼
 - 3 大正一四年 三月 九日 十七年事変の親日派の有志鄭蘭教を中枢院に採用せられたし (付) 犬養毅書翰 下岡忠治宛 五月十二日付 金寿哲御採用下され恐縮
 - 4 大正 年 六月二七日 電報通信社理事吉川義章氏此度京城支局長として赴任に付御紹介
 - 5 大正 年 八月三〇日 小生懇意の金寿哲官途に就く希望に付き御引見御指教を賜りたし
 - 6 昭和 四年 三月 日 市会議員候補山田保君推薦
 - 7 年 一月三日 人参各種一函御惠寄御礼
 - 8 年三月五日 陸軍中佐田辺元二郎君今度廃兵を率ひ貴方遊歴に付き便宜を与られたし
 - 9 年 三月 七日 十四日御案内感謝 御指示通参趨致すべし
- 三七四、犬塚助次郎

- 1 明治 年一二月 三日 (山梨大臣秘書官宛) 兵学校生徒板垣盛保証人変更に関する件早速取調の処何等不都合の点も認めず
- 三七五、犬塚太郎
 - 1 年二月二日昨年十一月迄鎮海要港部主計長として勤務致し十二月より予備役と相成る浦川教之助此度是非総督府へ奉職希望に付き御配慮を得ば幸甚
- 三七六、犬塚力
 - 1 大正一二年一一月 日 北白川宮成久王殿下の御事蹟蒐集協力依頼 (付) (執筆にあたっての) 注意
- 三七七、井上幾太郎
 - 1 昭和 五年一〇月二七日 先般朝鮮出張中の御高配御礼
- 三七八、井上一郎
 - 1 大正一〇年 七月二〇日 警保局の御命により露国過激派と支那人・朝鮮人との関係・日本人社会主義者との関係・朝鮮仮政府に関する事項調査 川村警保局長更迭に依て其御命解除 閣下の御補助懇願
 - 2 大正一〇年一一月 九日 所信に依て国事に貢献する為原稿に着手致したく御援助依頼
- 三七九、井上馨
 - 1 明治 年 五月二五日 密話の事柄あり総理・大蔵大臣・貴大臣・小生列席にて密議いたしたく貴大臣にも御内通希望
- 三八〇、井上角五郎
 - 1 大正 九年一二月一四日 別紙宋・韓其他委員七八名へ発送 (付1) 井上角五郎・季夏栄他連名書翰 大正九年十二月付朝鮮農事改良株式会社補助予算は帝国議会上に提出せず延期せらるは遺憾 (付2) 井上角五郎書翰写 大正九年十二月一三日付 発起者諸君に別紙書状発送致したく御異議なくば御一報下されたし (付3) 井上角五郎・季夏栄他連名各発起者宛印刷原稿写
 - 2 大正一〇年 一月一九日 御地出張の際の御優遇御礼 本日原大臣面会事情報告致置候
 - 3 大正一〇年 七月二七日 暑中見舞
 - 4 大正一〇年 九月二四日 御地滞在中の御手厚き御待遇御礼 御統治の御成績事実に顕はれ国家の為感謝
 - 5 大正一〇年一〇月二九日 本月末期限の朝鮮銀行借入金延期の手續相済ませ利子は現金にて同行へ支払
 - 6 大正一一年 二月一三日 委員に対し報告書を別紙の如く差出 (付) 井上角五郎書翰 季夏栄他宛 二月一三日付 朝鮮農事改良会社補助予算は官宮にすべしとの理由を以て削除
 - 7 大正一一年 三月二八日 本日御伺申上候処既に御帰任の由につき御詫旁々御無事御帰任を祝上
 - 8 大正一二年九月二〇日 今回の震災御別条なき由伝承御目出たく存上
 - 9 昭和 四年 八月一九日 国家の為御重任奉賀
 - 10 昭和 四年一〇月二六日 仏教信仰と政界革新との為め一小冊子印刷頒布 別便にて差上 朝鮮内地にも頒布致したく御援助願上
 - 11 昭和 六年 五月二一日 同志のものと共に計画の職工教育実業成功の緒に就き候
 - 12 昭和 七年 六月 八日 農村問題は当面の救済のみに拘泥すべきにあらず 永遠振興の意思を併せて実行すべし
 - 13 昭和 八年 七月 七日 御迷惑の儀御間済御礼
 - 14 昭和一〇年一二月二七日 国家重要の任に被為庸候段慶賀此事
 - 15 昭和一二年 二月二六日 (齊宛) 子爵閣下一周忌の紀念御惠贈御礼
 - 16 年七月三日 病氣見舞の粗品御笑納下されたし
 - 17 年一二月一七日 数年来陶品研究近來上達其製品御目に懸けたく差上

- 三八一、井上勝之助
 - 1 明治四三年 七月一三日 出発の際の御見送御礼
- 三八二、井上清
 - 1 昭和 三年 一月一九日 朝鮮煙草元売捌会社専務取締役の件につき朝鮮煙草会社問題の円満解決の為に御受けする外なしと勸念 本月末に辞表を出し入社の決心
 - 2 昭和 六年 六月一八日 朝鮮総督在任中の御懇情感謝 新総督に小生の事情御引継下さり官界に復活し得る様依頼
 - 3 昭和 九年 八月一八日 朝鮮簡易生命保険事業五周年記念誌への御寄稿願 (付) 朝鮮簡易生命保険事業状況
 - 4 昭和 年 月 二日 朝鮮煙草元売捌会社定時総会無事終了 目下引継準備に着手 解散後小生身上御配慮願上
- 三八二、井上清純
 - 1 昭和 二年 四月 日 英米人の人種的僻見と白人優越観は世界動乱の禍根 日本国存在の理由は最勝文華を打建て以て世界を光被せんとするにあり 合理的實際的なる軍備制限協定の重任に当るべきは日本を措いて他になし
 - 2 昭和 五年 六月 三日 閣下の談話として東京朝日・東京日日両紙に掲載のものは閣下の御話しに相違無きや責任ある回答願上 (付)『東京朝日新聞』・『東京日々新聞』記事切抜 昭和五年六月一日付三八四、井上巖二
 - 1 年一〇月一九日 御来旨に従ひ来月中旬拝趨いたし火田民整理の状況・飼羊事業等御報告申上たし
- 三八五、井上孝哉
 - 1 大正一一年 三月 一日 昨夜は御筆招を辱し部下一同朝鮮縁故の人と会談の好機与へられ御礼
 - 2 大正一五年 六月二七日 出張中の御高配御礼
- 三八六、井上準之助
 - 1 大正一四年 六月一五日 過般朝鮮旅行の節の御高配御礼
 - 2 昭和 五年一〇月二二日 貴書御紹介の漢城銀行韓相竜氏は知人の間柄につき東上の節は拝答致すべし
 - 3 年 六月一九日 商業会議所副会頭山科礼義君今般朝鮮満州沿海州方面視察につき京城滞在の際御引見依頼
- 三八七、井上 保
 - 1 明治一九年 一月 四日 昨年十二月五日当所着 浪速艦も近日中に大砲の試験打を為し日本政府へ受取の見込
- 三八八、井上雅二
 - 1 大正一〇年一二月二八日 原氏伝記出版の折は早速奉呈
 - 2 大正一五年 三月二一日 御寵招を蒙り感謝
 - 3 昭和 四年 八月一八日 総督後任に閣下の懇請と相成り始めて安堵
 - 4 昭和 七年 六月 七日 首相の御大任拝受邦家の為御献務に感激 小生此程満鮮視察より帰京早急に面謁申上たし
- 三八九、井上勝
 - 1 明治四一年 三月二三日 相願の件速に御間届下さり鳴謝 尚御願申上たき事もあり東上申述
 - 2 年四月一日今般鉄道院顧問として欧米へ出発就ては一献差上たく枉駕依頼
- 三九〇、井上良馨
 - 1 明治二四年 六月 五日 別紙の通申来につき受取方御取計相成たし
 - 2 明治三二年 二月二七日 蒲生仙の知事採用遷延につき貴官より山本海相へ御内話の上至急御採用相成候様西郷内相へ転願御

尽力依頼

- 3 明治四〇年 九月一九日 授爵御受の為に出頭致すべし
- 4 明治年五月二三日北海道へ軍艦差出方に付き相談申上たし
- 5 明治年 五月二四日 明日は会議に付き出省致さずとも可然候哉御知せ下されたし
- 6 明治年 九月一八日 帽子白覆拝借致したし
- 7 年 一月二四日 軍艦武蔵検査を遂げられ可然御処分下されたし
- 8 明治年 五月一日 別紙の通照会 誤りあらば修正の上至急御差出ありたし
- 9 年一二月二九日 御門艦引替の儀に付き早速御手続の由御礼 別紙委任状差上

- 三九一、井上良智
 - 1 明治年 一月 五日 武品分隊長及機関分隊長は先日乗艦 (註3)
 - 2 明治四二年十一月二〇日 明治三十七八年海戦史第二巻御恵与御礼

- 三九二、井上芳馬
 - 1 大正一一年 四月一〇日 田中玄蕃氏の依頼により同氏が留守景福氏に貸付したる債権残額金五百六拾円を閣下が弁済すると
の口約ありとのことに付き残金御送附願上 (付) 斎藤実書輸写 井上芳馬宛 大正一一年四月一三日付留守氏は再び多額の負債
を生し準禁治産の宣告を受け拙者に於て取計兼る 口約を為したることなし

- 三九三、指宿武吉
 - 1 年 九月一日 御下命の件別紙の通内密調査御了承願 尤も区域広大のため一々踏査不可能 平素調査せるものを記述 (付)
瑞寧農場調査メモ 瑞寧農場価格拾壹万円

- 三九四、今井孝三郎 (註4)
 - 1 昭和 七年 五月二三日 内閣御組織に際し菅原通敬・守屋栄夫の二氏を推挙

- 三九五、今井俊作 (註5)
 - 1 昭和 九年七月二八日 永らくの浪々にて困窮致居り満洲国官吏会社方面何れへなりと御世話懇願

- 三九六、今井寛彦
 - 1 明治二八年 九月二八日 本艦の飲料水両三日分の外なし 吉野の石炭塔載終了次第河野浦丸に本艦の傍に錨垢を換へる様御下
命下されたし

- 丈
 - 2 明治二八年一〇月 六日 両三日の内上陸点に向け出発 飲料水并にBoilerを満水致したく汽船一隻を借用方御取計願上
 - 3 明治二八年一〇月 六日 飲料水を今少し積入れたく船一隻借用依頼

- 三九七、今井孫太郎
 - 1 年 九月一三日 御染筆依頼

- 三九八、今関寿麿
 - 1 大正一一年一一月一四日 (阿部充家宛) 当地大総統問題を中心として政界動揺 斎藤総督に一ヶ月一兩度通信可致 一ケ年程
度保護御進説下されたく御願
 - 2 大正一二年 二月一〇日 今回阿部充家氏の御推挙に依り御同情を添うし候段万謝に不堪 是れより時々当地事情を申上参るべ

く候

- 3 大正一二年三月 八日 今や北支の実力は全く直隸軍閥の手中に歸し各地に保定派・天津派・洛陽派・齊燮元盤踞孫逸仙・段祺瑞・張作霖の三角同盟説は一種の謠言
- 4 大正一二年 三月一日 北方実力派は結束して武力解決に邁進し張紹曾内閣破壊に奔走和平統一を招牌として出現したる張内閣の瓦解は当然
- 5 大正一二年 五月一八日 奉直再戦の機方に迫れり 奉直媾和は黎元洪総統・張紹曾総理の自己擁護の好材料 天津派は奉直再戦に反対 小生奉直戦の結果に依りて実力者生じ将来統一の足場となるべきを予想
- 6 大正一二年 六月一日 「近五十年來に於ける支那の進化 梁啓超」 (註) 梁啓超は当年の新人物にして吾人は彼の論ずる所が支那人の共鳴する所なるを知るを以て彼の議論を一顧するの要あり因て最近の議論を訳出
- 7 大正一二年 七月 一日 . 目下日貨排斥の議論紛々 直隸派・国会議員は自己の存在・威力の維持伸張から長江沿岸の英米・支那商人は嫉視・販路拡張から排貨の氣勢揚ぐる
- 8 大正一二年 八月一日 六月十三日直隸派による黎元洪総統追出しの後国会分裂 支那全部に涉りて戦雲漲るの状況 時局は大衝突の後一方の勢力固定して統一の基礎と成るべし
- 9 大正一二年 八月二八日 外務使臣の研究系との提携は支那を解せざるものなるが日本学界が復辟派に利用せらるゝは迂愚の骨頂にして対支文化事業は大山鳴動鼠一匹に終るべき歟
- 10 大正一二年 九月 八日 鉄道管理案が当地人に一大刺撃 英国は一方に天津派と握手し一方に清室と提携し支那利権の壟断に汲々 排英の念日に勃興すると同時に日本に親しむより外手段なしと相成るべし
- 11 大正一二年一〇月一三日 十月十日の民国記念日に於て曹錫大総統に選挙せられ憲法も公布 直隸派全く勝を占め侯へとも同派に人材乏しく小人多きを以て権力争ひを生じ反対派の活動となり申すべし (付) (本月七日発刊の北京週報との朱書) 岡野増次郎氏談「吳佩孚將軍の真面目」
- 12 大正一二年一一月 二日 家事の都合 (震災影響) にて急に帰国の事と成り本日天津出帆十二月中旬には北京に帰り可申候
- 13 大正一二年一二月二三日 直隸派の実力は吳佩孚・齊燮元・蕭灯南の三巡閱使にあり 北京政府の保定派と天津派の政権争奪全く露骨 反直隸側では蘆永祥 (段派) 東三省と密使往来頻繁
- 14 大正一三年 一月一八日 直隸派実力者 (巡閱使) が従前の軍人とは全く面目を一変したるは事実 日本の政変により勝田氏蔵相となり段派の運動俄かに活気 虐殺地たる大島町実地踏査 (付) 支那現在各派勢力一覧図
- 15 大正一三年 四月 七日 洛陽の吳・奉天の張の両雄対立 曹錫の前後に屠販雑業の多きは自然 内閣の実権は保定派が握り天津派は不振 朝鮮人が張吳間に奔走との風評あり 昨日書估王義之の感懷帖持参
- 16 大正一三年 四月 九日 勿論一般国民は廿一ヶ条問題に義憤を有するも軍閥・南方政客の混濁腐敗を見ては外国と争ふよりも先つ以て内政を改革せざるべからずとして比較的沈静
- 17 大正一三年 四月一五日 二週間前旧知の僕人来宅 王右軍帖を持参 御手に入れ申すべき哉御伺
- 18 大正一三年 四月二九日 近来清廷の太監等が宮中の御物を偷売 王右軍帖も何か関係あるにあらざるか目下清廷は財産整理をめぐる混乱 朝鮮大学の講師に御吹挙下されたく願上
- 19 大正一三年 五月一二日 洛陽にて吳佩孚將軍と会見 吳氏軍中の朝鮮人の存在は朝鮮に対し掛念すべきもの認めず
- 20 大正一三年 六月 一日 収蔵家を訪ねて上海・蘇州へ旅行
- 21 大正一三年 七月三〇日 直隸派の勢力強固なるも首領の曹錫に対しては人心倦怠 英国の提議あり吳佩孚鉄道整理・教育振興を主張 吳は英国に利用せらるるものにあらずも小生は此の問題の具体化を好まず
- 22 大正一三年 八月 八日 已に江浙開戦の風説さへ伝聞 内証を惹起せしむべく反直隸派の苦心慘澹を極むるも今回の攻勢は直隸派一致協力 戦争は浙江九分の不利で之に反すれば奉直戦端開かるべし

23 大正一三年 八月一〇日 清廷の内務府には紹英・榮源の二潮流あり互ひに反撥 目下清室の問題は財産養理

- 24 大正一三年 九月 二日 当地に於ては浙浙江討伐令を出すか出さ・るかに就き内閣に問題を生じ事情渾沌 江西省水害賑恤
- の書画古物展覧会は名品多数とてカナリの人気
 - 25 大正一三年 九月一〇日 江浙戦争に関し日本の新聞通信は江蘇を不利の地に置かんとする傾向あり 小生等の視たる所と大いに相違 奉直の会戦免かれ難きも日本は自然に任かし小刀細工を弄せざるが宜し
 - 26 大正一三年 九月二二日 江浙戦争一段落を告げ奉直戦争に進み直軍の勝色多し 閩東の□□氏去々月奉張と満鉄沿線の租借権に関する密約を結びたる由
 - 27 大正一三年一〇月 五日 幕下に戦略家なし是れ呉佩孚の欠点 此の一週間程は頻りに日本側の諒解を求め交渉の由
 - 28 大正一三年一〇月一一日 北京の状況は複雑に候へども大局戦争には勝ちたし呉佩孚には勝たせたくなしとの心行きかと思像 北京の状態は日本が張作霖擁護に傾けば英米に頼らざるを得ず
 - 29 大正一三年一〇月二一日 呉將軍より閣下に書翰一通写真一葉を依頼され本日送付
 - 30 大正一三年一〇月二五日 北京政變の狂言作者は黄郛氏であることを確信 黄氏立たば日本のために極宜しく候
 - 31 大正一三年一一月 八日 北京政界の形勢は要するに江浙文治派が北方軍閥に対する一躍進と見るべき歟 日本の学界に喰入る宣統の計画は民国側の忌憚する所たるは勿論 呉氏への御消息適當の時期に御願
 - 32 大正一三年一一月二二日 今度の变革は中央支那の勢力が北支に伸びたるもの 北の実力者は張を第一とし馮之に次ぎ段は看板たるに過ぎず
 - 33 大正一三年一二月 一日 宣統日本公使館へ避難 復辟実行に当り日本の力を借らんとするもの 張作霖も自身の実権拡大には宣統利用の外なし 張後援の復辟は支那本土に由々しき危機
 - 34 大正一四年 一月 三日 直隸閥の巨巖が爆破 段派・張作霖・国民軍（馮玉祥・胡景翼・孫岳）・孫文ら新に勝利を得たる 面々の地盤争ひに依り目下の形勢混沌
 - 35 大正一四年 四月 七日 段氏の真政府建直しの計画遂行大いに疑問 然れども公債発行決定し金フラン案解決近しとの風評につき政費に不足なし 張作霖・馮玉祥開戦切迫
 - 36 大正一四年 四月一〇日 御陞爵祝詞陝西も国民軍の手中に入るべし 北京方面は馮玉祥軍・張軍増兵し不穩
 - 37 大正一四年 四月一〇日 「宣統の現況 附 羅振玉氏の宣統日本行き計画の事」
 - 38 大正一四年 四月一五日 「対支文化事業反対と現下の支那政情」
 - 39 大正一四年 五月 三日 孫文没後の国民党は孫文直系と連治派に分裂 護法を云々する人々が連治派・教育界と提携し北方の段・張と対峙すべきは明日
 - 40 大正一四年 五月一七日 此の頃起れる学生運動の中心は国民党及び馮にして不平等条約の撤廃及び反帝國主義を主張 その真意は段張二氏を売国賊となし政界一新の機を掴むにあり
 - 41 大正一四年 六月 七日 上海の罷業事件より学生運動勃発は段派反対者・張作霖林反対者の二者が一気に此の形勢を作りたるものにて呉佩孚 段派・張作霖も此の形勢を逆に利用すべし 日本は英国に引きづられ若しくは段張援助を明白にせさること必要
 - 42 大正一四年 六月一〇日 今回の事変は研究系が形勢に依りて舵を行ひたる事も分明にして今般その派中の林長民が段派の策士として出現 漸次同系要人の起用を見んとする形勢あり
 - 43 大正一四年 六月一一日 「上海事件と刻下の支那事情」
 - 44 大正一四年 七月 一日 今回の事件に依って段氏の立場宜しくなると同時に外交団と国民との間に押しつぶされる恐れもあり
 - 45 大正一四年 七月 四日 上海及び各地の事件の先頭に立ちしは国民党 国民党・馮等に相對する張の態度明白 英日排斥が一転

英国排斥となり更に張作霖排斥の本題に入るは当初より仕組まれたる計画

- 46 大正一四年 七月二四日 去る二十一日張作霖奉 張の今度の天津入りは失敗にして張の焦躁思ひやられること 張は暗々裏に河南奪取を企図
- 47 大正一四年 七月三十一日 九省連盟は段を推して奉天に当り七省連盟は呉佩孚を推し反段反張 日英提携し張を助けて鞏固なる政府を作らしむべしとの議論は国家の長計にあらず 閣下御出馬は国内平定東洋禍乱削減
- 48 大正一四年 八月一〇日 関税会議開催に就き何等か内紛起こるべし 張志の計画は呉佩孚を擁して中心人物となし張作霖・馮玉祥と提携し張を北京に乗り込ませ呉は崛起して長江の勢力を形成し齋燮元氏等の直隸殘党盛り返す
- 49 大正一四年 八月一八日 段政府は勢力平均の策にて政権維持 政変を惹起すべきものは外交問題学生運動等にて形勢に依りて開戦ともなるべし 現内閣の対支策は支那人一向に感服せず 支那軍閥政党的大同団結を作る政友会の方策も出来ぬ相談
- 50 大正一四年 九月 二日 段政府去月二十九日四通の命令を下し地盤問題解決 赤化云々は段政府の馮玉祥・国民党圧迫の
- 唯一の手段にして加藤内閣も之を利用せるも支那は決して屈服せず
 - 51 大正一四年 九月一五日 續西峰河南より山西進攻の策を立て形勢緊張 山西果して陥らば北方の形勢大變致すべし 北京は目下政友会の策源地となり憲政会内閣倒壊の機を支那問題につかむべく肝胆を砕き居り
 - 52 大正一四年 九月二五日 小生目下漢口滞在 湖北の形勢は督弁蕭輝南一派・劉佐竜を實力者とする將軍團の二派対抗 外に呉佩孚派の人物あるも直隸復興に関する一定の方策なし
 - 53 大正一四年一〇月 四日 政友会田中氏は直隸派・奉天派・段氏・馮玉祥ら支那軍閥と関係を辿り犬養一派は研究系と氣脈自家の政権欲を満すべく支那軍閥政党的を利用すること憂慮
 - 54 大正一四年一〇月一三日 先月二十日前後吳光新らが重大要件を帯びて張作霖らを説得したる模様 金フラン案に対する疑獄は研究系の陰謀と認められ告発の目的は段執政府の一部改造と研究系中心の政府組織
 - 55 大正一四年一〇月一九日 孫伝芳ら張作霖を以て禍首とし上海を中立地となす主意の通電を發し拳兵 張作霖・馮玉祥・呉佩孚は自派の基礎を定めんと種々の方面から日本政府に支持方を依頼し居る形迹あり
 - 56 大正一四年一〇月二四日 奉天軍 濃州に於て孫傳芳と一戦を試むる事となり孫軍若し勝を得ば段政府瓦解となるかも知れず
 - 57 大正一四年一〇月 四日 張霖・馮玉祥の關係は裏面の猜疑心甚し 直隸の孫洪用一派は李景林と連絡し黎元洪を迎へて法統恢復の隱謀
 - 58 大正一四年一〇月一日 (「切迫せる時局」) 孫伝芳の徐州合戦勝利に北京は戦争気分 馮張対待に最も利益あるは呉佩孚段政府の前途預断困難
 - 59 大正一四年一〇月一七日 張作霖と馮軍の戦争將に發生せんとしたる時張が退讓の意を表し昨日午後より和平の形勢
 - 60 大正一四年一〇月二七日 奉天の郭松齡が馮玉祥と通じ戈を背けて山海関を出で奉天は大亀裂を生じ勢力弱くなるべし
 - 61 大正一四年一二月 六日 張郭対戦により法統恢復の可能性一転し馮氏独舞台の新局面 李景林馮草逆撃の態度に出で形勢再び激震 斯かる形勢現出は呉佩孚の態度に關係あり 馮氏国民党と漸次手を切る形勢
 - 62 大正一四年一二月三〇日 郭松齡の死に就き何等の影響を認めず 馮玉祥四圍の險悪なるに氣付き一時韜晦の魂胆 馮は近来自己の立場を飾る口実に周公・懿公に言及
 - 63 大正一五年 一月一四日 昨年戦役以来外国に頼るは売国行為なりとて反感 本年は国粹運動に類するものが勢力を得て法統恢復運動も之れと並行すべし 日本政府が支那政局に深入するが排日の真因
 - 64 大正一五年 二月 二日 法統恢復＝曹錕總統選挙以前の政局を継続し河南山東等戦争終結後總統を選挙し新国会を召集すべく天津の張紹曾一派運動法統恢復は今日の与論となり已に実行期
 - 65 大正一五年 二月 九日 鷹玉祥下野の真相近来やや明白蒋介石北伐断行決心し七八月の頃は支那は大乱 呉佩孚も北京政府も

一たまりも無かるべし 張作霖問題必ず起るべく日露支の葛藤発生せずとも限られず

- 66 大正一五年 三月 三日 李景林・張宗昌連合軍に対し国民第一・第三軍防備に努力 北伐軍が武昌に兵を耀かすは急速に出来ず 然る時馮玉祥は暫時隱忍し張作霖・吳佩孚の確執を概に快復を図るべし
- 67 大正一五年 三月一六日 太沽問題につき国民軍と日本陸軍との間に感情の衝突あり 昨年十一月京津間國際列車杜絶の際国民直隸兩軍を勝手に振舞はしめたりし事が原因歟 日本が強く出づれば国民軍に有利に回転
- 68 大正一五年 四月 三日 国民軍一時困却せしも吳佩孚との連絡進行中 国民軍は半年を出でずして盛り返すべき歟 日本の張作霖援助・政友会の対滿政策により本年初秋以後またしても排日となるべき歟
- 69 大正一五年 四月一〇日 鹿鐘麟のクーデターは不成功 その趣意は段氏驅逐・曹錕の自由恢復・吳佩孚の入城にあり
- 70 大正一五年 四月二八日 段祺瑞氏天津に逃れ目下吳佩孚・張作霖提携 それに奉天派の張宗昌・李景林加はり又閻錫山・孫傳芳ありて何れも自己の実力を扶殖せんと白眼合ひの状態
- 71 大正一五年 五月二〇日 吳張の主張紛糾し顔内閣も過渡的なりとは衆目一致 吳張の巧く行かざるは安福派の破壊活動・齋燮元張志潭の再起運動など直隸派内部の軋轢・張宗昌李景林の地盤問題にあり
- 72 大正一五年 五月三十一日 吳佩孚・張作霖の会合が如何なる効力を生ずべきや疑問 この事は齋燮元・靳雲鶚の地益問題が根本
- 73 大正一五年 六月二四日 天津予備會議終り顔惠慶内閣下台 吳氏幕中の張志潭が齋燮元・靳雲鶚を排斥し正式内閣総理を競争 天津會議の内容は吳張の提携を主眼とし中央政局を分排せんとの事なる由
- 74 大正一五年 七月 一日 張吳の会見終了 実力者の結合力弱きこと明白となり組閣も面倒となるべし 国民軍の討伐・改編問題は吳張提携を破る爆裂薬
- 75 大正一五年 七月一一日 西北軍は到底長く維持し得ずと見ゆるも容為に消滅すべきにあらざ 奉天軍の紀律乱れ強制的に軍票を使用するを以て西北軍の評判宜し 吳張の提携は一時的にて西北軍改編以後に干支
- 76 大正一五年 七三一日 赤化討伐氣勢振はず 吳佩孚は赤軍討伐を疾呼しつ 自己の実力養成に全力を注ぎ奉天派は已に七分通り中央の実権掌握 此の状勢を利用して孫傳芳・研究系も中央壟断を企図
- 77 大正一五年 八月 六日 研究系の熊希齡が糸を引き東南（孫傳芳）西北（馮玉祥）広東（蒋介石）の三角同盟説喧伝 小生の知る所は之と反対にして吳佩孚・孫傳芳排斥を目的として奉天・広東・西北連盟の動きあり
- 78 大正一五年 九月三〇日 広東北伐軍と孫傳芳軍との遭遇戦は孫軍大勝 伝ふる所に依れば孫傳芳と唐生智（湖南の北伐軍）の間に単独妥協成立し之を斡旋したるは蔣方震との事 やがて孫傳芳と蒋介石の妥協も成立か
- 79 大正一五年一〇月一三日 張氏野心発現の好機到来の折柄に馮玉祥突として西北方面に現はれ奉天派に在りては打撃 北方政情に関し安福派は研究系と提携し国民會議を種子に連立政府樹立の謀計
- 80 大正一五年一〇月三十一日 孫傳芳と蒋介石の江西戦争は一勝一敗北京方面は張学良の手に歸し候奉天は英仏米と連絡し露国に対すると同時に長江の要地を収むる計画で将来を予想し親英米派の顧維鈞氏を利用
- 81 大正 年四月一七日辜鴻盟翁は復辟党にて現に華北正報社客員翁の日本遊は差したる効能あるべしと思はれず
- 82 昭和 二年 二月一一日 今日当地に於て責任の地位に居る外交系及び研究系兩派は宣伝巧みにして内外梓間の手段あり目下支那内部の緊急問題は奉天派の意向及び河南問題・浙江問題・湖北の状況
- 83 昭和 二年 二月一五日 奉天軍の河南入りは一大危機を齎らすべく安徽問題も緊張 漢口事件は広東軍不用意のもの或は広東軍に好意を有せざるもの・策同かと推測 黄郛何等か画策致し王正廷も南北妥協計画
- 84 昭和 二年 三月一一日 孫傳芳対南軍の戦争は張宗昌対南軍の戦争へ一転 奉天軍の河南強圧に直隸派軍隊も急に結束靳雲鶚等は孫傳芳・馮玉祥等と連絡し河南安徽に南北軍の中間勢力形成
- 85 昭和 二年 三月一九日 支那時局は急に驚き騒ぐ必要もなく日本は日本の立場にて健全に処置し行くべし 阪西中将山西. に

赴きたりとの事にて当地人注意

- 86 昭和二年三月二六日 南京陥落の際の対外人暴行事件昨夜当地に知れ渡り当地日本人間昂奮 米英日の三領事館掠奪は南北兩軍以外のもの、為したるにあらずやと推測
- 87 昭和二年三月二八日 昨日張作霖氏日本記者を招き南京事件は我々の関する所にあらざる旨談話 次期政友会内閣の外務次官との風説ある松岡洋右君北京に留まりしは余程注意 政界紛糾の際は閣下御奮発を要す
- 88 昭和二年四月五日 現内閣は閣下御帰朝前後辞職致すべく閣下奮励を懇願 奉天派の雲行悪しく南軍も左右の軋轢劇烈 政友会の一部は列国を引ひて奉天派を後援せしめ現内閣倒壊の機会たらしむべく奔走
- 89 昭和二年四月一日 支那現局は東洋の危機と相成り日本も何か腹を極めねばならぬ次第元来日本人は熱狂し易き性質あり南京漢口事件の後発生せんとする暴行に就き冷静沈着忍耐し能ふべき歎心配
- 90 昭和二年七月七日 日英の後援に依り団結馴致の奉天軍閥・孫傳芳・安福派・研究系等の北方と南方国民党勢力とに支那二分 小生予想適中し田中内閣は張作霖・研究系と提携し南北統一を画策
- 91 昭和二年九月日 南京新政府をめぐり南方七花八裂の紛擾 孫傳芳・閻錫山・馮玉祥 唐生智らが合同して張作霖を追ひ退け再び段祺瑞を擁立する陰謀熟し山西の一撃を機会として舞台一大転換するにあらずや
- 92 昭和二年一〇月一四日 張作霖天子となる意志漸次熟し各派討張で一致の機運あり 奉天・滿鉄間の大借款成立との風評につき現内閣之を許可し滿洲問題解決の腹ありとせば馬鹿々々しく事体容易ならず
- 93 昭和二年一二月九日 奉天草の山西進攻進捗せず張作霖焦躁 河南の戦争は馮軍全く優勢 旧交通系目下当地にて奉天勢力を背後に逐次学界に浸蝕し新交通系も深く奉天派に喰入
- 94 昭和二年一二月六日 奉天草危機已に切迫し滿蒙交渉問題を利用して形勢一転の途に出たる事必然 張作霖の旧学尊崇の真意は老学者・孔子の子孫を利用して自ら鞏固にせんとする手段に外ならず
- 95 昭和二年一二月七日 朝鮮御辭職の趣を拝承し御起居御伺ひ申上
- 96 昭和二年一二月二六日 当地人は張作霖の運命を來春中と覬測 山西軍に奉天軍閉口 公使館・陸軍関係以外は張氏反対の意見多く奉天顧問に反対 要するに当地人の多数は現内閣の対支方針にあきれ居り候
- 97 昭和三年一月九日 張宗昌全く不振にて奉天側も張を見限 山西と奉天との嬉和問題も漸次中原の形勢に順応 奉天新派による張作霖の天子勸進を機に奉天反対側の連合・奉天新旧派の激闘あるべし
- 98 昭和三年一月二〇日 南方分裂奉天軍河南境へ侵入 奉天山西の媾和問題に日本が奔走せるは奉天派を維持し滿蒙政策を弥縫せんが為めになき哉
- 99 昭和三年二月一日 通化の大刀会事件は吉林督軍の張作相と大関係あり 奉天派内部の動揺目前 京津方面の国民党頻りに朝鮮人と連絡すべく焦慮 事件進展せば通化の朝鮮人蹶起ともなるべく想像
- 100 昭和三年五月一三日 一「支那刻下の局面」) 国民党左右兩派の軋轢は其に開戦するものにあらず 濟南事件の屈辱的解決は長く支那の深怨を植え附け日支親善容易ならず
- 111 昭和三年六月八日 田中内閣成立以来濟南事件を挑発し今亦張作霖乗車の爆発事件を惹起 支那の南北尽く対日悪感深酷 眼前の小利を追はず日支の親睦を謀るべし
- 102 昭和四年五月二八日 馮玉祥には蒋介石を討伐し武漢を攻め落し別に一個の政府を組織する計画あり 該地方の戦争劇烈 天津北京は又もや争奪戦 南京政府の反対者は蔣の日本外交を痛駁 蒋介石一派も田中内閣には痛憤
- 103 昭和四年五月二九日 馮玉祥の部下軸復築寝返り 馮に対する閻錫山の下野勧告の書に小生落涙 金子入用につき所蔵の碑冊御買上五百円御惠賜御願
- 104 昭和四年六月七日 馮玉祥の態度愈明白となり中原の事変を待たんとする意志と相見 去る六日国民党の元老章炳麟が蒋介石討伐の通電

105 昭和 四年 六月一〇日 (電報) 金来る感謝

- 106 昭和 四年 六月五日 目下馮の立場宜しからずこの俛秋期まで持ち越す事と見らる 蔣等はこの小康時期に政府の一改革を断行するの必要あるべき歟
- 107 昭和 四年 六月二四日 北市に於ける閻の奔走は馮の出洋・自身の下野・更らに蔣の下野まで押し閻の南京政府首席・南京政府の改良問題まで漕ぎ行くものにやと観測 要するに日本政府は余りに深入りして蒋介石援助に傾かざるが肝要
- 108 昭和 四年 七月 一日 田中内閣崩壊は慶賀に不堪 小生五日北平に入り申すべし 閻の鷹と共に出洋せんと云ふは蔣を下野せしめんとする魂胆
- 109 昭和 四年 八月一八日 朝鮮総督再任祝詞
- 110 昭和 四年 九月二八日 支那現下の要点は馮玉祥の軍隊三十万の裁減の行方 反南京派は馮と蒋介石を開戦させるべく計画 今回の反落運動は改組派の陰謀が主なるも蒋介石もその先手を打つ事明白
- 111 昭和 四年一〇月一七日 特馮兩軍の四つに取り組みたる状態と相成候はば金・武器蔣に有利 馮軍は窮鼠猫をかむ状態を有利とするのみ
- 112 昭和 四年一一月一〇日 一昨日無事北平着年内中に家事を取り極め申ししたし 河南の戦局に付き佐分利公使に晋謁
- 113 昭和 四年一一月三〇日 佐分利公使の悲報到着 支那側にては庄(栄賓)公使辞任の報ある由 この頃は張継氏と会合
- 114 昭和 四年一二月一二日 (「唐生智の息争対外通電」十二月十日記) 去る六日唐生智が七十五将領連名の通電を發し武漢進軍の模様 (「最近時局の内容一斑」十二月十二日) 元馮玉祥年顧問豊田神尚君来訪談話要領
- 115 昭和 五年 二月二五日 今回民政党大勝し安心 小生支那に於ける生活につき何等かの御恩恵に浴したく依頼
- 116 昭和 五年 四月一四日 老父病没の御下賜金御礼
- 117 昭和 五年 五月 九日 閻馮の鄭州会議あり蔣も武漢より南京に帰り已に兩軍衝突 孫博芳再起に就て孫賓碕・羅文幹の奔走は何等か意味あり
- 118 昭和 五年 六月 二日 天津の大公報は閻馮今度の行動に対し歓迎せぬ口吻あり弾圧 戦争は本月二十日前後には略ほ見当付き申すべし 当地所伝の如く蒋介石軍全敗の如きこと信ずべくもなし
- 119 昭和 五年 六月 五日 去る三十一日の御談話大毎紙上にて拝読 支那公使問題未だ解決せず窃に心配 小幡氏の公使来任最も適當
- 120 昭和 五年 七月一四日 昨十三日当地にて国民党の左右兩派及び実力派(馮・閻)は一切の悪事を蒋介石になすり付け中央党部の拡大会議成立 小生西山派の鄒魯・董振などとしばしば会谈
- 121 昭和 五年 八月一六日 現局に対し最大の関係を有する奉天の態度は南方に傾きしかと思はれ候 共産軍の長沙占領を動機として列国の態度急変し支那国内事情も南京政府に有利となり張学良の態度も変化
- 122 昭和 五年 九月 五日 共産軍活動により英米の態度変化し南京側優勢 北洋官僚の残党が張学良を背景として汪兆銘・閻錫山・馮玉祥と提携し北市政府の組織に奔走中
- 123 昭和 五年一〇月 三日 昨日十八日戦を罷めて南京政府の処置を待てとの張学良の通電と共に奉天軍人閻錫山は太原に退き機会を窺ひ居り馮軍は前後方に圧迫断絶
- 124 昭和 五年一一月 一日 馮玉祥軍目下三分四裂 西北・山西兩軍の残党及び北洋派が再び南北分裂の局面を造り出さんとする目論見は明白 田中総理の「滿蒙経営に関する上奏文」流布
- 125 昭和 五年一一月一六日 去九日日本山大毎社長に面会 御蔭に依り好遇を忝うし感謝 浜口首相遭難の背後には軍縮問題閣下言動慎重を御願
- 126 昭和 五年一一月一八日 首相要撃の背後に在るは愛国社長岩田愛之助ならずやと疑はれ居り この問題の裏面には滿州問題あること必定にて寒心に不堪

127 昭和 五年一一月二三日 本山社長には東京にて拝願 客員の如き待遇にて関係を付け置き下さらば願はしき旨御一言同氏

• に賜はらば望外の喜

- 128 昭和 五年一二月一三日 本山社長より東亜調査局の一員たるべきこと申出あり御受け致し候 謹て御礼言上
- 129 昭和 六年 四月 一日 五月の国民会議までに領事裁判権の撤廃・共産党討伐が南京政府の重要課題北洋政客の変形として共和政体反対の国家主義派が拡大
- 130 昭和 六年 五月一三日 今度の事変は蒋介石の地位漸次鞏固となるに伴う広東派の不快醸成や広西派残党・改組派による広東内部の軋轢挑撥等を背景 蔣張を除くを愛国の至上と考へ居る陸軍の一部の行動に閉口
- 131 昭和 六年 五月一七日 新聞に於て御不例の事拝承総監問題に付き総監の態度は一国高官の態度として受取ること能はざる点多し 枢密・貴族の両院政友会旧来の関係に就て御苦心の跡想像に余り申候
- 132 昭和 六年 六月一五日 広東の対抗は全支の人心に影響を与へず 最も問題とすべきものは共産軍の討伐 北支の反蔣運動京津の安全へ影響 一部人士の策動に依り南京特に奉天の悪感を煽り面白からぬ事件勃発 満洲第三次戦を試みんとする向きもあり
- 133 昭和 六年 六月一八日 御大任奉辞したる趣に付御起居伺
- 134 昭和 六年 七月 六日 万宝山事件に対し当地の新聞は何れも社説を掲げて激論 日本側の宣伝が却って不利に陥る事なしとせず困却
- 135 昭和 七年 九月 八日 農村救済は埒もなき事 政友会か地主階級に媚びる一事は不快 多数党をその俎として匿くは公正ならず議会解散の途に向ひ下されたし
- 136 昭和 七年一一月一七日 蒋介石張学良の提携に反対する馮玉祥・広東派の策応として国民党の内証 北洋官僚軍閥各派の大団結により北支独立政府設置の計画
- 137 昭和 八年 二月一三日 議会明けに内閣更迭の浮説一顧の価値なし 御写真御下賜方御願
- 138 昭和 八年 六月一六八日 去る二日黄郛氏の招電により北平に赴き同氏と会見
- 139 昭和 八年 九月二五日 清洲の駒井君（背後に人あり）かねてより北支に独立政権を作るに意あり 同氏辞職の際伝儀鄭孝胥両氏より一百万を交附して画策運動
- 140 昭和 八年 月 日 来春満洲国執政が帝位に即くとこの事は清代の復辟を意味 北平天津の満洲旗人に影響あるべく北支独立は南京政府の果る所 支那の内部分裂は東洋の危機となるべく更に御考慮願上
- 141 昭和一〇年 二月 一日 半月以前北平より帰京 不日拝趨
- 142 昭和一〇年 五月 二日 今般北平の殷同（北寧鉄道局長 黄郛の最親任者）来朝につき御引見依頼
- 143 昭和一〇年 五月一九日 殷同君本月二十七八日帰国に付御引見依頼
- 144 昭和一〇年一一月一五日 御尊形奉持 黄王両氏に手交致すべし
- 145 昭和 年 月 日 宋人の七絶急を要する事もやと存じ左に二三首書き抜き
- 146 年 一月 八日 本月初より上海に滞在 当地西山会議派につき謠言百出 馮玉祥実力を失ひ閻錫山勢力進出
- 147 年 二月二二日（阿部充家宛）支那現勢の朝鮮に及ぼす影響に付ては青年学生による支那統一は当分見込なく朝鮮自身の内政問題さへ適当に運用せば十年位は無事経過
- 148 年 四月一五日 閻錫山は馮蔣劇闘を仕組み形勢観望 蒋介石軍には兵器・金・形勢の有利あり馮軍は三者共欠乏奉天派は南京に傾ける如し
- 149 年 五月二八日 臨城与件の人質救助法に関し國務院羅氏の意見甚だ可 大意御参考までに呈上
- 150 年 九月一〇日 鄒魯君の書及び著書二種を別封にて送付 同君へ一筆御揮毫依頼

• 三九九、今園国貞

- 1 大正一一年四月 一日 公正会退会通知（付）今園国貞外一九名連名「公正会退会の趣旨」
- 四〇〇、今次兵吉
 - 1 年 月二九日 公使館諸君より御懇命を蒙り積年の望も相達し難有 貴君帰府の砌日本酒御携帯の義相叶間敷哉
- 四〇一、今村重蔵
 - 1 大正 九年 三月 五日 プレナー氏鉱山売却の件につき川崎鉱務課長・生田商工課長と会談
 - 2 大正一三年 三月二五日 領事は総督府が領事をさしおきてア氏と契約を結びたるは礼儀失したる処置と解釈し此の仕事については無関係の態度を決定
 - 3 昭和 二年 二月一〇日 マッキューン氏への返書別紙の通り起草 アイランド氏の住所姓名通知
 - 4 昭和 二年一二月 八日 朝鮮総督在任中の御眷顧御礼 アイランド氏の件効果をもたらす能はず御わび申上
- 四〇二、今村武志
 - 1 昭和 二年 二月 一日 多年散帙の黄海道誌蒐集完成 其中より数十詩を上梓につき前便を以て捧呈
 - 2 昭和 七年 七月二九日 暑中見舞
 - 3 昭和 八年 五月一二日 揮毫御礼
- 四〇三、今村鞆
 - 1 大正一〇年 五月二四日 御来旨の件拝承 雇の定員内規改正か一人を転免の方法以外の途なし 次官帰鮮を候ち取斗 内田良平 同光会の要務で入京画策の様子も振わざる状況
- 四〇四、今村幸成
 - 1 明治三六年 四月一一日 閣下御書面下されし事承知も未到着につき御用筋御窺申上 今般観艦式是非拝観を切望
 - 2 明治四〇年一一月 五日 宴会の節御隣席の仰付深謝
 - 3 明治四五年 六月二一日 御母公様逝去弔詞
 - 4 大正 元年 八月 八日 御尊母様七周回忌御志の御品拝領御礼
- 四〇五、入江好太郎
 - 1 昭和 五年一一月二一日 仁川米豆取引所重役二組出現に関し暴力団の撰定せし重役には御認可なき様陳情
- 四〇六、入江為守
 - 1 昭和 七年一二月二四日 今般皇太后陛下別冊大宮御所御歌会御兼題詠歌写下賜の段申入
 - 2 昭和 年 一月一一日 十二日十三百十四日の午前中暫時拝顔願ひたく御都合伺
 - 3 年 八月 六日 朝鮮書道菁華一帖御恵贈御礼
 - 4 年一二月二三日 朝鮮産人参二函御恵贈御礼
- 四〇七、入間野慶治
 - 1 昭和一〇年 一月二一日 吉小路旧邸南方土地建物の件につき宅地一部借受方交渉 小原君の件につき拙者より厚く御礼
 - 2 昭和一〇年 二月 五日 大林寺の墓地移転問題は税務署と総代にて適當の案成立 閣下にも御捺印願上
 - 3 昭和一〇年 四月二五日 ヤマメ粕漬御送付 吉小路旧御屋敷其他の経過に付ては別紙御免下されたし（付）入間野慶治書翰（前半欠）専売局より分割購入希望につき御意見伺
 - 4 昭和一〇年 五月 五日 雨と冷気に工事も遅延 南方家屋立抜問題は唯一人未だ面会出来ず

- 四〇八、入間野專治郎
 - 1 明治三三年 七月一六日 文也氏帰郷にてランドセル武雄方に御贈与感謝 近日中に御挨拶
 - 2 明治四〇年 五月二三日 陽之助叔父様と法事の件相談
 - 3 明治四〇年 五月二六日 過日申上の通り法事準備 折角の御帰郷に付き御歓迎の設備も準備
 - 4 明治四〇年 六月 九日 過日御光来の節不礼の段御海恕願上
 - 5 大正 八年 六月 八日 餞別御礼
 - 6 年一〇月 四日 松方様に御目に掛るも何程の価格に買立候哉取調させ申すべし云々との事にて御暇
- 四〇九、入間野武雄
 - 1 大正 九年 六月一三日 営業税の決定に納税者が営業税更正同盟会を作り盛に騒ぎ 徹底的調査の結果の増加にて結局税額で七割三厘 東京税務監督局所管中第二位 新聞紙上で豊川氏逝去を承知
 - 2 大正 九年 六月二四日 松之進兄上京 菅真氏への六月分金叔父上様宛にて送付につき本人へ御手渡願上
 - 3 大正 八年一二月一六日 御歳暮御礼 御恵与の金員を以て当税務署の病災基金に充てる所存 御諒承願上
 - 4 大正 八年一二月一七日 菅福紙氏より八月十七日に六十三円御送金御受取被遊候哉御一報下されたし
 - 5 昭和 五年 四月二四日 母昨日午前一時逝去
 - 6 昭和 六年 三月三十一日 無事上京通知
 - 7 昭和 七年 四月一四日 (齊宛) 横須賀税務署長への紹介状同封
 - 8 昭和 八年 一月 八日 三土鉄相・鳩山文相・南進相の帰京予定に付報告
 - 9 昭和 八年 一月二二日 昨夜柴田書記官長に呼ばれ伊沢多喜男氏訪問・恩給法改正今議会に提案差控・総理大臣は松井氏を中心に人事を考慮との宇佐美氏の言に付御伺要望の旨御話あり
 - 10 昭和 八年 四月一三日 明十三日午後一時三十分親授式の趣御報申上
 - 11 昭和 九年一〇月 五日 本日高城畔造松岡小一郎両氏と会見 四万円出金の件に付き協議
 - 12 昭和 年 六月一二日 関税込率法改正に関する委員会は明日再開の由 明朝全国町村長代表と御面会の約束 政友会の決議案に対する打合ある由法制局長官より通知永井拓務大臣私邸へ御電話願ひたしとの事
- 四一〇、岩井尊人
 - 1 年六月一五日 日本人が米人資力にふみにじられ残念対伯政策の根本的再協議必要
- 四一一、岩倉具定
 - 1 年一月一一日 令夫人より御噂の塗劑売店早速に御通知難有御礼
 - 2 明治 年 二月一一日 御用に付御面談致したし
 - 3 明治 年 六月 五日 御書面の趣拝承 早速言上
- 四一二、岩佐禄郎
 - 1 昭和一〇年一二月 . 日 軍部内の派閥対立高級将校の中傷など怪文書横行遺憾 徹底的に捜査の上絶滅を計りたく怪文書の現物を憲兵司令部宛御廻送御通知願上
- 四一三、岩崎小弥太
 - 1 明治四〇年一〇月一六日 父弥之助の病氣見舞御礼
 - 2 年一二月一〇日 御高話拝聴勇午餐差上たし
- 四一四、岩崎達人

- 1 明治二八年 七月一六日 山田録郎氏昨日遠逝報道
- 2 明治三五年 五月一七日 メルボルン碇泊は二週間当地にても日英同盟観迎 本修理を要するときはオークランドにて修理ヴァーノスなる者本艦に來りFierla Battery 採用ありたき旨申出
- 3 明治 年 二月二〇日 御安着祝賀 煙草御買求下さり万謝 北古賀氏は富士試運転のため上京の筈
- 4明治 年三月一一日煙炭製造所決定と同時に新品採炭所を売却し此金を該製造所に振向くるへし
 - 5 明治 年 八月六日 野村大尉吐血 肺結核の診断あり当地着以來氷を使用体温も減 今回の航海は大に満足の結果を得申侯
 - 6 明治 年 八月 八日 本艦入渠中のケブステン改造の件如何の御都合相成べき哉御通知願上
 - 7 明治 年 九月 八日 英炭安物あれば予算の許す限り御買上相成べきや伺出
 - 8 大正一一年 五月一二日 貴地出張の節御配慮感謝
 - 9 大正一四年 二月二〇日 揮毫依頼
 - 10 大正一四年 四月二〇日 御揮毫下されたく伏して御願
 - 11 大正一四年 六月一五日 揮毫御礼
 - 12 昭和 三年 二月 二日 昨日生田君に面会 同君寸暇なく斎藤大將が是非來ひとの事にて無之候はゞおゆるし願ひたしとの事
 - 13 昭和 七年一一月二九日 揮毫依頼 政友会倒閣策に断然たる処口切望
 - 14 昭和 七年一二月一二日 揮毫御送り下さり深謝
 - 15 昭和 八年 四月 八日 友人医学博士小坂一郎閣下の御揮毫依頼
 - 16 三年 二月 四日 昨夜生田氏に面会兩三日中御伺致すべしとのこと 坂本子息は已に拳式相済との由
 - 17 年 五月 三日 富士八島は今後の軍艦には不適合の点もあるべし 不都合と感じたる者は除却して改正を要さるべからず
 - 18 年 六月二四日 坂本俊篤氏夫人逝去 同窓会より各自五円靈前へ供申候間御承知下されたし
 - 19 年九月一六日 戦艦御注文に付ては監督官の外に機関官加へる方得策藤井光五郎御派遣願上
 - 20 年 九月二四日 小生最早三ヶ年近くに相成 帰朝の御沙汰有之様御願
 - 21 年一一月一二日 川島氏來邸致候はば電話御一報下されたし
- 四一五、岩崎千代吉
 - 1 明治四四年一二月一一日 ジャーデン・マゼソン商会にて春以來無給費用自弁に狂奔 軍事秘密御用もあらば仰付希望
- 四一六、岩崎久弥
 - 1 大正 九年一二月一〇日 御高話拝聴旁粗餐拜呈致したし
 - 2 大正一一年二月二三日 來二十八日片岡直輝氏を招待し小宴を相催候につき案内
 - 3 大正一一年 三月 四日 珍田伯爵へ御打合下され候由難有 就ては來十一日御光臨下されたし
 - 4 大正一二年一〇月 一日 先般の大震災に際し御懇篤なる御尋御礼
 - 5 昭和 三年 二月 日 三男恒弥への結婚祝御礼
 - 6 昭和 四年一一月二〇日 貴地産華果御惠贈御礼
 - 7 大正 五年 三月 在ブラジル国弊農場に於て採取の珈琲御試用下されたし
 - 8 年四月二〇日 清国載涛殿下深川拙邸御台臨の折の写真御受納下されたし
- 四一七、岩崎吉人
 - 1 大正 八年 八月一四日 朝鮮総督就任祝詞
- 四一八、岩田武夫

- 1年 四月二三日 御墨蹟御恵贈御礼
- 四一九、岩淵金作
 - 1 大正 九年 九月 七日 留守様御地所賃貸料並に家賃等八月分収支計算書御高覧下されたし 従て現金壹百拾八円八拾八銭は小切手を以て送付
 - 2 昭和 九年 十一月 八日 留守様御地所賃貸料並に家賃等十月分収支計算書御高覧下されたし 従て金四拾参円参拾四銭は小切手を以て送付
 - 3 昭和 九年 十一月 二六日 留守様御地所借用人の成績良好なる方への記念の御揮毫御礼
 - 4 昭和 一〇年 五月 七日 留守様御地所賃貸料及家賃等四月分収支計算は別紙の通り 金拾九円九拾銭御査収下されたし
 - 5 昭和 一〇年 八月 五日 留守様御地所賃貸料並に家賃等七月分収支計算書は別紙の通り 現金壹百四拾八円参銭小切手を以て送付
- 四二〇、岩間亮
 - 1 大正 九年 一〇月 二九日 李子爵家財政整理の件に付ては殖産銀行と折衝を重ね再鑑定額十二万三千元にて本日借入申込
- 四二一、岩村兼善
 - 1 明治 年 三月 一四日 捕獲船実検済の分大分ありとの由 就ては山森勇三郎出願の件御採用願
- 四二二、岩本耕作
 - 1 明治 二七年 二月 二日 来る八日頃横浜回航 先日御話の略歴三葉差上
 - 2 明治 二九年 四月 一〇日 本日午後四時参邸
 - 3 明治 四二年 七月 五日 上京方御下命につき明日上京八九日の頃参省
 - 4 明治 四三年 二月 一四日 衆議院予算委員会筆記録にコンミッション問題散見 小生在職中本問題を耳に致したる事なし小生前各監督官も同様と確信
 - 5 明治 四五年 六月 二一日 御北堂様永眠に対し弔詞
 - 6 明治 年 一二月 一九日 大学校へ出校の件に付行違 猶一兩日滞京御承認下されたし
- 四二三、岩元周作
 - 1 大正 七年 九月 一七日 海軍の風教の維持・国民思想界の変化の危険・所謂民本主義社会主義について書を捧げ邦家の前途に関し御教示を仰ぐ次第
 - 2 大正 一三年 月 一七日 鴨縁江御下船中匪賊の襲撃受けられたる由御自重の程祈上 這次の内閣は閣下若くは山本大将によりて組織切望 明年春東上尊顔相拝し御高見拝察希望
- 四二四、岩元（註6）
 - 1 年 一 一月 五日 閣下が再び要路に立たれ来るべき日米戦争の基を建設切望
- 四二五、上杉弥一郎
 - 1 昭和 八年 八月 七日 シムラ会商に対する外務省未定原案の新聞漏洩は政府部内の綱紀弛緩士気頹廢甚だしく由々しき大事件
- 四二六、上田恭輔
 - 1 昭和 六年 七月 一八日 後藤伯伝記編纂費五六万円は聊か大金 江口副総裁より満鉄名義にて寄附方御配慮願上
- 四二七、上田錢爾

1年一二月一〇日 邦宗様より御祝儀の真綿発送

- 四二八、上田稔
 - 1 昭和 五年 月 日 伊東伯・平沼男より倒閣を政友会の幹部に頻発 元老重臣により精査委員外の顧問官を説得し精査委員会の決議は覆へるまでに相成 伊東委員長は十七日の拳に出て枢府問題静滯隠（後半欠）
 - 2 年 月 九日 平安北道竜川郡薪島面の蘆田については道が実権を所有し経営を学校に委託方合理合法的と確信
 - 3 年 月 九日 尊書拝読 閣下の立場に累を及ぼす如き事致す間敷誓ひ候
- 四二九、上田良武
 - 1 明治四三年一〇月 八日 当地にてピアース博士に面会 無線電信及電話に造詣深く小官研究上有利
- 四三〇、上原伸次郎
 - 1 明治二九年 九月 八日 小生呉に着艦直に当地へ流罪 小包送付
- 四三一、上原勇作
 - 1 昭和 二年一〇月二六日 来訪及新聞切抜持参御礼 久保氏引見御願
 - 2 昭和 四年 三月二五日 見舞品差入御礼
- 四三二、上村経吉
 - 1 明治三七年 二月一四日 第三艦隊の目下なしつ、ある行動は遺憾 岩村参謀迄送りたる別紙写添付
 - 2 明治三七年 二月一四日 当艦隊の行動は聊か消極的 今一層積極的の行動は必要にあらざるやと思考
- 四三三、宇垣一成
 - 1 昭和 六年 四月一四日 陸軍大臣免官 在任中の御懇情御礼
 - 2 昭和 六年 六月一八日 総督就任挨拶
 - 3 昭和 七年一二月 九日 貴族院議員二名推薦の件に付き朴侯爵に就ては引受の確答を得
 - 4 昭和 八年一二月一七日 半島内地方振興事業進展 勅選の儀は朝鮮実業界の権威者且功労者香椎源太郎・帝国財界人有賀光豊、官界人今井田清徳の三名中より御決定願上 東拓総裁後任は前総裁菅原通敬適切
 - 5 昭和一〇年一〇月 二日 朝鮮総督府始政二十五周年記念式典無事終了
- 四三四、鶴崎一永
 - 1 昭和 九年 九月 三日 揮毫御礼
- 四三五、鶴沢憲
 - 1 大正一一年 四月一七日 御下命の献上品の件は戸田事務官に伝献手続御願
- 四三六、鶴沢総明
 - 1 年 七月二〇日 東京市赤坂区青南小学校訓導浜中章氏朝鮮・満州方面出張につき便宜取計依頼
- 四三七、氏家謙曹
 - 1 明治一八年 一月一〇日 我政府は今回の朝鮮事件に多忙 米國は如何なる評判致居候や 欧米各国郵便切手御送願上
 - 2 明治三八年一二月三一日 小村大使は清國着任の際北清の居留民又は在留民より非常に歓迎 大学堂正教習服部博士は清國開発の為大学堂以下中等教育まで日本語で教授の意見書提出
- 四三八、氏家静修

- 1 明治三一年一二月 二日 金式拾円拝借願
- 四三九、牛島貞雄
 - 1 昭和 年 五月三〇日 戦史旅行の際の御高配御礼
- 四四〇、牛塚虎太郎
 - 1 大正一四年 四月一〇日 陸爵祝詞
 - 2 昭和 四年一〇月 一日 本県満鮮見学青年団員参上の際の御高配御札
 - 3 昭和 七年 八月二九日 憲政有終の美を済す為直に解散決行最緊要
 - 4 昭和 九年一〇月 一日 「東京市域拡張史」送付
- 四四一、臼井哲夫
 - 1 年月一九日掃海其他海中施工に付別紙奉呈
- 四四二、臼井藤一郎
 - 1 明治三六年一一月一九日 新内規・新艦予算残高帳簿引継なく会計課長よりの旬報も示されずかかる始末に至れるは遺憾
- 四四三、内ヶ崎作三郎
 - 1 昭和 二年一〇月一六日 軍縮会議御見送りの機会を失し御出迎えも仕りかね恐縮
 - 2 昭和 四年 九月一一日 政務総監には経済財政上卓越したる菅原通敬を推薦
 - 3 昭和 六年 六月二六日 朝鮮総督御辞任日鮮融合の実現の為に遺憾千万
 - 4 昭和 九年 八月二四日 阿弥陀堂奉納の揮毫依頼
 - 5 昭和 九年 九月一八日 揮毫御礼 アーネスト・エーチ・ヒッカリング下院議員を同伴拝趨致したし
 - 6 昭和 七年 五月二三日 (佐藤正 高橋義次と連名) 民政党若槻総裁中心に団結是本流也外流は微弱にて本流との両立絶対に不可能 同郷の先輩菅原通敬を例へば拓相として入閣是郷党の与論
 - 7 昭和 年 七月 七日 御紹介の手代木代議士へ揮毫願上
- 四四四、内田嘉吉
 - 1 昭和 二年 四月二〇日 「斎藤全権の欧洲三国会議に使用するに送るの辞」
 - 2 年一一月一一日 文旦抽仔等御笑納下されたし
 - 3 年一二月一七日 雪柑等供貴覧候
- 四四五、内田耕作
 - 1 年一一月二〇日 結婚記念の揮毫依頼
- 四四六、内田盛
 - 1 大正 八年 五月二〇日 二十六日朝当地に到着
- 四四七、内田重吉
 - 1 明治二九年 四月二三日 実弟省吾氏ハワイにて死去暗涙に悩ふ而已 (付1) 新聞切抜二片 (付2) 和歌三首 (付3) 「ドクトル林三郎氏斎藤省吾病状記録」
- 四四八、内田紹衛
 - 1 明治二一年 六月 八日 茨城医学校卒業 内務省の医術開業試験に及第開業免状下附

- 2 明治三三年 七月二四日 愚弟に厚情を蒙り御礼 同人も徴兵検査合格
- 3 年三月二四日病中見舞
- 四四九、内田竹蔵
 - 1 昭和 八年 九月 一日 党弊一掃必要 地方長官・警察部長更迭後総選挙すべし (付) 内田竹蔵書翰 有権者各位宛 昭和八年八月二〇日付 「町会議員候補辞退の辞」
- 四五〇、内田信也
 - 1 昭和 九年 六月二七日 小生内閣成立当初より自重派として鈴木総裁の意に反し急進派と戦ひ拳国一致論支持 内閣勇退の時は大命再降予想 万一政変の場合は政民両党統一し現内閣施政後継に足るは岡田啓介大将以外には無し
- 四五一、内田政彦
 - 1 年一二月二五日 鎮海湾漁業出願の中一ヶ所御許可御礼
- 四五二、内田康哉
 - 1 明治 年 一月一二日 地図御贈与御礼
 - 2 明治 年八月九日 別紙二通返却
 - 3 明治 年一二月二日 一覧図及交通総覧鉄道の部電信の部各一冊御送付御礼
 - 4 大正 九年 七月一五日 英国特命全権大使サー・チャールス・エリオット朝鮮大連青島等視察に付便宜供与依頼
 - 5 大正 九年一〇月三一日 (電報) 至急面談希望 帰京願
 - 6 大正 年一〇月一九日 京城に於ける会見行はれ候節は電報回示依頼
- 四五三、内田良平
 - 1 昭和 五年 一月 日 日支合弁全滿蒙鉄道統一事業実行方御尽力切望
 - 2 昭和 九年 九月二五日 日韓合邦記念塔建設着手 就ては若林半君御引見願
- 四五四、宇都宮鼎
 - 1 大正 四年 八月一〇日 予備役編入通知
- 四五五、宇都宮太郎
 - 1 大正 八年 八月二九日 去る二十七日黄海道安岳にて五百の不逞者韓国旗振り万歳騒ぎを演じ少数軍隊出動の事件は警官等により首魁逮捕にて鎮静 軍参謀平松少佐朝鮮軍増加に付き細部打合の為上京御用命願
 - 2 大正 八年 九月 三日 鮮魚送付
 - 3 大正 八年一〇月二〇日 吉林の斎藤大佐来竜予報あり昨日提出の書類は大野参謀長へ御返送願上 斎藤大佐引見願
 - 4 大正 八年一〇月三〇日 海産物御受納下されたし
 - 5 大正 八年一二月二六日 祝品御惠贈御礼 李範来より来簡御高覧に供候
 - 6 大正 八年一二月 四日 御内示の草案至極適當 一二余白を汚し置き候条御一読願上 電話次第小生参上
 - 7 大正 八年一二月二三日 別紙供覧 指示下されたし (付) 李範来書翰 宇都宮太郎宛 大正八年一二月二五日付 一般民情反抗心強固 不平の原因は先時代の憲兵制度の悪政及教育の不統一 貧民救済策実行すれば一部人民は安静
 - 8 大正 九年 二月二九日 三月一日近迫と共に流言輩語盛行 明日は必要に應じて憲兵並に補助憲兵を出勤せしめ得る如く準備せしめ尚其外に両歩兵聯隊数中隊に待命せしめ本日も在営
 - 9 大正 九年 九月一九日 在勤中の御懇情御礼 帰京後赤十字病院へ入院 李欄公より来翰 同家家政整理の途に就き安堵公の文面

心細き口気あり御指導御安定下されたし

- 10 大正 九年一〇月一九日 間島方面の形勢希望通り発展同慶の至 帰京挨拶
- 11 大正一〇年 七月二七日 李範来引見願
- 12 大正一〇年 七月二八日 魚大佐続用の儀は目下朝鮮将校中には同人以上の適任者はなし 李範来適當の任務に任用願
- 四五六、宇野義民
 - 1 昭和 六年 三月二一日 揮毫願
- 四五七、梅謙次郎
 - 1 明治三六年 六月二四日 大学生岩村尊文卒業後海軍主計生徒に取計願
 - 2 明治三七年 三月 八日 別紙履歷書の人物採用願
 - 3 年七月 日法政大学卒業生上滝安正紹介
- 四五八、梅田二郎
 - 1 大正 九年 四月二九日 (書翰差出人署名は李喜侃) 南北満州に散在の一般鮮人は目下生活難 不逞過激の思潮は自然と發生別設計書の通り当地鮮人農民へ貸附致さば好策
 - 2 大正 九年 九月二二日 京城滯在の際の御高配御礼 近日新開上煙草専売の説あり
 - 3 大正 九年 六月二六日 安東県にて調査 上海連絡・間島連絡の二大機関あり 仮政府財務係梁意 (本名俊明) 及行年団財務金時漸潜伏 金錢・不穩文書・危険物の来往皆此兩人による 平元鉄道線路問題に付民心大に激昂 (付) 李電報 斎藤実宛 大正九年七月二三日付 上海に明日立つ
- 四五九、梅谷孝永
 - 1 昭和 五年 一月 一日 謹賀新年
- 四六〇、梅原末治
 - 1 大正一三年 六月二一日 慶州路東里古墳発掘調査万事好都合 出土出品目録送付
 - 2 大正一四年 五月 五日 報告書御覧御礼 慶州発掘品整理の為京城訪問
 - 3 大正一四年 五月二七日 大同江面出土品調査に着手 従来の学界の問題を解決するもの多く愉快
 - 4 大正一四年 一月二〇日 来月拜謁時総督府史蹟調査事業紹介の件申上
 - 5 大正一五年 五月 八日 倫敦でも朝鮮史蹟調査の結果に就て識者の注意を惹きました様子
 - 6 昭和 二年 六月一四日 伊太利希臘埃及等の等の遺跡調査並博物館事業の見学を終へ当地帰着
 - 7 昭和 五年 五月二〇日 結婚祝品御礼
 - 8 七年 二月一四日 近日東上拜謁
- 四六一、瓜生外吉
 - 1 明治三六年 五月二九日 高千穂艦宮古艦にて示威行為の為漢口まで上航許可願
 - 2 明治三六年 八月二六日 ブリッチ中將より極秘情報 英国支那艦隊・濠州及印度洋艦隊各長官シンガポールにて会合予定艦隊連絡・東洋英領の防衛等の会合と推量 露を屈服する英政府の底意なし シンガポール行の最中に事変勃発を懸念
 - 3 大正 八年 九月 四日 (名刺) 危難見舞
 - 4 大正一一年七月一五日 貴族院議員当選御礼
 - 5 年四月八日手紙の趣旨了承上野の桜満開一日も早き方可然
 - 6 明治二二年 四月二八日 ワダムス氏に面会 三十日夕刻拙宅に集り夕飯御来宅招待

- 7年 六月一日 当艦水雷発射管操法御送附
- 四六二、江木翼
 - 1 大正 九年 六月二五日 御地に於ける御厚情御礼
 - 2 大正一四年 一月三一日 饗応御礼
 - 3 昭和 四年 五月 六日 御紹介の中野太三郎氏と会談 朝鮮近状拝承
- 四六三、江口重条
 - 1 七年 二月 三日 佐藤海軍中将令息の件は弊社詮衡委員会より直接に本人へ照会有るべし
 - 2 年 八月二八日 スタール博士碑銘揮毫御礼
- 四六四、江口荘二郎
 - 1 年三月四日御引見御礼
- 四五六、江刺家文蔵
 - 1 大正一一年 九月一〇日 総督府警視御拜命斡旋依頼
- 四六六、枝原百合一
 - 1 年一〇月九日 先日預りし御品使者に持たせ御送加藤少将歓迎会御来駕願
- 四六七、江藤源九郎
 - 1 昭和 八年 二月 日 「非常時日本の尖頭に立ちて斎藤首相の不臣を論ず」
- 四六八、遠藤晴資
 - 1 昭和 九年 六月三〇日 「総理大臣子爵斎藤実閣下に呈するの書」
- 四六九、遠藤正吉
 - 1 昭和 七年 五月二二日 菅原通敬入閣依頼
- 四七〇、遠藤熊一 1昭和年月日 国家乱脈現下の一切は思想善導にあり宗教家の大活躍に訴へ信仰鼓吹の外道なし
- 四七一、及川古志郎
 - 1 昭和 九年一一月 五日 御来校御訓話御礼
 - 2 昭和 九年一一月一五日 京城在住高橋錯四郎氏令息達雄氏兵学校志望に関し御激励願上
- 四七二、及川善実
 - 1 大正一四年 九月二二日 労働組合法案の要旨並賛否別紙の通り御高閣願 本邦燃料問題に関連して貨物船配船分布状態及輸入船調奉呈
- 四七三、近江谷栄次
 - 1 大正 三年一一月二四日 . 海軍の拡張は満天下輿論 国民は決して海軍拡張に伴ふ必要の経費を拒むものにあらず 東北の経済力を高むるは第一に資本の調和第二道路の開鑿にあり鉄道築港は自後に属す
 - 2 大正 七年 二月二四日 対露問題に付き舞鶴に出で財部長官と意見交換希望 御紹介の栄を得たし
 - 3 大正 七年 二月二七日 御紹介状御送付への御礼 寺内伯退くの時閣下の出慮を期待
 - 4 昭和 七年 七月二九日 白上君の記事あり 同君有為の人物 御留意下されたし

- 5 大正 八年 四月 九日 米国への救済依頼すべからず 石油は大いに減少各社二割前後の配当 舞鶴をして商工の策源地と併用する事国家の利益 国家の元氣と国防の基礎は農村
- 6 大正 八年 四月 日 財部長官に面会 小浜を基礎とせば日本海に出づる第一捷徑 中枢の商港の確立刻下の急務 近日野間口長官訪問予定
- 7 大正 八年 七月二〇日 御紹介の野間口中将に面会 小浜港内本郷は天然の良港 太平洋日本海横断鉄道本郷吹田（大阪）間六十哩を設計中 朝鮮総督の噂あるも寧ろ海相の時代を待望
- 8 大正 九年 一月一三日 交通機関の完備は朝鮮文化の第一歩 教育は断じて母国の教育者を完備せしむる必要あり 冀くは閣下の時代完全に併合の実を明かにせんことを 断乎として総督の權威を示さんことを
- 9 大正 九年一〇月二四日 内蒙古の経済的勢力範囲の確立は民間事業界に油を注くを計画 将来鮮民を内蒙に植ふるも一策朝鮮鉄道を独立して鉄道債券の発行に便たらしめ財力の基調たらしむべし 断乎として金鉱を国営たらしめ其前提として朝鮮金鉱採掘計画切望 朝鮮は米作極めて有望
- 10 大正一〇年 四月二二日 朝鮮銀行總裁宛紹介状拜受 吉林松花江の沃野に我勢力範囲確立必要 その資金は朝鮮銀行主たるべし
- 11 大正一〇年 九月 五日 対外政策の一貫せざるは遺憾 此際朝鮮を大陸の策源地として経済的の亜細亜同盟の基礎を作ること肝要 營林事業に関し関泳綺と提携 日鮮共同模範的事業の完成は融和の一方法（付）内田良平書翰 近江谷栄次宛 大正一〇年八月二七日付 同光会は太平洋會議に独立請願活動せる鮮人の、心理を轉換せしむべき経綸を立て実行に着手
- 12 大正一〇年 九月 八日 石油会社の組織は漸次進捗 製油所の目的地として鎮南湾・仁川・鎮南浦等調査（付）日墨石油株式会社設立趣意書 大正一〇年九月
- 13 大正一一年六月一〇日 加藤男内閣組織は妥当に非らず 政友会自党を本位として大命降下を元老に求むるは愚策閣下は政治家として其難局に起たざるべからず
- 14 大正一一年 六月 日 総督府人事に付和田一郎・木村寛蔵登用推挽 日墨石油関係の米富豪にて東洋に外油輸入の目的を以て五千万弗のトラスト組織の旨通知あり 松山太郎次郎氏の黄海社に間接投資の目的にて定期預金せるも横銀の諾否如何を氣遣 総督府にて御声援願
- 15 大正一一年 八月 二日 黄海社事業資金横銀に融通を得べく 朝鮮開拓に理解ある岩崎家に懇談議相願ひ松山君昨夜京城急行 要は朝鮮開發と内地米価の調節の国家経済政策の一端と奉存候
- 16 大正一三年 五月三十一日 護憲三派の結束による内閣の更迭は必然 政党内閣に移り政局は円満に進行するを得べく是又当然 小生今回立候補辞退
- 17 大正一四年 四月 九日 陸爵祝詞（付）下飯坂氏破産事件顛末報告書 大正一四年八月四日
- 18 大正一五年一一月一十九日 御令息の御婚儀祝福
- 19 大正一一年 三月 三日 昨日水野総監に愚存申述 土地改良会社の件は寧ろ民間より一億円程度の信託会社設立従心憑得策 朝鮮の富源は満鉄以上有望大なる国策樹立必要 鎮海に於ける製油所は急速に実現 松方氏社長も内諾
- 20 昭和 七年 七月二四日 佐藤鉄太郎貴族院勅撰御推挙を希望 助力願

• 四七四、大井敬太郎

- 1 明治一八年 一月 三日 明治字典一部予約の義承知出版時に御送付 御申越の写真六枚封送 衣料品等御購入願

• 四七五、大井成元

- 1 昭和 九年 四月二五日（井上清純・赤池濃・本多熊太郎・和田亀治・両角三郎・四王天延孝・末永一三と連名）満洲国承認の意を示すため満洲国参加を見るまで極東オリンピック大会に帝国選手の参加を取消すを要す
- 2 大正一三年 一月二七日 貴族院男爵議員補欠選挙の際小生に対し閣下の御一票を賜はりたく懇願

- 3 昭和 五年 五月二九日 倫敦条約に於ける編制及兵力の決定に関し恢弘会は別紙の通り意志を発表
- 4 七年 六月二六日 留守邦太郎の件願書御提出有之候は・御希望に添ふ如く御取扱致すべし
- 四七六、大池忠助
 - 1 昭和 二年 四月二六日 朝鮮郵船会社の件は大阪商船会社堀社長日本郵船会社重役諸氏とも協議 釜山町名変更の儀につき和田知事泉崎府尹に御談し置き下されたく懇願 生飽併に銘酒進呈
 - 2 年 八月二三日 釜山鎮海面埋築願意御聴許の指令に接し聡明なる裁断に感謝
- 四七七、大浦兼武
 - 1 年一〇月二五日 製鉄所の鉄板一件下命致候処別紙の通り回電に接し候
- 四七八、大川平三郎
 - 1 昭和 二年一二月 一日 (福原俊丸と連名) 新田留次郎氏朝鮮鉄道株式会社常務取締役役に就任に付き御披露旁粗餐差上たく御案内
 - 2 昭和 四年一二月一八日 朝鮮鉄道株式会社黄海線新院鶴幌間営業開始に付御試乗案内
 - 3 昭和一〇年 二月一六日 胆石病危険を脱し今後事業に奔走 御同情御礼
 - 4 年 四月二〇日 朝鮮鉄道に関する私見別紙御一覧を賜り候様願上
- 四七九、大河原日東
 - 1 昭和 八年 九月二二日 別紙東京市民小意御一ら覽御願
- 四八〇、大木遠吉
 - 1 大正一〇年 四月 六日 高麗人参御恵贈御礼
 - 2 大正一二年 八月一二日 吉林方面在住朝鮮人問題に付き鄭安立・権仲観・太元喜三氏御引見願
 - 3 大正 年 九月二六日 野依秀一御引見下されたし
- 四八一、大木幸子
 - 1 年 九月二〇日 御来訪光栄之にまさるもの無く御礼申上
- 四八二、大城戸宗重
 - 1 年月三一日 権重顕・李載幌兩名辞職に関し内閣へ提出書類御收領相成たし宮内大臣に提出の辞爵に関する書類一式は宗秩寮に留置
- 四八三、正親町実正
 - 1 明治 年 五月 二日 清国派遣軍艦名及艦長名等別表正に落手
 - 2 大正 年一二月一四日 賜物あり参内あるべし
- 四八四、正親町季董
 - 1 大正一〇年 五月 日 露西亜研究会入会勧誘 (付1) 露西亜研究会趣意書 大正一〇年三月 (付2) 露西亜研究会内規 (付3) 露西亜研究会入会申込書大正一一年 (付4) 入会金振込書
- 四八五、大久保到
 - 1 大正 九年 七月一七日 東津水利組合創立挨拶

• 四八六、大久保利武

- 1 明治二〇年 七月 二日 御地滞留中御厚遇御礼 ポストンにて樺山司令に御面会致したし
- 2 明治一一年九月九日 十七八日の両日中は必ず紐育へ出府若遊遁を得は幸甚之に過ぎず
- 3 昭和 三年一一月 日 先年岩倉公旧蹟保存会を設立 御大典を記念に文書遺品を陳列 參觀案内 (付1) 「岩倉村と岩倉公 附岩倉公旧蹟保存会趣意書并会則」 昭和三年一一月八日 (付2) 記念絵葉書五枚
- 4 昭和 四年一〇月一八日 閑院宮殿下台臨御巡視に付き閣下の御趣旨は配下一般遺憾なく徹底 惰従の小生も御厚遇に浴し感銘
- 5 昭和 四年一〇月二一日 過般閑院宮殿下に随従錦地出張の節は御配慮を蒙り感謝
- 6 大正 四年一二月一三日 楠公誕生地保勝会へ御賛助願 (付) 楠公誕生地保勝会の趣旨
- 7 昭和 五年 五月 七日 東郷元帥全集三冊賛助員推戴に付御承諾願

• 四八七、大久保保喜造

- 1 明治一七年 七月一二日 ロンドンにおける新住所連絡
- 2 明治一九年 一月一〇日 謹賀新年 独国へ注文の魚形水雷工事並に浪速高千穂敵傍三艦の兵器の監督に多忙

• 四八八、大隈重信

- 1 明治三四年 二月 日 東京専門学校儀私設大学の事業を完成し国家教育上に貢献せんとする抱負に御賛助希望
- 2 明治四三年 八月一五日 南極探検後援会幹事村上俊蔵并に野村船長御引見依頼
- 3 明治 年 八月一五日 同郷人千住喜作氏紹介
- 4 大正 八年 二月二二日 大日本帝国愛国同志会第二期活動開始に付御援助願ひたし 本会理事参上御懇談願

• 四八九、大隈信常

- 1 昭和 四年 七月二二日 松井家通帳井印章に対し御預証正に拝受

• 四九〇、大倉喜八郎

- 1 明治三三年 四月一四日 明十五日午後四時御光来御待申上候
- 2 大正一一年 八月一一日 弊社員参趨の節御引見拝謝 金剛山拝見の節拝光願いたし
- 3 大正二三年 四月 一日 京城善隣商業学校名称に付き学務局に於て改称の方法等御調査下されたし
- 4 大正一四年 九月 七日 米寿記念の詩文書墨贈呈
- 5 年 四月 四日 観桜会御案内
- 6 年 六月一八日 本溪湖石炭一塊差上候間御試験の義御配神の程希望
- 7 年九月一日 学校改名の義御高慮願ひたし同行へは本年より十万円寄附京城大学に対し壹万円寄附
- 8 年一〇月一七日 松下久次郎より束拓と協同肥料会社創立に関し閣下に紹介申出候次第に付御面会下されたし
- 9 年 月一四日 貴諭に従い秘密に取扱

• 四九一、大蔵公望

- 1 大正一三年 六月二四日 過般罷出の節の御寵招御礼 満洲の豆粕朝鮮へ移出方に関し御高配を賜りたく切望

• 四九二、大迫尚道

- 1 昭和 八年 二月二七日 広池博士の希望は今議会終了後内閣・枢府・宮内官・陸海軍首脳及び貴衆院大几百名に講話し政治外交教育財政経済産業の改善を施されむことを希ふもの
- 2 年 八月二〇日 二男韓満旅行への御厚遇御礼

四九三、大沢常正

- 1 年一二月一六日 受産委任状変更仕候間既に頂戴致置候御印彰御返納 変更の委任状明日頂戴に罷出

• 四九四、大沢参謀

- 1 明治二八年一二月五日 濟遠二十九日出港間際に陸戦隊消耗報告提出の趣

• 四九五、大島久直

- 1 二年 六月 八日 御会同一条云々敬承 よろしく御取計願

• 四九六、大島芳蔵

- 1 昭和 九年 九月 五日 近世名士写真集刊行につき題字御願の儀申出候処早速御引見を賜り種々御芳情厚く御礼
- 2 昭和 九年 九月一三日 近世名士写文集題字御下筆の御礼

• 四九七、大角岑生

- 1 大正 五年 二月 三日 来五日尊邸へ御寵招難有参上可仕 妻儀は乍遺憾拝趨致兼 御諒恕願
- 2 大正 五年 五月二四日 菲津賓土地買収否認の件は海軍大臣閣下の御意見に同意 閣議に諮り別紙覚書を政府の方針として発表を決定 (付) 斎藤実書翰草稿 三瓶勇佐宛 五月二九日付 過日御嘶の件に関し海軍当局の意向を確め候処別紙覚書申来 右は諸大臣とも内議の結果との由
- 3 大正 七年 三月 四日 本艦在留民保護のため加藤司令官の指揮下に入り一月中旬当地に到着 乱党の暴挙を未然に威圧艦員一同至極元氣
- 4 年 三月一〇日 只今電話御下命兵学校志願者心得御送附 鞍馬の件記憶違い 目下品川湾にて水雷教練発射中
- 5 年 四月 六日 小生破格の恩命に浴し候処鄭重なる御祝詞を賜り感佩に不堪御礼
- 6 年 五月 五日 東京水交社への扁額並軸物の御揮毫御礼
- 7 年一二月一五日 進級の恩命に浴し候所御祝詞を辱ふし洵に感佩
- 8 年一二月一五日 二十一日御出席と御祝品御礼当日乾盃の儀御聴届を懇願
- 9 昭和 七年 四月二三日 兵庫県民献納飛行機報国第二号命名式御臨席御礼

• 四九八、太田敬孝

- 1 年一二月六日 御下問金陵機器局は南京兵器製造所にあり総弁は郭道直と記憶

• 四九九、太田政行

- 1 昭和 七年 七月一二日 荒木陸相の調査委員に対する声名は好結果 此際外交は積極と出でた方宣敷 内田外相にも宣く話し奮励せられたし
- 2 昭和 七年 七月一四日 調査団今少し日本に滞在致し日本の認識を広く深く研究致されん事を希望 出発は残念
- 3 昭和 七年 七月一七日 調査団は妥協点を握る事出来ず只一ヶの懸案を出せば人は喜びて賛成すると思ひ其れを無理に行はんとするが間違 今少し広く深く調査せられんこと希望
- 4 昭和 七年 八月一六日 報告書は伊藤述史政府の使命を帯びて日本国状を調査団に申越たる者と判断 承認は遅れても自重して徐に致した方得策
- 5 昭和 七年 八月二八日 調査団満洲国不承認を称へる様にては連盟脱退経済封鎖等の準備にかかるべく独立独歩各国に文明等遅れざらん事を心掛け日本国民一身一体全力を注ぐべし
- 6 昭和 七年 八月二九日 調査団報告問題に付ては要は出来る丈日本を大に見せ余りあせらぬ方が宣敷 万一蓋を開けて見て不利の節は其とき始めて日本の手を儘したる理由をとき堂々と善処した方得策

- 7 昭和 七年 九月 五日 近頃新聞を見る所来る十二日に満洲国承認するとか十五日に承認するとか 日本が取るべき事は調査報告の連盟総会を開きて後承認した方確實
- 8 昭和 七年 九月一三日 此度満洲国承認に付ては大々的に民意の発露で有る事を強調して徹底致させた方宣敷各国も之を認める事と相成べし
- 9 昭和 七年一〇月一五日 目下反駁書を作製中 日本は満洲の独立を主張した方宣敷建議書でも宣教 独立国家の体形を具備致し居り連盟も其れを知りつつ傍觀致し居るは人類道徳上からしても忍びず早晚承認致さざればならぬこと明白
- 10 昭和 七年一〇月二一日 併合審議等と挑戦的対度を取る様の事致間敷と確信 支那の連盟の反駁書に人民の希望に本づき中国の領土なる事を保障する協定をなすとか何とか実にかばへばかばう程図に乗り真に手の附かぬ国に候
- 11 昭和 七年一〇月二五日 此度の連盟に満洲国人の支那本土内に有るをいさぎよしとせず独立し日本承認致したる故各国も見做うて承認する様勧誘の建白書を差出すが得策 満洲国精々日本を便りにさせて置くべし
- 12 昭和 七年一一月二五日 此度の連盟問題代表の演説は野卑に流れぬ様高尚にせられたし 支那を相手と思はず世界のため正邪を論ずる心持ちが必用
- 13 昭和 七年一二月 一日 代表の中には大に誤謬致し居る国も有る様見受けられるに付大に努力徹底する様要心必用 昨日の規則違反の前文へ平和を愛好すると云う文句を入れ終りに深垂に批判と入れ下されたし
- 14 昭和 七年一二月一六日 十九国委員会不承認決議を蔭に陽に致した由 未だ満洲国独立に付容量を得ざる者の如く見受けらる 事実は追々各国も認識する事と思ひ候て時季の来るを日本はひたすら俟つのみ
- 15 昭和 七年一二月二七日 満洲国建国早々に治世ををさめ外に門戸開放機カイ均等を声明し着々と成功独立の体形をなし居り 之を認めさせる様努力するは日本の使命
- 16 昭和 八年 三月二三日 支那の要人は東亜連盟に重きを置かず 識者は彼等の目を覚させん事を希望
- 17 昭和 八年 四月 八日 小山法相の態度は余り抜打的 貴君の処置も新聞紙上喧敷 右は外交問題が困をなし居るや知れざれと支那と近密にし教へ導くのが宣敷
- 18 昭和 八年 四月 九日 満洲国と露国との鉄道問題に付ては満洲国は日本の属国としての立場より之を見てやるが宣敷19 昭和八年 四月一五日 高橋が辞職するとか 身体が悪ければ詮方無之 誰か変りが必要 政友会の野依秀市は不向に候哉
- 20 昭和 八年 四月一九日 米国の武器禁輸問題は大統領の日本招請問題当時より予機に付き余り騒ぐ必要は無之 石井の東洋問題も深入りせぬ様 其準備丈は必要
- 21 昭和 八年 四月二六日 内閣改造問題は力を捻りて異議なき様準備方宣敷 地方長官に対する演説は上出来にて各国の影響宣敷 武器禁輸は重大視致さず共宣敷
- 22 昭和 八年 六月二七日 文明の先端を行く様の国は追々満洲国を承認する事と確信満洲国は何日日本に併吞せられん事を頼みに参るべく善処を希望
- 23 昭和 八年 七月 九日 目印通商問題は日本の垂細垂世界に効見せんとする者に付き善処希望
- 24 昭和 八年 七月一七日 滝川教授問題は其の理由知らず 日本は神国なり高尚にして皇々しき者なり 之を目的に政府は進まれん事を希望
- 25 昭和 八年九月 八日 新南群島ずっと以前日本人民により就業開拓 仏国が見付け先占を布告仏国の反省を促す
- 26 昭和 八年 九月一五日 広田新外相施政方針大に宣敷
- 27 昭和 九年 一月二五日 新たに日本国が此の新しき国を建設して行くと云ふ事必要 外国が日本を好戦国の様に云ふ誤解させぬ事 満洲国帝政を布く由 菱刈全権も督命とか尊称を付け一格上る方如何
- 28 昭和 九年 二月一〇日 日米予備会議に付き主張は温順にして実質は強硬なるが宣敷 満蒙問題に付て支那国を併吞して日本が指図せざれば東洋は平和に行く間敷

- 29 昭和九年九月一七日 総頓数日本の要求は手前勝手すぎ要諒を得ず きっぱりした所世を取りたる方宣敷と思考
 - 30 昭和一〇年 一月二四日 山本代表二十四日出発帰国 予備会議七月に開くとの事如何に相成候哉
 - 31 昭和九年一〇月 六日 軍縮問題につき熱心に主張貫徹を期する様運動を希望 支那は北鉄問題にて何か云い居るも支那人も注意した方が宣敷
 - 32 昭和九年一〇月一二日 (封筒記入差出月日は十月十三日) 此前申進の軍縮問題末尾に「日本の主張貫徹に尽力致すか之代表の使用にして仕当なる所置と思考候 仁者に敵なし各国代表は日本のため欣然尽力致されん事を希望致し候」を追加希望
 - 33 昭和九年一〇月二四日 軍縮問題日本の意見書を発表は後日とか 其れも詮方無之 代表はロンドンを日本の出張地と思ひ活動の方がよしと思考
- 五〇〇、大竹庄司 1明治二一年三月二〇日 Riggs&Coのチエキ今朝落手
 - 2 明治二一年 四月一四日 農商務省にて製造の生糸の見本並に器械の図面御送附願上
 - 3 明治一八年 七月二一日 御依頼のRubber Blanket早速相求めAdams Expressにて送附
 - 4 明治三一年三月一四日 (荒川新十郎他三名と連名) 粗飯差上たく御案内
 - 5 明治三一年一一月 四日 菅沼覚平帝国軍鑑を拝見せし事無之 是非一度拝艦致したき旨申出に付依頼
 - 6 年 四月二七日 生糸見本去る十七日到達 又繭一函昨朝拜受御礼
 - 7 年 月 日 翌朝七時五十分着到高輝氏一人着にて増田氏は未だ御着相成さる由 右の次第に付公使より御伝言の件は未だ相伝へ兼候
- 五〇一、大竹正太郎
 - 1 大正八年 四月 八日 当地にて戦中有力日本商社百有余活躍せるも休戦条約後打撃共和党上院議員三名国際連盟に反対せしも Taft氏が大統領に賛同援助の結果Wilson氏も力を得て再び巴里に出発
 - 2 大正一二年 二月二六日 下飯坂様送別の宴に御招御礼 朝鮮中央鉄道が米国より資金借入の計画をなし居る由につき当社ギブソンに御引見の栄賜りたし
- 五〇二、大武
 - 1 明治二七年一二月 一日 駱駝式頭天覧御取計相成たし
 - 2 明治二七年一二月 七日 献納品御査収下されたし
- 五〇三、太田代順郎
 - 1 昭和六年 七月 三日 閣下の如き人格者を朝鮮より失ふは遺憾此事 再び国家の要路にたゝれん事を祈上
- 五〇四、大谷嘉一
 - 1 昭和八年 三月 日 祖父大谷嘉兵衛死去の節御吊慰供物を賜り御礼
- 五〇五、大谷嘉兵衛
 - 1 明治四一年 四月二三日 新茶郵便を以て拝呈
- 五〇六、大谷光演
 - 1 大正一一年 一月 一日 朝鮮布教上の御厚眷感謝 本年も御庇護願
- 五〇七、大谷光瑞
 - 1 明治四〇年 二月一二日 三十七八年戦役の殊功に依り叙勲祝詞

五〇八、大谷光暢

- 1 昭和 二年一二月二六日 弊派の布教伝道上多大の御援助に感謝 今日朝鮮総督任務を全うして閑地に御静養の由 書面を以て御挨拶
- 2 昭和 七年 五月二七日 首相就任祝詞

• 五〇九、大谷尊由

- 1 大正一四年 七月一八日 渡鮮の際の御芳情御礼

• 五一〇、大谷登

- 1 昭和 四年 九月一六日 東京出発前表敬旁朝鮮郵船会社の事に関しても一応御高聞に達し置きたく 参邸も御外出中 大阪高船との円満なる協調は日本郵船会社の熱望 御高教を仰ぎたし

• 五一一、大谷正之助

- 1 大正一三年 一月 一日 謹賀新年

• 五一二、大谷義磨

- 1 年月日 御祈願皇室御繁栄貴家之御隆昌祝貴下御叙勲記念御祈祷之日

• 五一一三、大塚甚之助

- 1 昭和 九年 九月 七日 (鈴木亀太郎と連名) 閣下の御揮毫になる御教訓を藤枝町小学校講堂の正面に掲げたし

• 五一一四、大塚常三郎

- 1 大正 九年一〇月二九日 国際連盟第二回総会に木内重四郎・矢作博士と同行 総会の状況極めて形式的 ベルンにて水野政務総監より御紹介のレートベルゲル博士を訪ね視察調査上の便宜を得申候
- 2 大正一四年七月一〇日 総督府在勤中の御指導及び退鮮の際の御貴賜送別の辞終生感銘去る五日無事着任翌日より東宮御所に出勤
- 3 大正 年 月二四日 地方制度諸案中地方費令・府制面制改正案は別紙の通り一応審議終了
- 4 大正 年 月 日 松花江下流三姓南錦 (柳東説の買収希望地) 地方調査書不敢取供高覧

• 五一一五、大槻公義

- 1 昭和 九年 九月二五日 過日は御多忙中の処御面接の栄を賜はり恐縮感謝 閣下より御話しの三井報徳会常務理事某氏に御紹介状を賜はりたく御願

• 五一一六、大槻如電

- 1 大正一五年 三月一五日 帝室博物館歴史課長文学博士高橋健自紹介
- 2 年 七月一七日 昨日御来場御礼
- 3 明治三二年 六月一一日 相伺たき件あり明十二日朝八時頃までに参館致すべし

• 五一一七、大槻文彦

- 1 明治三〇年一二月二四日 富士号拝観に付き来る二十七日家兄如電・年少学生五六人召連参上 午前十時過頃には相伺
- 2 明治四四年 七月二七日 拙著伊香保志呈上仕候処西洋美酒三瓶贈り給はり御礼

• 五一一八、大槻直信

- 1 明治三八年 三月一五日 首相に面会卑見申述 海軍完備の経費の出所に当惑せらるゝは笑止千万

- 2年三月一五日 高橋君に相談の結果は一筆小生に御指示願上 其模様により大野氏と相談の上高橋君訪問
- 3年四月七日 竹内寿貞君二男海軍志望に付き相談の為同君参上
- 4年一二月九日 品川氏と会見方御高配願上
- 五一九、大坪公舟
 - 1 大正一〇年一二月二六日 軍備縮小に伴ふ廢艦問題に付左の一節御高覧を得たし (付) 大坪公舟述「廢艦利用と陸軍充実案」
- 五二〇、大野槌太郎
 - 1 昭和五年一二月一日 小生身に付き野口社長に対し責めては課長級の二百五十円にはいたし呉候様御申添願 前書の尺牘は其儘にいたし置き下されたく次回参邸の折拝受
 - 2年一一月一六日 爪生大将と農商務省にて面会の上委細懇願 御委嘱の件は伝言いたし候処御渡米の予定は本年一月末か二月初めとの言
- 五二一、大野豊四
 - 1 大正一〇年一〇月二一日 鄭安立に関する機密書類拝受 齊藤大佐吉林より到着の上は御下命の如く取計
- 五二二、大庭二郎
 - 1 大正一〇年二月四日 日比谷の鮮人学生の騒動遺憾 李綱公軍司令部附希望にて小官に尽力依頼 李王も異存無之に付き総督に於て可然取計相成たし
 - 2 大正一〇年一二月二八日 上京を機とし休暇仕り一月中旬出發帰任可仕考居候 国境守備隊の威力増大の為め若干の問題を起し居り帰任の上詳細申述
- 五二三、大橋新太郎
 - 1 大正一五年一一月二四日 粗茶差上たく御枉駕を賜りたし
 - 2 昭和五年五月五日 京城電気監査役補欠に李軫鎬氏推挙
- 五二四、大橋松太郎
 - 1 七年五月一日 東亜大興会設立通知 (付) 「東亜大興会設立趣旨」
- 五二五、大原武慶
 - 1 昭和二年四月八日 拙著批評者大原利武氏紹介御礼 (付) 「由来書」書籍の購入困難古史の研究に大打撃
- 五二六、大村卓一
 - 1 昭和二年一二月一日 御辞任の発表を見るに至り落胆 今後共御指示を垂れ賜はんことを願上
 - 2 昭和三年三月三〇日 朝鮮の電力に対する将来の統制上の方策本府へ提議 咸鏡線は九月頃には開通 川村氏の件拝承
 - 3 昭和六年六月三〇日 御在任中の御温情並に荊妻雪子生前の御恩顧への御礼。
 - 4 昭和七年一〇月二四日 関東軍交通監督部々長に就任 両三年内に現在満鉄社線の約四倍余の鉄道が満鉄の委託経営 満鉄の国家的使命及軍の責任重大 軍司令部全権部三十日迄に新京に移転
- 五二七、大村百蔵
 - 1年七月二二日 施政の御方針に就て御説示を憲政会本部へ報告別紙御閲覧に供し候 有体に申上れば権威ある報告を提供する能はず 時間に制限なく能ふ限り障壁なき接見の機会を希望

- 五二八、大森鍾一
 - 1 明治四〇年 九月二三日 授爵祝詞
 - 2 明治三一年 四月二四日 晚餐差上たく御案内
 - 3 大正一三年 七月二七日 朝鮮版四書一部御恵贈御礼
 - 4 大正 年 四月一八日 海軍大臣より神戸にて宴会の席用意方御尋に付き商業会議所の広間可然

- 五二九、大山巖
 - 1 年 五月三〇日 本月の会合に関し御通知難有 已むを得ざる義と拝承
 - 2 年 九月二六日 明二十七日 陸海軍会欠席

- 五三〇、大山綱昌
 - 1 明治四四年 七月二二日 今般岡山県へ転住 岩崎千代吉に御庇護を賜り御礼

- 五三一、岡喜七郎
 - 1 大正一〇年 二月二五日 (高秘乙第七四五号) 憲政会代議士三木武吉は小山松寿等の賛成を得て右決議案を衆議院に提出せり 決議案「齋藤朝鮮総督は朝鮮統治に関して誠意なきものと認む右決議す」
 - 2 大正一〇年 三月 六日 (高秘乙第九九〇号) 満鉄問題に関し憲政会本部にて告発文印刷中

- 五三二、岡千仞
 - 1 年 月一八日 横須賀軍艦拝見の件につき進水式日は混雑と存じ右式以後見物仕りたし

- 五三三、岡実
 - 1 昭和一〇年一二月二〇日 内大臣就任祝詞

- 五三四、岡崎邦輔
 - 1 明治四五年 六月二二日 北堂様逝去弔詞
 - 2 大正一三年 五月 日 閣下鴨緑江航下中鮮人狙撃通歎の至 (付) 副啓 明治の大業大成を希望

- 五三五、小笠原長生
 - 1 明治 年一〇月三十一日 此者御艦拝艦希望に付照会
 - 2 昭和 四年 八月一八日 謹祝朝鮮総督御就任
 - 3 昭和 七年 五月二三日 御栄達を祝し奉る
 - 4 年 一月二七日 今般渡鮮の陸軍中将木村戒自氏紹介
 - 5 年 三月一六日 珍書御恵贈下さり御芳志不堪感銘
 - 6 年 三月三〇日 日本倶楽部の御勧誘御断申上候
 - 7 年一 月一五日 小官大連に上陸仕り和尚島砲台写採 御参考の為に御贈

- 五三六、岡田熊太郎
 - 1 明治 七年 五月二三日 内閣閣僚人事に付愚見聞陳

- 五三七、岡田啓介
 - 1 大正 五年 二月 一日 御寵招乍遺憾参上難致候
 - 2 昭和 二年一 月二二日 小林中将錦地方面出張の際の珍果御托送御礼

3 昭和 三年 二月二〇日 大将寿府会議の際御持帰りのウイスキー御恵与御礼

○ 4 年一〇月 一日 福田の件御心に掛けさせられ恐縮 本日福田に面会 御願致したしとて履歴書差出に付同封

• 五三八、岡田信利

○ 1 昭和 八年 六月一七日 啓明会より援助の儀如何相成候哉 研究の死活切に御救助を仰ぎたし

• 五三九、岡部長職

○ 1 明治三三年 二月 日 日本倶楽部委員中欠員あり 来る四月総会迄委員として御加勢相願

○ 2 明治三九年 一月 八日 来る十一日日本倶楽部晩餐会開催 今般御入閣に付祝意を表する為御賁臨を賜りたく更に御案内

○ 3 明治三九年 四月 日 教育の事は万般事物の根元 小学校教員の養成学芸の講談教員の講習等の事業施設拡張 女子通俗教育普及必要 東京府教育会へ寄附仰きたし

○ 4 二年 二月一〇日 旧各藩藩札保存につき御配慮依頼

○ 5 年 二月二八日 倶楽部晩餐会に伊藤侯爵来会の義確定 山本君にも御来遊方貴君より勧誘を依頼

○ 6 年一二月二二日 製鋼所予算説明の義来二十六日午後一時御差遣し下されたし

• 五四〇、小川勇

○ 1 昭和 七年一二月三一日 私は閣下と御同郷の中目成一の女婿 神社神道は遠からず自滅するの外無き時期が到来致すことと存じ別紙神社問題意見を同封

• 五四一、小川郷太郎

○ 1 昭和一〇年一二月二六日 内大臣親任祝詞

• 五四二、小川鋪吉

○ 1 年 九月一八日 高田商会へ支払金の件は小村男より早川君へ既に懇談済 其後の模様は付御一報願いたし

• 五四三、小川善三郎

○ 1 昭和 年 七月一四日 東郷元帥生前御信仰の一端を窺はんため単行本出版いたしたく御寄稿依頼

• 五四四、小川平吉

○ 1 明治四五年 三月一五日 別紙総理大臣並に賞勲局総裁への建議御一読下さらば幸甚 (付) 小川平吉「建議」旧韓国勲章佩用を禁止せられたし

○ 2 大正 七年 月 日 東亜同文書院の報告摘粹「支那省別全誌」御購読依頼

○ 3 大正一四年 六月 日 「日本」発刊挨拶 (付1) 「日刊『日本』発刊の主旨」日刊日本新聞社 大正一四年六月付 (付2) 日刊日本新聞社同人書翰大正一四年六月付 日刊新聞を創設 全力を国民精神の振興に傾注

○ 4 昭和 三年 三月二三日 鉄道省無賃乗車証新券送付に付領収書並旧乗車証御回附相成たし

○ 5 昭和一〇年 九月 日 日本新聞今般更に陣容を整へ来る九月二十一日より毎週一回刊行 倍旧の同情と援助とを賜はりたし

○ 6 年 九月二一日 天台宗教務部長長沢徳玄紹介

• 五四五、小河正儀

○ 1 大正一四年一〇月 三日 政務総監に付き稲田・塩田・南三博士の意見何れも癌と決定 切開手術の方法もなしとの診定本日総理大臣に報告 予算に関しては大蔵大臣と懇談其後は財務局長より交渉中 2 昭和 二年 九月 六日 閣下には寿府にて終始公明なる帝国の態度を示し会議決裂も帝国には成功 今年は平年より百万石増収の予想にて産米増殖計画第一年として幸先宜敷

○ 3 昭和 五年 三月一五日 御下命の活塩水一打御送附 岩間亮君来訪に付き湯浅総監より崎山特許局長官宛紹介状相渡事業公債法

下院通過 木材関税明日委員会で目鼻付き可申

- 4 昭和 五年一一月一五日 浜口総理不慮の災難御気の毒間島問題に付森岡警務局長委曲を尽すべくも外務当局の蒙は仲々拓けず 御上京の上閣下より御説得が本件を有利に転回する唯一の鍵
- 5 昭和 七年 一月一四日 御来示の陳情電報上局に差出 本件は拓務省は目下研究中なるも結局朝鮮総督府の責任に一任する外なし 大逆犯人李奉昌上海僭称政府の派遣と判明 背後に国民政府の何人かの存否は不明
- 6 年一〇月一六日 報告書同封御届
- 7 年一二月一二日 東拓に鮮人理事登用の件拓務大臣趣旨には至極賛成なれども理事増員の経費の膨張可能なりや不明 韓相竜氏自身の出蘆適当と愚考 間島問題に就ては森岡局長より報告の通り大半の主張貫徹の曙光 白銀事務官持参の二制令不日法制局の審議を可了

• 五四六、奥井清風

- 1 明治一八年 九月二二日 (桐野弘と連名) 今般大井氏よりの注文品ありとの趣拝承別紙正金銀行振出パークバンク切手を以て差出

• 五四七、小倉進平

- 1 大正一〇年 一月二〇日 拙著「朝鮮語学史」に対する御補助金への御礼 守屋秘書官との御相談により該書式拾部差上
- 2 昭和 七年 四月 四日 「仙台方言音韻考」寄贈
- 3 昭和 八年 四月一六日 今回東京帝国大学教授に任じ言語学講座を担当 京城帝国大学をも兼任

• 五四八、小倉鋡一郎

- 1 明治四三年 七月一三日 沖守固男母堂葬儀に付御申越の趣敬承
- 2 明治 年 七月三一日 本艦にコレラ病発生閉口 本艦外舷塗色の儀海軍省に問合の件は長官より問合方当然との事
- 3 明治 年九月一日 明治村字辻堂小銃及野砲戰鬥射撃地に付ては目下戦時なるを幸ひ隠密に村民を説き買収方得策

• 五四九、小倉正恒

- 1 昭和 六年 六月一八日 朝鮮総督在官中の御懇情深謝

• 五五〇、小栗孝三郎

- 1 明治三五年 七月一四日 本日大臣邸へ見舞 令孫は漸次快方 川村伯の伝言の件大臣に申上 西郷候頗る重態 別封は英公使館パーレット持参
- 2 明治三九年 六月二二日 英国最新艦と同物御注文相成たき儀に付小栗から上申の旨本日田中監督官より電報上答の筈本官は現時に於て世界のBestと認め最良にして最緊要なりと深く信ず
- 3 明治三九年一〇月 九日 藤井在英監督官は潜水艦に関し実際上の知識なく其判断意外に誤り多し 何卒小官を召喚御下問の栄を賜ることを切願
- 4 明治四五年 六月二二日 御母堂御逝去弔詞
- 5 明治四三年 四月一七日 今回の潜水艇の椿事に付き閣下御心痛の程恐察第一に原因及責任を充分正確に調査し第二に国家は乗組死亡者に対し特殊の思典を与ふると同時に国民は大なる同情を寄するを切望
- 6 明治 年九月一二日 三井物産会社よりのフォールディング・ベッドの目録行違ひにより紛失申訳なし早速目録送呈
- 7 明治 年一〇月 三日 新造潜水艦に関し今回日英同盟的の協約も御発表相成候上は或は英国ビッカース社に於てA型と同物製造方の承諾を英日政府が黙許するの運びに相成る事難事には非るべしと愚考
- 8 大正 四年 四月 六日 軍令部四班長竹下氏への私信写御手許迄差上 (付1) 小栗孝三郎書翰写 竹下勇宛 大正四年四月三日付

「雑見雑感（第弐）」（付2）小栗孝三郎書翰写 竹下勇宛 大正四年二月二日付「雑見雑感」

- 9 大正 五年 二月 二日 連合側は独逸の閉口を予期し持久戦決行の様 我海軍の爲め視察研究調査の強行は不利
- 10 大正 六年 一月 三日 海邦丸乗員救助に従事 新嘉坡着の上英国司令長官と打合の上其後の行動決定の所存
- 11 大正一〇年一〇月 三日 小林大佐より依頼の品は別紙の通り 進級会議列席の爲上京鳳翰拝見恐縮（付）「在英小林大佐より伝言」
- 12 大正一二年 一月三〇日 舞鶴軍港は来る四月一日を以て要港に改めらるることとなり新舞鶴町は寂寥を来し一時沈衰海軍にて地方の人氣を引立て出来得る限り救済の途を講ずるよう尽力の結果人氣を恢復
- 13 大正一二年 二月一〇日 新舞鶴地方博覧会・棧橋株式会社・温泉等着々進捗
- 14 大正一四年 九月一四日 三浦へ転居挨拶
- 15 昭和 二年九月二六日 御帰朝大慶至極
- 16 昭和 五年 五月 一日 国防安全に関する政府の意見は最善と認められず海軍当局の意見を重んぜざりしやり方も感服致さず 首相外相は辞任方可然 財部氏は大臣に続在し条約の欠陥を補う工夫を凝らす事が国家の爲必要
- 17 昭和 五年 七月二一日 暑中見舞
- 18 昭和 六年 八月一一日 野比の芽屋への御枉駕恐縮 拝顔の榮を得ず遺憾
- 19 昭和 七年 五月二七日 首相就任祝詞
- 20 昭和 七年 六月 一日 友人の懇望により左記の点御高間に達し置きたし 満鉄の首脳部には公明有能なる適人必要陸軍の干渉容すべき筋には非れども同問題に甚深の関心を持するは有理 内田伯の後任詮考に関し軍部の空気を意識する必要
- 21 昭和一〇年一二月二七日 内大臣就任祝詞（付）（小栗富子名刺）祝詞
- 22 大正一三年 一月一六日 今回潜水艇を九隻とも悉く一艇隊に編成し一司令の下に属せしめらるる内議あるやに伝聞 別紙卑見稟申
- 23 大正年一月一八日 本年夏には独逸の人員補充率減少一方露仏英の軍需補充良好となるべく即ち連合側側に余裕を生じ秋には好況現出
- 24 年 五月一〇日 別封財部大将貴府訪問の節手交方秘書官にでも御下命願上
- 25 年 五月二六日 海軍と国防に対し別紙社説は真面目なる観あり 高覧に供し候（付）「中外商業新報」切抜 昭和五年五月二六日付「（社説）軍縮の政治的責任について」
- 26 明治 年 六月一六日 英国政府潜水艇と同物を英国へ御注文の由 之が監督兼伝習の爲め中佐松村純一を英国へ派遣願追て松村の代りに第一潜水艇隊司令には少佐東条明次を御任命願ひたし
- 27 年八月六日 暑中見舞
- 28 年八月一九日 疾病のため長々引入不忠の至現役を退く外なし
- 29 年 八月三〇日 名刺出来 本日発送
- 30 年 九月一九日 Swing Chairを当市にて買求につき何れ御邸迄持参 閣下の名刺銅版倫敦より到達次第郵送
- 31 年 九月二三日 病氣快復を期するため退現役の寛典奉願
- 32 年一〇月 五日 英国海軍省の好意にて小官及堀内少佐にグリーンニッチ大学校に於ける戦術科履行の承認を与へられ昨十月四日入校
- 33 大正 年一〇月二四日 戦局も一向捗々しきことなし英国は戦局の長久に堪へる工風を以て勝利の唯一秘訣と判断の様然るに今回のバルカンの形勢は英国側に容易ならざる打撃先般御高示の潜水艇進歩に付ては英国は千八百噸二十四節蒸気機関を最新型として製造
- 34 明治 年一二月一六日 藤井検閲大佐と英国海軍省造船局長ワット氏の内約即ち英国造船局企画の新艇の日本交付に関する

交渉進捗如何に拘らず速に英国最新艇を毘社へ御注文相成たし

- 35年 月一七日 潜航天覧の件に付き御召艦巡閲終了後其付近にて短距離潜航を行へば手数も時間も要せず 又士卒の今後の奨励の為にも絶大なる効果あり 潜航することに取計懇望

• 五五一、尾崎秀八

- 1 昭和 九年 八月二九日 弊園の粗桃壺箱御贈申上侯間御試味賜りたし

• 五五二、尾崎博基

- 1 大正一一年一月二〇日 亡父尾崎房太郎在世中譲受の国有未墾地に関し内地に施行の開墾助成法の御趣旨を以て歛下年限丈御付与内願 又近親村越仲よりの開墾出願に付き御沙汰相成様懇請 (付箋メモ) 歛下年期は従前の規定に依るの外なし 村越仲に対しては詮議の余地なきものと認む

• 五五三、尾崎敬義

- 1 昭和 四年一〇月二五日 御地滞在中の御懇情御札 東拓会社及朝鮮銀行の現状に就き少からず遺憾
- 2 昭和 五年 五月一日 議会も喧噪裏に終了 統帥権問題の如きは何処迄も政治的に且つ時代精神に適合する様御尊慮願上 財界対策及失業救済対策は今後に於ける政界財界の最大問題

• 五五四、尾崎行雄

- 1 明治 年 二月一六日 本書持参のシロダ氏は伯林市のフラッシスセー・ザイタング紙より戦時通信の委託を受けたる由に付御紹介
- 2 昭和 年 一月 九日 産業政策徹底に就きては松村局長へも愚存開陳 東拓内部の組織を朝鮮部と海外部の二部制として朝鮮部の活動を能率的専門的とすること肝要
- 3 年 四月 一日 大坂毎日新聞記者成田暁氏に材料御供給下されたく 希望
- 4 年 四月一七日 金哲氏紹介
- 5 年 七月 五日 小生秘書役清氏を海軍省の土地係に御引合依頼
- 6 年一一月一六日 英書に精通し貴省にて御試用を乞ひたき旨申出の大野氏紹介
- 7 年一一月二二日 小生秘書役清氏日露大戦史序文の儀に付拝顔を得たき旨申出に付御紹介

• 五五五、押川則吉

- 1 明治三九年一一月一五日 水沢町下水工事に就き概要申上

• 五五六、小田省吾

- 1 大正一二年 二月二一日 平壤の絵巻物に対する御下命の題字別紙の通り相認め又書籍より古人の句若干を拾録
- 2 大正一四年 四月一三日 楽浪漆器保存修理の計画見積は六角教授と小場氏と一々具体的に研究 此の仕事は小場恒吉氏を措て他に適當の者なし 黒板・関野両博士並に美術学校長に於て種々配慮中
- 3 大正一四年 四月二三日 楽浪漆器保存修理費金六万円本日小切手を以て御送下さり御礼
- 4 大正一四年 九月二五日 楽浪漆器保存費第三回分として六万円御送金に預り拝謝
- 5 大正一四年一月二八日 楽浪漆器保存費第四回分として金四万円御送付難有正に拝受 小場氏帰京の節該漆器携帯につき何れ機を見て御報告
- 6 昭和 七年 四月 七日 教授停年制内規設定により京城帝大を去月三十日付にて退官 引継ぎ大学に於て当分講義を受持ち当地に在りて朝鮮史の研究に精進

五五七、織田選

- 1 昭和 九年十一月七日 郷里小学校講堂用額面御下附御礼鎮海所在土地建物の件につき茂原氏とも面談愚見申述

• 五五八、尾田満

- 1 大正一五年一月二四日（藤原秘書課長宛）閔庭植亡父の預金の件に関し総督閣下より内査方拜命 知己矢野弁護士に依頼し内査に当たらしめた処別添の報に接す 閣下に御取次賜はりたし（付）矢野信行書翰 尾田満宛 大正一五年一月二三日付 閔泳翊遺産の件調査報告

• 五五九、小田安馬

- 1 昭和一〇年一月八日 遠路来鮮始政二十五年の記念を大意義ならしめ在鮮官民一同感激 子爵令夫人より外人一同に対する御礼セウルプレスを通じ伝言

• 五六〇、小田切万寿之助

- 1 明治四二年 六月 七日 小宴御案内

• 五六一、御竹将秀

- 1 年一月一七日 海軍史の件につき御懇書御礼 同書村上総兵・小森沢両氏へ頒贈の義は取計済

• 五六二、小野喜三郎

- 1 昭和 八年十一月日 「民の総意」を基調とする一つの組織体の創設提唱（付1）日本根本的振興団綱領案（付2）「東京日日新聞」切抜 昭和八年十一月二三日付「近事片々」

• 五六三、小野清

- 1 大正 二年 四月二五日 二十七八・三十七八年両海戦史御寄贈御礼（付）「孝明天皇明治天皇両神宮御回境域内に御建設被為在度御儀に就きて」大正二年四月
- 2 大正一一年一月二三日 拙著天文要覧につき凸版会社見積報告 邦宗公御病氣 留守景福君の件御含迄申上（付1）凸版印刷株式会社見積書（付2）「邦宗公御病氣軽快の事」・「訴訟事件間取書概略」（付3）斎藤実書翰草稿 朝鮮内守備隊撤廃は失ふ所大なるべし 馬賊問題につき我警察力を間島に配置すべし 製鉄製鋼の問題の御画策を熱望
- 3 大正一二年 九月 日 拙著天文要覧一卷・天文彙考五巻・附録金百四禽凶譜一卷諸図表並に附属写真・諸拓本・諸原本・原版地震に次ぎて起りたる火災で焼失につき再挙を希望
- 4 七年 五月二三日 「（墓碑文原稿）甲寅春日吊亡大夫 坂但木二氏墓有感」

• 五六四、小野金六

- 1 年一月一日 鮭鱒詰及紅鮭・鱒進呈五六五、小野茂春
- 1 年一月一四日 小生事金沢歩兵第七連隊に入営 六日羅南に着隊 第三中隊長中林殿を始め皆寛大親切にて上官も今は父兄の如き感

• 五六六、小野脩徹

- 1 大正 九年 六月一六日 豊川様永眠の趣新聞紙上にて拝承哀痛至極 不取敢紙上を以て御見舞
- 2 大正 九年 八月二三日 東拓よりの借入返済御援助御礼 債権証書返付無之につき証書御取入願上
- 3 大正 九年 九月 四日 明五日午前九時参上
- 4 大正 九年十一月一三日 最近各道に於て施政後の十年勤続の面吏員に対し施賞あり 然るに金融組合理事及其職員は放置十ヶ年以上の勤続者に叙勲又は施賞を行はせられたし

- 5 大正一一年 四月二九日 本年度の農事施設は簡易なる甘藷の植付奨励を為し輸移出米の増多に努め可申 他に支那よりの輸入織物の防圧手段として鮮農の副業なる機織に対する保護指導の計画樹立中
 - 6 大正一一年 八月 一日 鮮人巡査の考試は人物に重きを置き採用すべし 煙草指定販売人と相成たし
 - 7 昭和 二年 六月二九日 当半島も一ヶ月有余一回の降雨ありしのみにて天水待の耕地は植付不可能にして農民は不安の色を呈す 併し水利組合事業の促進上好個の刺撃ともなる一端かと私考
 - 8 昭和 六年一二月二三日 揮毫早速拝領御礼 東京在勤の三宮満治には満洲事変に基き鉄道の連絡並監視の為め奉天に派遣
 - 9 昭和 七年一二月二日 本月初釜山に出張中再度松之進様に御目にかかり御高話拝聴 鎮市浦の水先案内人綿島角市君よりの林檎四箱と紅梨壺箱嘉納下されたし
 - 10 年 三月 八日 . 今回宮内省は株券売却の代金以て新附民の幸福の為に事業資金として放資せらるる趣 本道中有名なる早水害地に天恩の資金に依り耕地完備の暁には鮮民を国恩の深恵に浴せしむる一端と私考
 - 11 年一二月一日 先般御下命の件につき当日千葉隆氏拙宅来訪 有賀氏も千葉氏の名義申込に対しては衷心安堵当地方の本年の綿作は豊収の様にあらず 米も未だ取引なく昨年の打撃にて不勤弱り居る光景
 - 12 年一二月三〇日 例の恩借中の金員返済六ヶ月間延期願上池演環氏の土地代支払の件は来月下旬までに先方をして支払を了せしむる様御援助を賜はりたし
- 五六七、小野常治
 - 1 明治三六年 一月二〇日 迂生には近々転任若くは休職との事此際建築部に転任方御配意懇願 本省に転任余暇を以て研学致したく熱望
 - 2 明治三六年 一月二四日 小生去る三十三年二月渡辺技師の紹介を辱ふし海軍省に転任満三ヶ年を経過 然るに今回再び転任又は休職の趣伝承 閣下特別の思召を以て小生が微志を貫徹し賜はば幸栄
- 五六八、小野徳三
 - 1 昭和 五年 五月 日 東京帝国大学史料編纂所並朝鮮総督府朝鮮史編修会今般退官 朝鮮史学協会のため専心従事
- 五六九、小野文質
 - 1 昭和一一年 一月 八日 今般上京の際は再度御引見種々御垂教を賜り感謝の外なし 予定通り八日帰城 朝鮮官界は唯今鮮滿移民拓殖会社新設を廻り知事級以下に大移動を予想せられ相当緊張
- 五七〇、尾野実信
 - 1 大正一五年 六月一五日 筑前水城の古趾に大梵鍾建立に付古鍾御寄贈への御礼
 - 2 年一二月九日 京城焼御恵投御礼
- 五七一、小野保知
 - 1 明治四四年一二月二日 松魚節壺折恵贈
- 五七二、小野寺清雄
 - 1 大正一三年 一月一三日 閣下の御尽力に依り満鉄に入社以来九星霜 北米紐育事務所に勤務の傍都市計画其他研究希望大蔵理事なり松岡理事なりに御依頼下されたし
- 五七三、小野寺清三郎
 - 1 明治四二年一二月二日 過般中は拙毫苦敷方より閣下に対し御胸中を御痛症の段御許下されたし
 - 2 大正 二年一二月二五日 (前半欠) 岩手県黄海村凶作 近隣百姓衆の常食は様粥にて実に可憐有様 御尊公閣下に於て御使用の

• 五七四、小野寺精助

- 1 昭和 四年 十一月 十九日 旅行御承認の司令に接し円満解決せるものと喜び居り候処本日突如松ノ木警察署長を被命十五日赴任 何等かの機に御傍近く御呼び寄せ下されたく御願 (付) 小野寺精助書翰 土屋警察部長宛昭和四年 十一月 十九日付「斎藤総督閣下御出迎に関する件」
- 2 昭和 六年 三月 三日 警察部長より矢張行政整理申渡 安田警務課長の言には君は瑞興警察署長時代無許可にて旅行せるに依るとの事に候も決して無許可にあらす 地方庁の暴戻恐入 和田保安課長の贈収賄其他官紀を紊乱する事例あり 公正なる整理断行願上
- 3 昭和 六年 三月 五日 本道に於ける今回の整理は誠に不公平にして殊に警務課長は鹿児島人なるより鹿児島人と九州人は可成整理に入れざる由にて黙過し難く何卒公平になさる様御願
- 4 昭和 六年 五月 二六日 官吏減俸反対に関する黄海道庁の真相報告 国家財政の切迫せる今日経済困難の今日民衆の輕挙暴効を警戒すべき本道警察首脳部が率先して反対決議を為すとは尤も憂慮すべき事
- 5 年 月 日 拙書かき終り候後内閣の瓦解を承知 後継内閣は是非閣下組織下されたし

• 五七五、小野寺直助

- 1 昭和 四年 九月 一八日 九州帝国大総長問題に関し愚見申述 (後半欠か)

• 五七六、小幡酉吉

- 1 大正 一〇年 一〇月 一五日 本書持参人は中国当地駐在丁抹国公使オイエソン閣下 御引見貴地視察の便宜供与下されたし

• 五七七、小原栄蔵

- 1 昭和 五年 一〇月 一八日 樺太在住の鮮人両東進豊田樺太長官在任当時閣下の紹介にて授産救助を要請小生八方尽力長官より地租貸付許可確定然るに両氏何等の謝礼もなく小生の直接訪問も回避 同人に対し一片の 注意を賜はらん事を惘願 (付) 膜原内務部長電話メモ 総督宛 紹介したることあり国境巡視の時自動車の世話したる者なり
- 2 六年 一月 二二日 両東進氏出願地貸付許可の過程を摘録して事態闡明の料と為したし 両氏已に生活の安定を得て数万の蓄財を擁するに及び候に付敢て再び書を奉りて両氏に注意を賜はらん事を惘願

• 五七八、小原信次

- 1 年 三月 一二日 川崎造船所川崎芳太郎氏に面会致したく閣下の名刺なり添舌なり賜はりたし

• 五七九、小原新三

- 1 大正 八年 一〇月 一三日 田村子爵より閣下不肖身上に付御高配の趣拝承厚礼 其後原首相内相及内務次官にも面会し身上に付依願 只今の処地方官中欠を生ずる見込もなく目下閑遊 總監に一言相願はれ候はゞ仕合

• 五八〇、小山田潔

- 1 大正 八年 九月 一八日 春川憲兵隊一同へ慰労金下附御礼

• 五八一、折田有彦

- 1 昭和 九年 二月 日 菓子一折嶋彦王妃允子内親王百日祭済に付贈与

• 五八二、海軍省人事局長

- 1 大正 四年 四月 三日 「海軍広報」第七九一号 大正四年四月二日付

• 五八三、海軍省副官

- 1 大正三年八月二三日（第三艦隊司令長官電報）サマール十七日漢口着 エルカノ二十一日南京着（付1）安保大使館附武官電報 大正三年八月二三日付 海軍大臣宛 独国陸軍漸次進出（付2）安保英国大使館付武官情報 海軍大臣宛 独国陸軍騎兵の一部はGhent市に侵入（付3）英国大使館情報（付4）ヴォスクレセンスキー情報（付5）海軍軍令部「海諜報」第一号 大正三年八月二五日付（付6）海軍軍令部「海諜報」第一号大正三年八月二五日付（付7）海軍軍令部「海諜報」第二号 大正三年八月二五日付（付8）海軍軍令部「海諜報」第三号大正三年八月二五日付（付9）海軍軍令部「海諜報」第五号 大正三年八月二五日付（付10）海軍軍令部「海諜報」第七号 大正三年八月二五日付「海諜報」第八号 大正三年八月二五日付（付11）海軍軍令部「海諜報」第九号大正三年八月二六日付 海軍軍令部「海諜報」第一〇号大正三年八月二六日付
- 2 大正三年九月三日（海軍軍令部「海戦報」第五号）陸軍揚陸作業予定の如く進捗（付1）海軍軍令部「海戦報」第六号 大正三年九月三日付「海戦報」第七号 大正三年九月三日付（付2）海軍軍令部「海戦報」第八号 大正三年九月三日付（付3）海軍軍令部「海諜報」第五四号 大正三年九月三日付（付4）海軍軍令部「海諜報」第五五号 大正三年九月三日付（付5）海軍軍令部「海諜報」第五六号 大正三年九月三日付（付6）海軍軍令部「海諜報」第五七号 大正三年九月三日付
- 3 大正三年九月六日（海軍軍令部「海戦報」第一一号）第二艦隊司令長官報告 港にエムデン認めず（付1）海軍軍令部「海諜報」第六八号 大正三年九月六日付（付2）海軍軍令部「海諜報」第六九号 大正三年九月六日付（付3）海軍軍令部「海諜報」第七〇号 大正三年九月六日付（付4）海軍軍令部「海諜報」第七一号 大正三年九月六日付
- 4 大正三年九月一九日（海軍軍令部「海諜報」第一五八号）在東洋独国商船にして開戦後国籍変更の疑あるものに付報告（付1）海軍軍令部「海諜報」第一五九号大正三年九月一九日付（付2）海軍軍令部「海諜報」第一六〇号 大正三年九月一九日付（付3）海軍軍令部「海諜報」第一六二号 大正三年九月一九日付（付4）海軍軍令部「海諜報」第一六三号 大正三年九月一九日付（付5）海軍軍令部「海諜報」第一六四号 大正三年九月一九日付

• 五八四、海軍大臣秘書官

- 1 大正一〇年四月五日 伊集院元帥葬儀の際の柩一對の代金別紙領収証の通り此使に御渡下されたし

• 五八五、海江田幸吉

- 1 昭和五年八月一八日 災害地実況視察 朝鮮渡航後格別の配慮に感謝 無事帰京 明一九日那須にて奏上の予定

• 五八六、嘉悦基猪

- 1 昭和四年一〇月二日 友人甘粕正彦氏（通称服部）御面接賜はりたく惓願

• 五八七、嘉悦氏房

- 1 年七月一一日 御品御恵投奉万謝

• 五八八、各務鎌吉

- 1 年七月三〇日 米国より取寄せ候メロン壺函差上

• 五八九、各務幸一郎

- 1 大正一二年一二月一四日 咸鏡南道咸口附近に約十万キロ内外の水力電力を発電し得る地点あり 日本窒素肥料会社出願の為 野口遵氏不日出向に付御考慮の程依願

• 五九〇、香川義一

- 1 昭和 年 八月二一日 日本式アルファベット研究発表普及の費用の援助依頼（付）「日本式アルファベットNO發明TO仮名漢字NO崩壊」

2 昭和 年一〇月二日 日本式アルファベットの文字を発明研究費用恵与願（付）「万葉ROOMAZI NO発明TO仮名漢字NO崩壊」

- 五九一、柿原琢爾
 - 1 年 四月二〇日 去十七日御下付の匿名投書は平壤府寿町の狂人のものと判明 警察官并に検事の不正の所行ある如き記載は事実は大に相違
- 五九二、笈克彦
 - 1 大正一〇年 一月 日 年の始をこと祝く
 - 2 大正一一年 七月一二日 此の度朝鮮各地巡講 昨日釜山の拙話を了し本日は東萊温泉に滞在
 - 3 大正一一年一〇月二八日 御尊筆の数々頂戴 御多忙中茅屋まで来駕を給り恐入候
 - 4 昭和 二年 九月二八日 御軍任を完ふし御帰朝慶賀
 - 5 昭和 七年一二月二四日 年内の御厚情陳謝 此の品御受納給はりたし
- 五九三、カゲヤマシンガイ
 - 1 昭和 六年 九月 七日（ローマ字電報）御在任中御懇情謝す
- 五九四、笠井重治
 - 1 昭和 八年 九月 四日 御尊書を賜り御礼
- 五九五、笠井信一
 - 1 明治四一年 九月 七日 留守家祖先の功績を調査 東京帝国大学史料編纂室の回答に失望 御配慮願（付1）東京帝大史料編纂室回答写力 留守家任勤王の事蹟としては建武二年国宜二通の他所見なし（付2）覚書 留守家任様鎌足公より二十三代孫
- 五九六、笠神多利六
 - 1 昭和 九年 九月一二日 郷党花巻出身伊藤清朝鮮にて仕官の希望 御配慮願
- 五九七、香椎源太郎
 - 1 大正一〇年 四月二九日 渋沢男爵の近親者佐々木清麿君仏教宣伝の為に三月朝鮮に渡り内鮮融和・教化啓蒙の効果顕著なる義御紹介旁々申述
 - 2 大正一五年 四月一二日 御昇爵慶賀 露領漁業計画の件御高配御礼 硬質陶器会社に付いては御安神下されたし 扁額を賜り厚礼申上
- 五九八、梶田文太郎
 - 1 大正一四年 五月二二日 賀陽宮貴地御成の節の献上物深く満足
- 五九九、柏木正文
 - 1 一〇年 四月二六日 揮毫御礼
- 六〇〇、賀田直治
 - 1 大正一〇年一二月 七日 原首相の遭難国家の一大損失 哀悼の限に御座候
 - 2 大正一四年九月 六日 皮革会社復旧 朝鮮銀行の援助内定永登浦工場地帯の事につき朝鮮産業の為め御考慮・御指導深く感謝
 - 3 昭和 二年一二月一三日 総督辞任に対し惜意を表す
 - 4 昭和 五年 九月 六日 勸農信託の件は此上閣下の御高援を給はりたし

- 5 昭和 八年 月 日 閣下の観音信仰は内外に光被 若草観音の勧進も都合よく相違 信仰協心の為め精進したし
- 6 年 八月二六日 別冊は松田氏の説明用に化製せるものにて吾等主張の基礎御一覽給はりたし 東山農事の重役よりは未だ何らの交渉に接せず 坂本正治を訪問
- 六〇一、片岡直輝
 - 1 年七月一五日 人蔘御惠贈御礼
- 六〇二、片岡直温
 - 1 明治二六年一〇月 八日 参考の為め左記のケ条承知仕りたし 最近の処に調査御報下されたし 英・伊・露・独・日本の将官数・軍艦数
 - 2 明治三一年一二月一七日 帰坂前に拝趨致したし
 - 3 昭和 二年 一月二二日 亡兄直輝記念誌編纂に付き御高話依頼
 - 4 昭和 八年 一月一五日 現下の政治を觀望し過去を追憶し別便拝呈の一書を作製 御一瞥を賜はり候はば本懐
 - 5 年 七月二三日 孫片岡銓太郎朝鮮満州見学旅行中に付便宜願
 - 6 年一一月二九日 和歌山市撰出代議士上京に付面会願
 - 7 年：一月一五日 御高話拝誦仕りたく島村兄御誘ひ下さり御光来願
- 六〇三、片山季盛
 - 1 昭和 七年 五月二三日 組閣人事 此際政友・民政両党の総裁は入閣遠慮の事
- 六〇四、桂善助
 - 1 昭和 九年 九月 一日 懷中修養日記帳作製に就て御題字御揮毫御礼
- 六〇五、桂潜太郎
 - 1 明治四〇年一二月 七日 鯉節壺折東伏見宮より被為贈候間御受納相成たし
 - 2 明治四一年 六月一一日 鯉節壺折東伏見宮より被為贈候間御受納相成たし
 - 3 年一二月一六日 鯉節壺折東伏見宮より被為贈候間御受納相成たし
- 六〇六、桂太郎
 - 1 明治四一年 一月一四日 東洋協会に金五拾円御寄付の御申込に接し御礼
 - 2 明治 年 一月一三日 三井忠蔵に海軍拡張の件につき御教示下されたく御願
 - 3 明治 年 八月一一日 (山本海相宛) 整理の項も漸次整頓 為参考貴省の取調のケ条并に金員の概要御回し下されたし
 - 4 明治 年九月一一日 明十三日永田町官邸へ御来車下されたし
 - 5 明治 年一二月一四日 海軍予算計画一部繰延の上決定の段阪谷蔵相より首相へ示談申出べき旨に付き回答
 - 6 明治 年一二月一四日 東洋拓殖会社の設立に関する趣旨書設立要項等御一覽願
 - 7 年 六月一〇日 一昨日依頼の林中尉身元并に履歴送付に付御礼
 - 8 年七月二六日 小生知人菊田海軍発展史に付伺いたき儀あり御紹介
 - 9 年 八月一一日 財政問題此際断乎整理を要するは当然必要 充分御配意相願たし
 - 10 年 八月一四日 恐縮仕候件調査の趣水町次官より承り感謝に不堪 今一応賢意を煩したく面謁依頼.
 - 11 年 八月二〇日 貴翰拝読 御配慮の段拝謝 然処当方に於て相考居候処と計算上相違 御考慮を煩したし
 - 12 年 八月二〇日 財政整理甚だ困難 貴翰中計画変更せずして整理の余地なしとの事に対し拙官過日来懇話の意味に誤解あり 計画実施上緩急を計る要ありとの意味に了解されたし

- 13年 九月二二日 外交に関する件協議に付き二十五日午前十時官邸へ御参会下されたし
 - 14年一〇月一八日（封筒に三井忠蔵氏持参と記）直接御依頼仕るべく御高配願
 - 15年一二月一八日 御内談の高見拝承 後刻面談の上相談致したし 坂地名古屋の用事相済み帰京の積り 留守中の配慮感謝
 - 16年一二月二五日 坂本中将貴族院推挙の事此際直に実行ありては如何 此後の欠員の補任に候へは万好都合
- 六〇七、加藤完治
 - 1年 三月一〇日 遊欧は四月十二日横浜発白山丸にて 十二日上京 御指示の日時に参上
- 六〇八、加藤熊一郎
 - 1 昭和 七年一〇月二四日 来る三十一日開催の理事会に関し各理事宛に別紙の通り通知（付）中央教化団体連合会会長斎藤実通知 各理事宛 昭和七年一〇月二四日付 本月三十一日理事会開催
 - 2 昭和 八年 六月二二日 総督府の依頼にて全道に亘り社会教化国民更生の講演のため巡回 鮮民の心理状態を把握するの必要を痛感
 - 3 大正 九年 九月 三日 古谷氏より拝受の小生拙著御推奨下されし文が出版社の利用する所と相成御詫
- 六〇九、加藤久米四郎
 - 1 昭和 九年 七月一〇日 在官中は御心労被遊何卒御自愛御願
 - 2 昭和一〇年 一月 六日 恭賀新年
 - 3 昭和一〇年 五月 九日 内閣審議会成立は大慶至極 小生今夜関西に参り十四五日頃帰京拝伺申すべし
 - 4 昭和一〇年 八月一三日 選挙粛正は検事局と警察が相提携して恐怖する程度位の警告と検挙をすべし 永田局長は気の毒千万軍の統制急務
 - 5 昭和一〇年一二月三〇日 常時補弼の大任を拝せられ衷心より欣快 今後極秘に政界の情報申上ぐべし
- 六一〇、加藤定吉
 - 1 明治二五年 六月二九日 只今芳翰拝誦 出艦の義御細報を賜り敬謝
 - 2 明治二六年 三月二八日 来四月九日独逸国出立に付き御教示承り旁粗酒差進たく御案内
 - 3 明治二七年 一月 一日（沢良渙 齋藤実宛）博恭王殿下御健勝昨年五月一日キール軍港到着 御用は伯林公使館宛に御賜輸下されたし
 - 4 明治二七年 二月 七日 貴兄御栄進の段敬承国家の為め奉賀本航も去二七日ハバナ市へ到着 明八日出航帰航
 - 5 明治二九年一二月 一日 別封英国水谷大機関士へ御届下されたし
 - 6 明治三〇年一二月一四日 先刻申上候件に付き只今三須氏に面談 砲術長次回転補ある場合御艦へ乗組の事にと計べきやと推考
 - 7 明治三〇年一二月一四日 昨日委細軍務局長に談し早速局長と主務者と直接懇談 遺憾ながら変更取計らひ兼候旨趣たり木戸侯爵の件御手数奉謝
 - 8 明治三〇年一二月二四日（三浦艦長・齋藤副長宛）貴艦へ行幸不被為在 図又は写真等携帯相成又副長より齋藤侍従武官へ御話の写真も御携帯奏上の上奉呈相成候様御取計然るべし
 - 9 明治三〇年一二月一一日 来十三日岡山県撰出多額納税貴族院議員野崎武吉郎外三名御灯拝観に付然るべく御取計依頼
 - 10 明治三〇年一二月一六日 閑院官載仁親王殿下来る十九日貴艦拝観に付午食の御手配下されたし（付）相浦少佐書翰 三浦大佐宛 明治三〇年一二月一五日付 載仁親王貴艦御一覽に付き便宜を与へられたし
 - 11 明治三〇年一二月一七日 閑院宮殿下随行員中別当は参らず家扶二名を入れ候事并に右の外将校八名見学の趣に付然るべき御取計依頼

- 12 明治三一年 九月二日 十六日電報に付き行違の理由明白ならざるときは御了解も難きと存し委細申進
 - 13 明治四三年 三月三〇日 今回改正の海軍給与令にて四鎮長官の内舞鎮のみ区別の規定は片岡閣下頗る迷惑を感せられ候様見受らる 今回の羅病は全く公務に基因せる義に有之 御一考下されたし
 - 14 明治四三年 四月 三日 芳翰謹て拝誦 御趣意の程夫となく片岡閣下に開陳の処克く氷解を致候様推察
 - 15 年 二月一二日 今回は航路の廻り合せ不宜 東京津間又津呉間共頗るの不良 海浪滝をなし当直将校誠に気毒 別紙出羽氏より当地へ転送 大臣へ御伝へ下されたし
 - 16 明治年二月二三日 今回艦隊演習の審判官に有栖川宮殿下を進めらるゝの御尽力願
 - 17 年一一月二六日 当方にて取計ひたる手続き等一寸御面談申上候に付都合伺
- 六一一、加藤巡吉
 - 1 大正一二年 一月 八日 漢城銀行の件に付き返済延引の原因・返済期間と方法等報告 ハルピン地所獲得に付懇願
 - 六一二、加藤仁太郎
 - 1 大正一五年 九月一五日 伏見宮殿下松田湾御寄港の節の献上品御満足に思召さるるにつき御挨拶
 - 六一三、加藤莊太郎（註7）
 - 1 大正一二年八月一〇日 宗方氏本月六日付書信の一節御参考迄添申支那も矢張衰が北方の勢力に巻かれ可申軍隊の多数が袁に心を歸し候 広東・江西・湖南は連絡して北方に反対
 - 2 昭和 七年 五月二四日 軍部統制には政友会をも包含する挙国一致が必要と存し三士氏を止められ床次氏の外に中立系とも云ふべき望月氏山本（悌）氏を加へらる・か妙案ならんかと愚考
 - 3 年 八月一三日 日本人と朝鮮人と吉凶栄辱を一にするを自覚せしむるを以て根本義とすること 朝鮮人も生活難に陥り来れる事に付き満州西比利亞に発展せしむること意見陳述
 - 六一四、加藤高明
 - 1 明治三九年 三月一五日 齊君を御養子に御迎の御披露会参上致すべし
 - 2 明治四二年七月二九日 八代六郎を常備艦隊若くは練習艦隊の司令官に転任方配慮願
 - 3 明治四三年 一月 一日 八代六郎氏御配慮により艦隊司令官に転任 旧友として厚く御礼
 - 4 大正 元年 八月一〇日 生駒艦も滞英中大喪の為め表立ちたる饗宴を挙行する能はずも出来る丈の事行はる 来年当国皇帝の即位式に軍艦派遣の御取計相成たし
 - 5 大正 四年 五月二六日 内外人主催の集會に於ける席次別紙の通改定（付）外務大臣官房人事課 大正四年五月二六日「内外人主催の集會に於ける席次」
 - 6 大正一二年 三月二二日 ・朝鮮人蔘沢山恵送御礼
 - 7 大正一三年一〇月 八日 御来示の報敬承 下岡総監も在京打合中 貴族院議員欠員補欠の件は希望者多く選択甚だ困難御推薦の人も希望者名簿に登録致し口くべし
 - 8 大正一四年一〇月一二日 吉田茂氏奉天総領事赴任に付紹介
 - 9 年五月九日 地所建物買売周旋業河手長平君紹介
 - 六一五、加藤正
 - 1 昭和 四年一一月 八日（封筒十一月九日付）故井上元帥襲爵問題に付き宗秩寮酒巻事務官と会談 財部閣下に報告 本八日財部閣下は種子田造兵中将と意見を交換

六一六、加藤辰弥

- 1 大正一二年 七月 五日 今日宮田書記官長よりの招きにて面会 同氏の談に有吉総監・馬場法制局長官等と鮮銀理事補欠問題に就き協議 井上日本銀行総裁も悦んで推薦人として斡旋すべしと申述 小生の希望も遂げらるると存候
- 2 大正一二年 八月 八日 当地にては宮田書記官長主として斡旋 既に井上日銀総裁へも交渉済 有吉総監の手元にて銓衡中の処未だ決定なし閣下の御配慮を願う (付) 宮田光雄書翰 加藤辰弥宛 大正一二年八月六日付 斡旋に悲観的 朝鮮総督府方面へ今一応の御奔走必要

• 六一七、加藤保

- 1 大正一二年 二月 四日 小生は隅田川一帯の地の自由労働の仲間を代表するもの 近来財界不況・支那人労働者の侵入により生活を威脅され扶助共済の必要上一の事務所とニヶ所の宿泊所を計画 閣下御助力を懇願

• 六一八、加藤長太郎

- 1 大正一一年 二月一四日 御筆績御恵与御札 財政困難に付き測量用機械等は全く購買の期確定せず 参謀本部海軍局が来年二月以後当学生を如何に始末せんとするかは未定

• 六一九、加藤友三郎

- 1 明治二〇年 一月一一日 来る六日頃抜錨 サンチャコー・アカブルコ・パナマ・タヒチ及びハワイ島へ寄港の上来年六月頃帰朝の筈
- 2 明治二五年 一月 一日 昨日マルセール着 即日ツーロンへ行きそこで越年
- 3 明治二八年 一月一五日 内藤省作戦艦和泉乗組確定 相成べく御含下されたし
- 4 明治 年 七月二七日 韓国に小暴動有りし模様 昨日釜山より上陸を始めた陸軍派遣隊を分派 目下の状況上必要と認めれば訓練の名義を以て佐世保の一隊臨時同官指揮下に属せしむる方取計中
- 5 明治四一年 八月一四日 御下命の出費別紙繰延案並維持費差出
- 6 明治四一年一〇月一七日 予算は大蔵当局者と協議の上決定要求書調製に着手
- 7 明治四五年 三月二六日 母堂様病氣見舞 野村事件の裁判手続了し来月中旬頃判決 8 明治四五年 六月二五日 御母堂御死去弔詞
- 9 明治 年 二月二〇日 呉工廠内収賄事件に付き御懇書を辱ふし深謝 其の硬概申上
- 10 明治 年 三月 九日 注文の新艦起工致せしも先月よりStrikeにて工事遅滞 国会議員選挙は大部混雑の由承知
- 11 明治 年 三月 九日 御下命の件は経理局長手元に相纏り日曜日午前中に御手元へ差出
- 12 明治 年 四月二三日 川浪も修復相済み来月二三日頃神戸港に出帆
- 13 明治 年 四月二九日 別紙条列定員案御高覧願上
- 14 大正 五年 八月 七日 上村大将気管支炎のため重体の由電報あり
- 15 大正 六年 八月一五日 故元帥海軍大将有栖川宮威仁親王銅像建設の発起人並に委員別紙の通り (付) 発起人名簿
- 16 大正 七年 三月 一日 粗餐差進たく案内
- 17 大正 八年一一月二四日 東条大佐の進級に付き各階級待命者作らざれば進級の途無く進級者の半数は待命となるの止むなき事情御了察下されたし
- 18 大正一二年 五月 四日 支那政府に於て奉直再戦阻止の爲め必要なる手段を講ずること肝要 小幡公使より大總統等へ別紙の通り報告 赤塚総領事より張作霖に同様の警告 今後の発展に対して多大の注意を払う必要 (付1) 覚書 帝国政府は東洋平和維持の爲満蒙に対する意見を内外に宣明にせられたきこと (付2) 小幡行使来電要領 四月二六日付 (付3) 小幡公使来電要領 四月二七日付 (付4) 小幡公使来電要領 五月一日付天津經由

- 19年八月六日 伏見艦座礁 日清汽船会社の本社は上海にあり万事同方面へ交渉の方可能
- 20年九月三日 別紙所見不十分ながら差出 御覧見願

• 六二〇、加藤寛治

- 1 明治三三年 七月一〇日 義和団事件に就き当地の近況大略謹報 (付) 加藤寛治書翰 斎藤実宛 七月一三日付 支那海え向け航海中若は航海準備中の艦船名参考迄御報申上
- 2 明治三四年 五月一二日 露国公債募集に関し重要なる報道あり 意訳其要部御報申上
- 3 明治三四年一二月 五日 伊藤博文セントペテルブルグ来訪 日露同盟の消息あり
- 4 明治三六年一二月 五日 朝日艦去る十月二三日の射撃成績不良の屈辱 昨四日第一戦隊射撃成績最上位
- 5 明治三八年 三月一九日 中浜主計中監別封送呈依頼 同人病気ゆえ軍服着用叶わず日本服にて参邸許され御面会願ひたし
- 6 明治四〇年 五月 八日 カウデン令嬢の来訪を受く 閣下よりの御贈品に感謝 福島墓へは近藤大監・山本大將及大臣名にてリースを供え置く
- 7 明治四〇年 七月 二日 ソサイエチー・オフ・アートは陸奥書記官及柄内大佐に托し取調 価値認め出金
- 8 明治四一年 三月二日 横浜船舶会社支店員より小生宛書状昨夕接受 小演習は無事呉艦隊の撃滅にてて呉横両隊の合同妨止の目的を達成 (付) 吉井豊治書翰 加藤寛治宛 明治四一年三月一三日付 横浜日本郵船会社倫敦支店長ジェームズ本日神戸入港の旨海軍大臣に執達下されたし
- 9 明治四一年一二月一十九日 観艦式は成功 酒肴料下賜あり
- 10 明治四二年 七月 九日 室蘭製鋼所に付き渡日の安昆両社の代表の叙勲に関し加藤大使より問合御指示を仰ぐ 日英博覧会前評判悪し
- 11 明治四二年 九月一九日 ダグラス大將と面談 日本海軍に対する大將の好意も過去の如く勢力有せず
- 12 明治四三年 一月一〇日 英国の現状は独逸に対する生存の大革命期に臨す 博恭王及兩殿下至極健全 来る一月三十一日伯林に向け出発英国宮庭へ御告別の前の旅行聊か感情上憂慮 マツデン大佐第四軍事委員に抜擢 (付) 新聞記事切抜 (英文) マツデン大佐抜擢
- 13 明治四三年 四月一五日 生駒来艦に付き貴命拝承 十四時に関し随分デスカウントを為すこと今回の交渉にて学問
- 14 明治四三年 六月 九日 山内氏に製鋼所をコントロールせらるゝは英人の所望 (付) 新聞記事切抜 (英文) 生駒艦ロンドン若
- 15 明治四三年 六月一七日 ト大佐・ラム中将よりの書状 日本帝国海軍一行がマッケンナ第一軍事委員に歓迎さる (添付メモ) 生駒艦歓迎の雲行 博覧会日程 (付1) Lambton書翰 Kato (英文) 書状御礼 (付2) ト大佐書翰カ 穴Kato宛 明治四三年六月一四日付 (英文) 御品御礼
- 16 明治四三年 八月一六日 (S.F.Crowl書翰 Kato宛) (英文) F.J.Lias紹介 (付1) 坂田重次郎書翰 加藤宛 八月一六日付 日本政府は使い古しの軍艦を自然外国に売る様なことなきや云々の件につきLias氏貴下に面会希望 (付3) 坂田重次郎名刺一枚 F.J.Lias名刺三枚
- 17 明治四三年 九月二七日 来年の戴冠式等の出物は余程撰定のこと 来年の派遣艦隊統率は島村中将の外なし 退英の恩命接受後任なる者既に欧州駐在武官のドアイアンたるべき資格者の派遣建言 御依頼品の勘定の残金正金為替にて同封 (付1) 横浜正金為替 七三円九六銭 (付2) Hednorth Lambton書翰Kato宛九月二六日付 (英文) 斎藤氏より屏風拝受御礼
- 18 明治四三年一〇月二九日 武藤・山本両氏着英 遅くとも十一月中旬に契約調印の運び 小生の一時帰朝御詮議願ひたし
- 19 明治四四年 三月一一日 発射実験好成绩 七月中に大陸視察 同月中に日本郵船にて帰朝の決心 遣英艦隊其他に関する加藤英国大使への伝言申し伝ふ
- 20 明治四四年 五月 九日 トロ少将への御通信にて多大の便宜を得る The Royal Clubより東郷大將歓迎の申出

- 21 明治四四年 七月一四日 珍田大使と晚餐 大使館にて日英同盟十年継続発展の報に接し欣賀に不堪
- 22 明治 年 三月 一日 財部大佐より電話にて大臣閣下及山本大将の御写真拝載したき希望申越
- 23 明治 年 七月二三日 十九日生駒艦長を海軍大臣と第一軍事委員に紹介 近藤一行は確かに数百万ポンドのFruitsを吸収 愉快に不堪
- 24 明治 年 一 月 一 九 日 先般旅行の目的は専ら露国に対する独仏両国攻守上の関係を研究 北清問題に関する露政府の英独への通牒大意報告
- 25 明治 年 一 月 一 九 日 ラム中将が米国艦隊観迎会に卓辞を述べたる別紙頗る面白し
- 26 大正 二年 一 月 八 日 兵学校御視察御礼
- 27 大正 二年 一 月 二 〇 日 筑波艦長の栄職を拝し恐縮 四月には東京へ移転
- 28 大正 三年 五 月 八 日 老母も追々衰弱致し家事混淆 新任務私情に於ては遣る方なき苦痛を相感居り候 人情の弱点と御聴許を奉願
- 29 大正 五年 五 月 三 〇 日 日英関係と対支交渉以来の近況御報告申上たし 平和会議の際我帝国非常のチレンマに陥入る事なきやと杞憂
- 30 大正 九年 七 月 一 五 日 先頃下命の儀は拝答致上候通り追々復命も片付き八月初旬には参趨可致見込 相当の機会に海軍大佐へ御照会給はりたし
- 31 大正 九年 八 月 二 日 滞京中の鄭重なる御待遇結構なる御土産御札 来五日研究射撃視察の上八日迄には帰京
- 32 大正 九年 八 月 一 一 日 御懇篤なる華筒を賜り鳴謝朝鮮統治上多大の智識を吸収致し将来の公務上深益 御指示の条は旅途山屋・財部・村上の各長官に詳述 名和長官へは書面報告
- 33 大正 一 〇 年 三 月 一 五 日 盛田暁紹介
- 34 大正 一 一 年 四 月 五 日 病氣回復の祝詞御礼
- 35 大正 一 一 年 六 月 一 九 日 コロネルノエル氏用向の件は午後不取敢電話にて回答
- 36 大正 一 二 年 三 月 一 二 日 封中履歴書の人物屈指の露西亜学者 露韓対策のため朝鮮に於て奉仕希望
- 37 大正 一 二 年 四 月 二 三 日 拝願致置候愛知万五郎氏の件に付き有吉政務総監より懇切なる御尋御高配拝謝
- 38 大正 一 三 年 四 月 三 日 京城及仁川に於て特別の御歓待 金剛艦上での光栄余りある御辞拝謝
- 39 大正 一 五 年 三 月 二 日 御下命の件両日中に御報告来る七日の日曜日令夫人御同伴御来遊願
- 40 大正 一 五 年 三 月 二 三 日 四時頃参上承知願ひたし
- 41 大正 一 五 年 八 月 八 日 母死去の際の御芳情に感謝
- 42 大正 年 三 月 五 日 芳信中ムーア大将・バケナム少将書簡の一節御書写共に有益なるヒントに満ち殊に知己諸將軍の音信として所感を深くし拝読
- 43 昭和 二年 三 月 二 三 日 第二軍縮会議の全権拝請の閣議決定に付き参考まで卑見陳述
- 44 昭和 三年 一 月 一 九 日 シモンズの日本評議読 御同慶に不堪
- 45 昭和 三年 一 月 二 四 日 池田旭氏企図に関し末次・山梨に申含め夫々調査中なるも気乗薄き様と感ぜらるにつき山梨次官を呼寄せの上閣下より今一応御言葉給はりたし
- 46 昭和 四年 五 月 七 日 粗餐差上たく案内
- 47 昭和 四年 五 月 一 七 日 倉知氏の意見に総理も大賛成し評議員会にて決議の上は自身閣下に御願出て明答の由
- 48 昭和 一 一 年 一 月 一 六 日 朝鮮書道菁華拝受御札
- 49 年 六 月 二 七 日 火薬問題に付き解決を得べき資料入手
- 50 年 六 月 二 七 日 愛知万五郎氏総督府採用御礼

51年八月三十一日 小生の渡鮮間付け種々の人物対鮮意見提出 参考までに同封 (付1) 意見書 日韓有志にて留学生及来遊韓人の便を謀り職業斡旋することとせしむ (付2) 意見書 朝鮮の現状憂慮 宗教・教育・宣伝機関・御用党組織につき建言 52年九月十九日 昨夕齊様御来艦 本日日向にて横浜に御送致候方小林少将に依頼

- 53年月日日鮮社規約草案
- 54年一一月一三日 過般の大演習好結果に終了 第五戦隊新高はスクリーブレードを全部墜落し事故
- 六二一、加藤房蔵
 - 1 大正一〇年 七月二五日 米国の横暴無人の不人情が朝鮮支那の人心に悪影響を及ぼすこと必然にして痛嘆の至
- 六二二、加藤政之助
 - 1 年 七月二八日 此度英国人A・M.Haris貴地に被参候 其目的は朝鮮の産物を海外に紹介するにあり 便宜供与依頼
- 六二三、加藤正義
 - 1 明治三九年 八月一二日 即今スコットランド各地造船所等巡視中 新聞にて軍艦三笠浮上り候事拝承祝詞
 - 2 明治 年 一月二五日 珍田外務次官より御伝達に依り目下帰朝浦潮書斯徳日本郵船株式会社支店員平島謙三差出に付御取開頭
 - 3 大正 九年 二月二一日 貴金拝受御礼
 - 4 年一一月一一日 国防論一部御恵投難有拝受
 - 5 年一二月二七日 忘年の小集御案内
- 六二四、加藤松治
 - 1 年 九月二七日 先日御引見下され晚餐迄も頂戴仕り難有御礼
- 六二五、河東田経清
 - 1 大正一〇年 九月一三日 府庁内に白昼爆弾を投せるものある由 十分御自重の程奉禱申上
 - 2 大正一二年 八月三〇日 朝野閣下の御出馬期待の処大命山本伯に下りし模様乍然山本伯出であるは誠に結構 東洋拓殖会社理事に石塚英蔵氏採用願
 - 3 年 一月二日 東拓理事二人辞表提出 大蔵大臣より勝田主計氏を第一候補者として仰越御聴置の程奉願
- 六二六、門野重九郎
 - 1 大正一二年 三月一九日 元大日本社の川島清治郎君につき総督府にて囑託的御命相叶間敷候哉 御高配を煩はしたし
- 六二七、金谷範三
 - 1 昭和 三年 二月 五日 寒中見舞
- 六二八、金子謹三
 - 1 明治二〇年 九月一〇日 (英文) 八月末日大学へ歸る 学校は明日始業
 - 2 年 六月 五日 小生も幸に無恙苦学罷在
 - 3 年 六月一九日 学友野矢武史君紹介
- 六二九、金子堅太郎
 - 1 明治四〇年一二月 九日 別紙米国大統領の教書中我日本大博覧会に関する全文御一覽下されたし
 - 2 明治四一年 七月一四日 北米合衆国の日本大博覧会参同費支出案決議に關しての同国大統領の私信御一覽下されたし
 - 3 大正一〇年一二月 五日 朝鮮人蔘御恵贈御礼

4 大正一三年 一月三十一日 明治天皇の御伝記編修の為御談話を拝聴したく 藤波臨時帝室編修局副総裁又は編修官を差出

- 5 昭和 二年 三月一〇日 朝鮮人蔘御恵贈御礼
- 6 昭和 五年 三月二四日 紅蔘御恵贈御礼
- 7 昭和 七年 八月二六日 紅蔘御恵贈御礼
- 8 昭和 八年 八月二二日 同県人野中清氏資源局長官に採用願いたし
- 9 昭和 八年 九月 三日 明治天皇紀編修中の処此程斯く 御紀二百六十巻編成の功を竣へ本日奉呈
- 10 昭和 年一〇月一二日 東洋綿花会社常務取締役三井合名会社重役山崎一保氏今年の観菊会に御召命願
- 11 昭和 年一二月二〇日 越後電気会社取締役志水三津男氏御引見下されたし 其用向は平安南道に於ける開墾の件 (付) 開墾計画の概要
- 12 年 四月一六日 伊藤公の「秘書類纂」刊行に付き南仁君に面接の栄賜りたし
- 13 年 七月 三日 ペルリ上陸記念像除幕式御挙行の儀に関し御開示の趣敬承 立食場は陸上の設備に致し治療用氷も当方に於て用意
- 14 昭和 年 八月二三日 東京日々新聞社説にて日露戦役の恩人ルーズヴェルトの対日本政策を誤解しあり慨歎 清洲調査委員で旧友のマコイ將軍との談話筆記御一読を願う
- 15 年一二月二一日 前南米駐在米国大使セエレル氏及夫人今般御地視察の為に渡航に付諸事御教示御願
- 16 年 六月二七日 朝鮮に国技館設立の儀あり 其計画実施に付き日鮮融和会会長渋谷子爵に総督府も賛同の旨一筆御投与依頼

• 六三〇、金子直吉

- 1 昭和 八年 四月二二日 上海より蔣及公使の一行近日来可致予報あり 其後蔣等は南昌に行き上海に来る模様無く不審を抱き居りし処本日別紙の通り申越
- 2 昭和 八年 四月二五日 出状後別紙の通り電信到来 御尊間に達し置候
- 3 昭和 八年 四月三〇日 昨電中戴天仇は黄孚の誤りとの訂電あり 要するに彼ら蔣介石を取巻き問題の件を議する為め南昌に来りたる趣を電報せるもの
- 4 昭和一〇年 八月二〇日 結構なる品御恵贈御礼
- 5 昭和 八年一二月 七日 笹川君一人午前七時半頃御伺
- 6 年 四月二五日 別紙の通来电あり 御尊意に入れ置候
- 7 年 四月三〇日 芦田問題に関し戸坂隆吉君為伺候処色々御配慮難有感謝の至 御方針に副ふ様為致可申 具体案決定の上御指揮を仰かせ可申
- 8 年一二月 七日 芦田の件好都合に御解決下され誠に難有感謝の至

• 六三一、金子弥平

- 1 明治 年 五月一一日 錦地一遊の事に付懇篤の御来意叩頭拝謝 明十二日の午後十二時の汽車にて参府可仕 御庇奉願
- 2 明治 年 九月 七日 . 来廿二三日頃当府出立帰朝の積 就ては其前錦地へも一遊仕りたく御厄介成下されたく御願
- 3 明治 年 九月二五日 帰朝以来兩三度本宿君へ面会 盟兄華府滞在猶ほ二年に及ぶべしとの事及び滞留費増加の二件聞得たり 東亜全局の事に関し新聞聞込御報依頼
- 4 明治 年一〇月 一日 華翰拝誦本宿君より出状等依托なし 或は君の覚ひ間違ひに無之哉

• 六三二、鹿野宏

- 1 昭和 四年 八月一〇日 御蔭様にて元気に国境警備の任に当り居り 今春四月には去る大正十三年に管内江界即一円を荒し十四年には閣下狙撃を敢てせし李日波を逮捕予審取調中

- 六三三、嘉納治五郎
 - 1 昭和七年八月三日 東京市会は第十二回オリンピックを東京に招く事を決議小生に勧誘の依頼あり 山岸博士も協力して勧誘に努む
- 六三四、加納久朗
 - 1 昭和十一年二月二七日（齊宛）父上様御薨去心より御悔み申上
- 六三五、加納久宜
 - 1 明治三十二年十一月一日 鹿児島港修築図案御内示の通り設計を改め別紙略図及び改案説明書を県会に提出 来三十三年一月より兩三年を期し起工且峻成の見込（付）斎藤実書翰草稿 加納久宜宛 明治三十二年十一月一日付 御来示の趣敬承 今回の図案は前回のものに優ること一層 尚ほコペンハーゲン港地形に酷似せるものを或る書中より見出し候間入御覧候
 - 2 明治三十八年四月二日 後続兵の供給繁忙と相成に付き日本体育会の兵事講習を全国各郡区に拡張し軍隊の後援を計り申したく趣意書御一覽の上御入会御賛助依頼
 - 3 年九月五日 一宮河口改修工事費は尚一千余円の不足に付き御義捐依頼
 - 4 年九月一三日 一宮河口改修費の件に付き今般御寄附下され御礼
 - 5 年一〇月二三日 一宮河口改修の件に付御礼
- 六三六、樺山愛輔
 - 1 大正一三年二月一〇日 ビショップ・ウェルチ同席にて来る二十日粗飯差上たく案内
 - 2 年一月二八日 二月四日粗飯差上たしビショップ・ウェルチ夫妻にも案内
 - 3 年一二月二八日 十二月三日御案内の件は医師より注意の為乍残念御断申上
- 六三七、樺山資紀
 - 1 明治二年四月一日 ニューポード戦術学校調査の上帰朝とのこと当然の事 兼て内報のダイナマイトガン購入の件対処方法並にダイナマイトガンの試作仕用法に付き貴官専ら尽力致されたし
 - 2 大正七年一二月二日 近藤男並大久保・藤森両氏渡欧に付き送別会御案内
 - 3 明治年一月二〇日 本県築港事業に付き海軍省所轄地と新地との交換同坪数にて願いたく善処方依頼 4 明治年一〇月二八日 海軍礼服用方法に付き問合
- 六三八、樺山資英
 - 1 年月日 東京月養倶楽部監事田中末資氏朝鮮旅行の際拝顔希望につき紹介
- 六三九、鏑木吉胤
 - 1 大正九年四月一〇日 過日寺井忍並拙者連名にて組合汽船株式会社朝鮮沿岸トロール業総督府へ出願 特別の御同情仰ぎたし
- 六四〇、鏑木秀胤
 - 1 明治三十九年五月七日 去る三月末兵役免除と相成り身体も健康に復し近々上京 何卒再び九鬼男爵閣下の御好意の下に使役せられたし
 - 2 明治年三月一日 下士官候補上等兵選抜に関し閣下より小隊長へ御一筆賜はりたし
 - 3 明治年五月一日 九鬼男爵より進学問題につき返事賜り難有 閣下にも御訓戒仰ぎたし
 - 4 明治年十一月一日 大臣様の御訓戒了解 不束者の罪御許下されたく御願 身上に関し九鬼様御帰京の上又大臣様の御高論に預り呉の叔父のも一応再考

- 5 明治 年 月 二 三 日 小生は学費の支出を叔父より給せられむとするも決して自分の身の安楽にして学問せんとするにあらず
- 6 明治 年 月 日 聯隊入隊 其中中参上致し入營のこと共申上
- 7 明治 年 月 日 先日願上の義は伊瀬知閣下の御話の結果宜しからざる義に非ずやと憂慮師団司令部へ回り大隊付書記に任命されたく御厚慮を煩はしたし
- 8 大正 元年 八月一〇日 (鎬木吉胤と連名) 陛下崩御哀痛の窮 御亡堂様四十九日御忌辰御惠物御礼
- 9 大正 四年 四月 二 日 尼ヶ崎氏と協議の結果瑞蒙号処分に対する請願実行を先にし夫れより折返し渡青の事に予定変更瑞蒙・友ヶ島丸払下実行の期日等照会のため今一度上京本省に出願の希望
- 10 大正 四年 六月一八日 商船会社に止ること能はず辞表提出 神戸川崎造船・住友伸鋼所・三菱造船所への入社若くは小野造船所創立への参加を希望
- 11 大正 四年 月 日 瑞蒙処分も郵船商船等に貸下げのことも聞込み悲観の次第 拙者に之が貸下の場合鎮守府並に要港部に対する運炭・食料・軍需品の運送等御用命に応ずべし 御詮議預りたく志佐局長へも御推挙に預りたし
- 12 大正 五年一二月二八日 後藤男爵への御願に付ては諦らめ申候 勝田主計蔵相へ心付申候は如何と愚考 御尊慮を乞ふ
- 13 大正一〇年 二月二一日 先年落魄中の迷惑深く謝罪 大正七年より海運業を営み大正七・八年度は国税三千元以上を納む来る二五日京城へ出発 拝顔を給はりたし (付1) 鎬木秀胤書翰 大正一〇年二月二三日付新聞紙上にて御東上を承知 御本邸に御伺申上げたし (付2) 鎬木秀胤納税証明願
- 14 大正一〇年一二月一三日 本日帰神の処御尊書難有拝誦 仁礼様御病氣心懸り
- 15 大正一一年 一月 二 日 揮毫朝鮮紅蔘頂戴御礼 海運集会所を設立 別封御一覽願
- 16 大正一一年 一月二五日 列車三宮通過の際御出迎申上たく候処御迷惑様と存上失礼申上 上京の砌拝謁願上
- 17 大正一五年 七月 九 日 御来荘御待申上居候
- 18 大正一五年 七月二九日 着京の趣誠に欣懐 石本氏天図鉄道入社に伴き孰れ御拝容の節愚存の所懐を言上致したし
- 19 大正一五年一二月一六日 御奥様病氣御見舞
- 20 大正一五年一二月一九日 御奥様御容体御伺申上の処良好に御経過 御奥様御上京の砌りには東京迄で御伴申上げたし
- 21 昭和 二年 四月一四日 富平プレーザン計画地の件は漢城銀行拒絶第二案として韓一銀行に諮るに際し関頭取へ閣下より御紹介切願
- 22 昭和 二年一二月一〇日 新聞紙上にて総督辞任の発表に驚愕の至り 来月上京致したく拝謁願
- 23 昭和 三年 三月一一日 朝鮮郵船方面の援助提携の基礎を定むることと決意 川崎造船汽船処分問題に付板谷宮吉氏と内談を遂ぐる為内地へ出発致したくその費用の為セーブル毛皮二組を御奥様手元に御買を懇願
- 24 昭和 三年 三月二四日 金三百円送金御札 戸田農具会社の件御寛恕願上
- 25 昭和 四年 五月二一日 御用の砌は何卒仮住居まで仰付願上
- 26 昭和 五年 七月一八日 先日張宗昌將軍と会見本件取極に付ての一切の委任を相受 実際問題として本件は拓務大臣に願出の前に宮尾総裁と打合を遂ぐこと良法につき宮尾総裁へ御紹介賜はりたし
- 27 昭和 五年 七月二六日 吉林土地の件に付き先日松田拓相に面会依頼 拓相小生願出の趣旨を諒せられ不日宮尾総裁へ御相談の由 拓相より御相談の節は御引立を賜はりたし
- 28 昭和 七年一〇月 四 日 近日中に拝謁を得たし
- 29 昭和 九年一〇月一二日 先月京城に來り二三日後に帰京 拝顔を待たし
- 30 昭和一〇年一〇月三〇日 不在中参上御願事申上恐縮の至 何卒御許容給はりたし
- 31 昭和一一年 二月一三日 日本郵船専務清水安治への揮毫御礼
- 32 昭和 年 四月二九日 仁礼御母堂様御病氣の御趣御見舞

33年一月一六日 先般降雪の為め砂金地帯の調査不可能に陥り太田にて石本男と分袖 旅中石本男金員無くなり御困りの由 小生持合せもなく一時閣下御手許金より拝借願いたし

- 34年七月一〇日 上京の際拝顔願
- 35年十一月七日 山下氏所有船武揚丸購入は中止し彰化丸購入の心組 秋山少将に拝顔事情を具申し閣下より山下氏に正式の御照介を希望

• 六四一、 鑄木誠

- 1 明治二二年 七月一五日 本艦本月四日芝罘着今日夕刻出艦旅順港に向ふ筈未来如何なる結果を得るや明白ならず 過般御咄し 申上の一件何分の御配慮是祈
- 2 明治三五年 六月 二日 二十一日佐世保出航二十五日当地新ドック傍に投錨 来二十六日英国王戴冠式につき小官英領事訪問
- 3 明治四三年 三月 二日 喜賓会対策起案別紙送付に付一読依頼

• 六四二、 釜屋忠道

- 1 大正 三年 一月二〇日 伯爵伊東元帥薨去 国家の為め嘆惜の至

• 六四三、 上泉徳弥

- 1 昭和一一年 二月 九日 御邪魔仕りし帰途金子伯に立寄り御報告申上 伯御満足にて早速に息子呼び寄せ之に申付けて首相及 高橋蔵相に依頼又通相にも固執せざる様話し置くべしとの御話あり 岡田首相へ閣下より御話置下さる様懇願
- 2 年 一月 五日 珍しき御物頂戴御礼
- 3 年 三月二三日 羅雨憲兵本部長に転任せし那須憲兵大佐は赴任の途来月上旬伺候致すべく宜敷取成下されたしとの依頼あり

• 六四四、 上岡勇三

- 1 昭和 九年 八月二七日 揮毫願

• 六四五、 上道二郎

- 1 明治二八年 七月二六日 当地は目下実に静隠 熱病流行衛生上随分注意 豊島海戦一周年の祝宴会盛会

• 六四六、 上村翁輔

- 1 明治四五年 二月 七日 武川雄一変死の件に付御通知 此度の死は自殺ならん 実母多分九日に閣下に面会し故人の遺書等申述 ぶるとのこと

• 六四七、 上村彦之丞

- 1 明治二九年 八月一五日 (斎藤参謀・財部参謀宛) 午前八時発田浦丸にて帰京 終列車迄には帰艦
- 2 明治三一年 六月二五日 濠州各地に於ける官民一般の我艦隊に対する優遇は誠に予想以外 之に報ずるに多費を要し心苦しき 次第に候へども御尽力の程御願
- 3 明治 年 二月二三日 今日是非常なる不出来にて面目なき次第 依て唯今より興津へ罷越明早朝より附近の山野を試したく明日 中御暇下さる様宜敷取計下されたし
- 4 大正 五年 七月一五日 小生皮膚病に関し実に御懇篤なる尊翰を辱ふし御厚意感謝 大概君にも御序の節御鳳声願上
- 5 年一〇月 七日 当隊戦闘射撃も終了 各艦共成績良好ならず誠に恐惶寒心に堪ざる次第

• 六四八、 亀谷新一

- 1 昭和 七年 五月二七日 内田伯外相就任の由 後任満鉄総才問題に付て先づ軍部内の意肚を察知諒解の上実力断行力あり外資輸 入の手腕ある人物として早川の如き御仁を相煩したし

- 2 昭和 七年 五月二九日 上原元帥を今朝訪問懇談政務官設置問題の如き政民策動の余地を与へざる様に致し強き確信と信念に立脚し政党の横暴専横を許さざる様断乎たる決意必要との説示あり
 - 3 昭和 七年 六月 六日 昨日上原元帥訪問 現内閣は党弊打破を主眼とする国民本位の挙国一致内閣たるべきこと 満蒙善後処置に関しては新国家を承認し又満洲四頭政治統一に関する軍部の意見も内外の実情を考慮の上慎重に考慮すべきこと等説示あり
 - 4 昭和 八年一〇月一七日 国家財政を無視したる国防暴大なる軍備は国家の不幸を生成すべく然るに首相及び蔵相遂々承認するに於て国家を誤る源泉たるべし
- 六四九、 我有市雄
 - 1 年 月 日 いつ迄も長命致してもらひたい 一度お目にかかりお話し申したい
- 六五〇、 唐沢俊樹
 - 1 昭和 七年 三月二八日 先般教化団体大会開催御来県感謝 揮毫御礼
 - 2 年一二月二〇日 財団法人大日本映画協会理事会二十三日開催
- 六五一、 河井弥八
 - 1 昭和 七年 七月二〇日 御茶壺缶皇后陛下より下賜
 - 2 昭和一二年 二月二八日 (齊宛) 一周忌御法要漆器御恵投御礼
- 六五二、 河上清
 - 1 昭和 七年 六月二七日 満州事件以来米国民の対日感情悪化 特派大使を華府へ派遣必要 特使は首相が不可能ならば若槻・山本権兵衛・内田などから撰択松岡洋右を特使の副使格に利用すべし山本条太郎も一策外務省情報部が米国に「毒づく」やぶな言分は断然禁止されたし
 - 2 昭和 九年一月三〇日 Christian Science Monitor紙Hilscher記者が閣下のConfidentialな話も記入 御高覧の為め封入 「愛国狂」が見たら御迷惑をかける事もあらんか (付) もChristion ScienceMonitor切抜昭和九年一月二八日 「海軍制限の問題」 「斎藤インタビュー」
- 六五三、 河上謹一 1明治二一年六一二日 陸奥公使桑港着の旨御通知感謝此度は当地に御立寄なく直に貴地に御越のよし当地在留日本人松田茂海軍造船所にて修業致居り実地に仕事致したく出願に付き御周旋依頼
 - 2 明治二一年 六月二〇日 過日は早速御取調御解答下され万謝 造船会社の方御間合下さらば幸福 回答は松田に御一報下されたし
- 六五四、 川久保建
 - 1 大正 三年一二月二六日 秋山少将より欧洲出兵に付き承り後日の為め帰朝 拝受の名刺使用御許容願上
- 六五五、 川崎芳太郎
 - 1 大正 六年一二月一八日 伊勢艦引渡に付懇篤なる貴寵を辱ふし御礼 (付) カワサキ電報 斎藤海軍大将宛 一二月一八日戦艦伊勢引渡とどこおりなく相済む 御安心願上
- 六五六、 川島清治郎
 - 1 大正 九年 七月 九日 管下学校図書館等に「大日本」御買上の栄を辱し拝謝 田中陸相の御口上は「未だ山梨に話してない」との事にて失望 問題全逆転を来し財界恐慌にては頓死もし兼ねず御書添願ひたし
 - 2 大正 九年 七月一六日 本朝田中陸相に拝芝 山梨に会って見よとのことにて会談 察するに依然六ヶ敷き理窟を構へる様子 免

に角之を最後と致す次第

- 3 大正一〇年 七月 七日 雑誌代として六ヶ月金貳百四拾円拜受 二重と相成恐縮に不堪 杜況も免に角何等か一路の活路を発見致したく目下苦慮
 - 4 大正一〇年 九月 五日 ノースチャイナスタンダード紙御恵送御礼 去月の社説全訳のパンフレット米英に配布すべく協議中 去月の朝日新聞投書並に九月号誌上に於て大臣の人選問題に関し尊名を掲げたる御無礼御忘却の恵に浴したし
 - 5 大正一一年 三月三〇日 華盛頓会議に付種々取紛れ失礼恐縮の極 別紙華盛頓会議国民聯合会報告書電覽に供す 万朝報三月二二日の附録に全部掲載
 - 6 昭和 二年 三月二日 閣下の御尊名を全権候補中に発見今回は三国会議にては其価値に乏しく御謝絶然るべし
 - 7 昭和 二年 四月二日 総トン数主義を採用して仏伊を会議圏内に入れしめられ候はゞ真の軍縮会議の本議に叶ひ帝国の為め 世界的大貢献なすべきやも知れずと存候
 - 8 昭和 二年一二月 八日 御退任は日本の為にも朝鮮の為にも莫大の損出 山梨氏の襲任遺憾此上なし 『世界の空中路』と題する小著印刷中 宇垣氏が御留守中総督室を犯したりとの報告不快
 - 9 年 六月二九日 昨日尊命を拜せし件は別紙の通に有之 但矢野・宮岡・山崎・横山の諸氏は海軍協会問題には関係なく脱会被致候歟に御座候
 - 10 年 八月一二日 支那財政経済問題に付当代の権威と目され居る根岸信君錦地にて御引見願ひたし 満川氏と面会 『空中国防』を著作致したく東京日々に同社専務高木利太氏の紹介にて客員的に特別寄稿の筈
 - 11 年一二月一九日 贈物拜受感謝 十月下旬大阪毎日に執筆の米国大演習中止希望の社説米国を動かす処となり希望を達するやと期待
- 六五七、川島義之
 - 1 昭和 五年一二月 六日 在鮮中の懇切なる御指導御礼
 - 六五八、川島令次郎
 - 1 明治二八年 三月一日 松島に乗艦本日午後二時出航 宮岡少将より来翰中封入の一封中村大佐に依頼
 - 2 明治二八年 五月二八日 天皇明二十九日御発輦 金参拾円賜はり代りに拜受 御礼は宮内大臣迄申出然るべし
 - 3 明治四四年 七月二四日 伊地知馬公司令官に付き東郷参謀長より台北医院長代理に診定を聞合の処乍残念胃癌と確認此際適當なる御処置必要
 - 4 明治四五年 三月三〇日 満廷の禅讓共和の宣布と共に
 - の就任南北の握手は時局一段落の如きも到底四億民人の統一は思も寄らざる次第帝国の大政策を御画定ありて列強の協同を指導せられんこと祈願
 - 5 大正 元年一二月二九日 病氣見舞
 - 六五九、河津暹
 - 1 年 九月 五日 錦地より罷出の際の厚遇御礼
 - 六六〇、川武定
 - 1 明治 年 四月二五日 今度の海軍大演習の一般方略及び特別方略に付御指南依頼
 - 六六一、川西栄之祐
 - 1 大正一〇年 五月二五日 内閣調査会参与あたりに推挽に与り政治と道徳の一致に寄与致したいと存じます

- 六六二、川原茂輔
 - 1 大正一〇年 二月一三日 国際協会事業に関し駒井喜太郎参邸の際の御高配御礼
- 六六三、河原要一
 - 1 明治 年一〇月二〇日 (仁礼子爵宛) 三浦大佐より香港発電報あり二十四日出艦三十一日横須賀着の見込
- 六六四、川村数郎
 - 1 昭和 六年一一月二二日 岐阜産富有柿御笑納下されたし
 - 2 昭和 七年 六月二三日 封入の新聞記事小生の観点は誤りなき所存 何卒御尽瘁賜りたく懇願
 - 3 昭和 八年 六月一七日 別紙御高覧下されたし (付) 報告書政友会院外大会の宣言議決は強硬派の支配するところ
 - 4 昭和 八年 八月一九日 昨日来訪の憲兵隊員に依れば新聞の報ずる政府・政友の国策協定に関し軍部青将并に枢府の一部に於て不都合なりとの議論抬頭 用語に於て慎重の考慮肝要
 - 5 昭和 年 六月二一日 宇垣朝鮮総督在京運動に付ては伊沢多喜男・安井秘書官等約一ヶ月前からお膳立 宇垣擁立の隠れた力として関西財界・原田熊雄等あり 南次郎・財部大将・海軍民政党及び重臣方面に好意を寄するものあり
- 六六五、川村貞次郎
 - 1 年 一月一八日 人蔘御払下契約六ヶ年継続の事御聴許下され契約調印相済の旨三井物産株式会社京城支店の通報に接し御高配に感佩
- 六六六、川村庄作
 - 1 昭和 八年 五月二三日 高橋蔵相御留任の事に決定衷心より御喜び申上げ候
- 六六七、川村庄助
 - 1 大正一四年 七月一九日 閣下の御仁徳により吾が中学院も日増しに充実 東京大角力に対し義損角力を懇願の処快く承諾 若槻内相・広島知事の了解を得る為め明日上京
 - 2 年 二月一五日 東海岸における事業に就ての資本家明十五日大邸邸に迎來 関係者と協議致し大体の方針確定 松汀学院基本財産として国有地物色中
- 六六八、川村竹治
 - 1 明治四五年 六月二三日 北堂様永眠への弔詞
- 六六九、川村豊三
 - 1 昭和 五年 六月一四日 政務総監当地巡視に際し民意の暢達を阻まれし件に付政務総監に一書呈上 御参考迄に供覧 (付1) 川村豊三書翰写 児玉政務総監宛 昭和五年六月一三日付 公職者連合会の際古橋知事により市民有志の陳情の機会を奪はれ不本意ながら此の柑口令の変更を甘受 雄基築港の愚案に就き本府にて充分の調査研究を願上 (付2) 「経済的雄基築港案」図面四枚 (付3) 「北鮮日報」昭和五年六月一日付 (雄基港開港九周年記念記事)
 - 2 昭和 五年 六月一九日 「経済的雄基築港案」本案の如く改訂 (付1) 雄基築港繫船突堤案 図面一枚 (付2) 川村豊三名刺
 - 3 昭和 六年 二月 日 「移住規約 (同郷青年農民に対して)」 本奨励法を取るも十分採算取れるものと信じます 右は渡鮮を促す為郷里宮城県白石町附近の小学校長村長有志へ提案したものであります
 - 4 昭和 六年 四月一二日 別紙海外協会理事者の方々へ送りし報告の写しによりて国境移民に対する私の微意を諒解し御援助下されたし (付) 川村豊三書翰写 昭和六年四月一二日付 国境大陸熱地帯の農業は有利 内地移民の進出は絶好の機会 移民計画に対し御指導と御援を仰ぎたく懇願

• 六七〇、河村日勝

- 1 昭和 四年 九月 二日 頭山満先生に師事御介添役を致し居候ところ月給の出せる筈もなく汗顔の極みに御座候へ共御救護御願
- 2 昭和 五年 六月 一日 東日記事発表前鈴木前軍令部長「統帥権問題を政略的に取扱はんとするは持ての外」との事にて閣下の主張と一致 樺山資英阪西中将其他も閣下の声明に共鳴
- 3 昭和 六年 六月 三日 与党代議士の風間に抛れば道庁移転問題に関連し児玉辞任を懇懇せんとの空気を作り閣下にすぎり其実現を計らんとの意向 本問題は松田前拓相の態度の横着と反松田派議員の策謀に因するものと首肯
- 4 昭和 八年 五月 五日 将来の夢を視る体協は国賊？ 来る国際会議に逆宣伝さるるが残念 (付) 「読売新聞」昭和九年五月四日付記事「総帥王正廷うそづく 鼻高々と支那代表出発」
- 5 昭和 八年 九月 三日 枢密院貴衆両院・民間学者・宗教家・実業家・国士・軍人・婦人代表・新聞雑誌方面等々広く智者を求め永久性の諮問研究機関として国策審議会設定を切望 (付) 「東京朝日新聞」昭和八年九月二日付記事「国策審議機関の問題」
- 6 昭和 九年 四月 二五日 日本体育協会が肉親の満洲国を捨て単独にて極東オリンピック参加を表明せるは全く売国的行為文部省山川体育課長・荒井文部秘書官・有末陸軍大臣秘書官の上申報告に御迷なく対満対支対連盟国の重大国策として留意されたく進言
- 7 昭和 九年 五月 四日 満洲国体育協会国際競技参加準備委員会駐日代表部 国際競技準備委員会東京委員会「第十回極東選手権競技大会 満洲国参加問題に関する経過抄録 (第二報)」 康徳元年四月二三日付 (付1) 「日本新聞」昭和九年四月二七日付 若宮卯之助論説「国賊としての日本体協」 記事「体協最早要なし 断乎たる措置のみ」 (付2) 国体擁護連合会「声明書」 昭和九年四月二九日付

• 六七一、河村豊洲

- 1 明治二四年 二月一七日 貴官の名義を以て正金銀行より借入金弁償の件に付ては半額文即時弁償せば残余の分は恕すべき事に相談相調ひ去る十二日右金額弁償にて終結

• 六七二、神田正雄

- 1 昭和 五年 七月 二六日 引見拝謝 東亜問題の研鑽に努め御高恩に酬ゆるを期す
- 2 昭和 五年 一 月 九日 帰京後直ちに松田拓相・幣原外相に懇談せしも去る五日警官撤退断行の様にて漸愧の至り某有力者は善後政策実現のため力備ある政務總監を挙ぐるの必要を申述 上原元帥も同様の意見にて後任者として現警視總監丸山氏・前台湾民政長官後藤文夫氏も宜しからんと由
- 3 昭和 五年 一 月 一五日 一昨日総理に貴地視察の状況に就き報告今後の政策等に関し一段の調査と研究の必要の旨諒解を得 浜口総理狙撃の報に接し終日官邸並に本部に詰め切る 昨日松田拓相に拝芝 間島事件に関し外相との交渉の様様承り総理への報告の要点を申述 間島問題の善後策に付ては支那研究会の問題と致し結果得次第報告申上ぐべし
- 4 昭和 八年 九月 四日 日本日末を期し満洲国を一巡続いて北支より南支に赴き日支両国人間の連絡と意思疎通を謀りたく存念 今回杉村公使御派遣の如き機宜の御処置と敬服
- 5 昭和 九年 三月 二九日 広田外相の指揮の下に私箇人の名義にて日本の貯蔵米を支那が外米と同等の価額にて買取る様交渉を開始 満鉄囑託就任のため御口添願上
- 6 昭和 一〇年 一 月 二八日 昨日北京着 冀北自治政府に股汝耕氏を訪ね懇談 満鉄よりの調査委嘱は本年度予算の都合にて継続を断はられ候に付松岡総裁・大村副総裁に御口添願いたし

• 六七三、艦長

- 1 明治 年 月 二七日 佐藤所長へピンネースの事照会の処実際の適否寸法其他備砲上の都合等調査の上相談に必ずべしとの返事に付き調査実施方依頼
- 2 明治 年 月 日 昨日正午頃威海沖を彼の二汽船通過 大和旅順より回航 直に佐世保に帰港
- 六七四、上林敬次郎
 - 1 大正一〇年一〇月二二日 本道庁移庁式費用として金員御送付御礼 移庁式の際御来道賜りたく御願
 - 2 大正一一年 三月 八日 李隅公の東上問題は故李憲公妃に於て反対に付き昨七日親族会を招集し経過を報告し決議可成速に東上せしめらるる様致したし
 - 3 大正 年 四月 五日 間島在住鮮人の懐柔救済に付て巡視の手当に付相当の御給与を得る様御考慮を煩はしたし（付）上林敬次郎書翰 有吉政務総監宛 四月五日付 予て内命ありし間島行の件に付て総督としては対策調査の為短期間旅行の趣旨と察せられ候に付御請致しても宜敷
- 六七五、蒲原久四郎
 - 1 大正一二年 九月 一日 左記新聞電報あり御目に懸け申候（付）関東大震災被害状況情報七件（大阪・名古屋・静岡・長野・船橋無線電信所発電など）
 - 2 大正一二年 九月 二日 別紙新聞電報御目につかけ候 電信線不通 疏通を手配中（付）関東大震災被害状況情報一五件（大阪・船橋無線電信所・海軍省発電および丸山生情報）
 - 3 大正一二年 九月 二日 「東京地方震災に関する件」震災に関し大阪中央電信局長及下関郵便局長に情報照会 電信線は大阪以遠の故障今尚依復せず（付）関東大震災被害状況情報四件（大阪・船橋 松本発電および大阪中央電信局長電報）
 - 4 大正一二年 九月 三日 大阪電報（日本電報通信社）（付）関東大震災被害状況情報九件（大阪・帝国通信社発電など）
 - 5 大正一二年 九月 三日 「東京地方震災に関する件」市内は宮城などを除く外全焼 全市戒厳令を敷き容易に出入を許さず（付）関東大震災被害情報五件（大阪発電および下関郵便局長電報）
 - 6 大正一二年 九月 三日 下関電信局長発小官宛電報あり（付）関東大震災被害状況情報一一件（大阪・下関・梅田・松本発電など）
 - 7 大正一二年 九月 四日 逓信局電信局にて得たる情報通知（付1）上田副事務官電報 逓信局長宛（付2）大阪発電電京城電通宛（付3）国友電報 警務局長宛（付4）末松警視電報 警務局長宛
 - 8 昭和 二年 四月 五日（電報）恩田朝郵社長との話の趣旨は政務総監へ御話置きを願ふ
 - 9 昭和 二年一二月二〇日 今回御桂冠は唐突にして一同意外として深く失望
- 六七六、木内重四郎
 - 1 大正一〇年 一月一八日 京都府知事在職中の議員買収事件の顛末を略叙し御尊慮を煩はし候儀につき御礼
- 六七七、菊沢秀麿
 - 1 昭和 九年 八月 一日 江口大佐の件に関し御紹介状を給はり恐縮 同大佐昨日仏教各派宗務所に紹介状差上
- 六七八、菊池謙讓
 - 1 大正 九年一二月 五日 儒教大同会は張会長と理事者とに内訂発生に付船員と調停方尽力中 保民会は目下保民政庁の設置並に保民銀行、在外鮮民の教育施設に関し計画中 在外鮮民へ教勢拡張中の青林教・済愚教尤も盛にて平安南道方面の排日勢力が近時減退
 - 2 大正一〇年 五月一七日 東光会代表諸人十五日に入京 該会は京城に於ける運動の中心として朴侯爵を推し張男爵を副として結社の基礎建設するの計画 参政権並に自治問題に進むと推想せられ警戒の必要

- 3 大正一二年 二月 二日 去月二二日より湖南線に亘りて七日間各地で「朝鮮文化の改造」に関して講演会開催大陸通信ハルピン支社設置に骨折り中
- 4 大正一五年 四月 八日 現李王殿下往年出囚せられたるの際其救出に関する近衛公の書面写御覧賜はりたし (付) 近衛公爵書翰写 菊池謙讓宛 明治三六年三月二八日付 宮内省に交渉致候結果先我陛下より韓皇太子に贈物有之候事に運び候
- 5 昭和 三年一二月二日 大正一四年拙生商務社団長に就任し社の改造に従事 今後は満州在住朝鮮人救護の任務に従事致したし
- 6 昭和 五年 五月一日 商務社総裁李允用男・社長尹順伯・幹部南昌祐御引見賜はりたし
- 7 昭和 六年一二月一六日 在満鮮人保護の対策実現に関し「自衛民団」建設計画を案じ内田伯に提出 奥田師の件は牛耳洞新願寺住職として留ることに本山長谷寺に相談
- 8 年一二月一〇日 奥田師の件御聞入下されし由拝聴 御高情感謝
- 六七九、菊池慎之助
 - 1 大正 年 二月一二日 小生此頃世界各国の政体如何を研究せしめ別紙の如き結果を得申候に付き御高覧に供す
- 六八〇、菊池大麓
 - 1 年 七月 八日 佐藤少佐演説筆記頂戴致して宜敷や又機関技師・下士の養成に付同様のもの有りや伺
 - 2 年 七月一三日 諸法規類御送付御礼
 - 3 年一〇月二二日 文科大学教授の小生弟閣下に拝眉希望に付御面会賜はりたし
- 六八一、菊池武徳
 - 1 大正一二年 月二四日 生等の友人間に御慶事後首相隠退し後継に閣下を煩はさんとするの説あり
 - 2 大正一五年 四月一五日 金水長等の合資会社に援助依頼 金水長は国境の不逞鮮人にも知友ありし趣にて昨日三矢局長に紹介
 - 3 昭和 四年一〇月 八日 老書生の生活法として文筆の外なし 京城日報の東京通信記者として御配世を依頼
 - 4 昭和 年 八月二八日 政友会空気緩和の一法として高橋蔵相より岡崎邦輔氏へ御懇談相成りては如何と愚考
 - 5 年 月一六日 高崎市の形勢益々優良 此際他の立候補を阻止致したく軍資金拝借を依頼
- 六八二、菊池浩
 - 1 昭和 五年 四月二四日 過般御来釈の節は色々御配慮給はり又本日は御玉章・金拾円御恵与謹みて拝受
 - 2 昭和 五年 四月二七日 東北拓殖地所移転登記書類御捺印御願
 - 3 昭和 五年 五月八日 東北拓殖の土地登記書類難有拝受 近日中登記終了の上万事御報告申上たし 知人菅野齊助氏より別紙来信ありよろしく御取計御願 (付) 菅野齊助書翰 菊池浩宛 四月二八日付 親友元山尋高小学校校長兼元山青年訓練所主事三島本生氏齋藤総督の額面懇願に付御紹介依頼
 - 4 昭和 五年 五月一七日 東北拓殖土地書類難有拝受
 - 5 昭和 五年一二月二九日 幸子の病気のため諸雑費の支出多く如何とも致し難く臨時費御増額御願 魚権の件に付き秘書官の御紹介状を戴き咸南当局に出願致したし
 - 6 昭和 六年 三月三日 御来訪を辱致し御温容に拝接の光栄に浴し沢山の御恵与の御品賜はり厚く御礼
 - 7 昭和 九年一二月二二日 十一月分生活費百弍拾円送金御礼 林檎紅玉五函・国光五函發送致置 大槻氏へ浦山の百姓が持来れる金鉢は外見有望とて羨望 盛彦の写集同封 (付) 写真二葉
 - 8 昭和一〇年 三月 一日 二月分生計費六拾円送金御礼 安辺郡果物同業組合設立副長に推薦せられ引受くるつもり 今春四月面協議会員選挙へ小生を立候補せしむる段取運動なす者あり
 - 9 昭和一〇年 五月 一日 四月分生計資金六拾円拝受御礼

- 10 昭和一〇年 四月 日 別紙農園九年度決算同封に付御笑覧賜はりたし 林檎貯蔵庫の設備資金二百円借用致したし
 - 11 八年 九月一三日 御書去る九日拝受 小学校普通学校大槻氏へ相渡し申候処非常に感謝 来る二十日小学校落成式までに御扁額とし奉戴の式を挙げる事確定
 - 12 昭和 五年 五月 八日 仁川御邸内家屋御買収書類に対し御命示通り捺印御返送
 - 13 年 五月一日 別封の各通の住所訂正御捺印並に店舗移転登記に要する委任状に御捺印下されたし 移転の事実記載の登記簿謄本御作成御追加給はりたし
- 六八三、菊地陽三
 - 1 昭和一〇年 一月一五日 御健康に充分に留意せられ御武運の長久を祈念
- 六八四、菊山嘉男
 - 1 大正一三年 七月 二日 今回大分県警察部長休職の命に接し残念至極 今後も御指導御鞭撻を念願
 - 2 昭和 七年 七月二〇日 朝鮮臨時国勢調査記念章制定の件への御高配御礼
 - 3 昭和 六年 六月二六日 御辞任の電報に接し御高恩を偲び感涙にむせぶのみ
- 六八五、木佐木幸輔
 - 1 明治二八年 六月 五日 本艦も去る一日横浜回航 林清国公使一行を乗せ本日午後五時当港出発
- 六八六、木田伊之助
 - 1 昭和 二年 二月 日 瀬谷和一氏救援会案内 (付1) 救援画会々規 (付2) 申込書
- 六八七、北吟吉
 - 1 昭和 三年 六月二三日 (『祖国』創刊の辞) 九月中旬新たに評論雑誌「祖国」を発刊「祖国」は祖国愛護の念より本質的価値ある智識と経験とを総動員せんとするもの『学苑』とも相俟て護法護国の聖業に献身 (付)『祖国』編輯方針及編輯内容
- 六八八、北垣国道
 - 1 明治 年一二月一五日 函館海陸接続停車場の義につき担当技師武和三郎の質疑に対し御指示下されたし
 - 2 年 三月 八日 三男旭に付き大頭領今般竹下君を以て親書及び写真惠贈に接し全く閣下御配神又竹下君監督指導の結果と小生一家感佩
 - 3 年一二月一日 三男旭米国兵学校退校命ぜられし由に付拝謁願上たきも療養中にて上京困難 親友原保太郎より御聞取依頼
- 六八九、北古賀竹一郎
 - 1 明治二五年三月二一日 昨日は態々御来訪下され御礼
 - 2 明治 年 六月一八日 本部より搭載すべき兵器取調方至急取計ふべき旨命令を蒙りし為めポーツスマスに於て便乗致したし
 - 3 年四月一五日 神戸酒進呈
 - 4 年 八月 七日 別紙の通り山内造兵廠長より申越の件に付ては総務長官より司令長官へ一策差出御願 (付) 山内万寿治書翰 北古賀竹一郎宛 八月七日付 松島三十二樽砲飛程改造の義につき貴官よりも長官迄内話下されたし
 - 5 年 八月 九日 御艦滞在中御世話に相成り御礼
 - 6 大正 年 七月二五日 星野氏非常に多忙にして山中某を代理人として交渉せしむる由にて小生今明日中にも山中氏に面会 対鈴木の訴訟事件は小生の方が有利
- 六九〇、北原太郎
 - 1 昭和 五年 一月 一日 年賀状

- 六九一、北村梅七
 - 1 昭和 九年 七月 一日 粗果贈呈
- 六九二、北村閑作
 - 1 大正一三年 二月 二三日 大正十一年九月から幸田・伊藤・小林三女史の経営にかかる鮮人間題は今日より以上重大 四月から慶尚北道大邱附近にて小学校又は普通学校に於て教鞭をとりつゝ、鮮人理解と鮮語研究に尽力将来とも援助指導を願ふ
- 六九三、キタムラ
 - 1 昭和 五年 二月 二三日 (電報) 二三日午前九時現在党派別当選議員累計報告
- 六九四、木下成太郎
 - 1 昭和 七年一〇月一六日 此際帝国国策を樹立し協力内閣の実績を挙ぐべき好機会 清洲問題の解決・軍備の整備・文政の振展と思想振作根本対策及財政経済の統制殊に税制の統制等が現内閣の使命たること
 - 2 昭和 八年 八月 二五日 国難襲来文教の大刷新が急務 皇道に醇化せる儒学を復興し更に皇学を独立せしむべし
 - 3 昭和 九年 七月 四日 岡田内閣の樹立に関し文教の府は国家主義者にて皇室政治を理解し小学校より大学迄の大刷新を為し得るものの就任を切望 拓相の人選御配慮希望
 - 4 大正 九年 九月 三日 揮毫三点到着御礼
- 六九五、君島清吉
 - 1 昭和 九年 九月 一四日 二千六百年記念事業として宮崎県に修養道場設立に付き扁額へ揮毫依頼
 - 2 昭和 九年 九月 二二日 神武天皇御東遷二千六百年記念日本精神作興大講演会開催につき講師として講演依頼
 - 3 昭和 九年 一 月 一四日 神武天皇御東遷記念二千六百年祭並に記念事業への御高配感謝 今回の記念に清水豊三氏揮毫の洋画一面御送付
- 六九六、木宮保太郎
 - 1 年一二月二七日 御別荘に関する計算書封入差上
- 六九七、木村 清
 - 1 大正 年 月 二四日 昨二十三日小西府尹・飛鋪理事官・加々尾警察署長並に在釜新聞記者団の臨席を乞ひ在釜労働者共済会発会 下関市所有地所に付き市長に面接交渉致したく御添書懇願
 - 2 大正 年 月 日 釜山労働者共済会創設に不肖本月拾四日渡鮮以来尽力事務所借入の手続きも終了し五月五日までには開設の運び
 - 3 昭和 四年 八月 一九日 朝鮮総督御再任祝詞 小生労働共済会事業続け居り御指導相仰ぎたく懇願 鮮魚一籠御笑納下されたし
- 六九八、木村久寿弥太
 - 1 大正一五年 八月 一八日 光村の件にかかる十日付書面十二日夕当地にて拝見 差当り月内工場運転の資料供給の為金五千円を支給し事業継続の能否を判断致すべしと長子利三氏に申渡
 - 2 昭和 二年 八月 三日 光村利藻氏の件従来百万思想的援助も重ねしも同氏の言動少しも当に相成申さず新規得意先の開拓は此上六ヶ敷かるべし (付1) (メモ) 春秋社社長神田氏と雑誌海軍発行の相談 同社よりの申出に付特別の御詮儀に預りたし (付2) 光村利藻の現状・工場旧債・身辺整理・生活安定に関し報告
 - 3 年二月二四日 三月五日木挽町山口にて粗餐差上げたし当日仙石氏も招待
- 六九九、木村浩吉

- 1 明治四二年一二月 三日 今般進級の恩命を蒙り一層奮励 又御礼申上
- 七〇〇、木村重一
 - 1 明治 年 八月 二日 本月十月にて現役終了 成るべく現役中に就職致したく偏に閣下の御尽力を懇願
- 七〇一、木村甚三郎
 - 1 明治四三年 八月一四日 今回御高配に依り生駒に乘し南亞南米をへて歐洲諸国を巡視するの機を得深く感謝 (付) 木村甚三郎書翰 斎藤春子宛 八月十四日付 御申付の買物の義左の通り取計
 - 2 大正 元年一〇月 一日 高橋静虎氏依頼の件は藤村を経て三越呉服店へ申込置きしも三越は目下乃木家問題に就き世状騒然たる現状に鑑み希望に応じ難しとのこと
- 七〇二、木村栄
 - 1 大正 元年 八月一四日 母堂四十九日忌に対するお配り物並に懇書に對し御礼
 - 2 大正 九年 五月二七日 御帰省の折は御謁問も致さず失礼 又其節御招待の光榮を得恐縮
 - 3 昭和 三年 五月 三日 水沢体育協會庭球部への優勝賞御寄贈御礼
 - 4 昭和 七年一〇月一一日 今回御旧邸工事御落成の機会に於て御招待の処当日は学士院總會に當るため御断り通知
- 七〇三、木邨叔明
 - 1 年 月 日 (斎藤実書翰草稿 丘囊二宛 大正二年八月三〇日付) 御手刻の雅印壺揃御惠与御礼
- 七〇四、木村秘書官
 - 1 年一〇月 七日 元帥閣下に乾行艦備砲の件に就き御尋せし処側砲としてクルップ砲四門旋迴砲一門備付と記憶自分の弟は詳しくことを知り居るべしとの御答
- 七〇五、肝付兼行
 - 1 明治二五年 二月二四日 香港在住の英国定備陸兵数に付御調依頼
 - 2 明治 年 五月一七白 高等師範学校に於て催す校友会へ出席講演の義に付云々来示の旨敬承
 - 3 明治 年 七月 一日 仁礼景雄氏荒川教授へ質問の件に付返答
 - 4 年四月一一日 人数は百五六十名乃至二百名との見込に付昨年の如く御取計下されたし
- 七〇六、清浦奎吾
 - 1 明治四五年 三月一四日 上泉少将井岡野大佐宛紹介書野田男爵より相願候処早速御受諾御交付に付御礼
 - 2 明治 年 四月 九日 飯塚納紹介
 - 3 大正一五年 九月 四日 老生今度支那滿蒙視察を思立二十日の夜下関出発 京城に向ひ御世話に預り申すべく宜しく御指導を仰ぐ
 - 4 大正 年 四月二九日 出版業者大谷仁兵衛・井田耕二紹介
 - 5 大正 年一二月一六日 鮮子鍋より故原総理大臣に内囑の件一応相談致したく御都合の日時御示を請ふ (付) (斎藤実書翰草稿) 鮮干鏑に関し故原首相より直接書面は無きも高橋翰長より首相の意を受け申来りしことあり 解決の方法を講ずるの必要あるべしと内々心配
 - 6 大正 年一二月一一日 熊本県費派遣朝鮮語学の件に付閣下に面謁希望の佐々正之紹介
 - 7 昭和七年五月二四日 第一に危懼不安の念を抱く国民を安靖せしむる為め第二に軍部に對し第三に一般官吏に綱紀肅正等の睿慮により詔勅渙發機宜に適したる議牧野内府には先日愚案を示し相談外務に内田は然るべし内務に山本達雄党臭なき公平

なる人物なれば或は然らん（付）詔勅案 昭和七年五月一八日付

- 8 昭和 七年 六月 四日 先日希望の詔勅煥発の時期経過 詔勅を煩はし奉る必要なく誠に結構
 - 9 昭和 七年 七月 七日 満鉄社長後任は児玉伯尤も可然 事業は八田嘉明が補佐すれば結構 10 昭和 八年 一月 八日 貴族院議員新聞通信の功労者より一名御任命相成りたし 光永星郎氏適当と徳富蘇峯より柴田書記官長へ陳述の趣につき何とぞ特に御詮議を希望 朴泳孝勅選議員御詮議は最結構の挙
 - 11 昭和 八年 二月 一日 法学博士松井茂につき勅撰議員の候補者多数の中に於て特に御留意願上
 - 12 昭和 八年 一月 二四日 操觚界より貴族院議員に勅任せられたる本山彦一・村山竜平を喪ひたるを以て光永星郎の撰定を懇請 松井茂勅任の件御記憶依頼
 - 13 昭和 八年 二月 五日 光永星郎貴族院議員勅任の件御裁成を忝し感謝
 - 14 昭和 九年 九月 二〇日 泰東書道院第五回展覧会出品依頼（付）泰東書道院第五回展覧会規程
 - 15 昭和 一一年 一月 二四日 故東郷元帥記念事業会名誉会長推戴を御受諾あらんことを依頼
 - 16 昭和 年 二月 二一日 鮮干鈞先年来の言行に徴するに鮮人としては誠に真面目なる人物彼れに宣伝的新闻機関を經營せしむること参考迄に申述
- 七〇七、清河純一
- 1 明治 四三年 八月 一五日 御伺の葡萄酒の件判明
 - 2 大正 一二年 三月 二二日 小生此度国際連盟に関する事務を以て欧米出張 七月 一日 渡米 出発前に満鮮へ通過いたしたく京城に於て御機嫌を伺ふ事を得は幸甚
 - 3 大正 一三年 六月 六日 四月 二六日付懇書拝受 御令息此度欧米御旅行の趣結構 名門の子息海外漫遊増加は主義として慶祝の事ながら内地に於て「日本か世界一」なるか如き気分へのぼせ上りしは遺憾
 - 4 大正 一四年 三月 一三日 齊様欧米巡遊は成効 小生五月開催の国際兵器売買条約会議を終り次第帰朝 閣下宮中入と仄間邦家の為め慶祝
 - 5 大正 一五年 二月 八日 李王職次官篠田様には小生より面会を手配 閣下御手紙にある年額は多額の様にはあれど小生が故依仁親王及博恭王に御伴の当時の様には参らず 尚篠田様に面会の上小生知識の全部御伝申すべし
 - 6 大正 一五年 五月 四日 軍令部次長斎藤七五郎中将消化機疾患にて食物摂取不充分なるため衰弱 就ては朝鮮に於ける人参の精撰したるもの御送付下され間数や
 - 7 大正 一五年 五月 一六日 十五日斎藤中将御宅へ罷出でし如紅蔘は既に到着 本人及家人感激 只今封入の通中将自筆の手紙参り御覧の通り筆勢も未だ衰えず此の分にては恢復せらるる事と存候
 - 8 大正 一五年 七月 一五日 斎藤七五郎中将閣下送付の朝鮮人参服用 閣下より楽観的激励の御言葉もあらば効果あるべし
 - 9 昭和 三年 一〇月 八日 昭和四年は日本海海戦二十五周年に相当するに付き鎮海神社に記念塔を建立するの機起り知名者の賛成を求めたく閣下を名誉顧問に推戴いたしたし
 - 10 昭和 四年 一二月 一一日 作間御用掛外国出張の儀に付き主義より一歩進みて旅費の点迄一応加藤大将・山梨次官に一言御咄下されたし
 - 11 年 九月 二一日 遣英宮殿下に隋行の記念として粗品御笑納下されたし
 - 12 年 九月 二四日 Picture Puzzle 大小式組供高覧
- 七〇八、清藤徳弥
- 1 大正 九年 九月 三〇日 朝鮮海軍警備力増進に就て山梨軍務局長来鮮を機として協議
 - 2 大正 九年 一二月 一三日 拳銃譲渡手続進行に付軍務主務者より閣下の御話を御願致したき旨申越 然るべく御話下されたし
 - 3 年 一二月 一〇日 朝鮮沿岸警備につき別紙の通り司令官の御承諾を得総督府警備船修理費節約の問題につき要港部修理工場

に委託せは相当整理の見込あり小官より警務局へ通牒

- 七〇九、桐島像一
 - 1 年 七月 四日 芝愛后下地所の地料計算相違 暫時は其俣模様御覧相成の御思召了承
- 七一〇、九鬼はつ子
 - 1 明治二〇年一〇月一七日 本月十一日無滞着京 御地滞在中御世話様に相成御礼 御地仁礼様・ミセスコイト氏に宜敷御伝願上
- 七一一、九鬼隆一
 - 1 明治二七年一二月一九日 此度友人犬熊氏写生銅像を企立居るに付き同人より御尋致したき儀あり一筆御返書相成たし
 - 2 明治三〇年 四月 七日 委員投票の件は岩崎男も三井男の釣合上発起人文申込 枢府連中も大賛成
 - 3 明治三四年 五月 三日 在香港郵船会社支店長三原繁吉より依頼の件に付詮議願 詮議内容通知依頼
 - 4 明治三九年 三月一一日 三崎亀之助もはや数日の生命 同人亡後吉村海軍少佐をして三崎未亡人を介助の為吉村少佐の転地横須賀在勤を遺言として懇願に付御承諾のデンシン下されたし
 - 5 明治四二年 四月二〇日 忠勇顕彰会定款改正の件は別紙の通り主務大臣の認可を得登記申請相済
 - 6 明治四四年 八月二三日 故フェノロサ氏遺稿出版の計画に閣下の芳名列記致したし
 - 7 明治 年 二月一三日 小生門人たる小田綱太郎面接依頼
 - 8 明治 年一二月二五日 来る十二月四日御来車下されたし
 - 9 明治 年一二月一〇日 来る十七日富士八嶋両艦諸士御招待 今日拙子は出会见合はせ
 - 10 明治 年一二月二六日 小生困難事に関する別紙四通の親友証人の部へ御記名依頼
 - 11 大正 元年一〇月一七日 海軍大臣御昇任祝詞
 - 12 大正 二年 三月 五日 内閣の首班たるべき人が政党の外にありて国政變理の大任を完ふせんことは如何にも困難至難
 - 13 大正 三年 二月二二日 昨日の大阪毎日村上中将の弁明なるもの甚痛快 悪謀好計は甚しかるべきも御奮闘を切望（付）「大阪毎日新聞」大正三年二月二一日付記事「村上中将の弁明」
 - 14 大正 五年一二月一八日 忠勇顕彰会員に御揮毫賜わりたし
 - 15 大正 七年一〇月一五日（伊集院五郎・土屋光春と連名）忠勇顕彰会定時総会築地水交社にて十一月四日開会
 - 16 大正 八年 一月一五日 忠勇顕彰会翼賛会員へ御揮毫を賜りたし
 - 17 大正 八年 八月三一日 閣下朝鮮御赴任前又々騒か敷事ありし様子なれど閣下の方針と徳望及知識とに由り鎮撫の功必ず挙がり候事と確信
 - 18 大正 八年一〇月 日 世道人心甚だ陰険にして経済的金力の脅威台頭寒心に勝へず 頃日講演を試み注意を促し印刷を以て謄写に代へ一本を坐右に進呈
 - 19 大正 八年一二月 五日 忠勇顕彰会委員閣下の御揮毫を頂戴仕りたく懇願
 - 20 大正 八年一二月 八日 朝鮮の事端今回大陰謀の発覚並びに呂某宣伝の事件は実に意外善後策種々御苦心あらせらるべく遥察下見雄造生の事に付御親切拝謝
 - 21 大正 九年一〇月 三日 別冊速記内地の近状御洞察の為め御一読下されたし 御一読後水野殿へ御廻付下されたし
 - 22 大正一三年 一月 二日 別封にて申上げし大事件に就き松方公にも西公にも牧野子にも同意を得るも時すでに遅しせめて清浦のあとをつぎ議長につかば再出成の時のために便利多からん（付1）九鬼隆一書翰 斎藤実宛 一月一日付 松・西及牧野等に送付の別紙極秘書状御内覧下されたし 雄造の事に付御礼（付2）九鬼隆一書翰 現内閣総辞職の決定は実に危機一髪の虞ある一大重事 就ては責任の処分は内相及警視總監に止め現内閣をして御優詔の聖旨を奉体し国家の安泰を謀らしむる様御尽力を禱望

- 23 大正一三年 月 日 激震猛火の大災難を偶然に免れたる奇蹟の品を差上 閣下並に令夫人の百歳の寿を望む
- 24 大正一四年 七月三十一日 (封筒に「此書状は現内閣組織前加藤首相へ差出したるものに御座候」と記) 国家の前途を憂慮する者は閣下の御方針に賛同 此上干難万難を排して勇往邁進せられんことを切に奉祈
- 25 昭和二年 三月三十一日 (看護婦代筆) 昨今眼病をおこし細筆細読出来ず 大筆にて達磨をかく事を楽しみ ここに得意のもの十幅表装進呈
- 26 昭和二年 四月五日 (看護婦代筆) 別冊拙著御参考に差上 小生は欧洲大戦終熄の頃より各国が武力経済力の競争を避け正義人道を以て之を律すべきと確信 其動機は彼ウィルソン氏に感動 閣下奮闘を切望
- 27 昭和二年 九月二六日 総督交迭は妄動蜚説に外ならず 是非閣下の奮然留任在せられんことを懇望切希 枢府に於ても同感同志の者大多数 議長をして目的の達成に極力尽瘁せしむる事を進めつつある次第
- 28 昭和四年 四月二八日 (看護婦代筆) 御多用中わざわざ御立寄下さいましたるに御礼辞の事不行届の至 堤久鹿といふ齒科医紹介
- 29 昭和五年 一月一四日 (看護婦代筆) 下見雄造への御重恩御礼 大達摩三幅対を差上たし
- 30 昭和六年 六月一七日 (看護婦代筆) 一辞表御提出の由にて邦家のため実に忍難き事 枢府御復帰切に祈上
- 31 昭和六年 七月一四日 (看護婦代筆) 国家の爲め至忠至誠の閣下に対し現政府のなしわけしからん 満鉄営口勤務の下見雄造近日閣下の御所在相伺のつもりには付御行動御一報給はりたし
- 32 昭和六年 七月一八日 (看護婦代筆) 下見雄造が二三日中に当地に到着 病状思ふに任せず参上出来ないため閣下の御来邸をたまはり御礼を尽したし
- 33 昭和 年 月 日 (看護婦代筆) 病状目下第二期に入り悪化警戒 九鬼男爵喜寿記念帖御一読ねがう 私のダルマ最大のものの表装送付
- 34 年 一月五日 西郷大臣・吉井幸助近況報告35 年 二月 一日 御上京中の由唯今伝聞 明二日夕六時か三日夕六時に粗餐を供したし
- 36 年 二月一八日 拙子が当分本邦在留の義は其他の友人にはよくよく解説の必要あり 別てハワイ公使ローゼン夫婦等へは十分説示下されたし
- 37 年 二月二四日 過日西郷海軍大臣に面談後来大に見込ある人物にて芝山・レポルトも大臣を称讃
- 38 年 三月四日 福井敏知を方今募集の満鉄員に御採用依頼
- 39 年 三月五日 金子三百弗只今長尾宛為替券此中へ封入に付御渡下されたし
- 40 年 三月一〇日 米国人人類学博士フレデリックスタール氏近日御地へ旅行' 宜敷奉願
- 41 年 四月三日 病妻の御世話の御礼として狩野周信の画像など進呈
- 42 年 六月一八日 下見雄造間島にて水田開墾事業に奮闘の処肺に故障のため京城にて入院 全快の上 (農事に関して) 御採用下されたし
- 43 年 七月四日 御懇篤極るデンシン難有彼が僅かに学び得たる農業に従事させるより外なからんかと存じ居り御部下をして御監督方に希上たし
- 44 年 七月五日 川崎の事御蔭にて金は五二銀行へ振込 三井の大きぶりは本会の大厄にて規模縮少を要す次第今日の返事分で寄付金高三万七千円・人員三十五人に相成
- 45 年 七月一九日 故郷摂津有馬郡三田邸に於て御覧に入れたき物あり御入来願上たし
- 46 年 七月三十一日 別紙目録呈上 (付1) 九鬼隆一書翰 斎藤実宛 此五六日中面談希望 (付2) 九鬼隆一書翰 斎藤実宛 七月三十一日付 御内約の物呈上
- 47 年 八月一五日 (看護婦代筆) 達磨御入用の節は御申越願いたし

- 48年九月六日（代筆）関野博士不参に失望 雄造目下の処勤勉仕り居るものの如く此段御礼
 - 49年九月七日（代筆）万事は関野博士より御聴下されたく希上 閣下の御手書拝見小生等同志意見にて感称赞嘆
 - 50年九月一日 結構なる御物御礼
 - 51年九月一日 三田膏磁小品呈上
 - 52年十一月九日 明十日食事差上たし
 - 53年十一月二日 長女光子今般政尾藤吉と結婚 来十二月四日内祝に御来車下されたし
 - 54年十一月二日 山科宮総裁就任承諾の通知受け次第宮御殿昇段の件依頼等につき家令香川に面談
 - 55年十二月三日 明四日夕方四時半に芝紅葉館へ御来車下されたし
 - 56年十二月三日 種々物語も致したく一月三日を期居りしも此節家内大混雑につき三日の事も延引下されたし
 - 57年月一日 呉行の際大久保侯爵と小生同伴致したきに付準備方依頼
 - 58年月一日 下見雄造に付き総督府吏員に御使役下さらば幸甚 妻を娶らせ下さる事に就きても宜敷御願
 - 59明治二八年 二月二五日 和泉艦副長就任祝詞
- 七一、草場辰巳
 - 1大正一年 三月 九日 永興湾要塞地帯内に漁場用小舎建設に関し御下命の趣取調せしも建築許可困難 御帰鮮までに適当なる地点研究の上御報告申上る事に致したし
- 七二、串田万蔵 1明治四年四月一日 演説筆記一冊三十九年一月のものなれども現下の状態に照して頗適切なる者あり一組御通読のため差上
- 七三、葛生東介
 - 1大正三年 四月九日（安井正太郎・川島清治郎・桜井轍三と連名）海軍大臣退任につき多年の御指導御高誼に謝す（付）斎藤実書翰草稿 御挨拶を辱ふし感謝
 - 2大正七年 七月 三日 海軍協会は目下予備海軍軍人の暗闘場と化せんとす 小生如何とも致し難く過日退会已むべからざるに立至りしも伊地知・佐藤海軍中將により思い止まれり（付）葛生東介「海軍協会退会始末」大正七年六月
 - 3大正八年 八月二三日 金玉均表彰の件につき犬養毅・頭山満・浅吹英二氏等の委嘱により奔走 原首相に対しても一書捧呈 岡崎邦輔氏巨細事情承知の筈につき御承合下されたし（付）「金玉均表彰に関する書類謄」大正五年一月・五月
 - 4大正九年 一月二七日 故金玉均の表彰及び遺族の救済の件に関し面会下されたし
 - 5大正九年 八月 六日 兼て御高配を煩はせし件に付ては正式の願書調整の為め金英鋌氏出城相成べく諸般御指示下されたし 右御許可の上経営方法は覚書の精神に基き確立
 - 6大正九年十一月五日 金玉均に関する地所御払下の義今般御許可 速に渡韓し水野総監の指示を仰ぎたし
 - 7大正十一年八月二九日 昌信洞石材採取に付き鬼頭兼次郎氏所有地使用の件は閣下の御紹介により先方と直接交渉開始遺憾ながら好結果を得るに致らず
 - 8大正十二年 六月 二日 昌信洞地所の義前月下旬に渡韓し金氏と協議の上経営に着手致すべき筈の処病氣にて渡韓見合せ
 - 9大正十三年 二月 三日 福岡県人の月成勲氏上京 福岡市に特別学校を設け朝鮮支那南洋に活躍すべき人物を養成するの目的にて閣下の御賛助を願上 同氏には昌信洞石山事件を委托
- 七四、楠本武俊
 - 1年月日 栖原角兵衛当地の支店は今は壱ヶ所も無し 尤も御問合の義は遠慮なく御申付下さらば至急取計
- 七五、工藤英一

- 1 大正 年 一月一四日 麻生音波氏北鮮輕便鐵道の敷設と同地方甜菜栽培の意見開陳希望に就き御引見依頼
- 七一七、国木田哲夫
 - 1 明治 年 月一五日 近事画報へ露国東洋艦隊の写真掲載の調査の為ナバルアンナル新刊の者拝借依頼
- 七一八、国友尚謙
 - 1 昭和 六年 六月二四日 総督退官に当り御挨拶申上
- 七一九、久原房之助
 - 1 大正一三年 三月 一日 まながつお贈呈 両閣下の写真に揮毫の上御御贈与願いたし
- 七二〇、久保田讓
 - 1 明治三五年一二月一二日 東洋大勢図・各国軍艦表御交付依頼
 - 2 明治四三年一二月二八日 海軍趨勢御贈り下され難有拝見
 - 3 昭和 八年一二月三〇日 岡田良平氏垂病此際授爵詮義内顧
 - 4 昭和一〇年 一月二八日 ラッセル博士の論点は当路者として銘記すべき確言 (付) 新聞記事切抜「日本も一歩説れば大戦前のドイツか」
 - 5 昭和一〇年 七月二五日 ラッセル意見他山の石として参考のため御一読に供す (付) 「東京日々新聞」昭和一〇年七月二三付 蘇峰生「甘言と苦言」
- 七二一、熊谷茂之助
 - 1 大正 二年 八月一〇日 黒田候爵・金子子爵を始とし益軒会を組織 同会編纂の貝原益軒全集完成に付購入依頼
 - 2 大正 二年 八月一五日 貝原益軒全集購入の依頼
- 七二二、倉賀野義正
 - 1 昭和 七年 五月二二日 大命を拝受国家の為慶賀 政党员の入閣制限・公債増発の危険性・匪賊討伐と満洲国承認による人心安定の必要など意見具申
- 七二三、倉知鉄吉
 - 1 昭和 六年 六月一七日 日露協会第二十五回定時総会は昨十六日開会 昭和五年度事業・会計報告承認 閑院宮より諭旨を賜はり会頭奉答を小生代読 トロヤノフスキー大使の挨拶あり (付1) 御諭旨 (付2) 斎藤実奉答 昭和六年六月一六日付 (付3) 名誉会頭トロヤノフスキー大使の挨拶 (付4) 在モスクワ対外文化連絡協会電報訳文 日露協会宛 祝意を受けられんことを望む
- 七二四、倉富勇三郎
 - 1 大正一〇年一二月 四日 紅箏御恵贈御礼
 - 2 大正一二年一二月二八日 渡辺暢君の件は先日山本首相に依頼し樺山翰長と再三相談 世子殿下の件は表面の問題に相成りては面倒につき可然御配慮奉願
 - 3 大正一四年 六月二二日 世子殿下と高事務官との関係調和出来難く今日更に世子殿下より至急更迭を希望 本件に対する意見・適任の後任者の有無・内地人を後任とする可否・高の処分に付御内示下されたし
 - 4 大正一四年 七月 一日 世子殿下と高事務官の対立に関し宮内大臣も同意見 洋行の時は高をして随行せしめざる事・高をして是迄の如く殿下の意に反対せざる様注意せしむる事にし或る時間まで高を其俣に差し置く事世子殿下御承諾
 - 5 大正一四年 七月一九日 御地洪水御見舞

- 6 昭和 七年 九月二八日 朝鮮書道著華御惠贈御礼
- 7 昭和 七年一〇月二九日 顧問官補充の儀に付き山之内一次にて異存無し 内定の上は本官より内奏
- 8 年一〇月二一日 渡辺暢君の件につき御配慮感謝 9 年一二月一五日 烟草井に林檎御惠贈御礼
- 七二五、栗野慎一郎
 - 1 明治三七年 五月 九日 我国野戦病院視察の為本邦へ渡来のマクコール夫人紹介
- 七二六、呉海軍工廠長
 - 1 年 月 日 (電報) 八七二〇〇円をコウゴウ戦艦と子ウシ二隻負担の件同意致す
- 七二七、黒井悌次郎
 - 1 明治二四年 四月一六日 魯太子一行への礼砲に付疑義伺
 - 2 明治二四年 五月一一日 一昨日魯太子上陸 魯艦アゾウ鹿兒島より当港迄十六ノットの速力にて八重山のみ命からがら先導し 他は及ぶものなし 一朝事あるの日を杞憂
 - 3 明治二四年 五月一八日 露店は明日発艦のよし 然し此も公然たる報知のありたるにあらず 本日殿下御誕辰に付言艦よりは通知なし 午後六時伊東少将より明日露国皇太子殿下御発艦とのこと
 - 4 明治二四年一二月一九日 昨夜紅葉館の席上にて一寸耳にいたせし事に付祝辞
 - 5 明治二七年 二月一一日 一条氏病氣全快 来月九日の宮中御大式には参列の様御治定に付き東京近地の任務なれば其節出京に差支なきこと御含おき下されたし
 - 6 明治三二年 三月二三日 筑紫井に竜田よりの消息拝承 両艦よりの報告は其都度総理大臣および外務大臣へも御通知致すべく 依命用意
 - 7 明治三三年 七月 九日 北京征伐に関しては日本より出兵決定 新進国たる我邦の技倆腕前を現実に列強現時の中に現はす好機会 英国新聞紙上の議論も己れの利益の一天張 (付) 『The Times』 一九〇〇年七月七日付記事切抜
 - 8 明治三五年 一月 六日 小生帰朝を命ぜらるべしとの伝聞あり 本年六月以後に於て御都合次第帰朝命ぜられたし 米国駐を希望
 - 9 明治三五年 三月 四日 紐育及費府観覧を終え華盛邨に入り本日ニューポート・ニュースの造船所一覽 明日ピッツバーグに赴きカーネギー工場一覽 それよりナイアガラ・シカゴ等を経て桑港に帰る予定
 - 10 明治三五年九月 二日 八重山浮揚げ成功 小幡中監その人の功勞に感謝 当日に於ける負傷氣の毒に堪へず
 - 11 明治三六年 八月二八日 艦船も近々集合 港内は大演習以来の盛況を呈すべし 本年は清潔法を励行目下衛生上好況 佐世保も市となりたる結果家屋に対する課税法外なる上借家のなきには閉口
 - 12 明治三八年一一月 四日 当廠勤務中の技術官転任の件に関して電報を以て御回答 猶現下当廠に於ける技術官担任業務の状況等参考迄に略述
 - 13 明治三九年 七月 二日 松方氏は他に使用用途なき予備エンジン・貯蔵品若干御用立申すべしとの事にて佐世保の小山造船大監も同意 直ちに川崎造船所へ代価・引渡数等取調返事方照会 右の結果良好なればドリル一台増加の事公然上申
 - 14 明治四一年 一月一一日 本年五月万国航海會議を当露都に開くことに相成 転任も右時期以後に於て恩命に接することを得は幸甚 露国海軍の造船政策問題遷延決せず
 - 15 明治四五年 六月二〇日 御萱堂様御他界の由御悔申上
 - 16 明治 年 三月 一日 只今西大尉に至急次官宅まで来らんことを通しやりし処四時五十分の汽車にて出発せしとのこと
 - 17 明治 年 三月二七日 来る四月神武天皇御祭典に付西郷内務大臣には九州地方御出張のよし 就ては舞鶴軍港御立寄御巡視を相願たし 松方大蔵大臣にも御同行せられんこと希望

- 18 明治 年 七月二九日 二十四日出発ハンブルヒに渡りブレメン及ブレメンファーフェン等の海港設備・ウィルヘルムサーウン軍港設備観覧
- 19 明治 年一二月 二日 筑波遭難の書類纏り候に付差上 御一覧後返付願いたし
- 20 大正 三年 八月一四日 十一日帰着 候補生一同元気万事好成績にて練習終了 電気按摩器一具献上
- 21 大正 三年一二月二五日 安芸復旧工事は四ヶ月の日子と廿七八万円の費用を要し修理としては一大事業 比叡にて二十五節の速力に於ける魚雷試発射は魚雷の外皮厚くせば故障なきこと確認
- 22 大正 四年 二月一一日 新造駆逐艦建造・安芸の復旧工事意外の進捗のこと 新艦山城の建造は本年十月末には進水と確定
- 23 大正 七年 三月一九日 山東蔬菜差上げし処御挨拶を辱ふし恐縮 支那中央政海波瀾と北満洲の乱調子何かと緊張
- 24 大正 八年 九月 三日 南大門駅に於ける凶変は言語同断驚入たる次第
- 25 大正 九年 八月二三日 今回陞任への祝電御礼 今後共御指教を賜はりたし26 大正一〇年 一月 二日 伊集院元帥突然御発病一時は危篤 病名は動脈硬化に依る脳症と申すことにして一同痛心
- 27 大正一〇年 一月一二日 伊集院元帥の御様態は日一日と不良の程度増進 本日あたりは殆と絶望の域に達し誠に残念（付）主治医馬場辰二「伊集院元帥容態書」
- 28 大正一〇年 七月二五日 折角奉持御愛重候
- 29 大正一〇年 九月一七日 黄海記念日に際し御健康を祝し禱御愛重候
- 30 大正一〇年 九月 七日 震災による東京付近の惨状詳細報告 留守宅は外見異常無し 朝鮮人騒ぎも漸く人心鎮静に帰したり（付）焼失地区地図
- 31 大正一二年一二月一三日 永野氏の結婚披露会にて有吉氏に会晤し閣下の御近状拝承 軍縮の結果有為の青壮年続々引退邦家の為め憂慮 名和將軍動脈硬化の為静養 閣下も切に節酒御愛重の様祈上
- 32 昭和 四年 九月一〇日 班目日仏師の住所往訪 大体の様子判明 要するに日仏の言ふところは実際とは懸隔あり 同師に関して小生の見るところ誤なきものと自信
- 33 昭和 四年一〇月一五日 班目日仏の件取調の処別紙の通にて飛でもなき坊主を御紹介申上御詫 朝鮮人に対する仏教々化運動位は別に援助を与えずとも工面致すべしと存候（付1）青柳一太郎よりの来信抜粹 昭和四年一〇月五日付 班目氏住所の様子報告（付2）警察署長に依頼の調査報告 昭和四年一〇月八日付 班目氏の信用の程度・他人の信仰の有無・品行等報告
- 34 昭和 五年 七月 九日 倫敦会議に関しては世上の物議騒然 海軍に人なきを暴露すると同然にて残念至極 別紙の謄写版摺は当事者より内聞致せし処と九分通は符合 御参考迄御目に掛け申候
- 35 昭和 六年 二月二四日 山下源太郎死去 遺骨は来月五日頃帰着の筈
- 36 昭和 九年 八月一七日 故山本伯伝記編纂会委員につき種々経緯あり 結局故伯爵が海軍大将時代の秘書官たりし者に局限することに相成 縁故関係の人々には成案決定前広く閲覧を請い意見を聴取し加除修正を加ふ一度閣下より委員へ訓示願いたし
- 37 昭和一〇年 九月一七日 故伯爵山本海軍大将伝記草稿別便にて送附
- 38 年 一月二八日 朝鮮産の猪肉御恵贈難有拝受 西瓜・小鴨差上
- 39 年 二月 九日 当地甘鯛の味噌漬御笑味下されたし
- 40 年二月一八日 過日日光御獵は誠に不猟廉肉味噌漬御笑味下さらば幸甚
- 41 年二月二六日 郷里米沢の鯉一尾御笑味下さらば幸甚
- 42 明治 年六月二〇日 独逸肺林痺親王は二十七日に神戸二十九日に横浜に着伊東大将及片岡少将を接待委員と定めらる 艦隊は六艦新式を希望
- 43 年 七月 七日 艦隊も北海・樺太の巡航を終へ函館に帰着 炭水補充次第青森湾に回航
- 44 年 九月二六日 当地は三月来大早にて井水の欠乏には難儀せしも伝染病は皆無にて健康 台湾各地見聞に関する雑件御一読

の栄を賜はりたし

- 45 年 九月二七日 (春子宛) 甘柑少々献上
- 46 年一〇月 四日 (春子宛) 米沢よりのしめじ御笑味下さらば仕合
- 47 年一〇月二八日 於旅順手製の鶏御試し下されたし
- 48 年 月 日 英国の儀礼に付照会

• 七二八、黒板勝美

- 1 大正一四年一二月 八日 平壤楽浪古墳の儀一両日中発掘品輸送の筈 博物館藤田亮策氏在外研究員として留学の事事務局長より拝承
- 2 大正一五年 五月二〇日 藤田亮策渡欧研学と中村栄孝の朝鮮史編修会囑託赴任につき御礼 楽浪遺品についての報告書此七月中に出来申すべき見込
- 3 大正一五年 六月 二日 宗家記録文書につき本日実物を発送 中村栄孝氏朝鮮史編修囑託として赴任に付購入に關せし事御聴取下されたし
- 4 昭和 九年 六月二五日 内藤湖南君危険状態との電報 此際御思召を以て最後の光栄を飾られん事御高庇を願う

• 七二九、黒岡帯刀

- 1 明治二九年 二月 三日 ジェーキス氏滞在中の御篤志感謝 書籍は小包にて送付願いたし
- 2 明治二九年 三月三一日 ジャークス氏よりの書籍領収 スターリン弾丸採用の件エゼントとしては目下川崎造船所川崎貴族院議員子息芳太郎に代弁の勞を採らしむ考へ
- 3 明治三三年 一月 三日 台湾専務警備艦葛城の功勞に対し総督を経て行賞を具申も陸軍に交渉中なりとて御詮議未了 葛城艦始末の報告の写し送付
- 4 昭和三三年 六月二九日 在天津の外国軍隊に対する清国軍隊砲撃の電報に心痛清国が匪徒鎮圧に従事する迄我軍隊の駐在必要 清朝の反省を求むる為太沽の封鎖肝要
- 5 明治三五年 一月 九日 武井大佐・津田大佐遺族へ引続き恩賞相成りたし
- 6 明治四〇年 二月一〇日 貴族院における三十九年度追加予算委員会又は本会議における説明のための参考資料送付 (付1) 黒岡帯刀報告英国第一巡洋艦隊司令官ネビル氏来る五月渡米の由英国人の永久植民三百年紀念を催し列国の海陸軍に参列を請求するものならんか (付2) イギリス海峡第一巡洋艦隊所属艦名メモ
- 7 年 八月一〇日 基隆及馬公等の設備員幕僚縮少のこと副官壱名位残置にて然るべし 陸軍にては混成師団長設置に向け準備中との由なるも海軍司令官は老年壱回位総督府に出頭し大体の方針を議決すれば時々交渉の必要もなし

• 七三〇、黒木吉郎

- 1 年三月三日 御下命の炭鉱図面及鉱区所有者並に鉱区番号一覧表送付成北炭田の開発・経営方法改善について意見陳述
- 2 年一一月一七日 御下命の有煙炭田統一計画案過日差出候処其後探査の様子も加え色々工夫仕り三様の案を作成御高覧下されたし

• 七三一、黒沢信良

- 1 年 三月一三日 移転登記意外に遷延 当方明日より札幌に約二週間出張の見込

• 七三二、黒田長敬

- 1 大正一五年 五月 丑日 錦地出張の際の配慮御礼

• 七三三、桑池真郷

- 1年二月三日 私も元気に執務目下南支南洋方面の輸出係を担当
- 七三四、郡司智麿
 - 1大正一一年 八月 一日 弟好麿勸業模範農場へ入場相叶侯様配慮煩したし
- 七三五、郡司成忠
 - 1明治二十七年 七月二九日 海軍大臣の御確答を得るよう御配慮依頼 報効義会の事業につき大臣閣下の意見を貴下より父成延に御一封下されたく希望
 - 2明治二十八年 一月一七日 戦利帆船捷敏号千嶋事業に適當と存じ報効義会に申受 六月占守島に向い候様致したく希望 (付1) 郡司成忠電報 斎藤実宛 明治二十八年二月一〇日付書面到着せしや (付2) 郡司成忠出願書写 西郷従道宛 明治二十八年 千島拓殖事業に付願意採用願 (付3) 斎藤実覚書 時期宜しからず見合られたし
 - 3明治二十八年 四月一七日 閣下の配慮の結果召集を解かれ有難 敏捷号報効義会下附の件尊慮の通り坪井少将並に三浦大佐並に海兵団長木藤大佐等の意見伺い内務大臣にも事情具申
 - 4明治三五年 二月 八日 大宰府の管公一千年祭に軍艦雛形を陳列の上説明を付し海軍志想を憤起せしめ一方に報効船隊設立熱意を布演致したく御賛成願上
 - 5明治三九年 一月一八日 海軍大臣就任祝詞
 - 6明治四〇年 一月二〇日 ラッコ皮六枚共高輪御殿へ御用被仰付候につき御礼
 - 7明治四二年 二月一五日 新造船第二報効丸担保契約とその保険証及船体担保金にて金壹万五千元借入れ出来候様御配慮叶はば確實なる發展をなし得べし
 - 8明治四一年 二月一六日 過日御願の御揮毫御染筆依頼
 - 9明治四一年 二月二二日 尾張丸 (沈没船) を買入れ之を引揚げ修繕するに資金六千円の他借必要 交渉確定次第横須賀へ参るべし
 - 10明治四一年 二月二五日 尾張丸 (沈没船) 買入断念 石炭運搬船のための資金貸与呉る人御紹介願いたし
 - 11明治四二年 三月 八日 十六年間日夜思いをこらせし事業すら露国大使の容喙により果つる運命をもてり 支那方面へ行くより寧ろ商船学校長となりて実地役に立つ海員を仕立つるは如何にや
 - 12明治四二年 三月 八日 昨日総会に於て組合とは一切の關係を断ち申候につき宮岡君へ事情説明と同氏御助成を乞ひたく依頼
 - 13明治四二年 三月一九日 成忠は厭迄当初の目的たる沿海州發展の業に従事を希望 不在中石炭庫建築の件如何相成べくか心配
 - 14明治 年 月 九日 火薬・電信線類等若し御不用品又は帳簿外等の物有れば御恵与を希望
 - 15明治 年 月 日 三菱銀行副支配人は久弥様に申上候上返事との事にて貴下より久弥殿へ郡司に便宜を与へるよう出状を依頼
 - 16大正 七年 二月 三日 千九十三年露国砕氷船発見の大陸に露国政府はニコラス二世大陸と命名も露国地学協会会長はさる大陸ある筈なしと主張 それ等を探検の趣意とすべく調査中
 - 17大正 七年 三月二四日 極東シベリヤ四州の独立と久原の資金援助に対し陸軍参謀部の意見を知るため田中氏もしくは上原氏宅への同道を上泉徳弥氏に依頼
 - 18大正 八年 一月二八日 二十五日チタ着 志岐中将より兵站部長に宛て郡司成忠に旅行券を下附すべしと云ふ電報を發せらる様閣下より志岐中将へ出状願
 - 19大正一〇年一〇月 七日 (途中郡司智麿より郡司成忠あて書翰を添付) スパスカラ在住の郡司智麿より鮮人の状況視察復命書を斎藤総督に御送付方可然哉とのことにつき同報告書を小包にて發送

20 大正 年 六月 九日 拙者四男郡司好磨農事視察員の供として京城訪問につき御引見御訓戒依頼

- 21 年二月二六日 昨年十月北洲丸遭難により糧食手薄につき本年度武蔵艦御巡廻は遅くも六月十日頃迄に占守嶋到着の様御配慮下されたし
- 22 年 四月二二日 先刻一件書類につき御一覧の上書かへを要すべき事あらば電話にて御指定の場処へ出頭 異議なくば其旨御通知相願
- 23 年 六月三〇日 弊会員竹田喜蔵氏の件に付会員加藤或は荒之内来邸 御引見依頼
- 24 年一〇月一〇日 仰に従ひ慎て修養し時期を待ち申すべし
- 25 年 月 八日 弊会会員一名豪州航海軍艦便乗願上の処農商務省より元会員藤田勘太郎便乗につき同氏に委細を托すこと通知 慶応義塾学生松岡正男氏御引見依頼
- 26 年 月一〇日 内務省より横須賀鎮守府付満仲丸保管転換の義に付照会御手許へ廻り候哉問合
- 27 年 月一一日 グラブニーチ氏一昨夕東京発 鹿児島・大阪博覧会等訪問
- 28 年 月一一日 昨日協議の結果利益を得る様に計画せざる可からずとの事に一決 趣意書及計画書取消
- 29 年 月一二日 沿海州に漁業貿易を営む株式会社計画につき渋沢男より貴下へ拙者身上に関し問合せ等なしとも計られずその際小生の欠点なども残りなく御話しされたく希望
- 30 年月一七日 弁天島全部を北海道庁より取り其のかはりとして今の石炭庫の地所を道庁へ御遣し相成方御都合よきにはと愚考

• 七三六、郷古潔

- 1 明治四二年 六月一四日 斎藤斐章欧米留学出発に付芝浦竹芝館に於て同郷有志による送別の小宴開催 御貴臨の栄を仰ぎたし
- 2 明治四二年 六月一五日 斎藤斐章の送別宴二十日午後四時竹芝館にて開会の次第と変更
- 3 明治四二年 九月 四日 三菱鯨田炭鉱着任は先月三日 坑長は川武定男の令弟にて親切の人物 四囲の同僚は旧式の人物にて一向刺激せらるる機会なし 一旦赴任の上は担当の期間分の貢献は仕るべき所存
- 4 明治四四年 七月二三日 小生勤務問題につき本年四月門司支店と鯨田炭鉱との相談纏るも炭鉱水災及炭坑長の病気により遷延客月上旬勤務の辞令を受け本月二日当地へ着任
- 5 明治四四年 八月一三日 小生義客月二十六日無事婚儀相済
- 6 大正 二年一二月三一日 妻男児出産 命名の依頼
- 7 大正 三年 一月 六日 豚児栄一と命名の義への御礼
- 8 大正 三年 四月二〇日 栄一生後満百日記念撮影出来に付別便送付 政界多事時局紛糾の折皇太后崩御せられ国際対峙上機会を失う事なきや懸念に不堪
- 9 大正 八年 三月三〇日 支那漢江支店長へ転任の挨拶
- 10 大正 八年 五月一九日 次男死去に際し奥様慰問に対し御礼
- 11 昭和 二年 一月 一日 年賀状
- 12 昭和 二年一二月二七日 朝鮮産林檎送届御礼
- 13 昭和 二年一二月二五日 総督退任並に枢密顧問官栄任に付き一層の健勝を祈念 一高以来の刎頸の友丸山鶴吉夫妻と来一月面会
- 14 昭和 三年 一月一〇日 丸山夫妻帰朝に付出迎の上来意を伝へ名刺引渡 急用の為上京に付御見舞旁々参上の心組にありしも都合にて帰神を急ぎ遺憾
- 15 昭和 三年 三月一七日 水沢両銀行合併問題に付ては帰郷の上後藤氏などに懇談せざる限り相当紛糾の因縁あり後事を小野君に托し帰任を急ぐ次第 此程志賀代議士の斡旋にて後藤町長・大蔵大臣へ陳情の由 所詮物にはなるまじく私考

- 16 昭和 四年一一月一九日 仁礼様御志母逝去哀悼 藤原君御口添の鹿島組御地出張所に採用決定
- 17 昭和 五年 二月一日 就職依頼の件は客年末鹿島組朝鮮方面に就職の事藤原君の斡旋にて略々成立 土地改良会社藤原社長よりも高配を得本人より謝状差出 坂本宗蔵君死去
- 18 昭和 六年 四月 七日 斎藤文也氏一行の乗船大東丸は航行中機関室に火災目下パラオに回航碇泊中 マノコワリに於ける事業に付具体的計画を建つる余裕なし 唯高瀬貝採取は沖繩の漁夫に請負はしむ方針
- 19 昭和 六年 九月二九日 石塚・丸山両氏のパプア通商協会後援の義につき書状賜はり有難し 文也君南洋興発会社社長松江春次氏と面談せし処当方の申入に対し好意的態度
- 20 昭和 六年一二月二九日 パプア通商協会資金枯渇により事業行詰まるも南洋庁納鉄木輸送と南洋興発会社納枕木代前借とに辛くも見込をたて事業復活の決心 斎藤代表の心事を語るもの御高覧のため記す (付) パプア通商協会通商報告 自昭和五年十一月至昭和六年十一月
- 21 昭和 七年 一月 二日 本日拝顔御礼
- 22 昭和 七年 二月 八日 文也パラオ明九日出帆 保証金千円丈送金
- 23 昭和 七年 四月一九日 ニューギニア商鉄木材をパラオに輸送し之を南洋庁に納入する目論見は旧臘以来対外邦貨の惨落により鉄木価格騰貴し収支相償ざるに立至る 鉄木輸送の概況・資金と経費との関係並に今後の計画に基く一ヶ月分の収支計算等御高覧のため同封 (付1) パプア通商協会現況 (付2) パプア通商協会収支概況報告 (付3) 南洋庁納め鉄木輸送一ヶ月分収支予算
- 24 昭和 七年 五月一六日 南洋庁にて当協会援助の方法変更の意向に付南洋長官へ援助方法に関する陳情・請願並拓務省へ助力依頼の為代表上京に決定
- 25 昭和 七年 五月二三日 昨日大命を拝せらるるに付別紙書中の卑見御高覧賜りたし
- 26 昭和 七年 六月 一日 松田南洋長官の内示に依り郡山拓務局長とも連絡を取り南洋興発会社々長松江春次氏と折衝 パプア通商協会の事業・財産を同社へ引継ぎ文也君は南洋庁囑託としてニューギニア産業調査の任に当ることに協定 浅利三朗を地方長官に推薦
- 27 昭和 七年一〇月二五日 雑誌「新岩手人」の維持会員快諾御礼
- 28 昭和 八年 五月二二日 隆喜死去の際に御同情御礼
- 29 昭和 九年 八月一四日 仏国に於ける発動機製造権契約折衝を兼ね欧米各国一巡に出発 江刺県出身の僧侶和賀義見紹介引見依頼
- 30 昭和一〇年 六月二三日 母死去に関する厚情一昨朝の面会御礼 講演速記・付録補遺送付高覧を乞う
- 31 昭和一〇年一〇月一三日 仁礼景嘉三菱入社希望の義重工業の方は既に申込締切に付商事会社志望方比較的有望 尚商事会社の方も時節柄志願者多数にて他方面にも志願方万全
- 32 昭和一〇年一二月二三日 仁礼様就職志願の義に付き予て志願の三菱商事及銀行の方取消 弊重工業会社へ志願方好都合
- 33 昭和一八年 三月 五日 (齊宛) 岩手興業社増資御引受申上候処思惑違 結局五百円御願申上候事止む無き次第にて御諒恕下されたし
- 34 年 八月 八日 滞京中会社へ御来駕相辱するも不在に付失礼恐縮至極 文也様の事は朝鮮へ御出発の翌旦二好氏に面談依頼
- 35 年一二月 八日 治療見舞御礼

- 七三七、郷古貞

- 1 昭和 九年一一月 四日 帯人並に端物惠贈御礼

- 七三八、甲田直行

- 1 大正一四年一二月二四日 不肖直行は全羅北道全州郡に耕地を購入し明治四拾四年に渡鮮 その後警務部長憲兵少佐伊東四郎

と意見を異にし事業の計画は破碎せられ大正七年に故山に帰り時機の至るを翹望 最後の御奉公として社会事業若くは教育に従事致したく御採用懇願

- 七三九、河野伊兵衛
 - 1 昭和 九年 八月二日 サイパン島彩帆神社神額揮毫依頼 (付1) 神額寸法書 (付2) 彩帆神社由来七四〇、河野節夫
 - 1 昭和 年一〇月 九日 国勢調査申込書記入方法の件につき国勢調査員の干渉的言辞及調査員に対する面長の威喝は穩当にあら
ず 当課より両者に指示懇諭の心組
- 七四一、神鞭知常
 - 1 年 四月 一日 過日御邪魔仕候処早速御調下さり難有 別紙返璧
- 七四二、古賀廉造
 - 1 大正 九年 四月 二日 昨年十月中上海より呂運亨招致の為め御預りの金壹万円の支払別紙の通り 上海に於ける独立運動下火
に相成全くの捨石にても無之
- 七四三、国分三亥
 - 1 大正一〇年 六月一六日 勅選議員への推薦懇願
 - 2 大正一一年六月三〇日 久邇宮官務監督就任の挨拶
 - 3 昭和 四年一〇月一三日 過般出城の節は殊に御招待蒙り感謝に不堪 其後金剛探勝の後無事帰宅
- 七四四、国分象太郎
 - 1 大正 八年一二月 九日 李桐問題に関し原首相・宮内大臣・宗秩寮総裁・政務総監・宮内次官と会談 李公の東京転住・李公の
身分に対する不制裁・宮内省の住宅提供・李公による謹慎の意の表明・同伴家族の制限・政府による警戒担当を決定 (付1)
(電報) 斎藤総督・水野政務総監宛 大正八年一二月六日付李公の内地居住に付首相及宮相異議なき模様 (付2) (電報) 斎
藤総督・水野政務総監宛 大正八年一二月九日付 宮内省にての協議の結果奈桐公に懲罰加へず
 - 2 大正 九年 三月 九日 李王家歳費増額の件も貴衆両院を通過すべく進捗滄浪閣購入の件については曩の恩賜金の利殖を基礎と
し其費に充当を愚考
 - 3 大正 九年 三月二八日 滄浪閣買上の件につき公爵家は献上の形式に出て王家は下賜金十二万円下付の事に承認の由にて十年
度予算に計上の旨来報
 - 4 大正一〇年 八月 六日 暑中見舞
 - 5 年一二月 三日 李桐公家付職員間不折合の件に関し緩和の途講じたく先日殿下に拝謁し属官一名交換進言 殿下は現任属官を
重宝視せられ交迭停止の希望にて此儀は当分見合
- 七四五、小久保喜七
 - 1 大正 元年一一月一九日 茨城県結城郡結城町の行在所に記念として据付ける為め貴省より大砲下付を受け設備整ひ本月四日
竣工式を挙行 別包写真二枚送付
 - 2 大正 八年 八月 九日 朝鮮総督就任への祝詞
 - 3 大正 九年一〇月 一日 朝鮮滞在中の御優遇御礼
- 七四六、小坂順造
 - 1 昭和 八年一二月 六日 松村真一郎君勅選議員推挙を蒙り今回の御好意に対し山本内相満足 小生も欣喜に不堪書中御礼
- 七四七、小崎弘道

- 1 大正 年三月一日 倅小崎道雄朝鮮満洲視察の為め出張に付き御面会願
- 2 昭和 九年十一月三〇日 児玉拓相早速面会下されしも岡田首相には今に面会の折を得ず（付）小崎弘道書翰斎藤実宛 十一月四日付首相・拓相に早速添書を認め下さり深謝
- 七四八、小島助次郎
 - 1 明治三七年 七月一八日 予備員条例第九条に依り志願 御採用御取計下されたし
- 七四九、児島惣次郎
 - 1 大正 九年 三月 二日 昨日前年騒擾勃発一周年に相当の処別紙の如く平穩に経過（付）朝鮮憲兵隊司令部「朝鮮内情報第六九号」「朝鮮外情報第四一号」大正九年三月二日付
- 七五〇、古城胤秀
 - 1 大正一一年 二月 二日 朝鮮問題はワシントンポスト等に不逞鮮人の記事あるのみにて半井・山県氏等の努力の結果其後何等の反響なし
- 七五一、小館海月
 - 1 昭和 五年 一月 一日（漢詩）元旦祝詞
 - 2 年一〇月二日 飽献上別紙三枚へ閣下の御高什を御認めを頂きたし
 - 3 年 月 日（漢詩）晚秋山寺偶吟伏乞教正七五二、児玉右二
 - 1 昭和 七年 七月一九日 菊地謙讓を京城日報社長に推挙
- 七五三、児玉源太郎
 - 1 明治 年 五月一六日 徳山町無烟炭精製所の件にて町長貴族院議員野村恒造上京につき御面会願上
 - 2 明治 年一二月五日 人見太郎氏御紹介
- 七五四、児玉秀雄
 - 1 大正一五年 三月二〇日 先般御寵招に預り御厚情深謝
 - 2 昭和 五年 二月 六日 特製品御恵送御礼 小生本日一日より転地静養
 - 3 昭和 五年 二月二八日（電報）失業救済事業に関し蔵相に於て難色 新義州に予定したる昭和製鋼は満州内に設置せられんとのことにつき失業救済予算の成立と昭和製鉄の位置に関し御配慮を希望
 - 4 昭和 五年 四月二二日（電報）本日拓務大臣に面会 関谷次官と相談の上李桐公御迎への為め阿部氏を本夕別府に赴かしむることとせり
 - 5 昭和 五年 四月二六日（山県秘書官電報 秘書官宛）殿下二七日東京着 二九日参内の由 黄武官より申来れり
 - 6 昭和 五年 四月二九日（電報）李桐殿下二七日夜御着京 昨日関屋・篠田両次官と共に阿部氏の報告を聴取 明日更に会合最後の提案を殿下に申し上げることと致したし
 - 7 昭和 五年 四月三〇日（電報）李桐公より生活費・臨時整理費・新宅設備費支出の希望 本日宮内大臣・次官、仙石総裁・篠田次官と相談 此の案を最後の提案として明日頃小生直接懇談
 - 8 昭和 五年 五月 三日（電報）本日李桐公殿下と会見 異存なしとのことにて隠居届書と御親書とを提出せられ覚書を交換することを承諾
 - 9 昭和 五年 五月 六日 李桐公殿下御隠居問題昨日解決 宮相次官篠田次官と打合決定したる最後案御承諾 御勅許迄には猶ほ数日を要す（付1）「取扱順序」（付2）李桐・児玉秀雄・韓昌洙「第一覚書」昭和五年五月五日付 御隠居と同時に三拾万円

- (付3) 「第二覚書」 京城本邸李健公に引継・隠居願及故昌徳宮殿下の親書政務總監に手渡内地旅行の自由 (付4) 児玉秀雄「御預証書」昭和五年五月五日付
 - 10 昭和 五年 五月一〇日 私設鉄道補助法両院通過慶祝 野村益三子爵家継上種々困難なる事情あり参千円拝借希望に付御承諾を仰ぎたし
 - 11 昭和 五年 五月一〇日 海相の京城立寄の報道に関し種々憶測 閣下の一言一行は本件の政治的推移に緊切なる影響あり
 - 12 大正 六年 一月二八日 (途中欠) 衆議院予算委員会にて蔵相責任問題・霧社事件に関する拓相責任問題論議 道庁移転問題に付て丸山等の新聞・議員方面への運動も確的的反響なし 李桐問題に宮内大臣の意見の如き取計隠当 唯た殿下と朴春琴との関係密接なる事実あり宮内省も心配
 - 13 昭和 六年 二月一二日 昨日牧山君に面会首相の議会出席は至難にして後継首相に付き暗闘あり これに乘し政友会の攻撃愈々急にて貴族院の空気日々悪化の傾向 (中欠)
 - 14 昭和 六年 二月一七日 道庁移転問題に関し公州の運動に動かされ民政党は削除に決定 今後飽迄も総督の権限を確保することを主旨として進みたし
 - 15 昭和 六年 二月二二日 道庁移転問題に関しては接衝の結果拓相も衆議院に於ける態度と同一に出づることに決定 貴族院は復活すべしとの氣勢旺なること 取引所問題に付渡辺定一郎と加藤鮮銀総裁を仲介に仁川側と取引所側との協調を模索
 - 16 昭和 六年 二月二七日 道庁移転問題に関し一昨日拓相と懇談 然る後研究会に於て説明し午後に至り拓相と再度会見昨二十六日与党少壮連の拓相に対する「どなり込」 衆議院に付ては与党内の事情不明なるも貴族院の識者は貴族院復活決議せば之に従ふと観測
 - 17 昭和 六年 二月二八日 道庁予算は目下議会の中心問題と相成こと 永田新次郎君より後藤伯伝記編纂に関し経過別紙の通に付送付 (付1) 後藤新平伯伝記編纂会発記人総会会議録 (付2) 顧問・理事氏名
 - 18 昭和 六年 三月 三日 三月一日総会の応答の結果拓相との間に相違あるか如き暗示を与へ閣議に於て問題と相成候哉に仄間研究会は復活と決し大勢は最早動かずと推測
 - 19 昭和 六年 三月 四日 道庁移転の件は大体復活と内定 念為別紙新規事業に関する影響に付調査の処窮民救助事業は特別会計と別冊に相成支障なし (付) 「昭和六年度予算不成立の場合本府予算新規事業に如何なる影響を及ぼすや」
 - 20 昭和 六年 三月 五日 本日公正会に於て道庁問題を説明 拓相よりの復活阻止の懇願を拒絶 浜口首相健康問題を中心に政界波紋暗流あり閣下御上京の説あること内報
 - 21 昭和 六年 三月 七日 昨日の分科会に於ける道庁新営費復活についての応答で拓相の感情を著しく害したるものと拝察研究会同和会の動向から復活は最早疑なし
 - 22 昭和 六年 三月一〇日 昨日分科会にて道庁新営費復活に決し予算総会にて小松主査より報告 浜口首相重任に堪へず政界の暗流急にあり 宇垣・山本達雄の説あり 有賀殖産銀行頭取後任者に池辺竜一氏最適任者
 - 23 昭和 六年 三月一三日 浜口首相後継をめぐる政友会は組閣準備に忙しく民政党は政権維持に専念道庁新営費は貴族院で復活し衆議院で与党は之を呑むものと予想 公州に於ける運動委員の後始末につき心配
 - 24 昭和 六年 三月二〇日 仙石総裁途中より発病昨夜着京 容態を伺ひたる処心配すべき程にあらざることなり
 - 25 昭和 六年 五月 七日 太田道庁敷地寄付の件決定 運送大合同も加藤総裁の仲介に依り不日成立 私設鉄道首脳者の懇談を開催 昭和水利の第二計画打切り 北白川宮御来城に付遺憾なき様準備
 - 26 昭和 六年 五月一三日 取引所令は一般に好評 連合問題は昨日調印合併 咸興高等普通学校も不良学生処分の結果良好小生の身上を御配慮恐縮
 - 27 昭和 六年 五月二二日 選挙の好成績地方自治の発達の為め慶賀 新民の記事に対する儒林不平への善処方手配中 咸興学校問

題に付き各道より警察官増派取計 減俸問題に関し官吏の運動表面化阻止に努め目下何等の行動なし

- 28 昭和 六年 五月三〇日 減俸問題に付き加俸減率阻止の報と共に昨日来漸次静肅に相成称々平常に回復 唯だ加俸の減率に対する一般の神経は極度に過敏にして強行の場合は地方の治安上にも影響
- 29 昭和 六年 六月 六日 独大使・婦人売買委員・米国大使等相次いで来鮮にて夫々接待 加俸問題平静を保ちつつあり太田道庁新営工事着手 儒林問題は李覚鐘に因り解決
- 30 昭和 六年 六月一五日 近藤秘書官より閣下の御心事敬承御配意誠に感激 此際小官の辞任の義御承認仰ぎたし 閣下御病気の故を以て御辞任に於ては小官も同時に退任御取計下されたし
- 31 昭和 六年 六月一七日 閣下辞任の報に驚愕 就任以来の御指導御教示に対し感謝の意を表したく此上共御援助願上
- 32 昭和 六年 九月 一日 去年来大磯に辞居 昨夕ラチオにて閣下の記念講演拝聴感激 小生十日前後には帰京御伺申上たし
- 33 昭和 七年 三月一二日 小生両三日来大磯に参り日々近郊散策 不日臨時議会開会に付其時分迄には帰京の上御伺申上たし 和歌山名産かまぼこ御恵贈御礼
- 34 昭和 七年 七月一一日 満鉄問題に関し御心労を煩はし恐縮 別書昨日本庄軍司令官より到着 最近満州の政情明白に記述せられ候に付御内見に供したし
- 35 昭和一〇年 八月一四日 陸軍不祥事件は単独の行為の如きことにて人心比較的安定 政治的形響は別紙朝日の記事が正鵠を得たるものの如し (付) 「東京朝日新聞」昭和一〇年八月一四日付記事「林陸相難局に踏留り部内統制強化に邁進」
- 36 昭和一〇年一一月二五日 二十五日会例会開催の通知
- 37 昭和 年 六月一一日 御芳書拝読感謝 一意御奉公之誠意を以て邁進致すへきこと
- 38 年 六月 五日 今般来東京滞在中の米国人コロネル・バータ・ヘルムス氏御紹介 内田鼎の為め御揮毫依頼
- 39 年 七月二九日 貴地出水にて被害甚大の御様子御案じ申上 米人カーネルヘルム氏及び其継母への御高配感謝

- 七五五、後藤勇夫
 - 1 昭和一〇年 一月一四日 来る一月十八日赤穂四十七義士の慰霊法要 講演及余興等開催につき参列下されたく御案内

- 七五六、後藤一蔵
 - 1 昭和 四年 四月二〇日 亡父新平二七日相当致候に付き二六日午後六時東京会館にて粗餐差上たし
 - 2 昭和 四年 五月二〇日 亡父新平七七日忌日に相当致候に付き午後六時帝国ホテルに於て粗餐差上たし
 - 3 昭和 六年 七月一二日 岐阜長良川の鮎別便にて送付
 - 4 昭和 七年 七月二三日 岐阜長良川の鮎別便にて送付
 - 5 昭和 八年 七月一〇日 岐阜長良川産鮎別便にて送付

- 七五七、後藤一郎
 - 1 昭和 七年 三月三一日 仁川府と商工会議所の工場誘致の準備として府内地下水の調査に着手 御別邸飛地の一部に於て試錐又は試掘許容方下相談有之に於ては応諾致して差支なき哉問合
 - 2 昭和 七年 七月一六日 東洋紡績仁川誘致確定 敷地として別邸飛地を分譲願う七五八、後藤恕作
 - 1 明暗三二年 一月一二日 新式器械類を運転し各位の劉覽に供し旁園遊会相催したく御案内

- 七五九、後藤新平
 - 1 明治二二年 四月二六日 小生国会議員周旋の御示諭奉謝 国会議員と相成とも格別の名誉もなし 此方より手を尽し撰挙を争う事は致間敷又民間より出づる事小生も希望 時流にならひ周旋の事は如何と存候
 - 2 明治二三年 五月三一日 海陸無事ベルリンに到着 来週より大学へ入学
 - 3 明治二八年 一月一六日 留守藩主の事至極好都合に候へとも英学は名のみにて役立申さず 外人に対し単語も六ヶ敷哉と奉存

可相成は東京にて十分なりし候上に地方に出し候様致たく尽力願上

- 4 明治三一年一月二日 栄進の祝詞 国民新聞記者草野郷平軍事につき高話伺いたく御引見願いたし
 - 5 明治三八年一月三日 拿捕船保管転管の件につき通信局事務官賀来佐賀太郎入京の節御引見されたし
 - 6 明治三九年 一月一日 大臣栄進に付帝国ホテルにて祝宴催したく都合伺
 - 7 明治 年 一月二三日 福洲総督に關係の台湾銀行事件につき遺策なきを期し居れとも佐野君内報の事情実を得候様察せらる 先日添田頭取へ小生より此際断然手を引く方然るべしと注意
 - 8 明治 年 五月 八日 海軍參謀長として山本中佐赴任 同氏には批評あり帝国海軍の為余り輕率なる人もこまりもの
 - 9 明治 年 五月一日 平山の件愁伽の至り 唯今手續の最中にて併て稟申の都合に相成らば好都合 後任の件は明日の閣議にて 拝話 拝答
 - 10 明治 年 五月一日 別紙の通り岩手県知事より申来につき瞥見下されたし 委細は明日閣議にて面晤に相談
 - 11 明治 年 六月一六日 熊本県人湯地文雄紹介
 - 12 明治 年一月七日 伊東子爵長男大学法科卒業の上海軍中主計に任ぜられ近く主計学校に入学の趣 右入学後又入学前に許可を得て海軍主計学校に必要な帝国大学院経済科を修め将来主計学教官の職に奉公致したき所存の由につき賢慮を煩したし
 - 13 明治 年一月二七日 清国載洵殿下晚餐会の写兵恵贈御礼
 - 14 明治 年一月二六日 別冊満洲に於ける金融機関に関する件御参考のため送付
 - 15 大正 二年一月二九日 比律賓ミンドロ島土地日本人に売却の事申入あり 在台湾実業家松岡富雄同地に参るも米国人既に多額投資老兄より山本首相へ内意伺下されたし
 - 16 大正 三年 二月 五日 今回の紛擾倒底弁論の左右すへき情勢になく此際老兄の引退一日も早きこと公私両方面に利益あり
 - 17 大正 三年 六月一日 財団法人岩手県教育会に対する育英資金千円五ヶ年賦にて寄付依頼
 - 18 大正一一年一月二四日 ジャパンタイムズ芝染太郎紹介 朝鮮に関するプロパガンダも此機関によるの外なし 右引受五万円にて出来申すべくとの見込
 - 19 大正一三年 二月一日 来る十五日正午日本工業倶楽部に於ての粗餐招待
 - 20 大正一一年 六月一九日 在北京坂西中將より紹介の韓人柳泰慶日韓親善論者として努力 帰省の際御引見願いたし
 - 21 年 八月二七日 朝鮮開発の実業家たる賀田金三郎御引見の上御懇示願いたし
 - 22 年六月一八日 今般遠藤源六より朝鮮総督府政務総監更迭の伝聞菅原通敬採用相成たく推薦願出
 - 23 年 八月二五日 築港に関する海軍省の意見御送付御待致居候 北投海軍用地売却海軍官舎建築のこと六ヶ敷到底予算提出相成間敷 地所を定め海軍建築地と致置候筈
 - 24 年 九月二六日 今回海軍演習にて老兄入神に付き主人後藤勝造神戸み加とホテルに投宿の栄を得たしと小生に紹介依頼 御引見下されたし
 - 25 年一月五日 台湾に於て器械試製せる烏竜紅茶拝呈
 - 26 年一月二日 郷人下飯坂武之進横須賀賄方にありつきたく御工夫御願
 - 27 年一月二五日 荒井泰治につき兼て御依頼の事詳悉の事と拝察 別紙は荒井に交付を遣はしたる分進送
- 七六〇、伍堂卓雄
 - 1 昭和 五年 四月 二日 仙石総裁隨行参府の節寵遇感謝 多獅島視察は有効に目的を達し得 製鋼所の運命も六月迄は現状維持と覚悟 軍縮に対する政治的解決も終句に近づき同慶
 - 七六一、後藤文夫

- 1 昭和一〇年一二月二二日 選挙肅正に多大の尽力につき別封呈贈
- 七六二、近衛篤磨
 - 1 明治 年 六月 六日 勢多章之は漢籍の素養もあり 編纂方面に御使用下さらば難有 2 明治 年 七月 四日 恒屋盛服氏朝鮮の問題に付御面会希望に付御紹介
- 七六三、小場恒吉
 - 1 昭和 七年一二月二八日 楽浪古墳より約百八十個許りの遺物を発見 就中木印二顆従来になき珍品に有之 拓本を封入
- 七六四、小林吉之助
 - 1 昭和 五年 六月 五日 東京朝日京城特電による閣下の軍縮意見を拝見 我々農村民の云ふべきすべてを代弁 快心之れに過るものはありませんでした (付) 「東京朝日新聞」記事「加藤の体面より国家の方が大切だ斎藤総督語る」
- 七六五、小林躋造
 - 1 明治四四年一二月一七日 栄進祝詞 御送付の軸物は御示に従ひ夫れ夫れ贈呈
 - 2 大正 元年一〇月一八日 栄進祝詞 十一月中旬伯林より帰英の上ポーツマス隣のサウス・シーに転居希望 ばるかん問題も英国・独国主働せず露壙が仲裁者に立候為め頓と進捗を見ず
 - 3 大正一〇年 八月一五日 戦訓の最も多量を有する英国とは従来の好関係を維持し我国技術に刺激を与ふる必要感得も内地の事情は之を許さず遺憾 日米海軍計画の中止・延期と日英同盟問題の行詰が日英米太平洋会議開催の英国の動機
 - 4 大正一二年 一月 五日 十一月一日帰朝 十二月一日海上勤務を命ぜられし次第にて誠に欠礼 欧州各国混沌たる状況にして我国も同様に観測せらる
 - 5 年 六月二三日 来る七月中旬挙行の英海軍大演習には御記憶に依り井出大佐井私儀英艦乗艦と相成光荣 刷物の山をなす我が演習に好き教訓を与ふることと期待
- 七六六、小林日董
 - 1 年六月一三日 来十六日深川浄心寺に於て元冠殉難忠君者追吊会執行御案内
- 七六七、小林
 - 1 昭和 五年一二月 一日 軍事・水利上新義州は不適當に付き昭和製鋼所の位置を兼二浦と決定する方万全の策 閣下満鉄総裁とも其方針に依り協議を希望
- 七六八、小楨和輔
 - 1 昭和 四年一一月二五日 軍縮に関する御高見拝聴難有感謝 早速書面を以て大臣次官に報告
- 七六九、小松和夫
 - 1 年 八月二〇日 揮毫依頼
 - 2 年 九月一日御揮毫御送附御礼
- 七七〇、小松謙次郎
 - 1 大正一一年 九月二六日 海防義会評議員留任の要請 (付) 斎藤実 海防義会辞任届 大正一一年九月一二日付
- 七七一、小松弘之
 - 1 年 月 日 一度拝眉の機を得御高話拝聴致したく御引見依頼
- 七七二、小松 緑

- 1 大正一五年一〇月 二日 故伊藤公の演説講演新聞等を蒐集して記念集の刊行を計画 編集に助力下されたし
 - 2 大正一五年一二月一〇日 伊藤公全集の件も材料十分に集り申候 李王職の件は過日篠田次官に來情開陳せしも閣下の御高配に依るの外なし
 - 3 昭和 二年 一月二六日 題字揮毫御礼
 - 4 昭和 二年 四月二四日 中外商業新報ゼネバ会議特派員座田重孝氏紹介
 - 5 大正 八年 三月二〇日 来る二十三日拝願上 朝鮮協会大会は大会参加者六十余名により水野総監と有益なる談話を交換
 - 6 昭和 八年 五月一〇日 高橋蔵相の健康だに許さば現狀にて國務御執掌方然るべし (付) 「中外商業新報」昭和八年五月八日 付 小松緑「内閣改造の様式 齋藤首相の出处如何」
 - 7 大正 八年 九月二一日 來月五日渡鮮に付宇垣総督宛名刺拝載願いたし
 - 8 昭和 八年一一月一八日 御紹介の宇垣総督の高配を得て金剛山見物 伊藤公追頒記念事業に付御尽力御一筆願いたし (付1) 「議會政治」 「本社の質問に対する諸名士の回答」 (付2) 鈴木国松陸軍歩兵中佐の名刺
 - 9 昭和 九年 六月 七日 万一の総辞職の場合原因は政策問題にあらず一部官僚の失態にあり 首相には何等の瑕瑾なし大命は必ず再降下相成るべき筋合
 - 10 昭和 九年 九月一九日 春畝公追頒会秋期懇話会來十月二日正午東京會館に於て開催 11 年 五月一四日 黄人杜總裁にして内鮮融和に努力さる権抱洋氏紹介
 - 12 年一〇月 二日 拙著経過報告 中巻本日送付
- 七七三、小松原英太郎
 - 1 明治四四年 七月二一日 小学校児童用歴史教科書別紙の通議決 北朝天皇の區別及其の名称書き方につき明日内閣會議で評議
 - 2 明治四四年 八月 七日 小学校児童用歴史教科書中所謂南北朝に関する記載は成るべく別紙別案の方に致したし 次回内閣會議の節は決定相願いたし
 - 3 年 八月二四日 多年支那に在留せし白岩竜平なる者上京 申上げたき事あるに付紹介
- 七七四、小宮三保松
 - 1 大正 九年 二月一七日 老生は明治四十年伊藤公に従ひ渡鮮 宮内府次官となり在鮮十一年寺内内地引上げの機会に辞職別紙の御一覽を懇請 (付) 小宮三保松陳述書 併合賞表後に於ける事蹟 李王世子に関する事小宮次官に対し恩命あること妥当ならずや
 - 2 年 六月 三日 故春畝公の對韓政策は閣下の施政方針と一致 愚案には我本土の金と人との輸入で事実上全朝鮮を占有すること肝要にて以て内鮮人の利害真実一致し獨立運動も起る間敷 百年千年後も兄弟の領土となるべし
- 七七五、小村欣一
 - 1 昭和 三年 二月 九日 本日黄再洛君閣下の御紹介にて來訪 当省人事課係官に交渉致せしも目下欠員なく黄君の希望に副ふこと困難
 - 2 昭和 年 七月 六日 來電は逐一拝見の上拓務大臣の耳に入れ置候 同様の電報中央朝鮮協會阪谷男へも接到
 - 3 昭和 年 七月二六日 百鳥喜一君の件幸に此度御就職にて結構の次第 御内示ありし岩崎君は已に拓務省に於て採用
 - 4 昭和 年 八月二二日 浦塩総領事の情報を閣下の御承知に入るの件は幣原外相快諾 拓務省関係雜誌の件に付御都合相仰ぎたし
 - 5 年 六月二三日 尊翰中に御垂示の趣逐一拝承 児玉伯の件も解決 社会局岩崎君の件は早速手配
 - 6 年 六月二六日 昨日内顧の書類早速御届下され御礼
 - 7 昭和 年 月 日 (電報) 松田大臣二十四日午後二時拓務大臣官邸にて御待ち申上ぐ

- 七七六、小村寿太郎
 - 1 明治年一月一六日 別紙外交に関する演説要領供覧
 - 2 明治 年一二月二六日 林在英公使来電第八十号に対し別紙の通回訓老台より山本海相に御通報下されたし
- 七七七、小村俊三郎
 - 1 昭和 二年一一月 日 (漢文) 罷官帰国舟中にて京都大学近重博士と邂逅 隣邦時局は有退無進にして両国の関係は愈々悪化 愴然涙下に堪えず
- 七七八、小室翠雲
 - 1 大正一三年 六月 八日 此程の御罷出御厄介様鳴謝
 - 2 大正一五年 五月一七日 一昨昨年来古書の刊行を企て愈々煩ち得るに至り就ては御地に於る各学校図書館其他に御勧誘の勞を依頼
- 七七九、小森沢吉政
 - 1 年 七月 九日 海軍の為尽力致したく付ては閣下より御推撰希いたし
- 七八〇、小山完吾
 - 1 昭和 八年 八月 五日 政友会領袖の話にては鈴木氏を促して無任所大臣受諾せしむる事疑問の余地無く此を機会に外交就中対露対支の政策に関し意見を披瀝するを可とすとの事
 - 2 昭和 年 二月二六日 現内閣は貴台を中心に高橋山本の長老が国民の信望を繁き時局を担任 其他の顔触れは自動車の部品にて取替自由なる点が特質と愚考
- 七八一、小山健三
 - 1 大正 九年一二月二二日 当地立寄鳴謝
- 七八二、小山昂一郎
 - 1 大正一一年 九月一三日 小生目下咸北警察部高等課に奉職 警務局検閲係の如き職務に転じることを希望
 - 2 大正一一年 九月一三日 朝鮮人の利益と発展向上を謀りてやること・圧迫の不可・密接不離の関係を結ぶこと・優良なる内地人を渡来して開発を謀ること意見陳述 小生の京城勤務を希望
 - 3 大正一一年一一月 五日 恩沢に依り中央部に來るを得たこと御礼 咸北羅南力行会の行動を見るに宗教が内鮮融和に効ありヨボ呼ばはりと鮮人賤待の風習を改革したきこと吾人の覚悟 小生を普通学校教員として御採用下されたし (付) 小山昂一郎履歷書 大正一一年十一月四日付
 - 4 大正一一年一一月 六日 鮮人には内地人が朝鮮に多数來りて土地財産を奪うとする懸念あり日本人には鮮人が実力を増大せば独立すべしとの誤解あり 朝鮮人青年会労働団に対し警察の威力・行政官庁の施設・教育と感化により指導すべし
 - 5 大正一一年一一月一四日 今晚の青年会館の演説「建設と人物 梁柱三」は朝鮮の現状を不平とし国家建設の方法を説ける趣あり宗教的分量乏しくして政治的方面多量
 - 6 大正一一年一一月一四日 昨夜基督教青年会館にて朝鮮人の説教を聞きしも日本の政治に反対の言論を吐かされば聴衆集まらざる傾向あり 鮮語に通達せる内地人は敬遠せらるるは事実 小生職業に関し取計ひ御願
 - 7 年一二月一一日 参堂予定存置地出願に付き北海道長官に対し御親書を頂き有り雄し 尚岩手県知事より紹介状を頂き国分謙吉氏農事試験分場開設の陳情書と共に長官に提出 北見国枝幸郡歌登村のオファンタルマナイの原野参百余町歩を払下御許可相成様御尽力願上

七八三、小山盛

- 1 大正八年三月一〇日 碩儒詩歌集「藤迺燕」編纂にあたり題辭執筆依頼

• 七八四、小山松吉

- 1 昭和一〇年五月二日 三家重二郎氏夫婦金婚式の祝として画帖に閣下の御染筆依頼

• 七八五、此経春也

- 1 昭和五年六月一三日 朝鮮人国籍法問題に就て外務大臣は支那側の帰化禁止方針を予想し慎重の態度にして拓務省も目下各方面より意見聴取
- 2 昭和五年六月一四日（電報）宇垣辞職慰留し代理置かん
- 3 昭和五年一二月五日 浜口首相の経過は順調併し安達派は松田氏に釈然たらず 宇垣内閣出現し伊沢氏の内相・山本男の蔵相の説あり 石塚総督更迭あらば児玉伯を後任とし塚本清治を政務総監に推薦説あり
- 4 昭和六年三月二日 拓殖公論に対する御補助を定額とし一年千五百円を三期位とすることを依頼
- 5 昭和六年四月一三日 拓殖公論本年度御補助の件に付て第一期分賜はりたく又第二期は八月第三期は十二月に成し下さるべく願上
- 6 昭和六年五月三日 児玉伯進退に関し南陸相は政党の為め直ちに辞職せるは綱紀上為すへからさる事と申述
- 7 昭和八年四月一五日 政友会は次政権帰せされは崩壊の状勢にあり高橋蔵相の辞職を哀願し又荒木陸相に秋波 武藤軍司令官が陸相に対し満洲国人心の点からも政変回避要望
- 8 九年八月二四日 三男春博死去の際の弔詞に対する御礼

• 七八六、近藤磁弥

- 1 昭和八年二月四日 亡父七回忌法要案内

• 七八七、権藤四郎介

- 1 大正八年月日 要之朝鮮人は文化政策も文官総督も憲兵撤廃も眼中になし 所謂独立自決を可能的事業として日本人及び日本の政治に反抗さるの風あり 新政の前途杞憂に不堪歎否半島の前途寒心の至也（後半欠）
- 2 昭和三年七月一八日 阿部充家氏先日帰東 就ては御大典に際し恩賞の沙汰を拝する様山梨総督や関屋次官に斡旋の勞を御執り下されたく切望

• 七八八、近藤常尚

- 1 大正一五年一月二三日 一月十三日付時代日報所載「株式会社駐在所建築」と題する記事に関し御賢慮を相煩はし誠に恐縮 右に関する事実の真相は別紙知事より警務局長宛回答写の通
- 2 昭和五年二月二日（電報）昨日御下命の件は蔵相によれば大蔵当局も満鉄と折衝中にて二十四日の閣議上程は絶対になしとの由
- 3 昭和六年七月二三日 本月七日閣下恩給証書と共に恩給支給開始願書を千葉県一の宮宛に発送約三ヶ月以前より欠勤の通信局事務員佐怒賀新一郎の所在御承知候はば御一報下されたし
- 4 昭和六年八月四日（前半欠）佐々木警官講習所長に依頼の処承諾あり 逡信局の申出通り佐怒賀新一郎を免職に致すことに同意
- 5 昭和六年八月二七日 京城日報社引継に関する書類送附御受領下されたし ソウルプレッスの譲渡登記に関し閣下の戸籍抄本ないし寄留地抄本の御送附依頼
- 6 昭和六年九月六日 戸籍抄本領収 中樞院参議朴経錫の任期満了 今回その兄朴箕錫を推薦任命

- 7 昭和 年 月 日 中樞院参議劉猛氏本日午後四時頃死去 田中通訳官が吊問 特旨叙位其他手続きは至急取運
 - 8 年 月 日 本決議は土木課判任官王唱の下本府判任官約百名集合の上決定せるものにてその理由は減俸問題緩和策に関する総督より中央政策に対しての交渉の応援の意味にありとの由
 - 9 年 月 日 水害義捐金未だ少額につき募集の具体的方法を目下協議中 慶南咸安郡在住の趙周漢の殖銀馬山支店に対する陳情書の件は今回署長より説諭方取計
- 七八九、近藤将照
 - 1 一〇年一二月二七日 今夏当地迄御出向の節當場御光来下され我漆工業者に対して激励の辞を賜り厚く御礼
- 七九〇、近藤基樹
 - 1 明治三八年 八月一日 石見姉妹艦石炭搭載に関し露将訓令訳文御送付難有 石見の改造は重量の軽減、重心点の下降に勉むる方針にて計画
 - 2 大正一四年 一月一五日 中学校の校長若くは教頭に田中玄黄適任と申し呉候者あり御紹介願
 - 3 年 一月二〇日 御返書御礼
 - 4 年 四月 四日 御懇命に基き専門家の診察を受け候処出張差支へなかるべく明日船便にて出発
 - 5 年一一月 三日 勲章の件につきWatt氏へ今朝面会の事に致せしも同氏室蘭へ参り七月迄帰京せざる旨電報あり御指令を乞う
- 七九一、近藤廉平
 - 1 明治三九年 三月一五日 豊川良平氏五男齊氏を養子に御迎に付き披露宴招待有難参上
 - 2 明治四〇年一〇月三〇日 来る二日寵招の処前より外国人の約束あり残念
 - 3 明治四一年 七月二六日 武田氏今日出京面晤明日より満寿之助に会見可致事に相成御礼申上
 - 4 明治四一年 八月二一日 粗餐招待尚同日は牧野男爵・岩崎外二三人同席
 - 5 明治 年 月二九日 英国レフユスヲブレビウ新聞記者ステド紹介
 - 6 大正 三年一二月一一日 病氣回復を以て来る十七日の晩餐会招待
 - 7 大正 五年 一月三〇日 午饌御招待御礼
 - 8 大正 八年一一月 四日 仏国より帰朝の挨拶 朝鮮総督就任の祝詞並びに遭難への見舞
 - 9 九年 二月二〇日 貴重なる薬品恵贈御礼
 - 10 年 二月 七日 上村大佐伊地知中佐殿英国御出発に付小宴開催の通知
 - 11 年 三月 四日 今回久振にて御帰京の片岡中将・山田少将へ一夕御繰合願上候処御承諾を得候に付御案内
 - 12 年 四月二七日 植村大佐・東郷大佐英国出発に際し小宴への招待
 - 13 年一二月二一日 玉利少将来京を幸に一夕御高話拝聴致したく来駕を乞う
- 七九二、今野莊蔵
 - 1 昭和一〇年一〇月二六日 役員就任承諾書捺印返送依頼 通年度決算調査の処七年度迄は信を措くに足る様なれど八年分は正確を期し難し 農銀及七十七払込は延滞致し居る事判明
- 七九三、今野東吾
 - 1 年 四月二二日 警察事務就職の件地方長官に取りなし依頼 横浜停泊中軍艦見学致したきに付き仲介依頼 木村守・中村純郷同 伴面会致したきに付明早朝参殿の旨許可依頼
- 七九四、西園寺公望
 - 1 明治三九年 一月 六日 親任式は明七日午後被為行候趣のこと

- 2 明治三十九年 二月 二日 来る四日伊藤統監送別会の節定刻一時間前官邸に御来駕相成りたし
- 3 明治三十九年 八月三十一日 閣議案に理由書無之理由は南滿洲鉄道会社総裁に後藤新平氏を採用致したき考なるも今暫台湾總督府に關係致さす必要や清国大官に対する為同氏に相当なる待遇を与ふ必要ある等のため閣議案に御記名依頼
- 4 明治三十九年 十一月三〇日 後藤滿鉄総裁滿州視察の途に上り候処閣下に於て御垂示可相成義有之候はは御指命相成候様後藤男より申出
- 5 明治四〇年 一〇月二四日 四十一年度概算書閣議書写と共に送附につき御熟覽相成たし 閣議は二十八日午前九時より官舎に於て開会
- 6 昭和四一年 四月 二日 (岡玄卿ほか二名連名書翰) 聖上午前十時半拝察体温御昇進 (付1) 岡玄卿ほか二名書翰 四月 二日付 格別御変り不被為在様奉診 (付2) 岡玄卿・岩佐純書翰 明治四一年四月三日付 昨日御同様 (付3) 岡玄卿・岩佐純書翰 明治四一年四月三日付 御体温三十八度
- 7 明治四一年 四月 七日 (岡玄卿ほか二名連名書翰) 聖上今朝十時拝診状況御体温三十六度九分 (付) 岡玄卿ほか一名連名書翰 四月七日付 聖上午前十時半拝診 症状御軽快
- 8 明治四二年 四月二八日 来月七日駿河台宅に午後六時頃御来車下されたし
- 9 明治四二年 六月一四日 明治三十七八年海戦史第一巻御惠投御礼
- 10 大正 元年 八月 二日 山本大将伏見宮隨行に付御話の件は勅許を得るため不取敢申入 打合せ等に関し七日閣議の節可申入
- 11 大正 元年 一〇月 一日 整理に対する御提案は十五日迄に御出し下されたく希望
- 12 大正 元年 一〇月 一九日 英国大使送別会御案内
- 13 大正 元年 一二月 二日 閣議に於て二師団問題に関し陸相説明昨日御話の処と齟齬あり為念訂正 同相より整理に係る書類差出の筈につき御一読下されたし
- 14 大正 元年 一二月 一日 陸相辞表を呈すること決定 今日午後御会合を願ふやも知れず御在宅を願上
- 15 大正 元年 一二月 一〇日 御遣の書類は後継内用へ引続き申すべし 坂本中将推挙の義も強く申継置くべし (付) 木村秘書官書翰 大臣宛 大正元年一二月一〇日 大磯に参り西園寺閣下に御目に掛り御書状を呈せしに付復命
- 16 大正 一四年 五月二五日 上田君手紙並に古書三葉御送り下され感謝 小生少年時代謹慎を命ぜられし時のものにて非常に興味を覚候
- 17 昭和 九年 二月二六日 (電報) 貴電感謝 御全快を祝す
- 18 昭和 九年 三月 三日 (電報) 貴電の趣諒す
- 19 昭和 九年 四月 四日 御投翰御誠意の段御披瀝下され国家のため慶賀の至
- 20 年 一月 九日 十六日御招待申上置候処小生病氣に付き二十一日に変更
- 21 年 五月二〇日 来る二十二旦元老其他と会合の事に関し山本前海相にも参向を求めたく閣下同君に御面会候はは御協議の次第御話下され御臨席相成候様御話置願いたし
- 22 年 一一月 八日 予算に関し御相談致したく明日閣議後時間御繰合下さらば大幸

• 七九五、西郷菊次郎

- 1 明治 年 七月一九日 本市教育会員の為め肝付少将御講話下されたるは貴君斡旋の賜と感謝に堪へず御礼

• 七九六、西郷從道

- 1 明治三七年 二月一五日 十七日目黒別邸に於て昼餐差進たく御案内
- 2 明治三七年 四月 四日 六日官邸に於て午餐差進たく御案内
- 3 年 一一月 一九日 来る二十三日甥寅太郎結婚披露を兼ね小園遊会相催たく御貴臨下されたし

- 七九七、西郷政吉
 - 1 明治三九年 八月一日 小官儀呉鎮守府付軍法会議兼海軍兵学校普通学教官勤務中の処休職の辞令を拝受 小官に反対する同僚輩の誣罔に中てられたると推定 梗概を叙し御調査を懇願
- 七九八、斎藤金七
 - 1 昭和 七年一一月二九日 別紙規約の下に由利郡青年党組織 同志崇敬的たる閣下に御揮毫戴きたく依頼（付）由利郡青年党連盟会則・宣言 昭和六年九月一二日
 - 2 昭和 九年 八月 一日 閣下御尊影御下げ恵み賜りたく御願
- 七九九、斎藤孝至
 - 1 明治二八年一二月 一日 昨日鎮守府へ申入 返電着次第御報申上ぐべし
 - 2 明治二八年一二月 一日 明朝九時三十分迄に小蒸汽字品へ相廻し申置旨返電あり
 - 3 年 五月二三日 仁礼閣下御息アナポリス海軍学校入校所望右学校は一般人民私費入校許諾せられざる者に哉御取調通知煩たく依頼
 - 4 年 六月一三日 仁礼中将御令息英語学は余り研究不相成 御指揮御誘教相願
 - 5 明治 年 八月一一日 仁礼中将子息景一君留学の事に御取極 一身に係る一切御配慮相願たし
- 八〇〇、斎藤七五郎
 - 1 明治四〇年 八月三〇日 小生同級生海軍少佐相羽垣三氏に対し川崎造船所にて二千五百円の金を貸し救済 閣下御忠告の結果なりと相羽氏感激 暹羅の回航をも相羽氏担任 其間に借金返済の見込 2 大正一四年 四月一五日 御来示の件発起人たる大將方へ集金の結果に依り出金額通知 本日軍令部長の交迭親補式挙行惜別の情に堪へず
 - 3 大正一四年 九月二五日 御来旨の件に就き宮川とも相談 同兄は目下石川島造船所の顧問を致し且つ工業学校の機械学を教授 此度は御断り申上たしとのこと
 - 4 年一〇月一一日 本年一月「華聖頓ポスト」に表はれたる記事「加奈太の米国化」に付實際視察の結果該記事と大差なきことを認む（付）たけした印メモ加奈太が合衆国と融化すること好まざる一大理由あり
- 八〇一、斎藤知行
 - 1 明治三〇年一二月一〇日 小生企望銀行業の如きに関する智識皆無なれど小生の学ひ得たることと見來りしことに抛りて役に立つべし
 - 2 年一一月 八日 田辺氏の「普通教育」誌にEditorとして入社せし山県なる人激烈なる論文を掲げ発刊停止 田辺氏は飯田氏に依頼し訴訟を提起
- 八〇二、斎藤恒
 - 1 大正 九年一〇月 九日 不逞鮮人取締問題は困難の度を増加 内地空気が指導必要 朝支国境の守備隊憲兵警察に支那通訳官配置は極めて緊要 今日日本軍出動に至りしは如此き地方にて少数の支那軍隊にて徹底的ならしめ得さりし点御諒察下されたし
 - 2 昭和 七年 五月二三日 御大命を御受け候事への祝詞小生退職後も満鮮両問題に御奉公を期し居り 六月中旬満鮮に参る予定にて出発前御引見願
 - 3 昭和 七年 七月 六日 六月二十二日離京渡満し旧支那人知己を訪ひ満洲新国家に対する忌憚なき意見交換 占領行政の形式を要すも占領なる優越感を除却して抱擁成長せしむること御賢察願上
 - 4 昭和 七年 七月一五日 満人要路其他と会谈 國務院総理の申すには日本人か新政府に入ある事は大に多とするも人選に注意を望むとのこと 国としての対満策確立し適当なる人を入れて教導することを重ねて申上

- 5 昭和 八年 九月一二日 陸軍大臣・植田参謀次長に面談 小生新京到着の上鄭総理等の真意を確め成案を得れば差出くれとの事依て途中北鮮等巡視新京に至り研究に着き北支へ十月下旬迄には参りたし
- 6 昭和 九年 四月 二日 新聞によれば四日頃鄭熙と御要談の由 彼等兩人の秘めたる希望は北支への進出にして之さへ定まれば日本の思ふ俛 黄の南下は注意を要するものあり
- 7 昭和 九年 五月二六日 小生三月末日帰郷 黄郭より手交を依頼されある同氏写真もあり 林陸相・広田外相・永井拓相・後藤農相へも御話申置 唯た閣下へは書面御報告のみなれば御面謁願
- 8 昭和 年 八月 一日 満洲国の成立を閣下の手により完ふする様祈願 鄭総理近親の者より駒井長官突然の帰京何等総理に相談なく不快とのこと
- 9 昭和 年 八月 九日 本年二三両月更に六七に涉り満洲国を視察し得たる管見並に七月十六日故武藤元帥との会談中御耳に達し置きたき件あり 拝顔の栄を得たし
- 10 年 二月二六日 北支要人と個人的に懇談 北支の政権として黄郭・何応欽等を認むるは誤 三者共日本と衝突なきを希望 蔣は勿論三者も真の親日家にあらざる事 日支親善は欧米の入知恵ならんか然れとも此機を逆用 出先か一致して日支親善以外に途なし
- 11 年一一月 八日 御報告申上たき件も有り御引見願 北支の視察の件之亦愚見御耳に達したく電話御下命待居候

・ 八〇三、齋藤文也

- 1 大正 九年 四月一〇日 本日父陽之助の忌明 日本組合教会・東京靈南坂基督教会及水沢基督教会へ金員寄付仕り答礼に代ふ
- 2 大正一四年 一月 七日 会員（同窓会）に配布すべく起草中のもの御一覽願上 寓居新宮につきて三阡五百円乃至四阡円不足御金融方願上文一郎入院の必要も起り可申内憂外患心細きこと
- 3 大正一四年 一月 八日 別封御閑のとき御閱覧願上 同文は唯た万一の場合に用意（付1）齋藤文也「社団法人青年同窓会々員に告ぐ」大正一四年一月七日付（付2）齋藤文也書翰草稿 日本郵船株式会社社長宛 大正一四年一月二四日付 同窓会除名の釈明書御高覧希上

・ 八〇四、齋藤実

- 1 明治四三年 五月二二日（三島弥太郎宛）小生親戚松本貞を正金銀行に御採用懇願
- 2 明治四三年 九月二七日（三島弥太郎宛）松本貞正金銀行御採用 御配慮の結果と感謝
- 3 六年 五月一八日（大西庸行宛）船主菊地吾左衛門氏は知人に無之 意中の趣旨は貴下より菊地迄御晰し下されたし八〇五、齋藤操
- 1 大正 七年一一月一六日 服部良太郎御会見相願たし
- 2 年 二月 七日 保険の件申込書及検査は可成至急方得策と思料
- 3 年 七月三〇日 厨宰事件も進行 転勤の件司法局長と御協議の上御尽力願いたく懇願
- 4 年 九月二六日 清水と云ふ判事海軍主理に志願 御推薦の栄を賜りたく御願
- 5 年一〇月三〇日 昭憲后大皇陛下の御草和歌譲渡致したく閣下に御賢覧に供たし
- 6 年 月二〇日 神戸松方氏目下当社に二十五万程契約あり川崎氏契約無之に付き必ず加入の事と思料 就ては御紹介相願たし

・ 八〇六、齋藤桃太郎

- 1 年 一月 七日 午後十二時半頃に御出頭下されたし
- 2 年 月 日 書面を以て御懇示下され御手数段の段銘謝の至

・ 八〇七、齋藤陽之助

- 1 明治二二年 二月一二日 御母上様上京に付申越の件手配 本月十六七日迄に此地を離れること御決議 何れにせよ電信にて通知

- 2 明治二二年 四月二六日 文也への御厚情御礼
- 3 明治二三年 一月二三日 年賀状 知行儀後藤君の取計により内務省書籍役所に入るの都合に相成御厄介成下されたし
- 4 明治二七年 六月二七日 東京大地震御見舞
- 5 明治三三年 五月一九日 先頃は種々厚情なる取扱上野見物の節配慮の事は一生涯のよろこび 知行より度々紙面あり無事にて相勤め居る由謙吉義御尽力により手易く入院難有御礼
- 6 年 一月三一日 御母上にケットウを知行宛に御送付相成たし ケットウ並にチリメンのヒマキ二品受取
- 7 年 二月二七日 知行の義に就き重々御心配を蒙り御厄介の儀は申訳なき次第 明治二十二年分の年貢調書今日迄延引方は御免下されたし
- 8 年 三月一一日 知行洋行への御厚配奉謝 弟文也に付委曲知行より願出の通り御救助下されたし
- 9 年 八月二五日 此度文也上京に付リンゴ御風味下されたし 横浜にも女子出生の由にて母子共々無事に付先安心
- 10 年 月 日 文也が鈴木千年と同行御手元へ参堂との事につき対処方依頼
- 11 年 月 日 文也昨日帰水 御手元逗留中の厚情并に文也引き取り養育の件につき依頼
- 12 年 月 日 明治二十二年分上納金五円六十式銭七厘 明治二十三年分上納金十三円四十五銭二厘

• 八〇八、斎藤礼三

- 1 大正一一年 一月二一日 元山清津直航の件は大蔵省に於て査減の厄に遇ひ更に本府の力に依り追加予算として議会に提出の趣 是非議会に於て無事成立致候様御取計願上

• 八〇九、佐浦茂堂

- 1 昭和 九年 七月一六日 当町海産物商人連奉納の大額の揮毫願

• 八一〇、佐伯敬一郎

- 1 年 三月 五日 南満洲に於ける物質調査並陸軍輸送の状況視察研究致したく取計願ひたし

• 八一一、佐伯理一郎

- 1 明治二〇年一二月 五日 樺山中将に拝顔を得たく何れの地に御滞在か御報知懇願
- 2 明治二一年 三月二〇日 公使館在勤被仰付のこと承知 来月下旬迄に御地御出発の由御安着の程奉祈 赤羽君へ呉々宜敷御伝言御願
- 3 明治二一年 四月一五日 樺山次官は何時頃独国伯林府へ御出相成候哉 私儀当夏同地大学へ入校の積 御出の時日承知仕りたし
- 4 明治二一年一〇月一一日 来四月二十五日より独乙国ミュンヘン府へ赴き該府の大学へ転校の筈

• 八一二、阪谷芳郎

- 1 明治三四年 八月 六日 当省官吏九州地方出張の者より近年門司下関両岸埋立の為め水路狭隘杜塞せしむる虞ありとのこと 国防上大切な水路なるを以て貴間に達置
- 2 明治三八年 二月一五日 別冊第四回臨時軍事費収支状況報告御返付
- 3 明治四〇年 一月一一日 四十年年度予算今般確定の数字相纏候に付別冊一部差上
- 4 明治四〇年一二月二九日 醸造試験所内の品評会の節第一等に及第したる竜勢と申す酒御試用賜りたし
- 5 明治四一年一〇月一一日 小生今月末には帰京拜眉を得べく 楽居候 旅順にて海軍諸君の御好意により港内外を見物6 明治四三年 六月二一日 水交社拝借の儀に付御礼 六月二十八日の会は田尻子爵還曆に付経画
- 7 明治 年 二月一九日 来翰の趣承知甚た残念なれど貴省大臣に於て異存ある上は致方なし 貴省立案写一通回付依頼
- 8 明治 年 二月二一日 委細明朝相伺申すべし 尤法案は閣議に提出済

- 9 明治 年 三月三〇日 四月三日 出発関西地方出張 呉兵器製造所拝見仕るべく同所へ御紹介下されたし
- 10 明治 年 四月 五日 渡辺工科大学長の内話に海軍省長門無煙炭山を買入の由なるも該岩山は岩質不良岩脈宜しからざるに付調査の上決定必要云々 貴官親しく学長の意見聞かれ候こと或は必要かと存候
- 11 明治 年 四月二七日 一昨日帰京 御紹介により呉造兵廠拝見 沢君より説明聞き大に益を得申候こと御礼
- 12 明治 年 八月 二日 一時賜金公債額面を以て給与の件勅令を発することに相成へし
- 13 大正 六年 二月一三日 日露戦役当時の次官会相催につき御出席下されたし
- 14 大正 八年 八月 五日 朝鮮騒擾事件は実に先年王妃暗殺以来の失策 今後鮮人の心を帰服せしむる策として一大変革を要す 世界に対する面目上に於ても頗る慮る所あるを必要御赴任前愚見申上たし
- 15 大正 八年 八月一四日 朝鮮の統治は鮮人の心を得ることを以て第一とせざるへからず 帝国發展上第一の要地たる朝鮮半島を常に不安の状体に置き将来支那及シベリヤ方面に対する帝国の勢力を頗る脆弱ならしむ今や朝鮮統治方策大革新必要の時機
- 16 大正 八年 九月二七日 貴族院議員男爵福原俊丸君朝鮮及満州視察に赴かれ候に付御紹介
- 17 大正 九年一〇月 一日 メッセンジャー・オブ・ピース誌所蔵のジー・ボールス氏の論説御閲覧下されたし (付) THE MESSENGER OF PEACE JAPAN AND KOREA By Gilbity Bowles
- 18 昭和 三年 四月二三日 日本倶楽部徳川会長近年補佐なくては苦痛を感ずるに付き尊台に今後評議会・総会・午餐会に会長の代りに出席を願ひたし或は新に副会長を求めては如何との説あり
- 19 昭和 三年 六月一四日 副会長のことは理事会に於て事情やむを得ずと認め欠員の補ひとして小生推されやむを得ず御請仕候
- 20 昭和 四年 七月二八日 今朝自彊会の理事長関夾鉉氏来宅 閣下井に武田秀雄氏の御尽力に由り岩崎男より壹万円の寄付申入
- 21 昭和 四年 七月三〇日 (嘉納治五郎・関夾鉉と連名) 今回岩崎男爵より壹万円の御寄付を拝受 之れ偏へに閣下の御尽力の結果と存じ御礼
- 22 昭和 四年 八月一八日 総督後任に閣下御再起の由 朝鮮の人心安堵は勿論浜口内閣の為にも其人事行政の大に公平なること信用を加ふるもの
- 23 昭和 四年 八月二一日 例の韓相竜氏より別紙来状供覧 同氏の外に李允用・李栄詰諸氏も善遇せられたし 人心の収攬上に必要の崔麟氏も朝鮮の為将来一角の立場と相成べし 鮮人を治むるには鮮人中の人物を善遇し其意見を常に耳に入れ怠らぬ様注意肝要 米国人宣教師側の善遇願ひたし
- 24 昭和 五年 五月二六日 好箇の記念品と回轉揭示台とを三笠へ御寄付下され御芳情の程深謝 (付1) 川田小三郎書翰 斎藤実宛 昭和五年六月二日付 閣下御寄贈に係る記念品別紙写真の通三笠へ備付永久保存に取計 (付2) 斎藤実書翰草稿 今村宛 六月一〇日付 三笠へ寄付せし回轉揭示台につき別紙及写真の通報告あり (付3) 間宮商店住所メモ
- 25 昭和 六年一二月二一日 在満朝鮮同胞救恤の件につき本月十八日金一封を中央朝鮮協会へ御下賜の光栄に浴し洵に感激聖旨に副ひ奉る様御協賛御発奮依願
- 26 昭和 七年 三月一八日 中央満蒙協会満洲国承認問題に関する建議に付御賛否御回示願 (付) 中央満蒙協会行郵便はがき
- 27 昭和 七年 六月二〇日 今日一般情勢を見るに国民は徒に不景気を嘆き窮乏を訴へ競ふて中央政府の救助を促かし政治家は専ら選挙を顧慮し地方人民の甘心を得んことを事とす 飢饉に瀕するに至る者あれば救助米に止め自力更生の方法を授け国費の負担を避くることに注意せざるへからず
- 28 昭和 八年 三月一六日 皇紀二千六百年奉祝の件に付貴族院本会議に於て小生閣下に質問致すべく満足なる御答弁を得たし
- 29 昭和 八年 五月 六日 韓相竜氏より貴族院勅選に付別紙冀望申出あり御一考下されたし (付) 韓相竜書翰 坂谷芳郎宛 五月四日付 勅選議院の欠員不日補充の趣 此際特別の御高庇を賜はりたく願上

30年七月一五日 濠州メルボルン府の人コールは有色人種移住排斥法の熱心なる反対者 貴下に面会して意見を伺ひたしとの事に付き紹介

- 31年一〇月二五日 大坂住友の総理鈴木馬左也氏海軍用地交換の件申上たしとのことに付紹介
- 32年一一月一〇日 去る三日帰朝 チャプリン氏より貴君に宜敷との伝言33年一二月一二日 中村製鉄所長官に室蘭製鉄所の件につき閣下より成行御話置き相成ては如何

• 八一三、坂巻芳男

- 1 昭和九年九月二六日 先般皇太子誕生奉祝の天覧武道大会に関する記事を今回当省監修の下に講談社をして編纂刊行就ては閣下の題字揮毫の儀同社にて懇願

• 八一四、坂本実蔵

- 1 年五月二九日 直接井上知事には面会を得ざりしも旅券係員に紹介を蒙り万事便宜を得候段御礼 昨日は石炭代金拾壹円送金に預り恐縮 本日株主総会も無事終了に付き社員賞与金は明日より分配

• 八一五、坂本俊篤

- 1 明治三八年五月一四日 外国人取扱に付ては注意人物として肩書ある外国人に対し軍機保護上予防的に行ふもの 工廠長更迭の件は向山新廠長の快腕に待ち因襲一掃・事務刷新を得ば此上なき慶事
- 2 大正二年一二月一六日 政治季節に入り候に付き特に御貴力を仰ぎたく依頼
- 3 大正八年九月三日 京城の珍事御兩人共に御無事欣慶に堪へず感激の至
- 4 大正八年九月二三日 山内君の急死痛恨に堪へず 同窓より生花香奠相供候事取計
- 5 大正八年九月二八日 山内君死去 同窓の規約に基き生花香供ふ 葬儀は去二十四日 トウコウ寺に埋葬
- 6 大正九年一月七日 恭賀新年 昨冬水野総監より治鮮の方針并に一般人心の傾向等拝承
- 7 大正九年四月二九日 貴邸午餐御寵招深謝 拜趨すべし
- 8 大正九年九月一九日 先年海牙府の平和会議の米国の専門委員陸軍少将クロヂエー夫妻目下来朝 三週間後には朝鮮に渡ると申居につき渡鮮の上は可然御待遇を与へられたし (便箋裏 斎藤実書翰草稿) We shall be pleased to see you here, Mr. Imamura will be able to give you any informations about Korea.
- 9 大正一一年四月一七日 今回御承知の通り男爵の選挙母体とも申すべき協同会分裂 経緯御賢察下されしことと存候に付き従来の通り協同会に御同情下されたし
- 10 大正一一年四月二〇日 協同会御入会下されたし (付) 協同会入会申込書
- 11 大正一一年四月二六日 協同会に御入会済に心付かず汗願の至 此上とも御心添御同情を懇願
- 12 大正一三年八月一六日 郡司大尉昨十五日死去 二十一日葬儀執行に就て友人総代として閣下井小生の名を以て通告致したき旨申来に付快諾 同窓一同より金三十円霊前に供ふことに取計
- 13 大正一五年八月二三日 古賀死去の際の霊前御供物合計金九円御序の節御送付下されたし
- 14 昭和二年四月一九日 過日申上の邪見相添へし雑誌御一読願上
- 15 昭和二年一〇月二一日 荊妻風邪の気味にて明日は乍遺憾欠席
- 16 昭和三年一月六日 昭和三年一月六日 奥様に拝顔の節御快気の状態を審にし欣喜此事 一層御自重御加養祈上
- 17 昭和三年二月一〇日 生花料の件御心遣に恐縮 料金過剰と相成るに付御送付
- 18 昭和三年二月一二日 今般倅結婚に付御祝品を忝し御芳志の義感銘 御礼申上
- 19 昭和三年一二月一八日 守屋氏覚書・高城氏調査書御送付深謝 第二段のステップを取り候事に相成につき此上も宜敷御願申上

- 20 昭和四年八月一七日 宮園氏の病死痛嘆の至 病症経過別紙の通（付）病症
- 21 昭和四年八月二二日 今回朝鮮に再度の御赴任前一夕午後六時半頃より一席を御割愛願ひたし
- 22 昭和五年八月三十一日 燃料協会主催燃料展覧会開催に就き一筆御揮毫願ひたし
- 23 昭和五年一二月日 燃料展覧会充分所期の目的達成は偏に御援助の賜 右展覧会を記念して写真帖、報告を郵送
- 24 昭和六年五月一日 大西庸行君死去 同窓者より香奠贈呈取計 生前の御同情御見舞に未亡人感激（付）大西とみ書翰斎藤実宛昭和六年五月四日付御厚情感謝七日当地に於て葬儀執行
- 25 昭和七年二月二五日 御内願の役目引受御友情の賜と感佩 御都合の好き時機を待て副会長外罷出御願の手筈のこと
- 26 昭和七年七月二日 予備海軍少将田代己代治氏此程訪問別紙草案を出し閣下に御覧に入れてもらひたしとの事にて差上
- 27 昭和八年六月二日 朝鮮窒素肥料株式会社永安工場経営に関する書類御送付難有 石炭低温乾餾工場設立に関する建議案を近々提出 石炭国家管理法に付御高察を仰ぎたし
- 28 昭和一〇年五月一三日 燃料国策樹立は急務中の急務 商工大臣に於ても国策審議會の問題として審議すべき旨言明に顧み「日本の海軍と燃料問題」供電覽候（付）「日本の海軍と燃料問題」
- 29 四年八月二五日 来る二十九日午後六時三十分帝国ホテル表玄関にて御待申上ぐべし
- 30 年一月日 去九月来当港に引き移り語学にのみ日を消し候得共未だ三才の童子にも如かず甚恥入 内藤氏に御逢の節滞在中の厚遇御謝し下されたし
- 31 年一月二三日 架橋材料の件に付ては種々配慮を煩し多謝 大尉大村甚三郎は今回進級に洩れ候に付次回の進級には配慮奉願 海軍教授の次回の留学候補者として芦野教授を配慮願
- 32 年一月二七日 来二月一日御寵招難有拜趨可仕 尤も荊妻は多分出席相成難し
- 33 年六月一〇日 御招宴の際御話致したる御写真引延し出来に付進呈
- 34 年六月一八日 今般御慶事献品中の御下りにて頂戴の一壘差上
- 35 年七月五日 伝記編纂取止めの尊意申し通じ置申候
- 36 年七月一〇日 岩崎君逝去に付き生花霊前御供方取計（付）（坂本俊篤名刺）封中正に領承仕候
- 37 年一〇月一日 大西よりの書中既に願ひ置かれ候御交送云々の句に付対処方意見過日暴風雨御見舞
- 38 年一〇月二日 御意見御尤大西方へ早晚成効すべきも目下忍辱肝要と申遣別紙同人案書一読依頼
- 39 年一二月一三日 海事協会の講演は「戦時商業の保護」と云うような題の下に相試み申上たし

● 八一六、坂本敏男

- 1 昭和六年四月一四日 仰に従ひ二十九日武者鎌三氏宅を訪れ懇談申し上しも採用不可能なる由金鋼山電気鉄道にて採用見込あらば渡鮮いたす考へに付き御尽の栄を賜はりたく懇願（付）電報草稿 坂本敏男宛 金剛電鉄オカモト専務より条件に満足なら渡鮮あれ
- 2 年八月一七日 閣下より関東軍の大村交通監督部長に依頼あり 小生転職の件に関し満鉄鉄道建設局より建設局の総括的改正決定後即ち九月中旬以後に採用決定の予定の旨通知

● 八一七、坂本一

- 1 明治三三年八月二四日 現時上海の実況は我が国の利益并に人民保護の目的を以て兵員を上陸せしむるの必要認めず権力平均の上に於て必要芝罘は何れ不遠騒動起ることと信ず
- 2 明治三七年一一月一八日 当隊工作部の如き工作力微弱にて整理着手に至らず 今日の状況は主務局に於て望まれる如き好状況になし 整理問題に付きては今暫く放任せられんことを希望
- 3 明治三八年六月一六日 ハヤレの件に付き機密費五百円位出金出来間敷哉御意見を承りたし
- 4 明治三八年八月二五日 バルラダー目的を達し好都合 今回二艦の浮揚の慰勞旁々技士を貴部に出張せしめ直接報告せしめた

く希望

- 5 明治三八年一二月六日 大連防備隊所管の地所諸建物等の図面は出来次第閣下に御届 同隊所管の発電所造船工場等は一会社か有力なる個人による経営尤も必要
 - 6 明治四二年一二月二日 片岡長官加藤参謀長両閣下現下の御病状の大略御通知
 - 7 明治年月二二日 本艦来る二月十五日軍需品運搬の為め発艦 運搬の諸準備の都合上就役の儀御詮議下されたし
 - 8 明治年月二九日 本隊の発電所も三宅技師の調査に依り安神 七千個の白熱灯を点する予算目下調査中不日具体的に上申
 - 9 大正七年三月二日 粗餐差上たく御案内 開宴前市内御案内を兼ね弊社自動車御待受
 - 10 大正九年五月七日 来る九日御寵招は止を得ざる要件差控居り御芳志に副ひ兼候こと
 - 11 大正九年一二月二三日 来る二十九日ふじ会開催通知
 - 12 大正一〇年一〇月一日 新聞紙上にて承知する処に依れば過般北方御巡視の節発病の趣茲に御見舞
 - 13 昭和一〇年一二月七日 内大臣御就任御祝詞
 - 14 大正一三年七月一九日 昨夜御馳走を蒙り奉謝 御礼申上ると同時に御意見伺ひたしと存し終に其意を得ず遺憾千万
 - 15 昭和二年三月九日 早速各務氏を訪問閣下の御意を伝達 経緯を聞くに事業其物に対し狂態ならざる哉の感を起さしむる程にて自覚するの期を待つ外なしとの結論
 - 16 年八月三十一日 此前御上京の節御話せし癩病の件に付き患者十有余名を撰抜し一ヶ月位其の効果を御研究下さらば仕合
 - 17 大正八年一〇月一七日 仁川港に過般沈没せし貴府浚渫船引上げ作業を日本技事工業株式会社に於て引受けたま旨同社長申出に付照介
 - 18 年一二月二日 十二日午後五時山口へ御来駕下されたし
 - 19 年月一六日 北韓名物石鍋御送付
 - 20 年月二七日 御帰朝奉賀
- 八一八、坂本政右衛門
 - 1 昭和五年六月七日 当校生徒戦跡見学旅行に際し御高配御礼八一九、坂本未定磨
 - 1 年五月一三日 ペントの義に付き再度クリンケン商会支配人よりの申込もあり横須賀に於て試験を申受たく希望就てはクリンケンの名義ある一本の紹介状恵与奉願
- 八二〇、相良経男
 - 1 大正二年八月四日 米国の排日土地問題に関し日本の国籍法を改正し国籍脱出を認むる必要ありと愚考 日墨関係の事につき Felix Diag将軍と面会 氏は日本移民歓迎にて小生共Diagを失望せしめたくなく苦慮
 - 2 年一二月一九日 断然現勤の会社を辞し後藤男に御頼みして南満鉄道の嘱託員として殖民政策の研究に従ふ便宜を与へられたく希望閣下の配慮相蒙りたし
- 八二一、佐久間左馬太
 - 1 明治三九年五月二三日 台湾総督着任挨拶（付）佐久間左馬太名刺
 - 2 明治三九年七月四日 本島震災に付救恤として金貳百円義捐への御礼
 - 3 年一〇月二日 台湾産文旦進呈
- 八二二、佐久間秀雄
 - 1 年一二月一六日 友人乾精末君は先般国際連盟協会の一代表者にして南加州大学東洋関係の講座担当 同君へ朝鮮施政に付き御教示を賜はりたし

• 八二三、作間応雄

- 1 昭和二年三月一八日（藤原秘書官あて電報）急用あり総督官邸に御伺ひす（用紙裏斎藤実草稿）十七日の貴電拝受御断りしたく御賢察願ふ
- 2 昭和二年九月一日 去二十七日朝原敢二郎少将京城立寄 今回寿府会議につき国民一同深く感謝 宇垣臨時総督の居据説も寿府会議決裂の頃より急に消滅し陸軍の意気消沈（付）御不在中行事覚書

• 八二四、桜井国雄

- 1 昭和八年九月一〇日 私は五一五事件公判に深甚の注意を払って居る者 大臣を殺すも又国民の為で有るなら二言目には増税と言う軍部大臣を殺すも又国民の為？ 少なく共ピストルを発射すべく命じた者及び発射したる者当然死刑

• 八二五、棚瀬軍之佐

- 1 大正一〇年七月七日 東北女子職業学校財団法人組織の件は三崎駒治氏賛意を表するに至らず遺憾

• 八二六、桜井源之助

- 1 昭和五年三月二六日 三月十日鎮海港要塞司令部内不祥事件への御回棹御礼善後処置に就ては誠心誠意微衷を披瀝殉難者の霊を慰め御芳情に酬ひたし

• 八二七、左近司政三

- 1 昭和三年一二月二八日 山梨次官より臨席方願出の高級官房会は来る一月十九日午後五時半開催に取定
- 2 昭和四年一二月二日 不肖此度大任を拝し不日全権御一行に加はり渡英に付挨拶
- 3 昭和五年一〇月一日 今般練習艦隊司令官の大任を拝し本日横須賀に赴任 十二月上旬仁川回航表敬の機会あるを案み
- 4 昭和七年一〇月二七日 仰付のウエルチ監督夫妻は南京旅行中其内当地に帰任の様子 今後尊慮に副ふ様取計たし 当地公使館勤務の乾精末博士はウ監督と旧知の間柄にて公使・総領事方面とも密接連絡を保持する心組
- 5 年二月七日 英米行幸便別紙の通
- 6 年四月二日 支那情報仰の通軍令部次長に回付
- 7 年八月二三日 遠航も大体成功裡に終始後パラオに於て触雷の事故を惹起 格別大事に致らず自力を以て佐世保に帰着

• 八二八、佐々木清麿

- 1 年一月一日 昨年二百五十日間邦内一巡政界は行当り主義にて財界は上流も下流も中流を抜きにして争闘信仰界は生き乍らの浄土行きが大繁昌 京城の金持の日本人をして道德心を起させること急務
- 2 大正一五年一月三十一日 二週間岐阜地方へ遊説 海津郡・加茂郡・不破郡にて報徳会の名の本に青年団・処女会・官公吏・教師僧侶等に説法し頗る好結果
- 3 大正一三年八月一〇日 閣下鬱陵嶋視察の様釜山日報にて拝見 鮮地の金融は恒に必迫にて鮮地に於ては銀行の監督厳にすべし 朝鮮仏教大会の李之錫・中村健太郎が寄付金の世話をせよと来訪八二九、佐々木高行
- 1 明治四一年六月一三日 昌子内親王殿下午餐参殿相成たく殿下の命に依り御案内
- 2 明治四二年四月日 午餐参殿相成たく殿下の命に依り御案内

• 八三〇、佐々木忠右衛門

- 1 昭和五年二月三日 所謂光州学生事件も争闘・示威運動の分は去る三十日予審決定にて共産主義秘密結社の分は目下予審中 今後思想取締上の対策として学校外の行動監視及家庭との連絡強化や不良謄文紙の購読制限・校外集会の無許可参加禁止など肝要
- 2 昭和六年七月三〇日 御来墨の件近藤秘書官よりも承り入所は十月か十一月 今村松村両閣下の退官惜まれること

- 八三一、佐々木寛
 - 1 明治三二年七月一日 今回の渡航に付ての御配慮御礼 去る八日には八雲号進水式挙行
- 八三二、佐々木政吉
 - 1 昭和八年一月二日 大白山事業着手計画に対し石崎久三郎氏と提携 事業計画書を矢鍋理事に提出致し資金借入を交渉 洛東江実施調査報告を松井省三技師より矢鍋様に提出の上にて資金貸与の可否決定の段取
- 八三三、佐瀬熊鉄
 - 1 大正八年九月三日 朝鮮の名を撤廃して新たに日本の領土として適当なる地名を下すこと 朝鮮総督府歳計独立の方針を放棄すべきこと 閣下の統轄に属する政務中必要とせざるものは中央政府に移管すべきこと具申
- 八三四、佐双左仲
 - 1 明治年二月一九日 御書の件拝承
 - 2 明治年四月二三日 岩田造船大監今二ヶ月を保養致されは就職相成難しとの由 福田大監を此際御任命相成ては如何
 - 3 明治年五月二四日 八重山防水工事に三万四千弍百円を要すべき哉も計り難し 引揚費並に復旧工事費に付ては考慮を要すへし
- 八三五、佐々友房
 - 1 年五月一日 友人南条又五郎二男の予備海軍大軍医南条哲次郎氏紹介
 - 2 年六月四日 御深書二通拝受
- 八三六、佐藤皐蔵
 - 1 大正一三年七月三日 昨日は御寵招を恭ふし又有益なる御高説を承はり深く御礼
 - 2 大正一四年四月一〇日 御陞爵祝詞
 - 3 昭和二年三月三十一日 此度閣下軍備制限全権に就任せらるるやの風説に付き寧ろ専心朝鮮総督として御尽庫希望
 - 4 昭和二年一二月一日 閣下此度朝鮮総督御退任の由 永々の苦勞国民一同深く感謝
 - 5 昭和二年一二月一九日 御就官祝詞
 - 6 昭和四年八月一八日 今般閣下再ひ朝鮮総督に就任の由 同地統治は全世界類似境遇の下にある民族の福祉と安定に関する大問題 閣下を第一人者とするは国民一般の与論
 - 7 昭和五年六月三日 軍縮問題に付いての新聞紙上の閣下の談就中別紙六月一日東京日々掲載の如きは閣下の為宜しからざる様相考 (付) 『東京日々新聞』記事「軍令部長一個の体面より国家が大切だ 斎藤朝鮮総督談」
 - 8 昭和五年七月一七日 閣下が昨夜御仰せられし内の一部分「条約は先つ成功と認むる」を發表せられるは再ひ紛糾と愚考
 - 9 昭和六年六月一八日 今回閣下解任は日鮮両民族の為のみならず東洋全体更に全世界異民族統治の関係上より甚だ痛嘆の至
 - 10 昭和七年一月二六日 二男東洋拓殖会社又は満鉄に就職希望に付き御高配御願
 - 11 昭和七年一月二八日 昨日の手紙を以て御願申上置候件に関し本人の御検分を戴く方然るべし 参上仕るべく御都合伺
 - 12 年一二月二三日 朝鮮巡遊各地に於いて講演会開催に際し種々御配慮賜り御礼
- 八三七、佐藤吾助
 - 1 大正一三年一月五日 信ずへき方の内話には後藤子近々政党を樹立して其頭目たらんとの由
- 八三八、佐藤三吾
 - 1 大正五年六月日 明治神宮奉賛会御献金御申込願八三九、佐藤昌介

- 1 明治一九年一月一六日 今朝水産委員の報告到達に付直に閲見中貴翰接手御手数 of 段奉謝 小生義も愈歸朝の途に相就く筈
- 2 明治三九年一月一九日 不肖当地に於て育英の事に多年従事 漸く今回主務省より札幌農科大学設置の予算提出 閣下及原大臣に尽力を仰ぎ閣議に於て復活通過を熱望
- 3 明治四〇年三月二日 下飯坂君の事業地は交通上甚た不便 同君の爲め便宜を計り得る場合もあるべし 当校の将来に就ては稍目的を達し得る事と相成高庇深謝
- 4 明治四〇年 六月二六日 当札幌農学校組織変更の義愈今回発表を見るに至り喜罷在 不相替御巻顧下されたし
- 5 明治四五年六月二三日 御母堂様永眠の趣新聞上にて拝見 哀悼の誠意を表す
- 6 明治年月日 十八日安着滞米中の御厚情御礼 西郷大臣には桑港に於て拝謁 コレラは不相替流行
- 7 大正八年一月二〇日 已般水野総監より当学大島教授に対して 貴督府就職勧誘の義は本人に於ては御請申上兼候事 就ては橋本教授を推薦申上たし
- 8 大正九年二月二八日 橋本技師兼官教授の義は御陰を以て希望の通先般辞令相成 本日当大学事務官帰任方委細了承
- 9 大正一〇年七月六日 先般箕地参上の節は鄭重の贈物を蒙り深く感銘 本日帰着
- 10 大正一四年四月一三日 今回陞爵の由右祝賀申上たし
- 11 昭和七年五月二八日 今回国家非常の場合に於て国政処理の大任を拝命慶賀 就ては現今北海道庁警察部長馬場義也氏此際留任せしめられたく願上
- 12 年二月一六日 不遠歸朝 御暇乞のため出府
- 13 年一〇月一四日 岡崎工学博士御引見願 今回貴地参上を機に満鮮事業に就て御開上を願上たき義ありとの由
- 14 年一二月二一日 十七日付貴簡拝見 貴書に接し右代人（工藤直方）呼寄せ委任状相渡し道庁にて掛員に面会書類不備の付添起業方法も作成を要する趣の話あり

• 八四〇、佐藤信一

- 1 大正年三月六日 過日上城中は馳走に相成出立の際は土産頂戴感鳴 当地は最早山地植林事業の時季にて繁忙 御預りの知事奥様への贈物は御届

• 八四一、佐藤束

- 1 大正八年一二月一四日 私ごと十月十二日より株式仲買人山中清兵衛氏の社員と相成目下株式方面活動 台湾株式取引所と朝鮮株式取引所創立を計画 御高見を承りたし（付）（メモ）株式会社朝鮮取引所 資本金一千万円 場所京城建築五拾万円

• 八四二、佐藤鉄太郎

- 1 明治三五年一月八日 過日帝国々防論の儀に付き返翰を賜り恐縮の至 閣下より直接乙夜の覽に供せられ名誉此上もなし 此上も国防に関する理義の研究を勉めたき心底
- 2 明治三八年一月二日 明治二十三年よりの小官の国防問題研究の経過・国防問題研究の目的・小官の期望概略陳述
- 3 明治年一〇月一六日 勝伯爵近状の儀につき同人は此頃学術品行共に不良にて教育主任天野正義も困却の様子 意思の鞏固ならざる同人の事とて監督に一層の注意を要す
- 4 昭和四年九月九日 朝鮮総督御復任の御祝申上
- 5 昭和八年五月八日 昨年の進講を印刷に付せられ今回下賜相成 右進講早速御覽に供したく郵送
- 6 明治年七月一二日 御下命の帝国々防論概略訂正につき小栗氏を煩し供覧ピューニハク戦役の記事は浅井属へ草稿相渡し浄書方取計 然るべく取捨を賜らは幸甚
- 7 年一二月一三日 満州方面にて鮮民四百名程を雇傭し彼等に安定を得せしめ居る榊原政雄氏御引見願

八四三、佐藤透川

- 1 昭和八年一月三〇日 不肖透川赤誠以て国民精神が変化の恐れ有るを憂へ国家根本と万事の出発点とを主張し立て全国民の自覚を叫ぶ者 一度首相閣下に拝眉の光栄を得たし

八四四、佐藤得二

- 1 昭和十一年七月一五日（春子・齊宛）故閣下御遭難に続き内外種々御心労にて御疲れと推察 事件後不穩文書を読む機会を得噂も耳に入り悲憤 故閣下に手を振った一派が小著を罵倒

八四五、佐藤直治

- 1 大正六年四月三〇日 私事明治四十三年以来揚子江水先業務に従事致居りしも長老の忌憚る処となり大正四年組合より除外 昨年は駐在武官中介にて暫時従業 海軍専属水先に御推薦を懇願八四六、佐藤永孝
- 1 年三月一〇日 小生無事当地へ着以来益々元気 紐育と違ひ実に田舎然たり愉快の事斗りに御座候（中欠）

八四七、佐藤光永

- 1 年九月三日 尊書拝読御示に依り昨日船橋駅長より茶菓拝受 直に三吉陸軍中將に差上 閣下は非常に喜ばれ早速使用致すべき由申述

八四八、佐藤元恵

- 1 昭和九年九月一六日 今回御帰国数ヶ月間滞水の趣 御光来を賜はりたく懇願 岩谷堂町民及江刺郡民一堂に会して奉迎 尊顔を拝する事により一大教化に接すべし

八四九、佐藤良太郎

- 1 年三月一四日 議事に請願したる内政独立請願の裏面探聞 内田良平・杉山虎丸等の同光会自滅の悲境に沈淪するに至り面目維持上謀議画策 内田良平より蟻生十郎に密書を飛ばし蟻生の表面指揮を受け李喜侃本件の運動を企画決行

八五〇、里見哲太郎

- 1 昭和一〇年一月一六日 一身上の件貴間に相達候処御聴許御高配を賜り感激

八五一、真田鶴松

- 1 昭和九年九月三日 揮毫早速送付難有奉謝 永く家宝と致すべし

八五二、佐野高蔵

- 1 昭和六年八月三日 此度閣下には中央教化団体聯合会会長御就任の御承諾を賜はり本会の光栄此上はなし 今後一層努力致したく御指導の程希上

八五三、鮫島員規

- 1 明治三〇年一月一〇日 御渡英の砌みしん器械注文に就ては代価立換など御手数相掛恐縮 其代価至急御通知を煩したし
- 2 明治三六年四月二日 旧日進処分の義に付き志村重栄科長の伝言了承右は昨年佐鎮軍務經理兩局長宛に照会の回答を待ち決定致したし 照会書回文写御手許迄差出
- 3 明治年六月二日 唯今来月五日迄航海準備相整初旬に出航の御達に付ては本艦義水雷引替亦是石炭積載の為め暫時横須賀へ廻航いたしたし
- 4 明治年六月二日 本艦義可成他艦よりも速に出発の事に御吟味願上たし 本月中には出艦希望
- 5 明治年六月二九日 本艦出艦の義は何日頃の御見込に有之哉伺

6 明治年七月二九日 出艦の義来月三日迄御達相成も給与上甚面倒 やむを得ず本艦は三日午後出艦

○ 7 明治年八月二三日 今朝の運動甚不出来不熟の然からしむる所にして毎朝施行相成れは追々馴致

• 八五四、 沢鑑之丞

○ 1 明治二七年一月二六日 御申越の高千保大櫓上に鷹の来りたる云々拝承 本省も新築へ引移り昨今漸々落付

○ 2 明治二八年一月四日 三宅甲造氏頻りに出陣致したき旨申出 就ては新軍艦エスメラルダに乗組 是は大兄より三須大佐へ御噂
下されたし

○ 3 明治二八年三月一四日 (島崎好忠・斎藤実宛) 佐世保へ回航に付き出師者家族より届物願出の義承知下され雄有 就ては二
尺五寸立方以下の荷物三百より四百位は差支なきも樽類其他汁の出るものは断る積り

○ 4 明治三八年三月二五日 此程大沢に面会 例の一条再発の由今一名弁護士を付入方よろしからんとて其旨予しめ御耳に入れ置
きくれとの話あり寸楮にて右申上

○ 5 明治三八年六月一四日 大沢に面会 例の件に付き安藤弁護士都合よろしき節拝顔致したしとの由

○ 6 明治三九年二月二二日 例の件に付き内協議あり 平岡弁護士も快諾安藤へも大沢より申入是亦承知 此訴訟は勝つ事は勿論な
れば弁護士に手落なき以上は大丈夫

○ 7 明治三九年二月二七日 例の件永井氏より別紙の通り申来 (付) 永井書翰 沢鑑之丞宛 二月二七日付大沢氏来り斎藤君の委任
状并に弁護士領収の趣

○ 8 明治三九年四月二一日 裁判も安心 最早上告は致し申さず 平岡・安藤両弁護人の挨拶に付大沢より内談あり 永井氏の話承
り各自金百五十円位と申置候 (付1) 大沢常正書翰 斎藤実宛 四月二〇日付 本日訴訟棄却の判決言渡 (付2) 大沢常正書翰 斎
藤実宛 四月二〇日付 判決正副本下付申請不日送達相成べし 御都合の日時御垂示下さらば沢氏と参邸致すべし

○ 9 明治三九年六月九日 先日拝見のチーポット付属アルコールランプ上部金属分析の結果錫に鉛・銅を加へ銀鍍をなしたる物
錫は低熱度にて溶解甚危険10 明治三九年六月二七日 大沢に於て執行取計も遂に一物も得ず結了費用は先方より合計金拾七円
五十銭受取の勘定当廠瀬戸機関中佐の件は製造家として使用方海軍の為然るべし (付) 沢鑑之丞書翰 斎藤実宛 明治三九年六
月二八日付 大臣よりの手紙壱通落掌

○ 11 明治三九年六月二九日 大沢に面会し御遣の金子相渡至極難有かり是にて執達吏其他の費用を并し満足の趣

○ 12 明治三九年八月二三日 大兄田辺方へ訪問との新聞記載に付き大沢参り注意の旨申上置きくれとの話あり瀬戸も転職同人の
為め仕合の事岩本昇級の事は何卒御含置下されたし

○ 13 明治四〇年一月二五日 過般の献上品都合宜敷折に願ひたし 是又可成は宮城へ運搬の都合上前日には御沙汰下されたし

○ 14 明治四二年二月三日 下瀬氏の件につき特別配慮深く御礼 下瀬火薬製造方は何の不都合もなし

○ 15 明治四五年七月一五日 御挨拶として見事なる御品頂戴仕り恐縮

○ 16 明治二一年一月二四日 書生義は十七年中は機関学校に通学 右卒業後筑紫艦乗組 十八年中は水雷局に転職 十九年改革より
当艦政局兵器課に従事 昨暮は技部に転任命せられ閉口

○ 17 年六月四日 (前半欠) 先年大鳥圭介地所事件に関し六七七年の長時日を費せし場合と類似

○ 18 大正元年七月三一日 態々丁寧なる御志を賜り恐縮 右謹て拝受

○ 19 大正元年八月 六日 貴命の件敬承 本日全部請取の趣に付き帰着次第直に発送致すべし

○ 20 大正元年一〇月一六日 御昇進への御祝辞

○ 21 大正九年一月二六日 時下感冒流行の折柄御用心祈上

○ 22 昭和五年二月二八日 松本兄願上の義曲て承諾下されたし

○ 23 昭和五年九月 七日 早速御揮毫下され親戚の者非常なる悦にて御札申上

○ 24 昭和六年九月 五日 貴命の「大而化之」習刻に付き作品送付

- 25 昭和六年一一月一二日 粗材ながら習刻義供覧 研究の上清書は其内差出したし
 - 26 昭和九年五月三十一日 渡辺翁米寿祝賀会は軍人会館に於て挙行 出席者は六十余名 大兄の揮毫及坂本俊兄知人の画伯の揮毫 並町会より贈られしステッキ陳列 老人大満足実に愉快
 - 27 明治四五年二月六日 三宅甲造昇級の件は御配慮を以て少将に任命目出たく予備仰付られ本人喜悅 又大館氏も同時昇級大満足
 - 28 年二月二〇日 献上品本日午前十一時無滞拝謁委細奏上 献上品は水雷発射管芻形・機械水雷芻形・小形魚形水雷芻形
 - 29 明治三四年五月五日 私儀去月廿六日安着中旬には新城へ赴く心得 当地出張員監督長以下無事御安神下されたし
 - 30 年六月六日 御預りの品大沢へ相渡せし処恐縮の様子
 - 31 明治年六月一二日 三笠も着手来九月下旬迄には是非竣工のことに造船監督官尽力 当国駐在官鈴木・篠原両造兵中技士は造兵監督官に於て引受
 - 32 明治年八月九日 貴命の銑鍊試験の結果裂鋼にも使用相叶 尤も今回の分は燐素余計の為め不充分なれとも多量に裂出なら 差支なし
 - 33 年八月一一日 原浩一氏は先般妻を迎へる際種々費用を大沢常正に依頼し金百円を借受返済時機に至り大沢へ延期を申入大沢非常に困却今回同人救助の為め大沢へ金百円拝借相叶間敷哉
 - 34 年八月一七日 先日の燭台返上
 - 35 明治三三年九月五日 此程北古賀監督長着任につき機密費辺より内々補助依頼 今度安杜より来訪のハンナーは水雷発射官 担当に付発射試験に立会せ発射官不調の原因調査方好都合
 - 36 明治三三年九月二六日 出雲も昨日受領相済 其節井上艦長が十分前に其用意もせず監督長及安杜々々等乗艦あるも気付かず加え未だ受領の期にあらずと事もなげに申されたるは北古賀監督長大に嘆息
 - 37 明治年一一月二日 魚形水雷発射官はビームより艦首へ二十三度艦尾へ五十七度合計八十度旋回 水雷の数は何分格納場所なく先六個と相定
 - 38 年月二七日 御尋の電気灯御序あらば迅鯨備付の分も御覧置き下されたし 電気灯到着は注文より六ヵ月内
- 八五五、佐和正
 - 1 明治三〇年六月一〇日 貴翰拝見厚配多謝過る七日黒井秘書官より云々承知 同日水路部へ出頭図面拝見 右は計画上極めて必要有益 此上は速に出版懇禱
 - 2 明治年四月一七日 兼て拝囑の一条（謄写許可若くは急き刊行）内示仰ぎたし
- 八五六、沢来太郎
 - 1 年月日 拙著目次別紙の如し（封筒裏）飯塚巖氏持参御引見下されたし
- 八五七、沢崎修
 - 1 大正年一〇月一四日（守屋秘書課長宛）鮮鉄経営の件に付き別紙の通り(一)総督照会(二)総理回答(三)再照会案および参考として直管理由とを作製
- 八五八、沢田佐助
 - 1 明治年二月一二日 亀井平兵衛帆布類製造業経営に付海軍省へ製品納入便宜取計依頼
- 八五九、沢田純一
 - 1 明治四二年一二月五日 小著妙下無光録一部御高覧に供す御判読下されたく御願
- 八六〇、沢田信太郎

- 1 大正八年七月二七日 新総督鮮人間には山県総監の陞任希望者もあれど内鮮人の重立者は矢張り尊台観迎の事看取
- 2 大正一二年八月二七日 今般加藤首相逝去以来真面目なる而して有力なる超然内閣の手によりて新局面を打開するの外なしとする説拡大 貴台の蹶起を熱望する向殊に財界方面にあり
- 3 昭和七年六月一五日 現下の与論と期待は永續性ある内閣の公明正大なる施政方針の確立実行に依る人心作興にあり畏友土岐孝太郎氏御引見御参考に供せられたし 国民経済の恒久的対策について渡辺薫美師より御聴取有益と愚存
- 4 六年四月一四日 愛川様にも御風声依頼 本日三菱の串間氏と会談 早晚理事新任あるべく必ず尽力との由 又元三井銀行の波多野承五氏所長たるべしとの説あり

• 八六一、 沢田豊丈

- 1 年四月一三日 御懇書拝誦 小作人相助会の件につき本日尹益善他二名来道詳細拝承可成多数の地主を集め大地主を会の中堅に当らしむる様致したし

• 八六二、 沢柳政太郎

- 1 大正九年四月六日 昨夜御寵招の御礼
- 2 大正九年一月六日 朝鮮語辞典御恵与への御礼
- 3 大正一〇年一月一四日 御地滞在中の御厚待奉謝 朝鮮統治の事重大長く御尽力の程切に希望
- 4 大正一四年四月一〇日 子爵に陞様相成候段大慶の至御祝申上

• 八六三、 三宮義胤

- 1 明治三二年四月六日 露国海軍将官以下叙勲の件につき内談の始末宮内大臣に申入 叙勲の御心配相叶様依頼申上ぐとの由

• 八六四、 塩崎与吉

- 1 年三月一三日 弊社監査役愛福兼助蒙古の地租借 同人帰路京城に立寄り閣下の御高見拝聴致すべく申達につき御腹蔵なく御談下されたし
- 2 年四月一日 蒙古の地租借の件につき今回陸軍大佐三兵於菟勝及び弊社愛福兼助兩人伺い申上候間御高見御願

• 八六五、 志賀潔

- 1 大正八年九月三日 昨日京城停車場に於て起こりし凶行に当り閣下の御幸運は実に国家の天祐なるを慶祝
- 2 大正一〇年七月五日 先般不傷入院の節の御見舞御礼
- 3 大正一一年一月二七日 政務総監夫人の病気は昨日漸く樂觀を得るに至り之必竟閣下の御高配に由り福岡より久保・竹谷両博士の来診と岩井博士の懇心なる治療に由る次第 不遠回復と一同愁眉相開候
- 4 大正一一年二月二〇日 先般実母死去の際御香奠及び御供物を賜はり且つ御吊詞を辱ふし感佩 右御返礼に替へ朝鮮総督府済生院に金若干円寄贈
- 5 大正一三年四月九日 今般欧米出張に就き莫大の御饒別への御礼 国際連盟衛生会議は九月コッペンハーゲンに開催赤痢血清検定法の評議に就き論争あり小生の責任重大
- 6 昭和三年四月九日 総督府医院大学に移管につき来月中旬頃紀念の式を挙行 伝承には近々御来遊の由其好時季に上記式を挙げ得は望外の幸福
- 7 昭和四年五月二日 小生年来の希望其端緒を達し得るに至り癩菌培養に成功 別紙医海時報高覧に供す (付) 「医海時報」第一千八百九号 昭和四年四月二十日 志賀潔「癩菌培養及び集落形成」
- 8 昭和四年九月一六日 来る九月二十一・二十二・二十三日京城帝国大学に於て朝鮮医学会第十七回総会開催に就き御臨席を賜はりたく御案内 昭和 六年 二月二八日 去る六月二十五日皇太后陛下御誕辰の佳日の音楽の夕は大成功 閣下の御同情の賜

と存じ厚く御礼申上

- 10 昭和六年三月二七日 過日御依頼の予科入学受験生の義金成變は多分不合格 東京に於ける癩学会に出席 岡山の国立癩療養所視察に明日出発
 - 11 昭和六年五月一三日 城大の後來に就ては種々困難横はり猶数年間は創立時代に属し居る次第 加藤灌覚氏採取の草根御受納下されたし
 - 12 大正六年五月一三日 邦宗様の転地御断行希望に不堪 別紙分析表御一覽 恭子様も夏頃まで御転地相成候はば御回復と存上
 - 13 昭和六年七月一五日 按開老人の蘭幅御恵与御礼
 - 14 昭和六年一一月一二日 昨朝御邪魔の節御願の儀来る十九日午後六時より神田学士会館に席を設定御貢擲の栄を得たし
 - 15 昭和六年一一月一三日 十一月十九日午後六時神田学士会館に粗席相設候事重て御案内
 - 16 昭和六年一一月二〇日 昨夜は御多用のところ学士会館に御来臨下さり光荣の至り 以書中御礼御挨拶
 - 17 昭和七年三月一八日 過日御願の件につき昨日小松属よりの来書によれば衛生細菌室失火全焼の為来る二十六日頃着京に相成 右御詫旁々御通知
 - 18 昭和八年九月八日 過日御話の大学改革に関する次第は別紙私案として貴覽に供す
 - 19 昭和八年九月一二日 尾の道市八幡杜額の御揮毫御札 先日御送せし大学教育私案につき私は何時にても参邸仕るべし
 - 20 昭和九年一月一五日 北海道産ほや貝御恵与に預り感謝
 - 21 年一〇月一一日 福山より別紙返書今朝到来につき御一覽相願 (付) 福山類三郎書翰 志賀潔宛一〇月九日付 本月下旬遅れても十一月早々は是非不凍栓と共に渡鮮御伺ひ万事粗漏無き様完全に施行仕るべく御了承下されたく懇願
 - 22 年一二月二四日 昨日午后着京 早速邦宗様御見舞 経過宜敷あらせられ当分心配もなし 今日午後五時佐野・守屋・富田三医師と立合を約束
- 八六六、志賀重昂
 - 1 明治三七年 九月一七日 御蔭を以て満州丸に便乗御許可相成り各地を巡航種々利益する所少なからず厚く御礼
 - 2 明治五年五月二日 黄禍云々などと喧しき今日一個の文人として従軍許可取計下されたし
 - 八六七、志賀和多利
 - 1 大正一〇年一〇月五日 御巡回中発病の趣伝承驚愕 加療千万回復一日も速かならんことを奉祈
 - 八六八、繁田武平
 - 1 年八月二五日 先般懇請の川越中学校同窓会記念事業として大正天皇行在所記念碑揮毫の件御許容下されたし
 - 八六九、重松清行
 - 1 昭和六年一月七日 過日は見殊なる御書を御恵与深謝 小生今回勝田氏御入閣の為上京 同氏の為閣下御高援を賜りたく懇願
 - 八七〇、重村義一
 - 1 昭和一〇年一二月二六日 御来鮮の節何故当科学館御枉駕を願出ざりしかと残念 地鎮祭も畢り二十日には其建設の様式も決定 地鎮祭の写真御高覽に供す (付1) 写真五葉 (付2) 新聞記事「博物館設計に一等当選の青年技手の苦心談」
 - 八七一、侍従
 - 1 明治四二年一二月二日 雉子下賜伝達
 - 2 明治四三年一月二日 鹿肉下賜伝達
 - 3 明治四三年一二月一五日 鹿肉下賜伝達
 - 4 年二月一八日 鹿肉下賜伝達

- 5年二月二二日 鹿肉下賜伝達
 - 6年二月二三日 雁下賜伝達
 - 7年一二月一八日 雉子下賜伝達
 - 8年一二月一九日 猪肉下賜伝達
 - 9年一二月三一日 雉子下賜伝達
- 八七二、幣原喜重郎
 - 1 大正四年一〇月三〇日 前駐日英国大使マクドナルド氏逝去への閣下の弔電に対し別紙の通り未亡人よりの謝意取計依頼が在英大使にあり
 - 2 大正七年四月二〇日 貴翰委細敬承 一応御本人に於て来省主任官たる阿部事務官に直接談合の旨伝声を煩はしたし
 - 3 昭和五年三月二一日 軍縮問題の経過は昨今最重要なる時期 昨日岡田大将より内閣には難案解決の為には閣下の協力を煩はしたしとの趣にて吉田次官より事情面陳ずる様仕りたし (付) 岡田大将伝言 小野塚総長文相就任拒絶
 - 4 昭和七年五月二七日 今回首尾よく組閣の大任を果たされ寔に恭悦の至 非常なる難局を御負担相成犠牲的奉公の御精神に感佩
 - 5 昭和九年五月一四日 往年浜口内閣の書記官長鈴木富士弥氏に付き従来内閣書記官長たりし経歴に依り貴族院議員に勅選の詮衡ありたる先例少からざる趣に付き同様の御詮衡依頼
- 八七三、篠田治策
 - 1 大正九年一二月九日 鮮手鉤等主唱の大東同志会は本日一日発行式を挙行 会衆約二千名に達し盛況 当日宣伝隊出発光景の写真葉御送付
 - 2 大正一〇年二月四日 西鮮地方御巡視滞無く相済御恙なく御帰京慶賀至極 御招宴中一二の者の不遜の言辞あり恐縮小官及第三部長への御品御贈与並警察官への御手当御礼
 - 3 大正一〇年二月四日 当地御巡視に付ては慈善団体等に対し多額の金円御贈与を蒙り官民一同に代り感謝併せて御安着を奉祝
 - 4 大正一〇年九月一三日 本道管内太平洋会議を利用して不逞の徒拾頭の情報もあり 目下職員三班を派遣し宣伝 更に大東同志会を利用して誤解なき様講演
 - 5 大正一〇年一二月一一日 当地に於ても原首相追悼式挙行 米国宣教師等も哀悼の意を表す 鮮人有識者は首相薨去を惜み排日思想を有する輩は革命の前兆なりと私語 本日華府会議開会第一日にて流言飛語行はれ不穩文書も発見 上下協力十分に管内の治安を維持する覚悟
 - 6 大正一一年二月七日 鮮手鉤の政治犯人釈放の運動のため金品收受との事件は排日者流が彼を窮地に陥れ大東同志会の破壊を企図するものにて検事局は彼等の術中に陥りたる捜査をなす 昨夜関口検事に可成公平無私なる内地人検事のみを担当せしめられたき旨を申述
 - 7 大正一一年三月二日 鮮干鏑は不起訴 訓戒し置き 鮮手甲は機を見て注意 反対派は行政権が司法権に干渉と宣伝も斯る事実なし 電灯問題に付き通信局立合ひの平電と電興会社との交渉要旨内報
 - 8 大正一一年四月一三日 今回計らすも陞等の光榮に浴し御礼申上
 - 9 大正一一年 八月一三日 品物御恵与御礼 先般御巡視の節は万事不行届にて恐縮 鳥山文学士昨日来壤御視察のこと
 - 10 大正一四年一二月一〇日 陵国墓山林の件別紙の通り経過を記述につき御一覽を給はりたし 墳墓の山林を取り上げたる一事は総督政治開始後に係り鮮人上下の最も執着する事なれば御配慮を煩はしたし
 - 11 昭和二年一二月一八日 御退任の御電報に接し驚き申候 朝鮮統治の為遺憾 両殿下御機嫌麗はしく各地御見学にて三月初御

帰朝の予定

- 12 昭和三年二月二〇日 李王同妃両殿下御旅行に付き各国にて十分に御優遇 又殿下に対しては御優遇を受くる所以は日本国力の背景と日本の皇族に準せらるるか為なることを言上
- 13 昭和三年一二月二二日 歳末の御挨拶申上 先日欧州旅行の日記を印刷 御一覽の光栄を得たし
- 14 昭和六年一月二六日 大木家と宗家との債務関係に就き御申越の赴きに付ては多少複雑 李王家として干与するは或は困難 大木未亡人に御面会の機もあらば御申聞け下されたく御依頼
- 15 年九月二五日 (韓相竜宛 足立持参と封筒に記入) 此書持参の者は小生友人の長男にて新進画家 然るべく御配慮を給りたく御紹介
- 16 年一〇月五日 平壤府内チブス流行に付き御配慮を給はり昨日岩井博士御派遣下され御礼 新聞紙の荊妻も罹病の旨は誤伝 只三女・長男入院中 警察部長も軽度の発熱 財務部長夫人罹病
- 17 年一〇月一八日 御揮毫御下付御礼

・ 八七四、篠田利英

- 1 明治二一年 八月 五日 公使不在且暑気激甚にて暫く当所に滞留致したく此度は拝眉仕兼候 御帰朝の上海外経験を我邦海軍の改良上達に応用下されたく希望

・ 八七五、篠塚英雄

- 1 大正 九年一月二二日 小生滞鮮中の御厚情御札 帰京後当局の方々は勿論朝野の学者先生方をも訪問 内地の政治家学者階級がそれ程に朝鮮問題を解せず見当違ひの断を下し迷惑此上なく当局の至難御察し申上候2 大正一〇年四月二〇日 満蒙及び極東共和国視察の途中朝鮮へ立寄張作霖閣下と朝鮮総督府との間に交渉あるべしと存じ又原首相の期待も感ぜられ閣下の帰鮮を御待受け京城滞在 拝眉に預りたし

・ 八七六、柴五郎

- 1 明治四二年三月五日 元愛宕艦乗組鍛冶工朽木綱張廃兵院収容の議は今般仮入院 閣下特別の御高慮に感謝
- 2 明治年四月一三日 英人ドクトル・プール氏接待 二十三日大山参謀総長に於て晚餐に招待 少官に於ては別に何の計画も無し

・ 八七七、柴四朗

- 1 年月二二日 小生用事未た済み切らす少くも一月在留 来月より費府に於て万国電気博覧会及米国学術進行会あり 来月三四日頃より御来府あらば多少利益に相成歟と奉存候

・ 八七八、柴染太郎

- 1 大正一一年一〇月二四日 突然拝謁の光栄に浴し銘謝 金銭上の関係を存しては新聞文筆の生命を絶つと同然の結果 今回願申出の件も世間一般に於ては金銭を意外に重視 本件は閣下と後藤男以外他に洩れざるを期したし
- 2 大正一一年一二月五日 中国を視察し去月五日帰京 孫逸仙一派の親露策と北京大学に源する新思想は一大旋風になるべし 服部久四郎氏等の関渉により外人記者の辞職・外務省との衝突を惹起しジャパンタイムス社乱調に未だ一段落を着け申さず
- 3 大正一二年九月一日 大命降下の山本伯の御活動を最も近く接触して拝見仕りたし 列国人員より良き了解を与ゆる方法新聞記者操縦の点でお役に立ち得る処あらんと想像 タイムス社事業に貢献多かるべく御一考下されたし
- 4 昭和二年四月一日 此際の御渡欧は御差し控へ相願たし 支那両軍の北進継続し満州に変化ありと仮定せば鮮人の思想悪化 閣下の最大最高なる御奉仕は朝鮮の統治
- 5 昭和四年九月六日 カーネル・パーチ・ヘルムス氏は新任日本代表フランク氏と小生旧友今井忠直氏協同外資ローン紹介に従事 鮮国の事業振興上外資必要の場合御下命賜りたし 大阪ゼネラルモーター会社不遠交渉に着手

- 6 昭和七年五月二四日 「日本国民」なる新雑誌を刊行せる伊東阪二氏は株式界に於て大成功を博し多方面の文士及政学者・少壮軍人・投機に従事し居る人々とも連絡あり御引見願

- 八七九、柴砲兵少佐

- 1 明治年一二月二七日 御下問の件当方には未だ通報なし又野戦衛生部も通知なしとの由回答

- 八八〇、柴田家門

- 1 明治年三月三日 来る六日以後毎月月曜日午前九時より首相官邸に於て会合相催御出席下されたし
- 2 明治年三月一五日 明十六日枢密院会議に御出席相成候様総理大臣の命に依り御通知
- 3 大正六年一月一日 恭賀新正
- 4 年 二月二五日 野生入院来不絶不一方御懇情を辱ふし只今は葡萄酒拝受 不取敢御礼
- 5 年三月二四日 例の拙影余剰なし過日更に採影本日出来につき差出

- 八八一、柴田善三郎

- 1 大正一一年一月二八日 教育令も枢府を通過 二年有余漸く結晶する事を得て快禁能はず孔子二千四百年祭並記念事業に付き御指示を体し経学院・斯文会・振興会幹部に共同事業として執行方諭示
- 2 大正一一年三月二日 本月十七日付尊翰御下命の斎藤氏歴史教科書編纂に関し本府に於ては歴史教科書は検定のものを使用せしむる方針に付き不悪御思召下され斎藤氏へ然るべく御申伝の程願上
- 3 大正一一年三月七日 大東斯文会発起の孔子二千四百年祭並記念事業の件は其後関係者に於て円満に協定別紙経学院提出の書類供貴覧
- 4 大正一一年一月一日 転任に付御手許金御恵与御礼
- 5 大正一二年一月四日 私事病気に付き御懇書御礼 震災後の事件に付き御尽力により人民平穏と伝承朝鮮大学総長に服部博士は最適任
- 6 大正一五年二月二日 権藤四郎介氏より故宋伯令孫宋在龜氏身上に付別紙の通依願につき御高見承りたし 時実氏福岡市長に推挙議決につき可成速に発令御取計依頼
- 7 大正年一月四日 尹昌錫採用の件に付き刑罰に触れる場合は現行法に於ては資格を認めざる制度にあり 就ては法規上制限なき牧師方面にでも従事せしめる外致方なかるべしと愚考8 昭和元年一二月二六日 御令息御結婚芽出度奉存候 御配慮への御礼
- 9 昭和二年 四月一五日 軍縮会議代表として渡欧の趣 慶祝に堪へさると同時に御心労の御極とも拝察
- 10 昭和二年一〇月二六日 御品御恵与御礼
- 11 昭和七年一一月一〇日 (電報) 陸海軍予算に関し兩次官と話し合い円満解決せり

- 八八二、柴山得造

- 1 明治二九年 四月二一日 御令弟省吾君去る五日午後一時急性胃腸炎に罹られ百方治療其効なく翌日午後六時四十分永眠 遺言無きこと又ホルアルア日本人墓地に埋葬のこと通報
- 2 大正一二年一月七日 毛利伊賀氏渡鮮拜謁を得何たる光栄と満足 日本語学校問題安堵下されたし摂政宮殿下御盛儀献上品の義御執成を仰ぎたし
- 3 昭和七年 四月日 倅得太郎結婚御披露に付粗餐差上たく案内
- 4 昭和八年 六月二九日 先般佐藤山下等御引見御高訓を賜り御礼 五男十郎六男稔は故国にて生活致したき希望にて帝都にて就学方令嗣齊様に御指導仰たし
- 5 年七月一一日 水盤用オコレハウ樹暑中見舞の印迄に献上

• 八八三、柴山矢八

- 1 明治二〇年一月二〇日 報告編纂中先月初旬艦政局勤務を拜命し不本意千万呉・佐世保新築軍港の工事は兩三年内には結尾 日本政府の概況は条約改正中止以来波瀾 自由党と改進黨とは合併は無覚束模様 足下進退の義は仁礼中將まで申述
- 2 明治二七年一月二七日 第一軍も鴨綠江を打渉り進軍開始にて清政府の狼狽想像 旅順港内の臥竜を奔逸せしめ千歳の遺憾を懐かしむるか如き遺策なき様希望 木藤大佐も能き位置も有らば配置方尽力下されたし (付) 三須宗太郎書翰 斎藤実宛 一九日付 柴山少將よりの言面御返送
- 3 明治二八年 一月九日 將校の転免頻繁に際し殊に幕僚も一時に新顔と相成混雜 過日の交代に際し有為の人物丈は戦地へ転職 何卒此末好機会もあらは相当の位置へ配置下されたし
- 4 明治二八年一月一〇日 本軍港警備艦乗員に限り移動なしに付き何とか交代の事に注意を仰ぎたし運送船監督將校は交代多く 運轉の事務を誤る事実も有り可成老練の將校を以て配置下されたし
- 5 明治二九年一月二六日 今回富士回航委員として来る二十八日出発の由 無事帰航一日も速く海軍の大勢力を加へられたく 希望 加ふに富士を本府所轄と定められしは名誉此上なし
- 6 明治三一年一月二日 本日晚餐差上たし
- 7 明治三三年 六月二五日 昨夜は不慮の災難を惹起し恐縮千万 今朝現場巡視意外に損害少なく本日中火災後の乱雜狼籍を片附せば支障なき見込 海軍の損傷に帰すへきものは焼失部の修理營繕費のみならん
- 8 明治三三年一月一日 二三新聞に呉軍港疑獄云々記載 造兵廠書記森某送賄石炭商常弘某を拘留審問造兵造船の両書記に 拘留状を発送 別に賄の物品受授等の上に不正業務等の事柄はなし
- 9 明治三三年一月二七日 本府造兵造船兩廠に發生の収賄疑獄事件に付御來示の趣敬承 少しく流伝の附説に御迷信の節あり御 仄間の如き輕忽の懸念は決してなし 新聞紙上に幾多の醜聞を流布せしむるは有害不得策
- 10 明治三四年七月九日 恒例検閲殆どと終了 舞鶴の儀は開庁不遠事と想察に付今更検閲の必要も有之間敷 本省の事情に依り御 意見承知致たし
- 11 明治三五年二月一四日 造船も事業遅々として挙らず目下曳船水雷艇等の新製のみに付今一隻巡洋艦の新造を本造船所へ下 命を希望 日英同盟為邦家慶賀 支那朝鮮の依頼心も必ず一定するに相違なし 最早元老内閣の再発せざる様尽力干要
- 12 明治三五年三月二九日 予て提出の予算額は第三船台を一等巡洋艦用として改造するには大分減額の見込の由 右の費用は 過日造船廠より艦政本部第三部長へ報告の筈 新造三等巡洋艦の儀は横須賀へ下命予定の由干賢の巡洋艦を他に奪はれ実に失 望
- 13 明治三五年七月一〇日 兵員暴行に付き未然に防遏するを得ざりしは恐縮且遺憾 目下主謀者並犯行者の検索に尽力一方に は市民の意向如何を懸念も一般に兵員に同情を表し此方は已極好都合
- 14 明治三五年一月一三日 英国公使館附將校去る十日着呉 造船所造兵所の視察等充分満足の趣にて本日佐世保へ発行の筈 英艦グロリーも十一日入港 明後日江田島兵学校より広島大本營跡辺を案内 金剛比叡兩艦も目

• 下在港中の処比叡艦長転任なく甚だ失望

- 15 明治三五年一月二九日 三笠事件も審問結了 三名の下士官大に教唆の事実は意外 三笠將校の処分は懲罰に止むるか行政 処分に附するの外なし 将来艦船は可成内地製造を希望 近来我海軍の一弊社事たる艦内当直勤務の墮落は必竟將校欠乏の結果
- 16 明治三六年一月三日 頃日新聞紙上に艦隊派の柴山中將云々等の記事相見海軍統理上世人に疑惑を惹起せしめんとするの 悪戯に出てたるものにて何れも虚構の忘説に過ぎず
- 17 明治三七年四月一〇日 第三期特別運送船準備の件セメーション至極必要 備材準備方取消の電報に接し早速取止 拙者の 意見にては薄弱不十分なる構造に費用を費さるより出先にて小船舟を集め構造致方得築
- 18 明治三七年一月二三日 来春早々一等巡洋艦起工に着手の予定に付ては日本初めての起工 欧米の習慣に依り起工式を今

回は先づ鎮守府に限り施行致したき所存（付）子号一等巡洋艦起工式次第書

- 19 明治三十八年一月二八日 先般軍務局長より防禦海面令草案送附 第三条第四条中の「陸海軍」は日本帝国陸海軍の意味か念の為承知致置たし 又馬関海峡は防禦海面区域なるや内示を得たし
- 20 明治三十八年五月二〇日 港務部員の件に付現部員を外業監督に専任し今一名少佐位の将校を増員の上副官事務に専任下されたく希望 又式隻若は三隻分担云々の件に付ては最早異議の述様もなし
- 21 明治三十八年五月二三日 鎮守府付担当者設置は絶対的の不同意 別派人員職工器具機械携帯の上一隻を分担するは故障なし早速港務部長・工廠長と商議 坂本防備隊司令官にも意見聴取の積り
- 22 明治三十八年六月二二日 十八議会以て多年切望せし拡張案愈確定 来年度着手の新艦も粗ほ確定 第三第四着手の分は可成内地製造を希望 第一着手の戦闘艦外国発注に伴い監督として将校主計官派遣の必要 目下横
- 須賀造船廠勤務の河野中監は尤も適當
 - 23 明治三十八年八月二〇日 沈没軍艦の引揚事業も順況 主要軍艦の引揚丈は結了の見込 商船引揚本年中には過半相片附見込 今日落札者は何れも素人連にて契約通り義務を果し得るや否やは頗る疑問 沈没軍艦引揚事
- 業に付き分担将校及技術官の功績は時機を待て具申の見込
 - 24 明治三十八年九月四日 引揚済商船復旧修理の件は当工作廠にて着手云々内訓の処当地にて修理執行は不経済にて寧ろ内地の私立工場に依托方便利 目下は收容戦利品及鉄屑後送中
 - 25 明治三十八年十一月一六日 船渠破損の件は一応参謀長を出京せしめ軍令部並大臣の意見確定の上何事も確定希望 大船渠の成否に依り今回の工事も方針を相定たし 小官の見込は早晚大船渠完成は必用との所見にあり
 - 26 明治年二月一二日 明十三日十一時四十五分迄御来艦の程希望
 - 27 明治年三月二三日 本府造船廠長玉川大監は胃弱並留麻知斯にて当分全癒の見込なし 後任者に付ては片岡部長共協議 岩田大監を廠長、心得に据置き其代造機科へ有為の技監を配置せしめられたく尽力依頼
 - 28 明治年五月二八日 嶋崎大佐の件に付諮問の件敬承 目下先任順次に在る十二三名の大佐中に比すれば同人格別優劣を認め申さず 拙者の所見には第一三須第二嶋崎第三植村第四上村第五舟木第六伊東を以て適當
 - 29 明治年六月二七日 対馬の工事たる未だ機器汽缶の据附迄には到らざるも現設計と委員との意見齟齬を避る為には艦装委員を置かれる便宜
 - 30 明治年八月二〇日 最初沈没艦引揚に付神威丸浚渫器応用の予想もあり石黒工務官の来旅を希望せし処今日迄の実検に依り同人に依頼すへき事業も殆どなき状態に付き差当り半造船渠及水雷艇船渠改造予算の調査を囑托
 - 31 明治年十一月一五日 本地下士卒家族共励会の目的は下士卒家族の矯風及女性家業の教授 營業的との疑問を避る為正当請負商人より其下請を為すことに商議 下士卒集会所へ一部官地貸渡の義尽力下されたし
 - 32 明治年十一月二日 本校教頭には現校長心得との権衡上竹内中佐尤も適任ならん將又現副官木村中佐は教育部門へ転職の上新規補職が好都合 本校の引継も今朝新校長と協議 卒業式後に交代致したしとの事
 - 33 明治三十九年一月一五日 今回内閣交迭に付ては海軍大臣へ御親任 旅順・大連地方民政の義に付ては陸軍統轄の下随分乱暴なる施政にて民政庁も有て無か如き状況 軍事費の下に民政を維持するは国庫の点よりは甚だ不経済 陸軍は純然たる軍事的権限に止め民政とは分離せしめたる方得策
 - 34 明治年二月二八日 実務練習方法調査の儀に付ては大臣訓令の主意に基き別紙の通り議題を設け各委員に配布 委員中高木大尉は目下佐世保滞在中にて招集困難 右代員として名和中佐を任命下されたし
 - 35 明治年四月二六日 呉疑獄云々の義 其事實は衣糧庫勤務の書記筆記厨宰等と海兵団病院勤務の厨宰等は商人と結托し隠に帳簿上の数字を改削し月末に至り偽造の数字に依り金の下渡を請求
 - 36 明治三十七年五月八日 先日来山下浅太郎酒保事件に付ては種々高配に預り恐縮の至 山下の同方面の酒保員たる高橋彩吾貴

官へ紹介呉と希望につき面談下されたし

- 37 明治年一一月一〇日（前半欠）加藤主計官の転任甚た遺憾 後任は横須賀造船廠の坂野主計中監は如何
- 38 年一二月二日 報書の一項目に付今回富士艦長より差出の臨時作業問題の一書写差送 之を以軍艦将校転免頻繁の状を御推察 軍艦の就役年限を二ケ年已上とし其就役間は艦長已下の将校を可成転免せざる事に内定必要
- 八八四、渋川勇吉
 - 1 大正八年一一月一〇日 在上海朝鮮独立仮政府の内情探查赤池局長まで報告に付御聞取り願上今回呂運亨渡日に関し藤田九 臯氏独立云々を条件とし在上海外国人新聞記者を立会せしめたる事実は実に国家の為寒心すべき一大事
- 八八五、渋沢栄一
 - 1 大正一一年一二月一〇日 青年実業家ヘンリーチエムバーレン氏御引見願
 - 2 大正一五年六月日 在京城向上会館に金九千円 間島光明会に対し金二万円を醸出 佐々木清磨氏貴地滞在中御高教を賜りし由 感謝
- 八八六、渋沢敬三
 - 1 昭和九年一一月一六日 昨夕引見唐突なる願意御聞届下さり御礼 愛知県下の山間避地にも閣下の染筆を得たるその喜ひと光 栄の感は想像以上
- 八八七、渋本太吉
 - 1 昭和年一一月二日 大閣下の写真を伏拝 御健勝を天地神仏へ御祈
- 八八八、渋谷愛夫
 - 1 大正七年三月一七日 拙者は一ノ関出身の退職騎兵にて研学中 別紙を送呈して御尽力を仰く 別翰を草し終りし日の新聞によ れは供船は既に決定 最早及はさることなるへきも御参考に供し奉る（付）「供船の利害を論して政局の転換を促す」 大正六 年十月十八日付
 - 2 昭和七年五月二二日 五月十八日付西園寺元老に奉呈の協戮政府案供貴覧（付）「協戮政府案」昭和七年一月九日午前十時 出翰昭和七年五月十七日少改訂少増補
 - 3 昭和二年四月一日 同封書類大至急一閱を賜はりたし 拙者は回紀文華創建の泉源を為すへき神託者たり 其成道の確信を持す るより皇室に奉獻せんと思惟しあり（付1）「神託昭和台閣案建築」昭和二年四月一日付（付2）「禍世難国救護神託案」昭 和二年四月一日付
- 八八九、島崎進
 - 1 昭和八年一月一二日 先般面談の栄を与へられ愚生一生の面目 早川氏を中心に結成の神剣党の件は誠意の寵れる愛国運動に 致すべき様一同申合 殊に秦憲兵司令官・柳川陸軍次官より強き教訓を受け極めて敬虔の態度を維持 揮毫の件更に願上
 - 2 昭和九年九月七日 高配の数々に対し寸志の程も表はしたく実家より届け来る自作の野生品を御邸まで持参 先般上京の砌林 陸相・真崎総監・山本英輔大将・広田外相・有馬大将に面談
- 八九〇、島崎保三
 - 1 大正八年八月一〇日 閣下就職承諾に対しては吾人の欣快とするところ
 - 2 大正一四年 四月一〇日 此度陸爵の趣御祝 昨今病氣引籠の様子全癒祈上
 - 3 大正一四年 五月二八日 尔来諸方面視察し此間各種の内鮮人に接して下情模索 母国の強大なる背景の真価を弁へ其の誠実な る保護に感激し平静の状態に進みつつあり 所謂職業的不逞徒輩の蠢動は多衆より蛇蝎視せられて其の勢力の進むへき筈なし

- 4年一二月二三日 今後屢支那内地に出入の必要あり 総督府囑託の肩書旅費支給の途につき警務局長に希望申進たし 松尾小三郎氏高調の豆満江口自由港建設案に付き是非御好意の御解決を与えられんことを切望

- 八九一、島崎好忠

- 1 明治二八年三月二八日 写真の件已に土岐主事へ通知の趣 前田第二課長へ源丸の事相談横須賀にて積残の分旅順港にて積込を要する数を前田へ通知下されたし
- 2 明治二八年四月日 ケーブルの件打合 十日間にて修理
- 3 明治二八年八月一九日 本艦も未だ故障もなく十日と碇泊することなく航海に従事 急に横須賀を發航せし故に一度汽鐘の修理を要すに付き新鐘交替迄の間仕用出来得る工事致たし

- 八九二、島田ツネ

- 1 年一一月五日 兼ての一条残らず相済

- 八九三、島田俊雄

- 1 大正年八月一〇日 東亜煙草会社の件今後とも宜敷御配神御願 国家として相当保護を加ふるの価値あり 昨日会社当局と会見 概況報告 相当運動の上重ねて御懇情を煩はすの機あるべし

- 八九四、島村速雄

- 1 明治二一年九月二九日 小生米国滞在中は暫時の間種々厚情に預り御礼 只今は語学稽古と職務上の書類研究
- 2 明治二五年七月二七日 本日艦長殿下帰艦 御意には昨日司令長官殿下に伺候し曰く休暇の義も半舷の代に四分の一となし四分の三は艦内に止め置かれたしとの事 一旦皆を召還の上更に相当の人員を定めて許す方得策
- 3 明治二七年一〇月 七日 (玉利書翰) 折靱小包郵便を以て發送につき御受取下されたし
- 4 明治二七年一二月一四日 大連湾旅順占領の勢に乘し猛進せしは愉快 大勢既に定まり今度交戦を望み得るや否は疑問 艦隊は皆大連湾に在り旅順の方は三浦艦長専ら整頓方に従事
- 5 明治二九年一〇月日 小生先般海軍大学校海軍戦術教官を被命 可相成は欧米兵家の説をも参酌致したき存念 先つ広く本邦将佐官の高見を拜聴し之に基き立案方然るべし (付) 海軍大学校試験問題
- 6 明治三一年 九月二五日 小生儀今般高知県土族近藤正英長女管尾と婚儀 披露旁粗酒差上たし 十一月一日午後四時紅葉館へ来駕下されたし
- 7 明治三七年九月二九日 ハチソン公文書を以て去月十日海戦に於ける各戦隊の行動を照会 同人は私信にて三笠の敵弾の数・其弾種大小其損害状況等承知希望 此事は秘密を保つべき電訓もあり謝絶
- 8 明治四四年四月一七日 艦隊は十四日新嘉坡到着 鞍馬・利根両艦共格別欠典なし 但鞍馬の火薬庫の温度上昇し過ぎるは遺憾 到着当日海峡内にてモムマス・ペロラス・フローラと出会
- 9 明治年六月二二日 風模様鎮静の様子相見へず本日中上陸人員の帰艦は甚だ無覚束明朝は休暇上陸中の者に限り朝食を陸にて済ませ八時半發にて帰艦すへきことと定め候次第
- 10 明治年六月二二日 風模様容易に鎮静の兆候相見へず 上陸中の人員に左の通り相違
- 11 明治年六月二五日 今朝伊集院参謀来艦 其言に曰く海軍省にて軍艦を出して貰ひたいと言うが或は高雄に命あるかも知れず機関船体出航に差問なきやと 機関は試運転さへ好結果を得れば出航を妨るものなしと返答
- 12 明治年八月二二日 当地所在の者差支の有無問合の趣取調せしも別段差支はなし先晩光臨の連中は別紙人名書の通り 今般若し御招待あらば可相成此人名中に就き特定下されたし
- 13 明治年月日 昨日平壤より帰航 一ケの胴乱あり貴兄の物と推察 玉利大尉に宛て大本營貴官宛にて送付方依頼
- 14 大正三年三月二三日 此度小官の転任に就き予め内報を賜り感佩 官舎の引揚には数日を要し且途中少くも二泊を要す次第

にて東京着は月末又は来月

- 15年四月三日 先達ては遠方の処まで態々御見舞下され万謝小生快気相成本日帰艦
- 16年一〇月三日 平岡喜知子閣下への紹介懇請につき此紹介状交付御引見下されたし
- 17年月二八日 近々の中観艦式令施行の内議ある模様御聞及の筈と存候処本年中には到底運び兼ねること御内報

- 八九五、清水澄
 - 1大正七年三月六日 昨日枉駕下され恐縮且小生不在にて欠礼 尊翰拝読 妻とも相談し更に親類とも協議仕りたし

- 八九六、清水友吉
 - 1明治四二年一一月日 私儀松原の国に於て日清戦役戦病死者の吊魂塔・日露戦役の戦病死者の忠魂堂造営し祭典執行皇太子北陸行啓の節御褒奨を賜はり感激 其際御献上の写真帖の複写献呈

- 八九七、志村源太郎
 - 1年一一月二二日 高話拝聴旁晚餐差上たく来る二十六日午後五時御賁臨下さらば光栄至極

- 八九八、下飯阪武太郎
 - 1明治年七月二五日 請ふ尊弟省吾君寄寓詳明し生か意のある所を次報せられよ

- 八九九、下飯坂元
 - 1昭和六年二月一一日 道庁移転問題経過御耳に達し申候 小林公州面長巧妙に立働き運動は猛烈と相成 六日郡民大会を開催 内地人都市たる大田に移転は一視同仁に反すると決議 本問題は当然総督の権限 明日予算総会に於て好転を切望九〇〇、下岡忠一
 - 1昭和五年四月一五日 日本銀行より倫敦駐在を命ぜられ来る四月二十四日米国經由赴任に付御承知下されたし
 - 2昭和六年一二月二六日 先般亡父七周年忌に際し三峯会の御主催にて盛大なる追悼会あり 高堂より追悼談を賜りし由厚く御礼
 - 3昭和一〇年一一月六日 当地産柿少々別途送付

- 九〇一、下岡忠治
 - 1大正一四年五月六日 東拓理事問題に就き弓削採用方御高配を蒙りたし 取引所令制定の件につき江木翰長反対の口吻につき朝鮮米穀市場の現況及取引所問題の行懸り本問題解決の已むを得ざる事由等御説示願上
 - 2大正年七月一三日 本日元読売新聞編輯局長宮部敬治参上 御引見下されたく紹介
 - 3大正年一〇月一七日 朝鮮予算問題は一般会計の整理問題其外の為遷延 補充金は五百万円位消滅の見込 総督府整理案成績に顧み我々の主張を容認する傾向看取 鉄道移管問題は満鉄との交渉遅々として進まざる

- も移管決行の下準備の上近日閣議決定を仰く順序と相成

- 九〇二、下条幸次郎
 - 1明治三二年六月一七日 宮城県中学校新築校舍落成本校出身先輩の写真を講堂に掲げ子弟を奨励致したく 尊影一枚御寄贈依頼

- 九〇二、下条康麿
 - 1大正一四年九月一九日 令息齊様統計局へ就職に付ては芳書を賜はり恐縮 統計局に於ても数学者を必要とする場合にあり願ひてもなき方を得たるとして局内喜び居る次第

- 九〇四、下斗米末蔵
 - 1 年三月三日 小林富蔵氏海外渡航の件身元調査等の都合もあり直接一ノ関警察署へ差出 数日中に進達あるべし
 - 2 年三月二八日 小林富蔵殿海外渡航に関する件に付て外務省と打合せしも経歴不充分との理由の下に不許可
- 九〇五、下見雄造
 - 1 大正一三年八月二三日（八年八月一六日付封筒に封入の電報）尊書拝見 厚き深き優遇に言葉なし 幾分返し上げたるもの御返還なきよう願上（斎藤実添書力）八月三十一日付 金壱千円返付
- 九〇六、下村宏
 - 1 大正一〇年二月二四日 過般朝鮮巡遊の節の御厚情御礼 例の六三法案両院通過確定次第来月二三日頃出発
 - 2 昭和七年五月二二日 内閣の中心はいふまでもなく内務国民全般に公正安定の明示暗示を与ふるは湯浅倉平君を於て他に無かるべし
 - 3 昭和九年九月二六日 北鉄は名実共に日満合併とする事は将来対露対満又列国に対し大義名分をかざす為め又日本民族の独枉の為め肝要
- 九〇七、庄司新二
 - 1 昭和八年六月三〇日 産業会社設立産業綜合必需物資貯蔵法制定に関する請願書を第六十四回帝国議会上院に提出 衆議院に於て政府参考送付 帝国国策の樹立の機運醸成の一契機と相成を得は小生の本懐
 - 2 昭和八年一二月二〇日 第六十四回帝国議会上院に請願の特殊会社設立産業綜合必需物資貯蔵法案趣旨御了解を願ひたく拙著国難打開の国策提唱御送付
- 九〇八、勝田主計
 - 1 大正一年一月二八日 先刻談入の野中清は旅行中とのことにて明日は推参不可能 同人帰京次第速かに差出申すべし
 - 2 年月日 和田一郎理事希望 整理資金の一部日本銀行より貸与致す関係上元福島支店長柿内常次郎推薦に付き同意得たし 又朝鮮銀行重役は元官吏多く外部に対しても非官僚採用の方万事都合良し
- 九〇九、白井二郎
 - 1 七年九月六日 御書面の趣了承 本人より既に願書提出せられ東京に全戸寄留の旨附記あり陸軍省にては御希望の如く東京部隊に服役せしめらるべし 入営命令を十一月上旬迄に本人に送付する筈にて御安慮下されたし
- 九一〇、白井善一
 - 1 昭和三年一二月二九日 昨日は御懇情賜り御礼申上 井上侯爵は湯河原御滞在中と承り御伺せし処御病氣にて拝眉を得ず何れ東京にて拝願の機を得べく其結果に就ては改めて御報告申上たし
- 九一一、白井寅吉
 - 1 昭和七年五月二三日 君国の為御健闘祈上
- 九一二、白井康
 - 1 昭和一〇年二月三日 御惠書につき鄭総理大臣深く感激 又小生に対して迄御鄭垂なる御年賀賜はり厚く御礼 別紙同封は旅順行幸に従せし際の詩に有之 御目に入れ申候（付）鄭孝胥「従幸旅順」
- 九一三、白仁武
 - 1 年月一四日 此間議会上院にて御申聞の件別紙の通申来 本人如何相考候哉 篤と御通置下されたし

• 九一四、枢密院書記官

- 1 昭和三年五月一四日 明後十六日参集の際支那の時局に関し國務大臣より報告あり
- 2 昭和三年七月一四日（昭和三年七月十三日付）奏任文官特別任用令中改正の件御諮詞相成に付き審査事項追加（昭和三年七月十四日付）来る十八日以降本院休止
- 3 昭和三年七月二四日 天皇皇后兩陛下葉山より還行御発着割宮内大臣より通牒有之候間御通知
- 4 昭和三年一〇月 四日 来る十日本院定例参集休止通知
- 5 昭和四年四月二三日 来四月二十九日天長節觀兵式陪覽希望の向は午前八時十五分迄参集相成たき旨陸軍省より通牒靖国神社臨時大祭に付別紙の通り通知（付）靖国神社臨時大祭祭式次第抄録
- 6 昭和七年九月一〇日 日滿議定書調印の件御諮詢相成に付通知

• 九一五、末松謙澄

- 1 明治三三年五月二二日 劍橋会春期例会Edmond Fremantle氏を招待 御枉の栄を給りたく御案内
- 2 明治三七年三月二三日（山本海相宛）無事着英 新聞切抜一二葉封入

• 3明治年月日 物品の関連如何に付回答

• 九一六、菅原伍平

- 1 大正一三年七月三〇日 小官事練習艦隊司令部附を命せられ去る二十四日高松宮殿下に随行本任務頗る垂大 唯至誠以て之に当る覚悟

• 九一七、菅原政男

- 1 昭和二年四月一八日 軍縮会議出席の為の御守札献上

• 九一八、菅原通敬

- 1 大正四年五月三日 仙台育英会の儀は設立認可 設立者理事等の集会開催 別紙の通報告決議 今般理事長たるの指名を拝受
- 2 大正六年一二月一日 豊川氏に小池氏勧誘の事を囑し小生直接同氏に懇談 広く世の同志を翕合し時期の到来を待て払込を為さしめ創立を図るの外策なきものと存候
- 3 大正六年一二月一三日 迷惑の事願上に拘らず御聴許下され感激 フレザー氏に会見
- 4 大正八年一二月 七日 仙台同仁会の組織変更に関しては小生も予て考ふる所あり育英会への寄付金拝受伯爵家に関する内外の事情好福音のみを伝ふる能はさるは甚だ遺憾
- 5 大正九年九月一四日（守屋栄夫宛）酒谷神社寄付金の件に関し旧藩公の寄附金額は急速決定相成兼ねる事情あり 総督閣下の分は朝鮮に於ける別扱として取計致したし
- 6 大正九年一二月二七日 木村氏の件は美濃部氏の外渋沢子佐々木勇三郎氏井上準之助等の力を籍りれど遂に無効 更に美濃部氏の斡旋に依り前台銀理事南新吾氏に交渉中 仙台育英会への寄付金拝受
- 7 大正一〇年七月八日 日米信託株式会社との関係の件は臨時株式総会に於て主宰者の責任を脱する事と相成 此事態に立至らしめたる罪慚愧の至
- 8 大正一〇年八月二日 慶子様縁談纏の段同慶にて祝物献上の件に付き摺沢氏の意見聴取 璋子様慶事につき祝物献上の立替金は別紙の通に有之 カナダサン生命保険契約増額方の件は渡辺氏と相談
- 9 大正一〇年一〇月 六日 旅行先に於て大患に罹られ急遽帰京の趣拝承 御見舞申上たし
- 10 大正一二年一〇月二九日 帝都復興擁護会会長に就任今般山本内閣成立につき此の際閣下の推輓に依り満鉄・東拓・鮮銀・台銀方面に地位を得たし

- 11 大正一三年六月七日 釜山船渠会社に於ける自動車製作の件につき陸軍省としての意見は軍用自動車の製作を最も希望にて補助と保護の与ふるとの趣意 陸軍省より総督府に申進の筈につき至急許可下されし 来十日仙台市にて行朝公以下贈位奉祝会及興宗公襲爵祝賀会開催
 - 12 昭和二年二月二日 土地問題及鉄道問題につき鶏林興業株式会社の創立準備委員長辞退了承下されし 安州水利事業及鉄道事業に付村田氏の先願権の無視等当局の誠意を疑はざるを得ず
 - 13 昭和六年一月二四日 御示教を仰上たしと存居れど決算の目途未だ立たず加ふるに用件堆積の為め御地出張を延期 守屋氏を経て賜はりし御伝言拜承
 - 14 昭和七年一二月五日 宇佐美資源局長官満洲国顧問に招聘との趣 其の後任として松村松盛氏起用考慮願上 財政問題に付ては予て抱懐せる意見あり親しく意見を具陳し参考に資したし
 - 15 昭和一〇年五月一七日 貞山公銅像除幕式御祝辞案長門氏より送り来るにつき修正案と共に御高閲に供す
 - 16 年二月一九日 平安南道に於ける公有水道埋立出願の件に付ては出願手続を了し村田義穂氏感激 小生に指導に当る様勧誘あるに付閣下の高見を伺いたし
 - 17 年三月三日 出京の趣丁度選挙応援として旅行中にて失礼 今朝接手せる別書貴覽に供する為送付
 - 18 年五月二日 香椎源太郎の代理の者より粗菓を進呈仕りたしと持参につき取次
- 九一九、杉田定一
 - 1 明治四四年五月一日 二十七八日清戦役及三十七八日露の戦役前後に於る本邦海軍勢力比較表御廻送依頼
 - 2 明治年一一月一〇日 日清戦役各国東洋派遣軍艦勢力比較表・北清の役同前・現在同前御廻送依頼
- 九二〇、杉村勘兵衛
 - 1 昭和九年三月八日 岩手県物産事業奨励の思召を以て援助希上下飯坂様へも御願（付）陶器事業に付歎願書 昭和九年三月九日付
- 九二一、杉村濬
 - 1 明治年一〇月八日 別紙浦塩来信の噂御内覧迄差上
- 九二二、杉村陽太郎
 - 1 昭和七年七月三〇日 過日ムソリニー首相との談話公表に付き本邦にて問題を起したる由につき其経緯を開陳 人種問題及日伊間の反感を緩和し国交を正常関係に復する為め骨折る心組
 - 2 昭和九年一一月七日 加奈陀及北米合衆国旅行中の印象 社会上及経済上の困難発生国民的結束に破綻対日感情一般の与論は興奮せず 米国の対外的勢威今後寧ろ漸減
 - 3 昭和九年一一月二四日 英国の識者に於ては支那の既得地位の確得の為日本への接近を画策する親日的傾向の一方親支的傾向あり 軍縮交渉に対する英国人の観念は財政上の負担軽減を希望する点に重心
 - 4 昭和一一年一月二日 新聞電報に依り御親任の趣伝承茲に衷心よりの御祝辞申進
- 九二三、杉山茂丸
 - 1 昭和八年一二月二三日 皇子殿下の御誕生の祥瑞時期に於て政治犯への特赦進言
 - 2 昭和九年二月一二日 特赦恩詔発令相成恩情大多数刑囚に及び聖代の優詔草莽に及ぶの感 小生病氣に付転地療養中
 - 3 年七月七日 今回親友内田良平氏渡韓は首相通相陸相等と了解疎通の上出張の次第 閣下には適當の保護相願たし 韓人団体に対し或る苦き事とも了解せしむべき時機につき場合によりては多少面倒を引起すやも計難し
- 九二四、杉山茂

- 1 昭和七年二月六日 既に発令の後は其俣断行せしむるの外なし 此際陸軍派遣中止等は内部より志気の崩壊 米英大使も内心は真想了解 上海陸戦隊も相当成功
 - 2 昭和七年二月八日 大臣及外務省への努力により英米感情緩和 今日 是は挙国一致邁進の外なし 在上海英海軍司令官は工部局と共に支那の撤退を要求せるも支那側承諾せず
 - 3 年一二月一四日 本日予備役編入 現役中の愛顧御礼 報恩の一端として別書進呈
- 九二五、杉山元
 - 1 年月日 今度平壤飛行連隊検閲の為め当地に参り藤原君と邂逅 寿府軍縮会議の當時を追想
- 九二六、鈴木穆
 - 1 大正一二年一二月一五日 当行整理問題は唯今日銀にて精査中 五千万円償却の案を立つるより外になかるべし 軍に資金充実の問題・工員の淘汰・国庫金取扱・満州送金等根本改善必要 浦塩の当行問題は良経過 鉄道外債も好望
- 九二七、鈴木巖
 - 1 大正一四年四月九日 陸爵の祝詞
 - 2 昭和四年八月一八日 此度朝鮮総督御就任近來の快事 上下内外の信望を収めて功績を挙げられたるは閣下に如くはなし九二八、鈴木嘉平
 - 1 年七月一九日 新聞紙の報ずるところによれば首席全権として閣下に出馬懇請の由 閣下の出馬は国民全般の熱望
- 九二九、鈴木貫太郎
 - 1 明治四五年六月二二日 母堂逝去に対する弔詞
 - 2 昭和四年八月一三日 鮎参拾尾天皇皇后より下賜
 - 3 昭和四年一二月一三日 賜物あり参内あるべし
 - 4 昭和五年三月一四日 御晩餐に御相伴仰付らるにつき参内相成たし
 - 5 昭和六年五月八日 晩餐に御相伴仰付らる
 - 6 昭和七年四月二一日 御晩餐に御相伴仰付らるにつき参内相成たし
 - 7 昭和七年五月二二日 御用あり即時御参内相成たし
 - 8 昭和七年六月九日 賜物あり参内あるべし
 - 9 昭和七年七月二七日 鮎参拾尾天皇皇后より下賜
 - 10 昭和七年一二月一〇日 賜物あり参内あるべし
 - 11 昭和七年一二月一五日 鴨七羽天皇皇后より下賜
 - 12 昭和八年二月八日 先刻申上の御前会議列席者当方の調査に依れば別紙の通り（付）明治三十六年七月及明治三十七年一月十二日御前会議列席者名单 昭和七年五月齋藤内閣組織前西園寺公の相談に与りたる重臣名单
 - 13 昭和八年六月九日 賜物あり参内あるべし
 - 14 昭和八年七月一九日 鮎参拾尾天皇皇后より下賜
 - 15 昭和八年八月一二日 メロン参個・西瓜貳個兩陛下より下賜
 - 16 昭和八年一〇月二五日 御菓子壱箱下賜
 - 17 昭和八年一二月八日 賜物あり参内あるべし
 - 18 昭和九年六月一二月 賜物あり参内あるべし
 - 19 昭和九年七月四日 鮎参拾尾天皇皇后より下賜
 - 20 昭和九年一二月日 母きよ永眠の節御弔詞御供物深謝供養の印に心計りの品拝呈

• 九三〇、鈴木愿治

- 1 明治二二年四月一九日 小野修徹尊邸参上情願の趣驚入早速叔父共相談 勝手に去就を決する様にては甚不都合御叱正を願う
- 2 明治三二年三月三〇日 小野修徹引立を蒙り難有 同人海軍予備学校入学希望 当地（水沢）鉄道問題につき大船渡鉄道を当地に引く手段として秋田鉄道の実測を為しては如何との相談
- 3 明治三二年四月二一日 小野修徹身上の儀海軍兵学校の方は然るべく奉願 建碑事業の件は高野独断に付厳敷忠告 鉄道一件賛助仰ぎたし
- 4 明治三六年二月二四日 下飯坂の書面に依れば此度朝鮮国仁川居留地の町長如き口あり小生至極希望 衆議院議員選挙候補者は他郡村に侵入し蚕食競争

• 九三一、鈴木鷲山

- 1 昭和六年月一五日 中央教化団体聯合会長に就任の由慶賀 小生マルクス反駁に関する講演の活動採用下され間敷や
- 2 昭和八年三月二六日 組閣以来一度もお目にかからずに居りそのうち是非御引見を賜はるよう切に御願
- 3 昭和八年四月一〇日 六十四議会に於て思想決議案通過 小生を内閣の囑託とし思想問題対策樹立の爲め働かせ下されし
- 4 昭和八年四月一二日 思想対策の確立につき内閣囑託を希望 不可なれば小生の所見をパンフレットを以て発表したくその費用三百円援助を賜はりたし（付）鈴木鷲山「マルクス徹底否認論」広告ビラ
- 5 昭和八年四月二〇日 パンフレット「思想対策の典型的大綱を論述して朝野一般の識者に寄す」発行 御一読を賜はりたし 相変らず脊頭引立を賜はりたし
- 6 昭和八年七月一六日 民間の学者思想家は大概無視冷遇 適当なる表彰保護を賜はるよう切願 来議院解散の場合志賀和多利氏と決戦を試みたく御引立の程願上 高島米峯氏・加藤咄堂氏などの表彰併せて進言
- 7 昭和八年九月四日 五. 一五事件の青年軍人の思想は殆んど赤化思想と相違なく小生としては三百万円もあれば批判パンフレットを出し得る見込あり

• 九三二、鈴木斯郎

- 1 大正一二年一〇月二六日 伊藤公遭難記念碑を建てんとする大願 後援と教示を賜はり此の大事業を完成したし

• 九三三、鈴木孝雄

- 1 年九月二四日 在鮮砲兵隊教育検閲の節御高配御礼

• 九三四、鈴木寅彦

- 1 年七月二三日 朝鮮鉄道明年上半期分資金約参百万円あるにあらされは計画を遂行完成せしむる能はず 矢張前 年度申出の通増額相願

• 九三五、鈴木励

- 1 昭和三八年三月日 奮発勉勵して他日国家有為の人物となり以て高恩の万一に酬い奉らんとす 謹しみて謝辞を奉る

• 九三六、鈴木文治

- 1 大正七年七月六日 栃内次官を海軍省に訪問 同氏の態度社会政策に対し十分の理解あるものと認め難く失望 不日拝趨詳細報告仕るべし 御指導御後援賜はりたし
- 2 昭和七年六月一四日 牧野内府には近年親しく出入して社会運動・農民運動・無産運動方面の情勢につき報告 同伯も最近の世相の險悪に対して憂慮 最近の機会に於て親しく拝眉の上刻下の社会運動の情勢につき直接御耳に達したし
- 3 昭和七年六月二一日 御約束申上の「日本社会主義」「内外社会問題調査資料」「国家主義運動の現勢」御送付 重ねて拝眉

の栄を得たし

- 4 昭和七年九月一八日 最近に於ける我国の社会状勢につき卑見申上たし 且つ過般来御配慮を煩はし居りし儀につき御尊慮を蒙むりたし 此儀に就ては牧野内府より御内聞の次第もあり 御会见願
- 5 昭和一〇年一二月二七日 内大臣府に列せられし事への御祝詞
- 九三七、鈴木力衛
 - 1 年五月一三日 事業上に就ては農務課長山林課長に面会夫々出願個所取調中 中央開墾会社よりも窪田社長の厚意にて技師派遣 全羅南北道にて実地調査 今回の干拓開墾事業に付特別の御引立に預りたし
- 九三八、薄田美朝
 - 1 大正二年一月一日 閣下退官の趣 窃に統治に影響なからん事を懸念 私事内地転任後元気に働き居る次第
- 九三九、須藤義衛門
 - 1 昭和七年五月二七日 菅原通敬君台湾総督拝命悃願
- 九四〇、須藤素
 - 1 大正一四年一二月二九日 燐寸軸木に付御下命の拝承愈々大邱平壤の分工場出来の上は鮮人に授産の意味も含まれ至極結構の次第 便宜方法を相講し御差図を仰ぎたし
 - 2 大正一五年一二月二一日 慶州保存会資金募集の件は準備相整に付き朴郡守及諸鹿囑託本日より大阪にて活動の筈
 - 3 年五月三〇日 慶州の盗難品は二十一日発見 紛失品は指輪外一二点に過ぎず不幸中の幸 本会の会議の焦点は普通学校を原則四年となし一面一校に普及せしむる案及細農に対して農耕資金を融通する為に面をして資金の貸付に当らしむる案に有之
- 九四一、須永元
 - 1 大正五年六月一八日 数日前陸鍾允を訪問 現在の儘にては一家の維持到底出来難く何とか早く御運下されたし
 - 2 昭和八年五月一二日 柳英沢紹介
- 九四二、住友吉左衛門
 - 1 明治四五年六月二一日 母堂逝去への弔詞
 - 2 大正八年八月一四日 今般朝鮮総督御就任大慶の至
 - 3 大正八年九月二日 京城到着時の投弾事件への見舞
 - 4 大正一二年一月二九日 申越の品類に付ては其趣味に乏しく直に拝諾も致し兼ね熟考の上改て御答申上
 - 5 大正一二年一月三〇日 (電報) 手紙の儀に付き不日ユカワ参邸御返事申上べき筈に付き御承知願う
 - 6 大正一三年一月一八日 旧臘住友忠輝死去に就ては弔問に預り難有
 - 7 昭和二年一二月二三日 今般枢密顧問官拝命慶賀の至
 - 8 昭和六年六月一八日 今般退官の趣 在官中は高誼を辱ふし奉謝 今後共不相変眷頭に預りたし
 - 9 昭和一〇年一二月三〇日 今般内大臣就任慶賀の至
- 九四三、清野市太郎
 - 1 昭和八年一月二五日 天下の人心閣下の内閣を支持するの大勢 欣快措く能はず
- 九四四、関重忠
 - 1 明治一七年七月一九日 (英文) ヨーロッパ視察及び近況報告
 - 2 明治一十九年一月二一日 御依頼のNavy&Army Magazine早速本夕郵送 浪速艦大砲打試施行時ビーム破損に付き修復の為一月

余は出航延期

- 3 明治二〇年一月一六日 コロッス船にて地中海巡廻終了後同艦及同艦体の有様に付ては研究済に付英国政府よりマルランド艦転乗の許可を得て帰英 樺山次官一行今日頃はリバプール着
 - 4 明治二八年二月一八日 威海衛落城清国北洋艦滅亡大日本帝国万歳昨日戦艦隊威海衛内に入港諸艦並諸砲台受取方済ませ総て我有に相成 本艦の機関員の定員はちと多き過ぎる様
 - 5 明治三八年一月一日 敵艦隊全滅旅順陥落大快 今回令夫人手製の防空頭巾惠贈御礼 先日パクナム大佐乗艦極秘外の戦況を詳細説明
 - 6 明治三八年一月一九日 小生今回機関大監に昇進 大兄等御推薦と深謝 拙弟重孝も中佐に進級 宜しく御指導下されたし
 - 7 年二月二日 深町中主計の一件に付ては実に驚愕追悼 浪速艦も万事整頓来月十日頃には出航 高千穂も三月末か四月初には出航 小生も今年六月にて当大学校終り英国軍艦に乗艦の積り
 - 8 年七月一八日 去十二日ニューキャッスルに到着此地にて製造の我軍艦は総長三万二十尺幅四十六尺実馬力七千五万速力十八哩 早崎大久保野口の諸氏も英学勉強を開始のよし
 - 9 明治一六年一月七日 浪速艦は外部・機械類も大概出来 高千穂艦は十二月に出来済の積り 先日ポーツマス・チャタム等の海軍造船所見物驚愕清仏神も福州海戦後未ぐづくの様子
- 九四五、 関直彦
 - 1 昭和七年五月二四日 組閣に就き内務には可成党派に関係なき公平の人を採用 万一議会解散の場合全く公平なる選挙を行わせしめ眞の国民の与論を代表せる議会を組織せられることを進言
 - 九四六、 関仲ノ助
 - 1 昭和九年九月一四日 豊作物も平年作の収穫を見らるるものと農家にて愁眉 先達ては出京の折欠礼御海容下されたし
 - 九四七、 関平次
 - 1 大正九年六月二八日 僻地にて官憲の威力は未だ鮮民保護を全ふせず郷党の先覚者は市街地に移住を欲す 良民に限り護身用武器携帯認可が焦眉の急 正々堂々陣を張て在鮮々民に対し吾政策を徹底せしめ不逞の徒に走るを防ぐこと急務
 - 九四八、 関根斉一
 - 1 昭和四年六月八日 在哈爾濱日露協会学校及吟爾賓商品陳列館に対し閣下日露協会会頭並に日露協会学校総理就任の電報は本日別紙写通り接電（付1）高田富蔵電報 総理宛 昭和四年六月八日 閣下本校総理就任の報に接し欣喜（付2）森御蔭電報 会頭宛 昭和四年六月八日 会頭御就任を祝す
 - 九四九、 関水武
 - 1 大正一〇年五月四日 昇級の恩命を辱ふし訓示・招宴の栄感激の至に堪へず
 - 2 昭和六年六月一八日 閣下の退官邦家の為遺憾に堪へず 将来共御眷顧御指導賜はりたし
 - 3 昭和八年八月四日 定平管内も一月の大検挙以降平静にて青年等も覚醒 例の端川其後捜査の結果定平以上に悪化此外二三郡も同様にて目下此方面に主力を傾注
 - 4 昭和年一二月四日 渡鮮の際本道にも御枉駕の栄を賜り官民一同深く感激 本道の思想問題に関し心労を煩はし恐縮数次の大検挙を執行一面極力善導に努め居る結果定平・端山方面良好に向ひつつあるを認む
 - 九五〇、 関屋貞三郎
 - 1 大正八年一〇月一日 中枢院在官中の微力に対し過分の賞与御礼
 - 2 大正年六月二日 米国基督教青年会主事ゼー・エム・クリントン君貴地参上の節御引見を賜はりたし

- 3 昭和二年一月二四日 朝鮮を御辞去遺憾至極 協会等にも御高庇を賜はりたく御願
- 4 昭和五年五月一日 李桐殿下の件王公族審議会に討議する事に進行仙台総裁又は小官御面晤の上諒解を求め置く手筈
- 5 昭和七年五月二三日 組閣大命を拜せられ御心労恐察 聖旨に酬み国民の期待に副はれ候様祈願6 年六月二七日 静岡市在住宣教師ウィルキンソン氏御引見願
- 7 年七月二八日 宗秩寮総裁と協議し又宮様の方につき取調 自動車の献上御断はり下さる様願上
- 8 年八月五日 発哺温泉に関する書翰御差支なくは頂戴致置候

• 九五一、仙石貢

- 1 明治年一月二〇日 ポンツークレインの件万謝 運搬器械御説明致置くことは双方の御便利につき同社のスプーナー氏一度御面会下されたし 主任の方へも御紹介下されたし
- 2 大正一五年一月二三日 結構な二品御恵与御礼
- 3 昭和二年一月二月 米国人ウィリヤム・エリオット・クリフキス氏紹介
- 4 昭和五年四月四日 帰満の途次錦地出張の際の御配慮御礼
- 5 昭和五年八月六日 過般東京出発の際の御芳情御礼 予定の如く去る二日着連
- 6 昭和五年九月二五日 当社出資会社の東亜勸業株式会社に於て約七千町歩の土地を買収 之れが利用並権利確保に関し種々攻究当社農務課長並専務取締役と貴府当局との間に協議せしむる事に御配慮賜りたし
- 7 昭和六年三月一五日 (電報) 貴地に立寄面談の上上京すべきつもりなりしも都合により十河理事をお伺いせしむ
- 8 昭和六年三月二〇日 御懇電拝謝 経過順調 (付) 十河信二電報 斎藤実宛 昭和六年三月二〇日付 仙台総裁発病に際し御見舞ひいただき感謝 経過も至極良好
- 9 年七月一九日 白石重治氏息多士郎氏御引見御願
- 10 年一月二五日 多年満洲に於て鮮人問題に付斡旋せる張宇根氏紹介
- 11 年一月三日 御招待御指定の時刻に来座仕るべし

• 九五二、千田昌助

- 1 明治三六年三月一日 私事有隣生命保険会社内に勤務 閣下にも一万円位保険契約懇願

• 九五三、荘田平五郎

- 1 明治年二月一六日 マンチュリア修理の儀は十二日なる旨返信 同船工事中止の俣差押の事は昨日造船所へ示唆

• 九五四、副島種臣

- 1 明治三五年二月一四日 東邦協会評議会に於て従来の目的を一変する所の案を提出 御来会下されたし
- 2 年九月一四日 二十八日懇親会席上に於て会務上相談申上たき儀もあり 当日は御貢臨下されたし

• 九五五、副島道正

- 1 明治三五年七月一七日 京坂地方旅行見合せ三村氏の住所等御一報下されたし 海軍義会のこと遺憾に堪へさること多く創立委員を辞任 海軍拡張論海軍省に於ても左程御迷惑の有る筈なしと愚考
- 2 明治三六年三月二七日 本会前年度会計決算報告は過日の総会にて満場の承認 又小生義総会の当日を以て幹事辞任 (付) 東邦協会会計報告 明治三六年三月一五日付
- 3 明治三七年六月一日 今日国民の号外に「浦潮艦隊の帰港」とのルーター電報記載あり 不肖は浦潮艦隊の帰港に疑ひ諸君の注意警戒を希望
- 4 明治三八年三月七日 亡父葬送の節は会葬下され厚志奉謝 亡父草稿箱の故広瀬中佐を吊ふの詩二葉を賢台より令兄広瀬大佐

若くは遺族に送付下されたし 過日London Dairy Chronicle 記者George Lyunh氏よりの来信を賢台・東郷大将に送付の旨伊東祐侃氏に依頼

- 5 明治三八年四月二〇日 昨日帰途ホテルに立寄彼等と面会 彼等の論述する所悉く論拠とするに足るものなし併し契約のことに関しては疑を有する余地なし 明後二十二日更に御高見伺ひたし
- 6 明治三八年一〇月一四日 新紙に依れば近々東京湾にて我艦隊及同盟国艦隊の観艦式あり陛下臨幸の趣 不肖陪覧の栄を得たく閣下の御高配給はりたし
- 7 明治年八月三十一日 郵船会社のWhik氏よりNew Zealandhi人 Neill氏閣下面会希望にて紹介状請求 若し彼が訪問の節は面会下されたし
- 8 明治年月六日 英人ゼームスより閣下に面会致したきに付紹介致し呉れと申越 再三断りしも折入ての懇願にて大閉口 五分間程面会下されたし 広瀬大佐より書状到着厚志深謝
- 9 昭和七年一〇月二九日 本日倶楽部にて満鉄の伍堂理事と会談 二三日時実氏が京日社長になる由仄間適任にて安心二三日 前松岡正男来訪せるも大毎は余り優遇致さざる様 丸山幹治毎月二回は来訪 Japan Advnzer特別号愈々明治節に発行
- 10 大正九年五月一三日 新任英国大使は香港に小生滞在中世話に相成 小宴相催ふしたく閣下御臨席下されたし
- 11 大正九年五月一四日 大使招待会は十九日になるも十六日と申上候事を発見恐縮の至り 電話にて御来否御一報給はらば幸甚
- 12 大正一〇年一〇月四日 小生の知人A.P.Scott氏朝鮮視察に付御引見下されたし クロージャー夫人より耳塚に関する閣下の意見伝聞 小生耳塚をdemolishすべきや或は記念碑改築・慰霊祭を営むべきや尋ねし 処原首相は後者に賛成
- 13 大正一〇年一二月二日 Scott氏釜山にて水野長官に面会し京城にて赤池・丸山等より優遇を受け大満悦にて帰京 閣下在京中同氏引見下されたく願上 Rising Sun社は大に利用致す必要
- 14 大正一〇年一二月二七日 (英文) 夕食招待受諾
- 15 大正一二年八月二四日 潜水艦第七十号の不幸は国家の不幸且恥辱 華府会場の害毒は国民のmindをdisarmせる点にあり 加藤首相病氣重態の噂あり万一の場合には大命を遵奉せらるるより外なし
- 16 大正一三年七月二六日 金壱千円確に落掌昨日秋月君と会見 今朝又支局長より説明を相受く
- 17 大正一三年七月二八日 小生京城日報を主宰する事に相成来八月一日同地へ出発 諸兄の御同情と御後援依頼
- 18 大正一三年九月一三日 京日の社務に付ては既に計画中 第一に井上準之助氏を訪問の上援助を乞ふ積り有力者を名譽顧問と致すも一策 或る軍閥筋の者来り閣下辞職の有無を問ふ
- 19 大正一三年一二月一四日 起債の件下岡総監強硬 広告の増収を図り若し行詰らば寄附を仰ぐも宜敷 越後国水野禎三拾円寄附を強制 牧野宮相より箸本太吉なる新聞記者紹介あり論説記者として聘したし
- 20 大正一三年一二月二八日 シカゴ大学総長より講演依頼の来信あり承諾殊に朝鮮統治の真相を述べたく材料頂戴致したし京城日報に付ては宮部敬治を支配人丸山幹治を主筆とし箸本太吉を論説記者に招聘 社務の整理
- も進捗留守中心配は来年の貴族院改選
 - 21 大正一四年五月一八日 Seoul Pressの儀来年の三月まで三好氏をして経営せしめられたし 左すれば来年四月より小生引受け申上 京日毎申及セウルプレスの三新聞を共同経営致すべし
 - 22 大正一四年六月七日 明々後日に出発二十六日に桑港着 三十日市俄古にて第一回講演を致す箸先般米国新聞記者に語りたる事が誇張され一部の人は落選運動の材料に致しをれど小生当選を期し申さず
 - 23 大正一四年七月一一日 市俄古着後七日移民問題に付大論戦 樺山伯当選の電報は悪感 副島を落選せしむる日本は依然官僚主義軍閥主義との感 別紙名刺の人より先般平壤方面にて発掘の古器人骨の写真を頂戴致し
- たき申出あり直接氏に送付願上

- 24 大正一四年八月一日 去年二十八日より松平大使の招待にて華盛頓郊外に静養 七日渡英の筈 昨日国務卿と会見し朝鮮統治の良好なる結果に付ても説明 此度の渡米は日米親善に多大の効果
- 25 大正一五年一月二日 小生渡米中継母死去 小生の朝鮮統治に関する卑見は意外にも世間の物議を醸もし閣下に迷惑を掛け申訳なき次第 英国大使帰国に付一夕開催 閣下牧野及珍田伯及幣原男を招待申上たし
- 26 大正一五年四月一二日 昨年十一月三矢警務局長と会見し毎日申報不振に付き小生自治論を唱へては如何と申せし処賛成小生予め東亜日報の幹部に相談せりとは流言輩語 自治論は過激なる鮮人に対する一種の安全弁
- 鮮人の思想は大正八年と異なることなく外患一度来らば半島に数箇師団駐屯必要と思考
 - 27 大正一五年五月一六日 小生東京出発前日本石油会社の専務津下紋太郎氏来訪 貧困なる朝鮮人等より暴利を貪り居る様国葬の大代表として幣原氏来城致さば氏を晚餐又は午餐に招待致したし
 - 28 大正一五年五月二三日 帰城の上御国葬後二三の問題に就て御教示を仰ぎたし
 - 29 大正一五年六月二二日 御預りの金員は渡欧資金中に相加へ若し中止の節は来る八月鮮満支局巡視及交際費に相充て申すべし 別封水力電気に関する記事御高覧下されたし
 - 30 大正一五年六月二六日 丁字屋の広告を久振にて掲載 下関にて丁字屋の鈴木支配人叩頭の末謝恩・讃辞を呈し気味わるく異様 先日は会計課長を訪問し遠慮なく 検査・報告方依頼 戒飾の事は下級社員「快哉」を唱
- へたる由
 - 31 大正一五年七月三日 昨日関屋次官を訪問 国葬儀に皇族の御参列なかりしは朝鮮統治に悪影響 皇族が朝鮮人に接近する方法として全鮮野球大会に摂政盃下賜を提案 閣下并総監御意向御洩し下さらば幸甚
 - 32 大正一五年七月一一日 米国宣教師の私刑問題に付英米新聞が悪宣伝を為すは言語道断 例のハイスマーの如き告訴然るべし 今般ミネソタ大学より別紙願出につき直接外事課より御送り下さる様御願
 - 33 大正一五年七月一九日 ハイスマー事件に関するJapan Advertiser及Japan Chronicleの如き言語道断 小生は彼等に鉄槌を加ふる様宮部に命令せし結果ミラー氏より愚痴を申来につき別紙の通り返書（付） 副島
- 道正書翰 ミラー宛 一九二六年七月一八日付（英文）ほとんど全ての在米朝鮮人は米西戦争時のアギナルドよりも日本を危険視 AdvertiserやChronicleなど日本人庇護下の新聞におけるハイスマー事件報道は不当
 - 34 大正一五年七月二三日 今朝新聞の京城特電は増水の為め竜山付近危険の趣相伝へ候に付京日社に詳細打電相命し処心配なき旨にて安堵 石油政策前途行詰りの状態憂慮
 - 35 大正一五年八月三日 先月二日根本君平氏の紹介にて参りたる姜世馨身許取調警保局長に依頼「不良」とのことにつき御面会なき様願上 鮮人は冷遇すれば直に継子根性を発揮し親切を尽せば之を悪用
 - 36 大正一五年九月日 昨夜九時頃スコフィールド氏送別会に出席の金・宋両氏来訪 ス氏曰く現総督は仁政主義者なり君等鮮人は徒らに日本の統治を攻撃することをなさずして自ら改め自ら相戒め民族の向上を図る
 - 37 大正一五年一〇月六日 毎日申報の未収金・回収不能金莫大につき新に検査課を設け帳簿取調を致させたく承認下されたし 一昨日力士年寄入間川来訪 相撲協会にて京城日報主催の下に朝鮮の紹介を致したく総督
- 府及朝鮮の大会社より補助金を仰ぎたき趣にて主筆・支局長・小生も大賛成
 - 38 大正一五年一〇月七日 後任者の件に付御承認を得たし 氏の人格及学識に就ては定評あり氏を聘することに相成らば京日は東京日々及大毎を通して内地に於て其存在を認められ申すべし
 - 39 大正一五年一一月五日 不日社則改正持参致すべく承認仰ぎたし 宮部氏は総監に本年度は四万円近くの純益を挙ぐる見込の由申されし趣なれども右は特別広告の結果及在京支局の大活動の為めにて普通の成績は平凡

- 40 大正一五年一一月一八日 十二日正午宮部敬治氏を招待 重ねて辞表提出を要望 同夜小生出発の際辞表提出 大毎は重役会を開き小生の書面朗読 松岡氏を割愛することに決議 氏が大毎を棄て京日副社長として薄給に満足し呉るに至りしは杜の感激
- 41 大正一五年一二月一一日 小早川侍従次長及関屋次官に由れば天皇陛下御衰弱加はせらる 崔麟氏着京 彼も浅利氏及京口の松岡正男氏等に接するに至らば其思想穩健に相成べしと愚考
- 42 大正一五年一二月一六日 雑誌「朝鮮」及Reforms and Progress in Koreaを初号よりミネソサ大学クイグリー氏へ御送り下されたし 松岡正男氏・金用柱を利用し朝鮮に於ける文化統治を米国に紹介致したし
- 43 大正一四年一月二四日 来三十日は亡父の二十年祭に相当につき御光臨下されたし
- 44 大正一二年八月八日 内地に於ける思想の悪化慨歎に禁はず牧野子・岩崎小弥太男・団琢磨氏等を訪問し朝鮮に対する一の財団法人を作ること提案 宮内大臣・岩崎男大に賛成
- 45 昭和二年一月五日 今度小生不徳の結果大問題を惹起せし処態々秘書官を御差向下され奉謝 御思召に従ひ日鮮融和の為め努力
- 46 昭和二年一月一一日 先日朝鮮新聞が朱書して貴衆両院議員其他大臣連に送附せる京日不敬事件に付て種々質問あり三矢宮松よりは辞職勧告 小生は松岡・丸山・鮫島等と共に悪徳新聞を撃滅するまで京日を主宰
- 47 昭和二年二月八日 一昨日丸山を代理として張相輒の事に関し御報告申上置候処昨夜松岡より別紙電報に接候間御安心下されたし
- 48 昭和二年二月一三日 結構なる御菓子御恵贈御芳情感銘京日公判々決遺憾直に控訴
- 49 昭和二年二月一九日 荆妻小生感冒に罹り此模様にては東京御出発前に御伺ひ出来るや否や疑問
- 50 昭和二年三月一七日 国技館に於ける鮮博の儀は国技館及京日毎日主催井大毎及東日後援の下に開催と決定 本日入間川及伊勢と松岡及小生と会見
- 51 昭和二年四月三日 崔麟氏欧米漫遊御援助御考慮願上 金性洙・宋鎮禹等輪転機問題に付朝鮮新聞に対し怨嗟の声を發し居る由 軍縮会議に松岡又は丸山特派の為の別紙金額御恵与悃願御出発前京日組織変更に関する御命令御下し下されたし
- 52 昭和二年四月五日 閣下御渡欧に付ては朝鮮統治を憂ふる人々は不安の念を禁し難く篠田次官の如きは北部支那の赤化の後には朝鮮も動揺することなきを保し難しと心配 晚餐差上たく一夕御割愛願上
- 53 昭和二年四月二〇日 宮部相談役五日限り誠首金用柱を李王殿下の随伴員たらしむることは不可能に御座候や 生田局長に契約の概要申上 茲に契約書案同封（付）「契約書」 昭和二年四月一五日付
- 54 昭和二年七月二七日 今回の朝博東京日々之の悪辣なる手段の為め欠損に終るべきも大目的を達せしに付御帰朝の後小生は勇退 朝鮮新聞枢密顧問の談として閣下を悪罵 枢密院も総督府も之を取消さざるは朝鮮統治

• 前途に大暗影

- 55 昭和七年八月一日 此国難に際し英国との伝統的親善維持が得策 京城日報に先週往訪 特別広告料の大口は三井三菱安田 入場者は寂寞にして予定の五分の一 宇垣総督は支局長に損することなしと申せる故に許可せりと申され候由 国際オリンピックにて権及金の二鮮人も選手として活躍56 昭和二年九月二四日 目下各方面に閣下の御辞職運動相起り居れとも一蹴下されたし 御留守中朝鮮新聞紙に於て牧山及権藤等失礼なる記事を掲げしが此際非国民の退治は急務
- 57 昭和二年九月二七日 御国の為め奮闘無事帰朝を奉祝 鮮魚数尾呈上
- 58 昭和二年一〇月三日 米・英・独・伊の大使には招待状送付 昨日御話の件は御漏しなき様願上 権藤と警務局某が社の攪乱 社内不和宣伝の陰謀 長野・角田・柳等も蠢動の由
- 59 昭和二年一〇月五日 先日御話の件の概要左の通り 小生の派手な経営が欠損の原因と鮫島が総監に報告宇賀事業部長誠を恐れ悪宣伝 朝鮮新聞が小生の名にて種々の電報を發し杜を攪乱
- 60 昭和二年一〇月七日 副島とか鮫島とかの名にて偽電を發し社及或筋を攪乱するものある由 只今西原亀三氏来訪有賀氏殖産

銀行辞職後の後任に付き石井光雄氏は勸銀副総裁にも推されみる故恩召が石井氏にあらば早く決定然るべしと取次依頼

- 61 昭和二年一〇月一六日 松岡は小生の勧告を容れ相留まることに相成丸山は小生と進退を共にする決心鞏固にて困却 御出發前拜眉の上正式に辞表提出致したし
- 62 昭和二年一一月九日 朝鮮新聞権藤副社長御帰任間際より媚を閣下に呈し驚の外なし 相撲協会宛に朝鮮博覧会開催感謝の御書面願上 二十六日頃渡鮮の予定
- 63 昭和二年一一月一一日 当倶楽部にて閣下近々辞職との噂 即位式後まで在職相成り秩宮に渡鮮を仰がれたる上にて退職の事然るべしと愚考 閣下の新聞記者招待会に丸山主筆を招待なかりしは遺憾
- 64 昭和二年一一月一八日 予定通来二十六日発帰鮮 相撲協会幹部の者「総督の御親書は一二万の端金より余程難有存します」と感激
- 65 昭和二年一一月二九日 閣下愈々御勇退の趣 小生の辞表は御手元に差上置につき然るべく御取計下されたし 蘭領印度総督グラフ氏と計画の共同事業も閣下御辞職にて絶望 松岡氏を小生後任者として新総督に推薦
- 66 昭和二年一二月三日 某氏曰く元田翁は齋藤総督更迭せしむるが如きは慨嘆に禁へず山梨が後任と聞き啞然 西原亀三氏曰く山梨排斥ありたしと 又某氏曰く総督更迭運動の中心は山梨及水野 下劣且不良と申す外なし
- 67 昭和二年一二月四日 昨夜拝受せし速達書面に由れば辞職決心の趣 野心家連中が種々の宣伝蠢動 内外人及鮮人まで彼是申すに至り遺憾 小生辞任は閣下辞任の翌日位に発表を希望
- 68 昭和二年一二月六日 丸山主筆・笠山局長及東京支局長辞任申出 丸山を除き他は松岡の補佐を快諾 会計報告送付を松岡へ依頼
- 69 昭和二年一二月七日 京日一社員本日辞職申出 鮫島支配人 就任以来の帳簿に付会計課にて検査せし報告書を内々御貸し下されたし
- 70 昭和二年一二月二〇日 齋藤総督の勇退と共に小生も辞任 後任松岡正男氏何卒御後援を賜はりたし 山梨大将の拜命は小生反対致し来りしも大命を拝されし以上成功を祈願
- 71 昭和二年一二月二二日 山梨大将代理として外交時報主幹平沢玉城氏を拙宅に遣はされ種々懇談 小生は松岡正男社長就任承認を要求 同氏より異存なき旨返答あり
- 72 昭和三年一月一四日 金性沫小生が朝鮮を去りたる以上水電の顧問たるは不本意として相去り朴泳孝君も去らるることと存 侯が小生も辞任致したし
- 73 昭和三年一月二六日 昨日電報通信社長光永星郎氏を招き丸山氏のこと付懇願来月香椎氏上京に付尚ほ配慮致すべし 和田純氏・香椎源太郎氏宛に電報御發送依頼
- 74 昭和三年二月五日 松岡対中樞院問題も落着致し安心 会計の事が心配 香椎氏上京の上は丸山氏と共に東京倶楽部に招待し懇談致すべく 同氏参上の節は宣布御言添下されたし
- 75 昭和三年二月二九日 松岡宛に事務引継に付鮫島同伴上京を指示 兩人上京の上充分なる説明を為すに非されば小生は捺印を拒絶
- 76 昭和三年三月一〇日 今般平壤に於ける両新聞を合併山田勇雄が主幹と相成 松岡も京日社長 丸山が釜山日報を主宰するに至らば小生の三部下が朝鮮に於ける有力三新聞を主宰 丸山の為御高配願
- 77 昭和八年三月二七日 本日理事会を開き山本会長の辞職を認め八田氏会長に推薦につき小生も辞職 宮島某は四千八百円の月給は満鉄より支出の筈 宋鎮禹明日参上
- 78 昭和二年一〇月五日 鮫島の電報は停電を轻信した結果と判明 田中首相来十日は不参と申来り 牧野伯は来会にて若槻君は先約ありとの由 只今井上君よりラモント氏の歓迎会主催するに付不参と申来り
- 79 昭和三年一〇月三〇日 昨日岩崎男を訪問し楊在河の事に関し相談 履歴を賜りたしとのことにて相渡併し此際は一応郡守

として生活の安定を図ること必要 閣下より生田君・山梨氏に御親書御差出し下されたし

- 80 昭和四年二月一七日 嗣子種忠死去の節は多大なる御同情を辱ふし感銘 御芳情に報み奉る目的を以て若干の金員を浅草同情園婦人共立育児会及二葉保育園等に寄附
- 81 昭和四年八月二〇日 改元詔勅事件の山田勇雄よりの別紙電報同封 先般宋鎮禹上京の節来秋金性洙洋行の旨申せしが彼に對しては特殊の御回情を賜はりたし 彼の書面に由れば余程厭世的に相成り候様被存候
- 82 昭和四年九月八日 太平洋問題會議朝鮮を独立の団体として参加せしむること決定 小生は十五日の大会後或は退席するやも知れず 新聞記者の前に於て某大官が閣下に兎玉総監退職せしむべき旨申せし由 帝国の前途憂慮 ジャパンクロニクル本月五日社説外人の注意を惹起
- 83 昭和五年一月二八日 朝鮮も近頃頗る不穩の様にて憂慮 楊在河は其後如何相成り候や 太平洋會議鮮人問題に就ては一月一日の外交時報上の頭本元貞氏の論にて明瞭
- 84 昭和五年四月一七日 崔麟の身辺危き模様につき保護願上 東亜日報無期限発行禁止は如何なる理由か朴錫胤大に善導致すべし佐々木忠衛門を香港・比律賓・蘭領印度・新嘉彼等に派遣下されたし
- 85 昭和五年四月二七日 金乘億万一不採用の場合松岡京日社長が引受 当人は高等文官試験を受ける決心 朝鮮関係会社の監査役にでも推薦下されたし 松岡に対する流言は中傷 京日の内情は朴錫胤より聴取
- 86 昭和五年六月二七日 治鮮の前途を考へ憂慮相当の機関を経て卑見を開陳したし 一昨日丸山総監和田純氏等とも会見 外交時報に関東政庁より一千元恵与につき朝鮮よりも同様願出たし
- 87 明治五年七月一〇日 外交時報主幹平沢玉城氏より別紙の通り申来につき御高配賜はりたし「東亜」掲載の拙論は御気に障るやも難計候へとも小生赤誠を吐露（付）平沢玉城書翰 副島道正宛 七月七日付 総督閣下に情願の儀あり京城迄拜趨致したし
- 88 昭和五年九月二〇日 去十一日紐育着 十五六の両日大統領・スティムソン・ケログ・キャッスル・リード等と会見十年前及五年と異なり本船の優遇驚入 日本の平和的使命が世界に認めらる結果
- 89 昭和五年一〇月一日 東亜日報解禁の由結構 一昨夜金性洙と晚餐相談 彼も日本の国威に由り自分等までが大に優遇さるるとして打喜
- 90 昭和五年一一月一四日 去月二十五日英国に帰り首相外相と会見 目下帰途に有之マケンジーと金性洙を小生のホテルに招致 マ氏朝鮮人独立の不了見を力説金性洙も日本の難有味が解りたる様
- 91 昭和六年一月五日 此度洋行中に有力者と会見 比島其他視察すべく二月十五六日頃出発 帰途上海青島満州を経て京城に二三泊致すやも難計 英米視察談は来十五日の外交時報に掲載
- 92 昭和六年二月一八日 京城日報今般大革新の趣にて結構 同時に佐藤巖を在京詰の副社長登用に付警務局長も賛成下さる様御話し置き下されたし
- 93 昭和六年二月二一日 道庁移転費否決は不都合Japan Chronicleの社説参考まで御送付 佐藤副社長登用の件宜布御願 和田純氏朝鮮関係の特殊会社監査役に御推薦下されたし
- 94 昭和六年三月一四日 先日松岡曰く此際佐藤を東京詰の副社長とすべし総監も賛成なるが警務局長一人尚早論者なりと然るに今朝松岡は佐藤に社内だけ副社長待遇をなし支社長となすべしと打電 佐藤を副社長とする様松岡に命し下され且警務局長にも賛成せしめられたく願上
- 95 昭和六年三月三〇日 松岡が虚言を弄せることを発見 佐藤を副社長にすることには総監及警務局長相談を受けたること一度もなし 今回の松岡の態度に対して憤慨
- 96 昭和六年八月一九日 先日来崔麟・金性洙等数回来訪 将来は自治権拡張を目標として相進みたき旨申述 三週間前万宝山事件及鮮人虐殺に関し福岡日々外数新聞に卑見申述 虐殺事件は運動競技にまで影響
- 97 昭和七年六月一五日 米国よりの書面は何れも日本を非難Scottより書面 氏は怠惰の為め退職し何んとか日本の為に働かし

て呉れと申来るも敬遠が最善の策 京城日報が陸相称讃の社説掲載し大問題惹起の様子

- 98 昭和七年七月一日 調査局の件に付鶴見左吉雄氏と会見 山本氏の態度如何にて進退を共にする約束 市俄古大学首脳Wrightは最初は日本を攻撃も漸次理解
- 99 昭和七年七月二〇日 明二十一日三十分程御目に掛りたし 英国陸軍大臣より別紙写の通来信あり
- 100 昭和七年八月一八日 昨日京日往訪 宇垣総督小松謙次郎が社長受諾の旨申されし由安心 博覧会は結局大損失は免れ難し リットン伯と会見後外相と会見 日本には英米との親善が必要 金永敦他二名来訪 総督
- は不真面目にして総監は事務家との由にて半島の前途憂慮
 - 101 昭和七年八月二〇日 昨日アドヴァタイザーのYoung及Huggius外一名を招致し特別号に付打合 秩父宮家及宮内省等が図書寮所有の書画貸下の由 外務省岸秘書と共にメッセージを草し閣下の秘書官へ送付につき英字にて尊名記入下されたし
 - 102 昭和七年八月二五日 丸山幹治の書面に曰く世間は齋藤内閣存続を希望にて新聞も大体齋藤内閣擁護 リットン伯には書面を以て内田伯の伯に対する敬意を申述べ又武藤大将の人格徳望技能等に就て申遣
 - 103 昭和七年八月三十一日 本日秘書官よりAdvetizer紙に対するメッセージ頂戴奉謝金永敦夏季講習終了せしも尊顔を拝したきに付滞京 多額議員中村円一郎昨日来訪
 - 104 昭和七年九月二日 調査局放任は理事の恥辱との鶴見君の意見に同感 明日は林伯と会見の筈 続て山本条太郎氏・司法大臣に面会し最後に閣下に面会願出る筈 議会終了後に金永敦の厳父御引見給はりたし
 - 105 昭和七年九月九日 金永敦と共に支局に赴き激励 昨日支局にて宇垣氏天下りの一記者に紹介されしも宇垣氏の無責任には驚入 調査局員三名小生を訪問し出馬せよと談 鶴見君と小生は近衛公を会長とし理事長は公の指名に一任と致したし
 - 106 昭和七年九月一六日 林伯に面会 伯は大決心を以て満鉄発展の為尽力との談安心 白上氏の収監と某元朝鮮局長が高樓新築中なることは在朝鮮人の一部に衝動遺憾
 - 107 昭和七年九月二二日 大日本籠球協会トロフィーに付き「齋藤総理大臣盃」設定致したし 本日林伯と会見 拓務大臣の優柔不断及御殿女中の嫉妬心が同伯不評判の一原因
 - 108 昭和七年九月二五日 二三日森格と会談 十二月頃は倒閣鈴木内閣成立との談 彼等は政権欲以外心中なし 在外小生の旧恩師等の対日感情悪化 満洲国承認の結果一層悪化
 - 109 昭和七年一〇月二日 先日は李光洙を御引見下され奉謝 彼大に感激 昨日閣下の優勝盃寄贈を發表一同感激 頭本元貞より高梁刈取後に満洲安定と軍部の人々が断言せりとの談あり
 - 110 昭和七年一一月五日 昨日御願申上の勅選の儀内府の外に宮相入江等が同情者 操觚界では岡実君や緒方竹虎君や又政治家実業家中にも小生を選ばざるは不都合なりと申し呉れる者沢山あり此際閣下の御同情を仰ぎ
- たし
 - 111 昭和七年一一月一八日 ジャパン・アドヴァタイザー特別号結局編輯部と営業部の泥試合 満洲国顧問Bronson Reaは伊集院情報部長により排日家から親日へ軟化 Reaの部下Donaldは今や張学良の顧問として大に排日を唱道 小生の勅選に付差支なき限り特別の論議を賜りたし
 - 112 昭和七年一一月二八日 十一大学籠球リーグ戦は小生が代理として授与 全日本綜合選手権大会は閣下井に令夫人にも御光臨を仰ぎたし
 - 113 昭和七年一二月四日 佐賀商船学校廃止頗る憂慮すべきものあり 佐賀より有力なる人上京の節陳情御聴取御願 今井田総監と快談例の金山及京日に関し同意見にて大に安心
 - 114 昭和七年一二月一〇日 満鉄理事会神武会系を擁護すること議決に付き東亜局優良者を他に転職方講じたし 満鉄は今や河本大佐の全盛時代 米大使館ネヴィル氏米国々務省の意向を語り申候
 - 115 昭和七年一二月一六日 金永敦自力更生に関する書籍恵与に感激にて今井田氏・池田局長も彼を推奨 先日松井義一來訪し

大蔵公望氏が公正会の席上で満洲前途頗る暗澹との談あり 某軍人が緒方竹虎氏に決斗申込みたりとか流言蜚語あり遺憾

- 116 昭和七年一月二二日 午後百武大將を訪問し楠公会の事相談せしも大將は辞退「朝日」緒方竹虎氏を招き軍人より決斗申込の由真否を聴取 貴族院議員推薦につき御高配給はりたし
- 117 昭和七年一月二二日 嘉治隆一の書面御返送恐縮 今夜百武大將來訪し楠公会の副総裁免除されたしと申されしも兎に角顧問に推薦「現代国語読本」第六巻小生の演説を批評
- 118 昭和七年一月二四日 朴泳孝侯の勅選は大好評 釘本藤次郎氏死去哀悼の至り 昨日上海在留の英人バニスター日本の官民が動もすれば優越感を以て外国人に対するは不思議なりと申述
- 119 昭和七年二月二七日 二三日前拓務省課長宮島某が東亜經濟調査局辞令拝受に付来邸 小生も理事を去る積り某貴族院議員は犬養氏が個人的関係にて古島一雄を勅選との談 林伯在京中につき満鉄監事の件に付依頼給はりたし
- 120 昭和八年一月四日 英人バニスターキルベル・タイラー兩人より聴取する処に由れば英国人中米国に対する憎悪の念増進の様 昨年日本銀行より満洲に出張せる山本米治氏昨日来訪 満鉄の内情面白からず八田副総裁すら林総裁を罵詈する由
- 121 昭和八年一月七日 バスケットボール優勝戦の儀は女子は二十二日男子は二十九日と決定し兩殿下の台臨は来年まで延期 体育会及箏球協会理事李想白試合終了後一度御引見下されたし 勅選も既に四名の欠員につき破格の論議を給はりたし 122 昭和八年一月一二日 昨日宮相に面会し新年宴会に於けるインシデントに就て拝承 似而非「愛国者」又は悪徳新聞が彼是申すは却て不臣の極 松本重治より来信あり山海関事件で多数の市民殺戮は外人に最も悪印
- 象との由
 - 123 昭和八年一月二二日 バニスター氏朝鮮境界及大連より満洲に密輸入頗る多額に上り又日本品に対する差別待遇ありとの由にて嚴重な取締必要 閣下の御裁量に由り立法院に立ち申したし
 - 124 昭和八年二月二日 箏球全国選手権大会帝大勝利 普成専門監督以下を拙宅に招待 鍋島桂次郎氏逝去同老二十一日小生に「一日も早く議員に為していただけ」と申し呉れ候 此上共御高配賜はりたし
 - 125 昭和八年二月一八日 宮裡の変動驚入 後任湯浅氏は剛直正廉憂国の士洵に適材適所 一昨日英大使と快談し大使日本が聯盟に止まること切望 小生の勅選問題閣下の御裁決重ねて惓願
 - 126 昭和八年二月一九日 魚允中嗣孫魚江殖産銀行筆記試験合格 採用に付御依頼下されたし 本日元老と御会見の由 聯盟脱退だけは御決行なきやう
 - 127 昭和八年二月二四日 宇垣氏擁立運動治鮮上にも害ありと存じ宇垣氏に注意 老生不徳の致す処云々と返答 松本重治小生を訪問長時間会談
 - 128 昭和八年三月五日 大蔵公望男が武藤大將を訪問意見開陳の由 朴泳孝侯も来訪せられ満洲問題が鮮人思想に及ぼす影響等の談あり 彼是に就て其内二三十分割愛仰ぎたし
 - 129 昭和八年三月八日 宮島課長につき外務省拓務省も持て余し山本条太郎より林総裁に相談あり東亜調査局に転任の由小生の宮島入局反対には拓相も山本も困却の様子 金永敦より書面あり朴泳孝を始め鮮人は同意見の様 様（付）金永敦書翰 斎藤実宛 昭和八年三月五日付 満洲に於ける五道政治 朝鮮に於ける自治然る後のフェデレーションが日本の進む道
 - 130 昭和八年三月一七日 山本会長辞任通達 小生は水野鍊太郎氏を会長自分を満鉄監事として満洲の空気浄清に努めたく一兩日中に林総裁に監事の件依頼下されたし 白鳥は外務省の癌 機密漏洩は彼に御座候
 - 131 昭和八年三月二四日 William ShepherdはColliers Weekly誌上に不敬の言掲載あり英人等も近頃は我外交を非難東亜調査局の件は神武会系の勝利にて小生来二十七日の理事会後直に辞職の積り 宋鎮禹昨日留
- 守中に来訪
 - 132 昭和八年四月六日 今回米国のThe World Fellowship of Faithより講演の招待あり御考慮給はりたし 日本の親友たりし英

• 大賛成との談あり

- 133 昭和八年四月一五日 京日の佐藤引見感謝 朴栄詰来訪し自治促進の必要力説あり論旨は朴泳孝・宋鎮禹等と大差なし近來宮内大官相互に悪口致す傾向あり 満鉄総裁・拓務大臣訪問せしも満鉄監事就任は六ヶ敷
- 134 昭和八年四月二〇日 満鉄の件に就て特に永井拓相に御相談の趣奉謝 武藤大将より書面あり満洲の前途洋々との論時実君は小松謙次郎氏や池田秀雄よりは劣るやう存ぜらる 天長節の試合に御来臨給はりたし
- 135 昭和八年五月五日 国民も稍く燃料問題を自覚 燃料省の設置及石油石炭国営化が最善の解決方法 元米国大使フォーブス氏令嬢ラツスル夫人武藤統治を謳歌しクライヴ子爵も武藤大将に讃辞 貴族院議員問題につき閣下万難を排して決行給はりたし
- 136 昭和八年五月二〇日 刻下の問題燃国策に関する卑見御覧給はりたし 総会は六月二十日に付き満鉄監事の件拓相に至急御話下されたし 武藤大将も希望なされ満鉄の若き人々も小生に好意
- 137 昭和八年六月一日 松本重治・チャンセラー・バニスター等来訪 国民の落伍者が満支に赴く傾向あり 満鉄の監事は仙石総裁時代小生に内定 今回株主にあらざる人が選挙さるる由仄聞し遺憾
- 138 昭和八年六月二七日 林伯に面会 監事を頼むこと出来ざりしは遺憾 満鉄は軍部に絞り上げられ窮してゐること語られたり 内田外相当分面会不可能
- 139 昭和八年六月二九日 海外旅行費に関し御高配願上 故大木伯小生を勅選にする運動を始めると申されしが間もなく死去既に八年 小生の渡行を機に御決行ありたし 大隈侯嗣子検束 学習院教授収賄に就き御耳に達したし
- 140 昭和八年八月二一日 太平洋会議も英米其他が日本に対し同情好都合に進捗Rope氏は五回共太議に列し日本の為め尽力につき今後も利用致したし
- 141 昭和九年二月七日 帰朝後要務も御進講及内外人の招待会にて大段落を相告申すべし 当分引籠り英米にて買求めたる書籍を一読致したし 広田外相が小生招待につき卑見を申述
- 142 昭和九年三月二九日 議会も閉会に付緩々と面会致したく願上 小生も招待会・講演等にて多忙 鼻出血を起し医命に由り数日絶食幾分軽快
- 143 昭和九年六月一七日 汽車中にて加藤寛治大将に邂逅真意判明同感の点もあり帰京後申上べし Manchester Guardian日本に関し紙面を割愛
- 144 昭和一〇年一月四日 体協の件に付き文相が一両日中に参邸致すやも難計
- 145 昭和一〇年一月二五日 朝鮮林檎御惠贈御礼 体協の件遂に御断はりに接し残念
- 146 昭和八年八月二日 東亜調査局より発行の新満洲年鑑を英加米濠独和蘭等の有力者に贈呈 朝鮮に於ては講演・総督や京城日報の晩餐会等の歓待 朝鮮新聞の讃辞宴に満足
- 147 年二月二五日 今晚は夫婦にて寵招も荊妻発熱に付不参加 御了承下されたし
- 148 年三月九日 井上準之助氏京日顧問就任に付先夜弊宅に招待し小集を開催 本山翁も承諾 朝日の重役会反対の由
- 149 年四月四日 来十七日出発二十日頃着城 来月早々帰京 二十八日大洋丸にて渡米の筈 米国よりは講演の招待あり着米の上は頗る多忙
- 150 年四月一三日 井上氏は朝鮮協会には関係なく太平洋協会の理事長との由 伯爵議員選挙に付ては小生十数日前候補に立つ意志なき旨言明
- 151 年四月一四日 契約の問題に付ては未だ政務総監には話し申上ず 同君に話せし点は株式組織に関する点のみ総監が此問題に付て聞及相成らば賛成のことと奉存 併し警務局当局に相談あらば反対あるべし
- 152 大正年七月一八日 水野・鎌田・財部・山梨の諸相・貴族院の猛将を小生招待貴族正副議長が渋沢翁及小生を正賓添田寿一・山田三良を副賓として午餐会開催の席上朝鮮問題に付て愚存申述 外相・次官・山梨陸相等を訪問し詳細に卑見開陳 南満

中学堂長及奉天中学校長等に対し閣下の揮毫願上

- 153 年七月二七日 御東上御安着奉賀 御出迎へ申上べき処欠礼御詫申上
 - 154 年八月一日 別封オリムピック最近号協会役員氏名加盟団の名掲載 何卒御再考の上帝国数百万の青年を御指導下されたく願上
 - 155 年八月一三日 紐育帰着の日より病氣復急 総領事及頭本元貞等が渡英見合を勧告せるも遂に乘船 使命だけは充分果したりと内外人相認め呉れ申候
 - 156 年九月四日 音楽会の儀は来七日午後八時に決定 金夫妻朝鮮程恐ろしき所はなし一日も早く内地に帰り芸術の為め相尽したき旨申述の由 七日には一封井花環一箇惠贈願上
 - 157 年一〇月九日 西原亀三氏の議会政治の危機同封につき御高覧に下されたし 後藤子に御面会の節昨晚の晩餐会の話致せし 処大に喜ばれ候
 - 158 年一〇月二〇日 小生明二十一日佐賀楠公会就任式に赴く筈の処医命に由り見合せ 祝電の儀は二十三日までに佐賀市赤松町西堀端佐賀楠公会宛に発送下されたし
 - 159 年一一月一九日 英国にては首相・外相・陸相・枢府議長等多数の首領連と会見 ヘーグにてグラス外相・ケロッグ氏に邂逅 只今伯林着にて一月一日帰京 英国は日英同盟の復活を望む者無数にて独り自由党首領Herbert Samuel氏は反対
 - 160 年一二月三日 今日之日尊邸に於て晩餐会に付き生等夫婦も寵招 第六男中耳炎にて発熱にて荊妻は不参加 小生のみ陪宴御了承下されたし
 - 161 年一二月六日 去三日は盛宴に列するの栄を得御芳志の段奉謝御礼の為め参上仕るべきの処神経痛に悩まされ動くこと出来申さず書中を以て御礼
 - 162 年一二月一五日 御着京の節御出迎致す積りも持病の神経通にて引籠 不日参上仕るべし
 - 163 年一二月二日 静岡より興津鯛一籠到来御笑味下されたし
 - 164 年月一一日 意外且憤慨に禁へざる点あり京日に関する実情等も申上たく御引見下されたし
 - 165 年月一六日 御土産御惠贈御礼
 - 166 年月二四日 其後東京支局（京日）に立寄 副社長より三井三菱より各五千円安田より二千円金員強要あり 此時節に余り非常識な申込にて何々と申すより外なし 午後八田副総裁に面会し閣下訪問を希望
 - 167 年月二五日 本日井上準之助氏と会見の結果同君本山彦一翁及下村宏の三氏を顧問とし岸清一氏を法律顧問とし大に発展致す事に決定
- 九五六、福島安正（註8）
- 1 大正三年七月二五日 満洲戦蹟保存会への寄附金の締切期限を大正四年十二月三十一日まで延長九五七、添田寿一
 - 1 明治三〇年一一月三〇日 一昨日は御艦拝艦許され奉謝 海軍拡張に熱心なる懇望も大に満足
 - 2 明治三四年八月九日 過日内示の趣は藤村健次郎に伝達 試験好結果の由につき思心召に適はば御高配願上
 - 3 明治三七年月一六日 旅順主戦艦全滅の由にて何よりの慶事 骨折奉謝
 - 4 明治四〇年九月二三日 御叙爵の段大慶の至 謹て御祝詞申述
 - 5 明治年五月九日 英国スコットランドロブニック会社に於て一隻製造の工事監督の儀御省造船監督官に囑託致したく十二月より着手の筈に付き然るべく御詮議希望
 - 6 明治年月五日 横須賀造船所拝見仕りたき旨在英加藤公使紹介のコールドクミッド氏・コーヘン氏より出願 御照会書御下附依頼
 - 7 昭和三年一月二四日 軍縮会議に於ける御高配に対し封入速記録の如く謝意を表し置けり
 - 8 年一月一日 御年甫の御祝詞申述

- 9 明治年月六日 八日午後七時拙宅御光臨の儀御許容感謝
- 九五八、曾我祐準
 - 1 大正一四年九月二二日 東国通鑑御恵与御礼
 - 2 大正一五年一月一二日 先年東国通鑑恵与難有 熱海産の用筆筭御笑納下されたし
- 九五九、曾我酒家五九郎
 - 1 大正八年九月一日 謹て御見舞申上
 - 2 昭和七年五月日 此度内閣総理大臣に御親任遊ばされましたる段お芽出度う御座います
- 九六〇、曾祢荒助
 - 1 明治四二年一〇月二五日 小生今日に於ては全く快癒 茲に不取敢御挨拶
 - 2 明治年一月一三日 老母澄子死去通知
 - 4 明治年三月一六日 二十七八年の戦役に於て従軍せし軍艦の総頓数并海軍に雇入の船舶の数等の御調査御回し下されたし
 - 5 明治年六月一三日 粗酒差上たく御案内
- 九六一、大本宮副官
 - 1 明治二七年九月七日 葡萄酒・鮎下賜通知
- 九六二、高岩義政
 - 1 昭和八年一月二一日 廃娼運動に御義捐を願いたし
- 九六三、高垣甚之助
 - 1 大正九年三月一二日 新任小原新三和歌山県知事に御紹介賜りたく名刺頂戴希望
 - 2 年三月三一日 朝鮮内に於て水利開墾事業経営致したく希望 御高配を蒙りたし
 - 3 年四月二二日 御着京の折御出迎の筈の処財界の波乱にて内外繁忙を極め欠礼
 - 4 年月日 此度郷里紀州より蜜柑送越御納め下されたし
- 九六四、高木貞作
 - 1 明治一八年七月一八日 高橋領事へ差出の弊社手形に月日記入致さず御手数相掛恐縮 月日記入拝送
 - 2 明治一八年七月二二日 過日拝送の手形は御落手当地に於て切換相成と奉存「七月四日之祭」には高橋君其の他と共に船遊等もあり幾分が御気保養に相成事と推察
 - 3 年六月七日 帰朝前に尊地拝見致したく明夕参上の心組につき御引回の義願上
- 九六五、高木喜寛
 - 1 大正一二年六月一六日 貴族院男爵議員選挙当選御礼
- 九六六、高倉伴介
 - 1 昭和一一年二月四日 満州国三江省勃利県開発事業の件に関し二月頃藤原氏来向との由につき其際は小輩御引見下さる様重ねて願上
- 九六七、高倉寛
 - 1 昭和六年二月一〇日 当地には昭和三年一月より仁和寮を設け離散鮮人の世話を致し居る中野清助寄留 露国及中華民國と北満在留鮮人農民との将来は重大問題

• 九六八、高桑勇

- 1 明治二三年一月二三日 御申越の書籍の義は兵学校備付の分は郵便にて送附し小生拝借の分は後より御送り申すべし 小生帰京の期限につき御一報下されたし 巖島請取の事は相場下落の様なるも時期切迫すれば沢山候補者あるべし
- 2 明治二七年二月二〇日 別紙領収証御回し申候間代金御送下されたし
- 3 明治二八年二月二二日 転任奉賀 長官へ伝言申上置候
- 4 明治二二年七月一三日 全くprivateして御開下されたし 手紙認め置候間御覧下されたし (付) 高桑勇意見書 筑波の航海長関 郁郎は勉強家 当時の次官などは好く云はれず 君の明を蔽ふことありては遺憾
- 5 年二月三日 亜米利加より予て依頼の書籍到来との御申越承知郵送にて御送附相願たし代価の義は善ひ加減に\$の価を直して御送申上ても然るべき哉
- 6 明治二三年三月一三日 兼て依頼の書籍は先日坂出大尉より落手 代価も延引失礼 印刷物二冊御送申上
- 7 明治二六年九月二九日 小生此度大嶋乗組命ぜられ欣喜 少尉候補生諸野市来二名分の準備金十一円御送下されたし
- 8 年十一月一六日 奉祝栄転
- 9 年月一二日 此度滞京の時日も少く面会を願ふ暇もなく遺憾 兼て願置の件は然るべく依頼申上

• 九六九、高崎親章

- 1 明治四〇年九月二三日 今回叙爵慶賀の至
- 2 明治四三年八月一五日 水害見舞

• 九七〇、高崎正風

- 1 明治二七年五月一八日 明日テニク夫人及其小児を招待につき中村静嘉君と同道御光来下されたし

• 九七一、高階礪仙

- 1 昭和八年三月二日 奉賛会設立には殖銀の有賀氏を会長に推す事有功の意見にあり 閣下より同氏に御懇囑の書面差出し御願

• 九七二、高島米峰

- 1 昭和九年七月八日 永く国事に尽し下され感銘 午後後継内閣の組織も完了 静養の機会を得させられ寧ろ幸慶

• 九七三、高田耘平

- 1 昭和七年五月二四日 此度大命拝受 閣僚選定の条件として 一、陸海相の留任 一、法・内相は経歴・才幹を有する者 一、利権漁り疑惑の人は排除 の数点を御考慮願上

• 九七四、高田早苗

- 1 明治三八年二月二日 日露開戦初頃より本大学に於て戦役史の編纂着手 前巻刊成に付一部進呈 2 大正七年一月二三日 曩に書画大観発行 今回明治大正書画大観の発行を企図 故仁礼景範の遺墨撮映御許容下されたし

• 九七五、高田慎蔵

- 1 明治四〇年一月八日 今般男爵を授けらるる趣 三鞭酒御受納下されたし
- 2 年三月一日 別包粗品土産の印迄に進呈
- 3 年八月七日 先般は一方ならず御世話に相成万謝 小生無恙去二十九日安着
- 4 年二月七日 貴省御用品運搬の為め特別雇入のアイルウラルス号佐世保入港の趣通知あり
- 5 年二月二九日 三鞭酒一折御笑納下されたし

• 九七六、高田富蔵

- 1 昭和九年八月一五日 私儀蘇聯邦の一部にても見物致したく去る七月十五日出発 モスコ外を視て只今当地に罷越
- 九七七、高津友作
 - 1 大正一一年一二月一四日 十二日釜山府尹に会し本会希望の用務に一步を進め昨朝着門 兩三日中には県内鮮人在留の要枢を視察
 - 2 大正一一年一二月二日 木村清君の都合相付き昨日福岡県庁へ同行在留鮮人の状況調査につき諒解を得候釜山出張所新設下ノ関支部開設鮮人慰安の實行等期し相談を受け居れり
 - 3 大正一二年一二月一七日 内地渡航の趨向は相変わらず 門司辺は歸還せるものあれど証明書の発行約七十件 八幡辺も大体居据りの情勢 幸田女史経営の鮮人の世話訓育事業訪問
 - 4 大正一五年一月二七日 半島の鎮護たる朝鮮神宮に於て何事かの御用に御使ひ下さりて衣食住の資を仰ぎ斯道の研鑽に碎身致したく御配慮懇願
- 九七八、多賀堂勝
 - 1 九年九月一二日 揮毫依頼
- 九七九、高野孟矩
 - 1 栄任祝詞 昨年末以来支那地旅行中
- 九八〇、高橋阜
 - 1 昭和五年四月日 賀餅壱折当宮妃全快の内祝として御受納相成たし
 - 2 昭和五年五月日 先般当宮妃違例の節は御見舞に参殿相成謝意申述べく挨拶
- 九八一、高橋一子
 - 1 昭和一〇年一月二日 御送金をたまはり御礼 三月まで何卒御援助たまはりたく御願
- 九八二、高橋阜三
 - 1 昭和一二年三月五日 (齊宛) 父君永逝より一年を過ぎ感慨無量 一周年紀念祭には子供達招致紀念品頂戴恐縮の至
 - 2 年九月五日 西洋梨御惠送御礼
- 九八三、高橋是清
 - 1 大正八年六月九日 御問合の件に付きては原首相よりも宮相へ内話小生も両度懇談其結果如何相成べく哉未た分り申さず
 - 2 大正九年九月二九日 来年度予算に付き遺憾乍ら御希望に副う事殆んど不可能 貴府への最善の努力は補充金の前年度額を維持する程度に止り増額の件は到底見込なし
 - 3 大正九年九月日 小生今般陞爵の際に御祝志に接し御厚情御礼
 - 4 年一月一三日 御知人大鐘某の儀御申越しの旨につき欠員の有無調査せしも差当り空位なし
 - 5 年二月二日 此頃神経痛の由伝聞加養祈上 過般松前大使の書翰拝見裨益得勤からず用意の程多謝
 - 6 年四月一五日 本国出立前田辺実明より貴兄への伝言依頼あり 屋須孝平が委細近日手紙出すとの由
 - 7 年九月一日 例の会合は今回拙者宅にて開催六日日本銀行舎宅迄御光来煩したし
- 九八四、高橋五郎
 - 1 年九月五日 斎藤省吾を偲ぶ紀念品として閣下の断簡一句賜はりたく惓願
 - 2 年九月一三日 色紙御惠送御礼

- 九八五、高橋新吉
 - 1 明治三十九年一月一四日 先役栄進の段慶賀 松魚節一箱進呈
- 九八六、高橋鷹蔵
 - 1 大正八年一〇月二六日 過日呉泰諄氏に御面談下されたる由 同人内鮮一体の理想実現の為め献身の決心 只今保安法にて入獄中のものの中から抜擢して用ゐ下さらは意外の好結果と確信
 - 2 大正一一年九月五日 私立高等普通学校を設立すべく奮闘中 競争者なき黄海道の沙里院に変更し着々進捗も今回の大水害にて打撃 閣下御援助下さる様切望 (付) 私立関西高等普通学校設立趣意書 大正一一年九月付 教育綱領・設立内容予定
- 九八七、高橋常雄
 - 1 一〇年一月一六日 陸軍省参与官石井三郎氏が聖徳太子誹謗の言辞を「日本青年」に掲載 聖徳太子の正き認識の為雑誌「聖徳」を贈呈一覽願上
- 九八八、高橋定三郎
 - 1 明治三八年一月一八日 今般帝国国防論なる書籍を御惠贈の趣 厚志の程難有御礼
- 九八九、高橋秀夫
 - 1 昭和九年九月六日 御染筆拝受感銘 御礼として三尺葡萄御届
 - 2 昭和九年九月一三日 御親書の趣き拝承仕り候も既に発送後の事に有之 今回は御笑納の程願上
- 九九〇、高橋光威
 - 1 大正一一年八月二五日 陝客団体大日本国粹会副会長就任挨拶
 - 2 大正一二年一月日 故原敬を記念する揮毫依頼
- 九九一、高島護輔
 - 1 昭和五年五月一三日 満鉄総裁仙石貢氏を絶対に排斥し辞職を勧告する
- 九九二、高平小五郎
 - 1 明治三三年九月一〇日 田村子爵今般海軍に御採用の趣鳴謝 同人御引立下さる様奉願
 - 2 明治四一年九月二〇日 東京博覧会米国事務局書記長ヲラフリンなる者此程来訪に当り閣下紹介方申出に付き御引見願上
 - 3 年六月九日 赤十字社入会手續御決行の趣を以て記章・締盟書等御送付下され正に拝受4年一二月二四日 明日発艦の趣 数日前より熱気を発し無礼 司令長官・各艦長に然るべく伝言下されたし
- 九九三、高峰讓吉
 - 1 明治年六月二九日 紐育ウォールド新聞主幹ドン・シー・ザイツ氏日本実情調査の為め特派 閣下に御紹介
 - 2 年九月二七日 本月二日出発二十二日無事横浜へ到着 ミスラムスベルグ等の諸君へも御致声下されたし
 - 3 年月九日 小生義当月曜日以來当所滞在 明夕尊地に向け出発
- 九九四、高山徹
 - 1 八年五月二日 宇佐美閣下に面会の上日満親善共栄の国策実行に貢献仕りたく生活実費にて御使用下さる様御願致置候
- 九九五、高山政雄
 - 1 昭和七年一二月三一日 参拾円程御拝借願ひ申し上げます
- 九九六、財部彪

- 1 明治二五年一月二七日 今回の回航中の事に付心得の事御気付の事あらば御教示下されたし
 - 2 明治三四年六月一六日 聯合小演習今朝開始 唯今各艦石炭等の積込中 陪観者は軍令部長・二鎮長官を始め多数
 - 3 明治年六月二六日 本日地方有志者の歓迎宴会に司令長官以下各将校臨場ありたき旨通知 司令長官・各艦長及参謀長は今朝連隊長を訪問 右依命申進
 - 4 明治年一〇月一日 進級会議結了に至らず明二日開会の筈各長官の奏上は四日より八日の間にあるべし二十万分一陸軍図并要塞附近陸地図備附の件上申相成ては如何
 - 5 明治年月二一日 島崎和泉艦長の電報は長官及参謀長へは報告済 近着の書類唯今より参謀長に供覧
 - 6 大正元年一二月七日 昨日の元老会議は容易に進捗せず西侯復歸に決し山公自ら西侯に勧告に及ひたるも西侯拒絶 山公も窮せられ松侯の歸京を促し三田松侯別邸に於て会議するも可なりと決定
 - 7 大正元年一二月二六日 翰長は本日は増師問題の議論は出てさりしものの如しとの談 桜井少将叙勲の件は翰長に陳述
 - 8 大正元年一二月二二日 大詔煥發を仰ぎ西園寺侯復歸の議論あるやに聞及海軍の爲めには仕合と期待 勅選議員の補欠は村木武官長と内閣せしも村木閣下の後任は如何相成や
 - 9 大正元年一二月二二日 東宮江田島御成の件は今に沙汰なく自然成行相待方得策 昨日の元老会議の経過は新聞等と大差なし 山本伯説出て論議と伝聞
 - 10 大正元年一二月一四日 東宮の江田島御成は本年は見合の旨伝達 政局に関しては平田子爵も辞退し朝鮮の方へ急電飛へりとの号外出てたる由
 - 11 大正元年一二月二六日 本日新次官会議の初会合あり新翰長より行政整理方針の要領・各省の含み置くべき点・虚飾廃止の件等其意気込感得 江頭少将は軽微なる肺結核の由につき来春にも山屋少将を後任者に据へ人
- 事局長の後任は鈴木大佐最適任
 - 12 大正二年七月二六日 東雲は今回の如き最期を遂げしめたるは遺憾千万 陛下は昨日帰城にて文武百官大勲位は大山・大寺のみ 本日は参内し先日御申附の事を侍従長へ陳へ置く考
 - 13 大正二年一二月一一日 皇太子金剛行啓 朝露引揚に関しては具体的報告もなく艦政本部より岩野造船中監を出張取計一昨日の閣議にて各省予年科目改定のこと決定 当省関係は打合の通にて不都合なし
 - 14 大正三年七月一日 鈴木次官と面会し山之内男自殺の件及び室蘭製鋼所問題の嫌疑に付き聴取 更に木村医務局長・西軍医大監に山内男の自殺に付き事情を聴取
 - 15 大正三年七月二三日 山内男一件に就き世の疑惑を深らしめたるは誠に遺憾 十八日夜次官と面会 判決の相後れ候はシーメンブラザー等に関する英政府の回答未到着の為との由
 - 16 大正三年一二月一一日 山内男事件に付き小原検事安楽氏に先頃来の尋問は已に結了の旨返答との由 故鶴田総監葬式にて寺垣氏より政界小競合氣勢拳らずとの談あり
 - 17 大正五年八月三日 胆石に加え黄疸を併発 参謀長・軍医長の勧告もあり六月二十二日入院受療
 - 18 大正七年一〇月一一日 自由港のことは特に戦後戦には必要ならずやと相考居 切抜の翻訳は先の意見に添へ次官迄差出例の軍団問題は實際問題として現るべき模様
 - 19 大正九年四月二一日 内地と鮮満及山東省との海路接続の障碍改善対策の一として朝鮮東西端大船航路に寄連れる一大吞吐港として所安島白臼湾最適と愚考
 - 20 大正九年七月二一日 釜山築港の件に対する意見は別紙列記の通にして一考の価値は確にあり当軍港工廠内諾工場等拡張工事相進み大に旧観一新
 - 21 大正九年八月九日 白臼港視察記事一覧に供す 豊後水道沖の艦隊戦闘射撃視察に参り其の出来栄の如きは意を強ふせしめたり

- 22 大正一〇年五月四日 朝鮮時報記者の岩切信武君御引見願
- 23 大正一〇年七月三日 内田政彦漁業権確定の為鎮海方面へ出張中 本日同件に関し政友会議員中倉万次郎来訪
- 24 大正一〇年八月一六日 隣接漁場との間隔云々に就ては中倉万次郎翁を介し水野総監へ同人の主張を申送致すべしとのこと
山田新助君は目下安東県に製材所を経営し赤塚奉天総領事とは別懇の間柄にて御引見下されたし
- 25 大正一一年一月二日 国武克巳紹介（付）国武克巳書翰 財部彪宛 大正一一年一月一日付 朝鮮総督への紹介状御送り下されば幸甚
- 26 大正一一年三月二五日 明治四十四年以来始めて鎮海を見舞ひ昔の田野が堂々たる要地の壯観を備へたるを見感慨少からず
- 27 大正一二年八月一一日 加藤男の病状患部漸次増進 政変捲起は必至にて牧野宮相・岡野法相等は心痛の態 岡野法相は西公を訪ひ内閣組織の適任者として山本伯・斎藤男の二人に来着すべしと断言せりとの由
- 28 大正一三年六月一八日 第二十二回談話会（大将会）相催たく御案内
- 29 大正年八月六日 歐洲戦近頃大分連合軍側有利 露国より我国へ多数の軍器注文の場合もなきに限らず 将来彼我取引決算の為め樺太北部を譲渡のことを海軍より提議実行致しては如何
- 30 昭和二年二月二五日 軍縮會議に関し首相は最後の断を与えざる次第 従て先日申し上げし以上申上ることできず遺憾千万 外相は支那問題稍樂觀考慮を要せずとの意見
- 31 昭和二年三月一七日 ゼネバ軍縮會議全権に関し十六日の會議に於て閣下の出馬を懇請することに決定御快諾を切願
- 32 昭和四年一一月三〇日 今回の會議は油断相成申さず最善を尽すのみと覚悟 留守中近藤基樹授爵の件並に伍堂秀雄の昭和製鋼排斥運動の件に付き御助力依頼
- 33 昭和五年七月二五日 官邸にて粗餐差進たし
- 34 昭和七年五月二三日 政友会にて鈴木氏の取巻連の破壊活動盛なる如し陸軍の荒木派の丸山に対する反感不淺は一考の価値あり 朝鮮關係の輩沢山幕中にあるは外界に不良の印象を与ふる虞あり（付）財部彪メモ 小山完吾は書記官長に政党色彩なき人を希望
- 35 昭和七年五月二三日 岡田は固辞なしと思ふが一寸御用心願ふ 床次将来政友会分裂に備ふるの用意 政党を基礎として新内閣組織との鈴木総裁に対する言葉は硬派の議論惹起の虞なきやと山之内が心配
- 36 昭和七年五月二四日 大塚維精の覚書を封入 安達を引入れ置かるる方得策 内閣の威容上床次の入閣必要 軍部方面に輕視出来ざる動きあり明夜あたり御決行切望 児玉・丸山第一線に立つを御止めに相成たし（付）「組閣根本方針に付て」拳国一致の名の下に実は平沼内閣次で荒木内閣 昨年九月事件突発以来の軍部の決心と安達との内容關係
- 37 昭和七年五月二四日 外相には内田伯起用を可とす 民政の川崎来訪し政友四民政二では若槻自身の入閣は出来すと若槻自身語りとの談あり 明二十五日中には御完了を祈上
- 38 昭和七年五月三〇日（青年海軍將校第二決死隊長書翰）シーメンス事件・ロンドン屈辱條約の締約の重大責任者の一人として恥じぬか（付）清水要次書翰 斎藤実宛 五月三一日付 政務官の椅子等にこだはる浅ましき党争を一掃せよ 政党者自重せよ 余は閣下を信頼す
- 39 昭和七年六月一四日 其子息が赤化運動に参加せるの故を以て貴族院議員を辞退せる大河内正敏子爵は其子息の廢嫡処分等も済み今度の改撰に出馬の希望 希望実現小生よりも切望
- 40 昭和八年三月五日 倫敦條約に関し妨碍的脅迫的投書や新聞記事頻出 その現象の源泉は非現役海軍士官の極一部分にして其眞の火元は小生身邊に伏在 其動機や公憤殆ど皆無
- 41 昭和八年七月一四日 常に貴感を煩せし八紘学園建設に関し此度名菓わかもと本舗長尾鉄弥殿は金壱万円提供の由 御序の節に一同長尾氏の篤志に感謝の模様申伝下されたし
- 42 昭和九年一〇月三日 小生今三日宮崎到着今夜は都城に帰郷 明四日出宮に付其折拝眉の上八日の日程に付御願申上べし

- 43 昭和九年二月一九日 藤田某が岡本氏へ贈与の全額は後に藤田より会社に弁償せるに付き不起訴の次第鈴・鳩両氏間の相談の結果一蓮托生主義にて邁進 愛国主義団隊等の間に国民大会提起するの計図あり
- 44 年四月二八日 松本氏は昨日来訪佐世保港外に在る大島に属する分は已に所有確定の鉱区の由にて到底駄目と認めらるも他の分は調査の上ならでは分からずとの旨聞取
- 45 年七月一五日 軍令部長以下諸官本日参集の件は下命の如く取計46 年八月一一日 陸軍大演習は今年十一月十四日集合
- 47 年一〇月二五日 岩崎君への書状は已に御差出下されし哉
- 48 年一二月一〇日 昨夜十一時頃帰宅し御書面拝読高諭の通り海軍省に書類御用に相伺べし
- 49 年一二月一〇日 松方侯は平山宮中顧問官を以て本日内閣組織に関する内沙汰を拝辞 松本中将恢復

• 九九七、多木久米次郎

- 1 昭和四年一二月一一日 三井から山林壱万五阡町歩貸下 大正七年以来熱誠経営も収入はなく年々貸付金と経費壱万円余を費すのみにして困却 速に譲与の許可下されし
- 2 昭和七年一〇月二九日 郡長知事の公選及び権利拡大・郡庁郡会の復活・地租全廃・小作料の低廉化及農村の美風美德函養・農業の工業化進言 朝鮮に憲法実施御配慮仰ぎたし
- 3 昭和八年四月二日 貴族院議員六名欠員の趣 不肖を御推薦に預りたく切望
- 4 昭和八年四月一八日 連盟脱退断行外交の成功慶賀 新聞は政権移動を強調も閣下御就職継続切望 閣下の奮闘により党弊除去 財政の整理断行を切望 朝鮮の官公吏への加俸は日鮮融和の障害
- 5 昭和八年五月九日 帝国の威風世界を風靡せるは近来の快事 党より閣僚迄代表的に出して今日彼是政権を争ふか如きは政友会の自滅を招くもの
- 6 昭和八年九月二日 米の無制限海軍拡張 支那も応呼して抗日の行動 英米石油に付て種々策動 露も毎々如何しき行動 国際的に八方閉 三井三菱此難局に暴利を貧るは沙汰の限り
- 7 昭和八年九月三日 今や列強の嫉妬は猛烈国際間の帝国孤立を企図 平和的緩和手段として露国と不可侵条約締結至計 米国に対して帝国の人傑を米国訪問せしめ新聞紙上への反米記事掲載を禁せしめられたし
- 8 昭和一〇年九月二〇日 (前半欠) 今回の肅正には政府も公平に扱れたる事は近来の美談 彼の大悪法なる肥料統制法案提出の趣なるも此の如き悪法案の出さざる様御配慮下されし
- 9 昭和一〇年九月二九日 「多木代議士 (第六十七議会に於ける肥料業統制法案は農村を苦しめ食糧政策を過り産業の発達を妨害し憲政を逆転に導く大悪法なりとして) 山崎農林大臣に与ふる警告書」昭和一〇年五月
- 10 昭和一〇年一二月二八日 選挙肅正も警察権濫用の弊害少く無事終了 棄権者の多き事は地方警察及行政庁の行動が峻厳にして人民が恐怖 共産党に等しき者多数当選は研究の必要
- 11 大正一五年一二月一五日 保護奨励により水利も成立 工事進捗遅延し経費増加をなし竣工の時期も未定 水電問題は一部我利家の陰危なる行動あり決して御認可なき様希望 (付) 多木久米次郎書翰 斎藤実宛 朝鮮は益々泰平 徳政の相懐き事国家の慶福
- 12 大正一三年一月二一日 閣下総督勇退の報に驚愕 朝鮮の安危は帝国の運命に関する重大要件 閣下の一動一挙は内閣の変動よりも大なりと確信
- 13 昭和三年八月一四日 朝鮮は大早魃 閣下の保護により開拓事業成功 小生も五千元より百万円の保護を得候事閣下の賜と申しても過言にはなし

• 九九八、滝川儀作

- 1 年一月二七日 燐寸軸木用材払下に関し営業廠長へ願書提出 就ては閣下の御高配に依り特別の詮議相仰たし

- 九九九、滝川具和
 - 1 年三月一三日 相願の件に関しては財部次官へ御面会仕り尚谷口副官・吉田大佐等へ相尋ね粗ほ相分り候
- 一〇〇〇、滝口潔
 - 1 昭和年七月六日 小生満鉄入社希望の件につき御紹介の前川善吉様を訪問 入社は寧ろ有望の次第にて要するに時機と置位の問題
- 一〇〇一、多岐本文海
 - 1 昭和五年一月一日 奉恭賀十七億民生活安定
- 一〇〇二、田口福寿
 - 1 昭和九年九月二〇日 本会に於て「青島港と佐藤船長」と題して故佐藤敬三氏の遺稿集を編纂目下準備中 御尊台の題字序文或は感想文の何れかなりとも給はらば光栄至極（付）「青島港と佐藤船長」内容目次
- 一〇〇九、宅野田夫
 - 1 昭和八年一二月二四日 皇太子御誕生を奉祝 御無事御成長の為め恩赦奏請 浜口首相狙撃人佐郷屋留雄減刑を懇願
 - 2 昭和八年一二月二八日 恩赦御内定の趣拝承 佐郷屋留雄に対しても恩赦有之御事と奉存候 共匪は皆極刑に致すべし
 - 3 大正九年一月一〇日 満洲国溥儀執政閣下師伝として関屋貞三郎氏起用の記事あれど御見合せ下されたく懇願 鄭国務・総理・筑紫参議・菱刈司令官・小磯参謀長・岡村参謀副長にも該起用方中止の旨打電一〇〇四、竹内重利
 - 1 明治四五年七月一〇日 戦艦二隻新造案は上院にて復活したるが下院との協議に於て如何に落着するやは端倪能はざる処民主党は若し此際賛成せざるに於ては与論の攻撃も八釜しかるべく賛成せは議会に於ける決議を無視する事となり大分難問題
 - 2 大正二年一月二五日 当大使館に於ける武官の位置は外交官補次席なりしが珍田大使は参事官次席に改定 米国海軍拡張案は目下下院委員会にて調査諮問中なるも戦艦三隻の原案通過は到底六ヶ敷との世論
- 一〇〇五、竹内友治郎
 - 1 大正一〇年五月一三日 間島に於ける通信線を支那へ引渡の交渉に関する件は本日別紙写の通外務大臣在間島堺領事へ打電 日露連絡通信に関する交渉は逡信省之に当り朝鮮総督府の与りたるものにあらず
- 一〇〇六、竹内平太郎
 - 1 明治二七年一二月二七日 場所なきとの旨を以て一先つ当課々僚を仰付られしも強ち場所なきものとも思はれずして鉄砲玉の来る処へ転勤のほと尽力懇願
 - 2 明治二七年一二月二三日 当地方在留至極健にて日々無事 之に反し威海衛の見張りは一週間に二日位は眼を離し居る事故 敵は又々逃去りはせぬかとのみ心配
 - 3 明治年六月一日 Pasteur Institut職員諸氏叙勲の件は勲章相渡し何れも満悦 当国駐在員松村・丸山両大尉は日本学生中の亀鑑との公評 小山田少佐後來有望のものと認定あらば欧州派遣然るべし
 - 4 明治年八月六日 仏国海軍大佐ソーバン以下四名叙勲の件は勲章夫々本人へ伝達 当地海軍参謀部長心得以下三名及海軍大臣官房の職員二名叙勲の件軍令部長迄上申につき認可方尽力の段懇願
 - 5 明治年月日 中侯上等兵曹軍艦操江へ配乗行はれさりし理由の過半は下拙の不行届に付き茲に謝罪（後半欠）
- 一〇〇七、竹越与三郎
 - 1 昭和四年七月三日 朝鮮漫談御惠贈御礼
- 一〇〇八、竹下勇

- 1 明治二六年四月一―二日 Captain Mahan "Influence of Sea Power on History" 拝借致したし
 - 2 明治三六年一〇月二四日 昨今満洲問題八ヶ間敷 当地新聞に個人として或は団体として我邦に同情を表するもの続々あり露の海軍公使館付は紐育に於て石炭其他の軍需品を購買しつつありとの風評あり
 - 3 明治三七年二月一日 帰朝命令を希望
 - 4 明治三七年六月七日 中将昇進への祝詞 ポカホンタス石炭購入は直接当地にて取扱はすれば約式弗の相違あり 貿易会社は其代理店を通し非常に高利を牟ぼりつつあり
 - 5 明治三五年月日 外務省より associated press 通信員に芝罘事件に就て我駆逐艦長の処置是認・露国の支那中立無視の事を発表 以来当地の新聞の口調は少し柔らぎし傾あり 出来得可き丈速に正々堂々と理由を発表し機先を制するは最も有効なる手段
 - 6 昭和四年一―月一―三日 今月十一日付にて予備役仰付けらる 改めて御洪恩に対し深甚の謝意
 - 7 昭和五年五月一日 貴地視察の際の便宜に対し御礼
- 一〇〇九、武田秀雄
 - 1 明治二二年一二月二七日 御滞なく御帰航の趣恭悦の至 小生知人軍艦拝艦を希望
 - 2 明治三〇年一二月二九日 昇進祝詞
 - 3 大正一〇年四月一―日 平壤無煙炭田中長山鉱区三菱製鉄会社到下附の議に付き海軍省当事者・山口軍需局長とも内談 大体に於て異議なし 製鉄会社としては東の分区の半分を希望
 - 4 昭和一〇年一〇月一―日 小生事当閑居にて休養中 御来意の趣に関しては電話にて郷古氏と協議 此段御諒知下されたし
- 一〇一〇、武田用蔵
 - 1 明治三九年一二月一日 豚児干吉より書あり曩日大臣より高教を蒙むり感泣云々 豚児今日職を海省に得るは閣下の庇蔭にて拙書を裁し邦府に奉謝
- 一〇一一、武富邦鼎
 - 1 明治二八年四月九日 予定通三十日に宇品へ安着の由安堵 大総督府進発も延引に付ては貴艦出發の事に相運申すべく歟 李使節の媿談判は如何なる結果に相成べく哉御一声下されたし
 - 2 明治二八年一〇月二四日 劉永福逃走に関し陸上搜索を厳密にし兵員憲兵を増派し安平出港の支那人に対し充分なる取締を為さしめらる筈
- 一〇一二、武部欽一
 - 1 昭和六年六月一―日 学位令に関する枢府の委員会は本日午前九時半より正午迄開会 江木・岡田・鎌田・桜井・富井の各顧問官より質問続出 本日のみにては審査終了に至らず
- 一〇一三、田子一民
 - 1 昭和二年一〇月二―日 二十七日の岩手学生会は日本青年館に決定
 - 2 昭和三年五月三―日 岩手学生会に於て後藤子爵帰朝を兼ね会開催仕りたく閣下の御臨場を仰ぎたし
 - 3 昭和一二年二月二―日 (齊宛) 一周忌の記念品拝受 芳情感謝
 - 4 昭和一二年二月二―日 (齊宛) 此度佳品惠贈御礼
- 一〇一四、田近幸太郎
 - 1 昭和五年七月二―日 今般音更市街処分に際し拝借の住宅地二戸下賜下され感泣
 - 2 昭和五年八月一―日 会社解散に依る私の囑托解任並に宅地二戸分与の辞令書交付 一段落相付き書中一言挨拶 (付1) 村上謙三郎 請書 (解職辞令・宅地分与) (付2) 田近幸太郎 請書 (解職辞令・宅地分与)

- 一〇一五、但馬惟孝
 - 1 明治三〇年一月二十五日 艦長より申来り候に付送附（付1）三浦功書翰 斎蔵実宛 一月二十五日付 まだ登省致し兼ね貴君の方にて御取扱下されたし（付2）長崎省吾書翰 三浦富士艦長宛 明治三〇年一月一日付 マルチノー氏より献上の油絵其筋の者へ鑑定に付き協議したし
 - 2 明治三〇年一月二十日 明日は帰艦致すべき筈なれど年一回の先祖祭に付き明一日丈け御許可御願
- 一〇一六、田島良稻
 - 1 年九月一日 御願致せし御筆御送附厚く御礼
 - 2 年月日 御揮毫御願
- 一〇一七、田代倫
 - 1 大正一三年三月二日 援助依頼
 - 2 大正一四年一月二十六日 金五十円御救援御願
 - 3 昭和 五年一月二十七日 雑誌購読賛助の願
 - 4 年九月一日 金三十円丈御力そへを願上 現内閣諸公に対して援助を頼みましたが一人も応諾を致しませぬ
- 一〇一八、多田栄吉
 - 1 昭和五年二月八日 昭和製鋼所に関し廿四日閣議で按山に決定の由にて地方有士は小生に叱咤肉迫 総督の思召不安の見込の場合は内示を得て地方運動抑制を解除致し小生の全責任を免れたし 朝鮮設置確定の有無に付極秘裡に電報戴きたし
 - 2 昭和五年二月二五日 会議所側から小生に東上運動方申来るも病気を口実に東上差控へ加藤・渡辺両君にも東上運動に付厳告 拓務省殖産局長来新 製鋼所設置は悪思想緩和に重大効力（付）「安東時報」昭和五年二月二五日付記事切抜「昭和製鋼所で満洲の不景気を救済 殖産局長は真相を語る」
- 一〇一九、太刀川又八郎
 - 1 昭和年一月十五日 褒五一五事件 義は重く命は軽し刑罰の軽き重きを言はぬ勇士等 御政務の余暇に御笑覧賜らは幸甚
- 一〇二〇、伊達邦宗
 - 1 明治年七月二日 至急御内話致したく御退庁後直に御帰宅相願たし
 - 2 明治年七月二日 御内話のため明十三日に参上致したし
 - 3 明治年七月三日 後藤民政局長官来る十四日台北を出発上京の由
 - 4 大正六年六月一日 去る四日転地 概して身体の具合よろしく覚ゆる
 - 5 大正七年五月二五日 報知新聞切抜送付
 - 6 大正七年五月二八日 河北新報切抜送付
 - 7 大正七年六月 二日 邦太郎様寄宿願に付ては『済美寮』より空室あり承諾を得たる次第
 - 8 大正七年七月一日 昨日参上の砌御内話の儀の書類郵送願上（付）伊達邦宗書翰 斎蔵実宛 東宮殿下の献上の置物に付き佐和翁の気付有之候処幸に鷹の置物見当申し候
 - 9 大正七年七月四日 先日御願の儀に付き早速松浦伯に御話下され厚く御礼
 - 10 大正七年七月七日 御送付の決議書記名捺印の上送附 大隈信常との面会の趣申越難有 今日東宮殿下御着に付き献上物奉呈
 - 11 大正八年九月七日 京城着任の際朝鮮人中に危害を加えんとする者あり 怪我も無く安心 創槍秘録並に原稿拝受
 - 12 大正八年一月二二日 「振分髪之由来」等出来につき送付今野甚伍新設製薬会社より入社を望まれ摺沢・菅原両氏に相談

の末本人の希望通辞職を許可

- 13 大正 九年一〇月二〇日 『念西公紀事』 (大正九年十月七日付)
- 14 年三月一〇日 菅原内諾の事御知らせ戴き御高配御礼 東臆話記抜萃一冊御送付御礼
- 15 年五月一六日 子供への懐中鉛筆御贈与御礼 十三日に転地予定も足部の故障にて二十五日に出発

- 一〇二〇、立見尚文
 - 1 明治三十九年六月四日 昇進の恩命に接し御挨拶

- 一〇二二、田中朝吉
 - 1 昭和九年九月三日 御懇書難有拝誦 不日参上御引見賜りたし
 - 2 昭和九年九月二五日 御紹介を預き申せし有賀光豊様にも其後御面晤の機を得候

- 一〇二三、田中永次郎
 - 1 昭和七年六月四日 少壮軍人処断極刑に処せらるべきものに非ずと確信 満洲国へ増兵の必要 匪賊掃蕩を期し帝国の威信を宣揚せしめらるべきこと鄙見具陳

- 一〇二四、田中希一郎
 - 1 大正一二年八月二八日 後継首相として世評は閣下に集中 朝鮮統治主班として閣下の後を秋月左都夫氏を御推挙依頼潮力發電事業調査許可井優先権附与願ひの件につき御指示に接し申したし

- 一〇二五、田中義一
 - 1 大正九年八月一〇日 宇都宮大將は軍事参議官となり後任は大庭二郎 国境憲兵の件は目下研究中
 - 2 大正九年八月一日 (電報) 宇都宮大將軍参議官となり後任は大庭二郎 国境憲兵の件は目下検討中 (付) ニレ電報齋藤実宛銀行に預金なき故金受けとれぬ
 - 3 大正一〇年八月三〇日 軍事参議官に補せられ候に就き御挨拶
 - 4 大正一二年五月七日 今回朝鮮の諸鉄道合併の議に付き合併せられたる鉄道会社の社長には閣下の御高配を得て福原男爵任用の榮を得たし
 - 5 昭和二年一二月二日 尊書拝承 後任の人撰は何等未だ決定は致し居らず 枢府の方は既に内定 両三日中参邸致すべし
 - 6 昭和二年月日 兼て御内談申上の通り総督御辞任後は閣下を枢密顧問官に御推撰申したし 御内意伺 (後半欠)

- 一〇二六、田中寿三郎
 - 1 大正一五年六月二四日 博義王貴地御成の節種々御配慮下され殿下満足 白紹壱匹御受納下されたし

- 一〇二七、田中武雄
 - 1 大正一一年八月四日 今回私事咸鏡北道警察部長の恩命を辱うし深く肝銘 奮励努力の所存

- 一〇二八、田中太介
 - 1 昭和七年四月一三日 揮毫御礼
 - 2 年月日 (前半欠) 揮毫写左に添書

- 一〇二九、田中徳太郎
 - 1 大正一四年二月一三日 超大鎗子への立替金参千五百円は去八日趙夫人より返金趙子爵肺病と診断につき此際中枢院へ奏任待遇参議として採用願たし 故宋乘峻伯の葬儀は去九日執行

- 2 昭和三年二月一七日 趙大鎬子暫く容体の経過を注視 故李周会遺族救済の件は成績存外に良好 中樞院参議申応熙氏感冒にて去十二日逝去 総督政務総監交迭に伴ひ朝鮮人の陳情請願蒸返し来訪者殺到 山梨総督は何人にも面会せらるると云ふ方針を取られず宴会もささい催す有様
- 3 昭和三年七月一日 伯爵李址鎔薨去 先般守屋代議士来城の節閣下近々渡鮮の由伝へられ官房一同喜悅
- 4 昭和四年五月八日 (朴泳孝・李軫鎬・佐瀬熊鉄と連名) 李周会の遺族に対し各方面より金員寄贈 東洋拓殖会社より田畑買入 家屋購入費及農業準備金を遺族李乘九に交付
- 5 昭和四年五月一二日 男爵金宗漢氏への贈物は去六日伝達 宋錫九の本府官吏採用は如何とも致し難く 忠清南道雇員として採用方考慮
- 6 昭和四年八月二七日 権重顕過般李夏栄の補欠として中樞院顧問仰付られ喜悅 小官に対し閣下へ御礼伝申方依頼
- 7 昭和六年五月二一日 徳恵姫現今に於ては御病氣拝せざるに至れり 李鍵公御婚約 李桐殿下十三日別府御出発朴泳孝孫女御縁談 住永表彰の件は下条賞勲局総裁を訪ね更に依頼
- 8 昭和六年八月二日 三浦氏就職の件は本人履歴書を神尾学務課長へ提供 去月初旬仁川及平壤に起りし支那人逆殺事件は真に遺憾 金潤晶来訪し李範圭著述の諺文四書刊行に関し申述あり 李琦鎔子来訪し徳恵姫結婚並李婿公迎妃に関する李氏多数の見解申述 (付1) 李範圭金子借用証書 昭和六年七月付 (付2) 言解四書刊行及販売事業の契約書
- 9 昭和六年九月二一日 下命の三浦敬一氏就職の件は神尾学務課長より平安南道学務課長・平安北道咸鏡北道の視学官へ懇切依頼 時節柄欠員生せず
- 10 昭和六年一二三〇日 安淳煥の書面に関する件に付き仰の趣拝承 儒道振興資金に付き金潤晶が閣下の前と安氏の前とで言を左右 金氏に対し詰問は差控
- 11 昭和七年一月二五日 満洲事変以来智識階級の人々は帝国の国力の強大到驚嘆し当局に忠言を呈する者続出 盧正一氏経営の中央日報は着々成功 李範圭氏の諺文四書未だ出版せず無責任の程驚入
- 12 昭和七年八月五日 過般大任就任に就て儒生兩班は慶祝 閔丙爽子李允用男朴箕陽男を首とし銅像建立の議を画策中盧正一氏の中央日報は其後経費続かず休刊 盧氏喪心せん計りに苦悶
- 13 昭和七年八月一六日 先般仰せの趣盧正一氏へ伝言並書面返却の件敬承 盧氏は目下株式組織の意図にて努力中 同新聞続刊の事は未だ確実に見通相付申さず
- 14 昭和七年一二月一四日 伊藤藤太郎・朴永根の届品は早速郵送 閔健植男宛封書も発送 故朴箕陽男に叙位叙勲の沙汰あり 葬送の剰余金千二百円を以て家賃に供し生計を立行かしむべく心組
- 15 昭和八年三月一四日 過般上京の節は格別の寵遇を蒙り感激 大阪に二泊の上朝鮮人活動の状況を視察し京城へ帰任下命の品物は七日到着 懇配厚く御礼
- 16 昭和八年八月二五日 阿部氏托送の品は洪宍深へ伝達 令夫人より家内へ恩品惠賜御礼 小官平壤新義州へ参り民情視察の予定
- 17 昭和九年一月二〇日 趙子爵家土地移転に関する件敬承在再放任致置く議にも参らず千葉氏と篤と協議を遂げ然るべく取計申すべし
- 18 昭和九年一〇月一日 長男秀雄殖産銀行・朝鮮銀行・本府官吏の順序で就職希望につき御推挙下さらば幸甚 朝鮮退却の上は在官中に得たる資料に依りて韓末の秘史及王公貴族の事伊藤公以降本府首脳の統治振に対する朝鮮人の批判等を編綴して後学の資に供せん積り
- 19 昭和年一二月五日 李種性なる者に付き御下問の趣敬承 調査の処記載の人居住致さざる旨回答 趙大鎬家水原の土地を未亡人の名義にて信托申出

- 1 大正七年八月一九日 諸県巡説の為め寄留先通知（付）「正五位金原明善氏より田中知邦を各県知事へ紹介の書翰写」大正七年八月一日付
- 一〇三一、田中誠之助
 - 1 大正一二年一〇月一〇日 東拓改革案実行には樺山氏最適任 勝田を蔵相樺山を東拓総裁に推せば大々の飛躍（付）田中誠之助書翰 田中大将宛 大正一二年一〇月一〇日付 拓殖事業革新に勝田推挙
 - 2 大正一二年一二月一六日 気分勝れず約二ヶ月に亘り引籠りがちにて例の原稿も尊覧に供するを得ず失礼
 - 3 大正一三年一月一日後継内閣に就ては種々風説第一清浦内閣説第二政友会内閣説第三憲政会内閣説第四貴族院内閣説 山本内閣は既に人望を失して居りました その事情第一不統一 第二対政友会策の失敗
 - 4 大正一三年一月五日 清浦子貴族院内閣組織 勝田起用は対外政策の為め喜ぶべき次第 閣下の余徳に敬意
 - 5 昭和六年一月二〇日 亜国ミッシヨネスは人口今日十萬 我が大和民族が多数を制する日を待つて居るのであります 卑見に対しては山崎公使も賛成 移住組合に付き尊慮を仰ぎ奉る次第
 - 6 年月日 「朝鮮土地改良会社私案」資本金・会社の特権・金融策・収支関係見積につき説明
- 一〇三二、田中学
 - 1 昭和一〇年一月三日 今日閣下の徳を戴き閣下の情を享けし愚者が此過分の恩寓に報ゆる道は唯一つ閣下の誠心に殉ずるに在り
 - 2 昭和一一年二月六日 軍縮會議の決裂は白人黄人の対立に在り日本国民にとり一大警鐘で在り日本精神の高調こそ政府の最急務
- 一〇三三、田中光顕
 - 1 明治四二年三月二六日 三十一日新浜鴨場に於て鴨獵の御沙汰 同日午前八時参入あるべし 昭和九年四月二八日 昨年来伊藤公道頌事業に斡旋罷在 然るに同志中伊東伯急逝金子伯も病臥中 此際閣下の御高声を仰ぎ斯業の完成を図りたく切望
 - 3 年二月五日 今般馬山浦に於て入手の雁壺羽鴨参羽御笑納下されたし
- 一〇三四、田中釉
 - 1 明治一五年一二月一日 船窓金具類其他暖炉付属品等明二日中には必ず落成
- 一〇三五、田中盛秀
 - 1 大正一〇年四月二一日 御地名産の特種品拝受感謝 海軍対製鋼所問題も不日解決致すべし
 - 2 年七月三日（前半欠）第二艦隊は昨日当湾へ回航 十四五日頃より艦砲検定射撃施行の予定
- 一〇三六、タナカ
 - 1 大正一三年二月一一日（電報）旭日桐花大授章授与に対し祝詞
- 一〇三七、田中館愛橘
 - 1 昭和五年九月三〇日（ローマ字文）昨日饗応に預り尚ローマ字論まで聴取感謝 今朝金剛山を散策し漢詩を賦す
- 一〇三八、田辺実明
 - 1 大正五年九月二七日 十一月初御大札の由 昨年恩典に洩れし大関氏申請詮議相成様致したし 府庁受理の尠沙汰なく府庁如何 運呉候哉様子御探り下されたし 那須危篤につき昇位の詮議に加へられては如何
 - 2 大正五年九月二七日 那須得位の事厚配奉願 大関氏も我国海軍史上に上るべき一人なるも五十年の今日迄湮滅に付したるは 残念 那須碑文は参上の節いたたき申すべし

- 3 大正五年一月四日 那須申請の件につき不一方御手数御礼 故人に対する微意を表したるものと奉存候
- 4 大正五年一月二五日 大関氏得位の儀に付き後藤男に是迄の概要を陳べ依頼も昨年大礼の際内閣詮議相成ざるものなりと今朝通知 此上は改めて申請の外なし 大関女史は児玉翰長夫人と別懇の内にて一昨日も参り頼のみし由
- 5 大正八年八月六日 不日総督任命の由 復職ならば一層大慶
- 6 大正八年八月一三日 昨日総督任命 名誉恢復同慶 当方真相九分通り出来 真相発表に付ては前以て邦宗公に拝謁致したし
- 7 大正八年八月一四日 一時留主長官に仰付間敷哉 御許容下さらば難有
- 8 大正八年八月一九日 一の宮別荘家屋売渡決定 別記は伯爵会見の折り迄に一読下されたし (付) 「稔秋隨筆抄」
- 9 大正九年二月一九日 大事業たる先代萩は幸田博士の同情を得て物に成りそうに付其次第申上 (付) 田辺実明書翰 斎藤実宛 二月一九日付幸田博士へ愚稿への序文依頼先代萩の真相をめぐる大槻文彦博士への反駁
- 10 大正九年二月二九日 伯爵家訪問の折跋文訂正・文章潤剛幸田に依頼の件達成願上 真相成就迄は材料の保護を宜しく願上
- 11 大正一一年六月一九日 高橋子爵議会操縦随分手際能しと感服せし処投出は遺憾の至
- 12 大正一二年三月二日 伊藤生方よりの儀依頼仰下さり難有 情願の儀は早晚相達さば満足
- 13 大正一二年六月一日 邦宗公薨去至極残念
- 14 大正一二年六月四日 良子女王多勢の近親同列にて四方遊覧は人民風俗実地視察の思召よりの事と拝察 明治大帝の聖慮を奉じらる事を切望
- 15 大正一二年六月六日 北白川宮仏国にて遭難 世憂に沈み罷在最中に久瀨瀨宮一家は悠々漫遊 当局は大に反省注意
- 16 大正一二年九月一二日 震災後流言政府反対党放てるもの多数 放火は不逞鮮人の所為と隣家の者共は戸山原に移動の事実あり
- 17 大正一三年一月二二日 戊辰仙台藩四大建白は評註を加ふべく取調 戊辰革命の真相は是非承知あらまほしく
- 18 大正一三年一月二四日 不日御大礼の由 御膳飾おすそわけ奉願 清浦氏も余計な虚栄を願ひ自業自得
- 19 大正一三年二月一日 議会解散の趣 清浦の眼中に国家人民無し 時局を救ふは山本伯の如き人物 清浦退治は緊急事
- 20 大正一三年二月一八日 今回は清浦大相国の大英断不日総選挙の結果定て政府党大勝利 紀元節発表追賞少々奇怪 四大建白は旧藩面目の為め史実研究家の為め出版仕りたし
- 21 大正一三年六月一日 加藤内閣成立上下安定 四大建白は将来史実研究家一材料と確信
- 22 大正一三年七月一八日 四大建白大に吟味すべし 出版仕りたく御補助下されたし
- 23 大正一三年七月一八日 建白評論学稿を学者に序跋を乞ひ出版仕りたし 百金程助成奉願
- 24 大正一四年一月一五日 十五日東京日々新聞に斎藤総督の兄さんがバクチの師匠云々以の外なる記事拜見 これは加藤良之助の「いたつら」と拝察
- 25 大正一四年一月二八日 本月十五日の東京日々新聞一笑に付するの価ひなきものといへとも身上の僅かの弱点も害に相成
- 26 昭和五年三月一五日 帝国議会の状況あきれ入る次第 大臣大官にも以外なる怪聞相聞へ困ったもの
- 27 年三月九日 題字の儀は田村子爵に願敷 真相の材料は高平家でもなにか書き貰ふ事に仕るべし
- 28 年五月一六日 印度人が我皇国の鮮国に布かる仁政羨望は自然 英国の懸念支米人の猜疑一段骨折の程拝察
- 29 年月日 例の伊達家黒箱故増田翁方に保存と見当 就ては小子直に彼の地に出向き遺族連に出会ひ故翁より親く承る所を以て尋ね候はは用弁致すべし (後半欠)

- 一〇三九、田辺尚文

- 1 昭和五年九月二日 私も無事夏休を終らんと致し候 愈来年三月大学入学試験へ突進せんがため努力自重

- 一〇四〇、田鍋安之助

- 1 昭和二年四月二日 張作霖敗退すれば満洲が大混乱に陥る恐れあり 其混乱が朝鮮に波及すへきは免さる処 軍縮会議の全権に

は他にも其人あるべく辞任遊されたし

• 一〇四一、田辺隆平

- 1 大正一五年九月九日 民間塩田出願の件発起人等は小生を除外致し山岸技師及局長様と協議を致し居る由 右に関し愚見申上たく近日参堂
- 2 昭和五年六月九日 広果湾の塩業試験成績と当所の分を基礎に予想計算書作成 近日結晶池改良の必要を説明申上たし
- 3 昭和八年九月九日 本年は別紙の成績を挙げ申候 永年に亘る配慮の賜と厚く御礼（付）昭和八年七月三十一日現在採塩高表
- 4 大正一二年三月五日 記念品御恵送御礼
- 5 昭和九年九月二七日 塩田工事も降雨の為め予定工程二割形遅延 幹部の確固たる方針樹立を督促 優良塩田にては一町歩当十三万斤余採塩 明後日より阿片引渡の為大連へ出発の予定（付）昭和九年九月廿四日現在採塩量
- 6 年三月三〇日 朝鮮塩業に付き最も安全率多く 築造費非常に安き塩田築造方針を立つる事進言
- 7 七年五月三日 此急場の援助に預り一同安心 今回恩借の八十円は退職金頂戴の節返済の心組

• 一〇四二、谷多喜麿

- 1 大正一五年八月二六日 多田栄吉氏は中川湊と申す鉱業家と無煙炭鉱の事業を共同致す事に談合適當の時機に本人に御申聴御願

• 一〇四三、谷干城

- 1 明治四二年六月二〇日 先般大患に罹りし節御慰問を蒙り雌有奉存候 以後快方に赴候

• 一〇四四、谷直一

- 1 明治三一年一〇月二一日 祖母病氣に付退艦 閣下の残留物の保管は甲板士官に願ひ置候
- 2 明治三一年一二月六日 御荷物は何の故障もなく御領収下されし由喜悅 御懇切なる御諮問感謝

• 一〇四五、谷信久

- 1 明治一八年一月一四日 講義録送附

• 一〇四六、谷口尚真

- 1 明治三九年四月三日 ネーバル・インスティテュートへ送金の件拝承 紙幣本年度分に対する受取券送附 北垣松方二子至極元気 アナポリスに在りて英語の勉強 松方子今夏入校に取定め手続中
- 2 明治三九年一二月二五日 アナポリス海軍兵学校在学の北垣旭同校退校の始末に関しては遺憾 大統領同人再び入校希望ならば推薦すべしとの懇談ありたる由も辞退より他に途なかるべし
- 3 大正一四年七月日 海軍兵学校内に教育参考館を創設に付き海軍に関する資料物品御割愛御寄贈願
- 4 昭和四年一二月二七日 乃木將軍の書翰の写真版伍堂造兵中將の書翰と共に訓示の附録として配布（付）乃木希典書翰大蔵陸軍中將宛 七月五日付 馬飼料と馬匹と相違へ昨年度来過受を致し居る事発見し驚愕 早速返納手続に取掛 小生の如き過誤者は軍人中には無し
- 5 昭和二年三月一五日 先般平壤に於ける朝鮮牛肉に関する件取調方依頼 今般詳細通知下され御礼

• 一〇四七、谷山栄介

- 1 大正五年二月二日 当英国では銃鉄・タングステン材料等も輸出不許可 我注文品は殆んど工事中止 工場見学入業も不許可 一昨夜セベリン六・七隻英国来襲 大正五年九月二七日 去る廿三日新型セベリン十四隻倫敦市内等に来襲 多数の発火弾・爆弾投下

- 一〇四八、谷山国信
 - 1 明治三六年一月一日 年賀状 東雲の件は司法局長の御高見により該事件に就て最早研究の必要無しとの事に相成
 - 2 昭和八年一月八日 大東水電株式会社専務取締役日高丈夫氏御引見 食塩電解工事・塩素毒瓦斯及空中窒素肥料若くは火薬製造の件に付き同人より其企業内容聴取下されたし
- 一〇四九、玉利親賢
 - 1 明治三九年二月一〇日（前半欠）当新市街海軍用地内建築物を使用致したし 清国政府の海軍生徒の教育訓練又清国軍艦修繕等日清双方とも便利にして一挙兩得の策
 - 2 明治四〇年一〇月二二日 ムア一大将今朝訪問旁会見 閣下授爵に対し祝意を表する旨伝達依頼あり
 - 3 明治四一年一二月一一日 愚弟転勤に付き種々御配慮を蒙り御礼
 - 4 明治年一月二五日 東洋昨今の形勢に依り在仏露独の駐在員は帰朝せしめたる哉に承知 在英駐在員も佐藤少佐三沼主計少監のみは帰朝せしめられて然るべし
 - 5 明治年七月五日 機密費配給方早速聴許 千円内外の残金は所持せるも月々を支援すること出来兼候有様 尚二千円の増加配給を得たく懇願
 - 6 明治年八月一四日 英艦隊も引続巡航の後再び当港へ帰港の予定 其節自然会合致すべし
- 一〇五〇、玉利喜造
 - 1 年七月二五日 小生一昨夜当府へ到着 諸君の御厚誼奉謝
- 一〇五一、田村丕顕
 - 1 大正八年一二月二六日 今回御蔭を以て進級仕候処御祝品を御恵与下され厚く御礼
- 一〇五二、多門二郎
 - 1 昭和八年四月六日 軍状奏上並に師団長会議参列の為上京に際し御招宴の御礼
- 一〇五三、俵 孫 一
 - 1 大正六年一二月一日 洋酒御恵与御礼 御書面の趣拝承 取調の上何れ須田市十郎氏に御話致すべし
- 一〇五四、団琢磨
 - 1 大正九年七月二二日 日本製鋼所及北海道製鉄所合併後社長就任につき挨拶
 - 2 大正一五年八月六日 朝鮮警察協会基金へ三井家総代社長三井八郎右衛門名義を以て三万円の寄付
- 一〇五五、丹野武雄
 - 1 明治四三年九月一八日 御間合の保社計画魚雷実施発射に於ては非常なる不結果敷宜頼むとの御買物に対しては九月三日出帆の加茂丸便に依托御送付
- 一〇五六、千坂智次郎
 - 1 大正八年一二月九日 鎮海要港部司令官拝命 昨八日着任
 - 2 昭和五年四月二七日 軍縮問題紛糾 陸軍部も容易ならざる情勢 此際財部大臣の処決必要
 - 3 昭和五年四月二八日 左記要点に於て憂慮 一、枢密院は政府の処置を重大視 一、枢密院は軍部の実情を軍事参議会に問ふの意強固 一、回訓上奏に当り軍令部長上奏と両者に対し側近偏重の処置ありとの世評大
 - 4 年一〇月三〇日 高松宮献上の栗に宮様御満足 小生へも恵贈厚情難有御礼

5年一〇月日 野崎鎮海面長外当地有志玉名閣下に御礼申上たしと申出 御引見下されたし

- 一〇五七、千頭清臣
 - 1年九月日 故佐々木高美氏の遺業たる国史大辞典の議今回漸く完成発行 編者より書籍を御覧に供し候節は熟覧相成たく紹介
- 一〇五八、千葉了
 - 1大正八年一二月一七日 新任不慣の段恐縮 即時改善仕るべく御安慮願上
 - 2大正一〇年三月八日 一、独立記念日たる三月一日は何等不祥事を発生せず 二、孫乗熙重態 三、李太王位牌移奉式については韓国皇帝の格式にて挙行との由
 - 3大正一〇年三月一三日 一、大廟祭の差備員は李王職にて制限したるも李王の激怒に会い再び復活 皇帝の格式は断して不可然 二、閔元植死亡後時事新聞休刊 国民協会は畿湖派と西北派に分裂 三、上海仮政府の派遣員鄭寅瑛等一味逮捕
 - 4大正一〇年三月二八日 一、李桐殿下の上海仮政府員内通の嫌疑は張鴻海が李桐公の取次役を勤めたる事判明 二、尹沢栄が上海へ送金せしやの件につき形跡は発見いたさず 同人行動に対しては極力査察注意中（付1）政務総監電報 総督宛 大正一〇年三月二九日付 李桐公陰謀に関する件は昨年の出来事にして其後関係無き事判明（付2）張斗徹信書訳文 張鴻海宛 李桐公より依頼の事件は実に重要出来得れば此別書面を李剛公に送達を望む
 - 5大正一二五月六日 巨額の金券恵贈恐縮 大正八年来文明政治樹立の大業に参じたるのみ 国境方面巡視の趣拝聞御平安を万禱
- 一〇五九、千葉隆
 - 1昭和七年三月一七日 鮮内米穀売惜待機の姿勢なる為め鮮内各港は内地より割高にて移出頗る不振 森弁治郎社長上京は社長母堂病気との通知にて来月頃には京城に帰らるる予定
- 一〇六〇、千葉胤義
 - 1大正年月一九日 先般は格別の御懇待を蒙り御礼 小口今朝吉氏等感激 惟ふに五十万円百万円の産業補助以上の効果を生むべき瑞兆 帰途鎮海に参り松村司令官に面会 二三工場経営実行着手
- 一〇六一、珍田捨巳
 - 1明治三十九年一月一〇日 昨夜英公使は外相に対し我皇帝陛下に奏上方依頼 同大臣は奏上の上勅答を英公使を経由し英皇陛下に転送方取計申すべし
 - 2明治四一年九月一九日 昨朝新橋出発の際には御見送下され厚意拝謝
 - 3明治二年二月二五日 在芝罘領事の電報に係る「日艦四隻」沈没云々の報は可成速に之を「デナイ」する事肝要
 - 4明治二年二月二七日 昨今来談の件に就ては後刻参上相談の上まで發電方御見合置下されたし
 - 5明治四年四月二五日 成田正雄の面晤御許可下されたし
 - 6大正八年八月二二日 今般朝鮮総督の重任を拝せられたる趣慶賀の至 輓近朝鮮統治に対し欧米の与論は攻撃の態度を取り楚歌四面 此際対鮮施策に一大刷新を加へたる英断は海外在勤者の歓迎する所
 - 7大正九年一〇月一一日 今般帰朝に就き熟篤なる来翰を辱ふし高情感謝の至 久振の帰国にて物質上又は思想上とも甚大の変化ありたる様認められ唯喫驚の外なき様
 - 8大正九年一二月一五日 過刻面晤の際内願申上げし岩崎厚太郎氏は目下海寧郵便局長勤務の由
 - 9大正年一二月一三日 菊池の件は秋月氏の了解を得ること困難により中途行悩 囑託相叶はば新聞社に入るに比し本人の為幸福につき改めて茲に御願 右の場合本人の待遇に就き曾て代議士たりし経歴に鑑み月式百五十拾円を与ふることとしては如何
 - 10大正年一二月一三日 菊池氏に対し相当の御用を命せられる様切望
 - 11大正一一年一月一日 香雪朝記念帖の儀は目下詮索中御猶予下されたし

- 12 昭和二年一二月一七日 賜物有之侯条来十九日赤坂離宮へ参内あるべし
 - 13 昭和二年一二月二八日 過般愛知県行幸の際買上の洋服地を国産品奨励の御思召を以て特に賜り候条伝達
 - 14 昭和二年一二月二八日 鴨五羽兩陛下より下賜
 - 15 年四月二三日 先年ウィルソン内閣の内務卿レイーン氏未亡人今般渡来につき御配慮下されたし同夫人は我邦に対し好態度
 - 16 年一二月一一日 明後十三日当地出発江田島へ参候に付紹介状頂戴仕りたし
 - 17 明治四一年四月四日 (和田彦次郎と連名) 本月七日阪谷男送別会開催の旨過日申進も有栖川若宮昨日薨去につき宴会は先
つ見合はせ重ねて協議致すべし
- 一〇六二、築山清智
 - 1 明治二八年八月二日 山内少技監には過日帰朝にて呉にて兵器製造所工事に着手 煉炭調査委員は煉炭の試験製造に取掛る筈
 - 2 明治年五月三日 本年五月より大坂商船会社の汽船馬山浦より日本へ定期寄港と相成 韓国南部に砲艦若くは水雷艇を置れた
く能勢・坂田兩領事切望 在馬山浦露人商店今日保存に苦しみ困究
- 一〇六三、辻新次
 - 1 明治三七年八月五日 十四日出席の方は山口少佐御指名の趣御来示拝承
 - 2 明治三八年一〇月三〇日 明三十一日帝国教育会等に於て海軍凱旋祝賀会を開催 御出席下されたし
- 一〇六四、辻永
 - 1 昭和二年九月二七日 謹て御祝辞申述
- 一〇六五、津田三郎
 - 1 明治三一年二月二八日 御出艦の節小生乗艦願上の段平に御海容下されたし
 - 2 明治三二年二月一八日 過日貴命に抛り当所の有様報道せしも定めし御驚愕の事と遙察 過日佐世保へ出掛け諸先輩に出会 小
田大佐熱心に外国行を希望にて独国への回航委員長には適任
 - 3 明治三四年月日 清国事件も遂に大事 列国会議を東京に開設し共同動作の主動・対清策の協定をなすべし 我準備遅延せば魯
国の北清侵略企つるなきを保せず 彼是する内に北京陥落続て列国交渉の期も来るべく即ち衝突の機逼迫
 - 4 明治三四年二月六日 昨日軍令次長より電報 若し今より英国の外他国のABCを学ぶ如きは甚だ迂遠 本職の希望は本艦より数
名の回艦員を撰抜せられたし
- 一〇六六、津田弘道
 - 1 年一〇月八日 二三年前或る請負業者に津田工務所の名称を貸与し是か為め多大の負債を生じ貴族院議員再選辞去 其後種々
なる事業も失敗し一家分離 目下朴春琴宅にて世話を受け居る次第 援助願
- 一〇六七、土屋喜義
 - 1 昭和七年九月二七日 (古川邦太郎と連名) 当所在職中の紀念とし永遠の家宝と致したく御染筆の榮を得たし
- 一〇六八、都筑馨六
 - 1 明治年月二三日 島根県人桑原洋次郎今時購入の艦船出雲・八雲共に同県に因縁深きに付き兩艦に寄付の志ありとの由にて
閣下に御紹介 願意御聴許相成たし
 - 2 年一二月三日 朝鮮銘産の紅蔘雌有拝受御礼
- 一〇六九、堤章
 - 1 昭和八年五月日 声明書「国賊尾崎行雄を葬るは今日の急務なり 彼は大日本帝国臣民に非ず」 (付) 大日本建国義勇団ポス

ター「国賊尾崎行雄を葬れ」

- 一〇七〇、網島佳吉
 - 1 大正一二年一二月二三日 今回の震災に対する米国民の同情に対し感謝致し且つ日米親善の運動を成したく来月廿一日渡米の積りそこで米国滞在運動費用の一部御援助願申たし
- 一〇七一、恒松隆慶
 - 1 明治四二年六月二〇日 揮毫御礼
 - 2 年六月一五日 揮毫願上直ちに御許容下され欣栄 二世の充次の分は原君の撰文にて御送附供覧（付1）宗家恒松氏二世充次翁略伝（明治三十九年夏日 原敬撰）（付2）恒松隆慶書翰 明治四一年八月一五日付 原稿依頼 恒松充忠略伝
- 一〇七二、角田敬三郎
 - 1 大正九年七月二六日 御丁寧の段厚御挨拶申進べき旨被命 右御答迄
- 一〇七三、角田秀松
 - 1 明治二七年一二月一〇日 仁礼子よりの荷物云々申越の趣了承 大なるものは御免下されたし
 - 2 明治三五年七月三〇日 八月二日品川発帰艦 日高司令長官の着任を待ち引継をつくし帰京報告 然る後転地療養の為め旅行の見込
 - 3 明治三八年一月二八日 当地将校集会所復旧工事竣成当地下士官集会所設備上尤も不完全 同所移転新築費の事に付き至急詮議下さる様御尽力相願たし
 - 4 明治三八年三月二七日 当地久須保水道堀増工事の義に付き石黒工務監の実見を得たく希望 同官当地派遣の義御高配を蒙りたし
 - 5 明治年八月二九日 久須保堀割工事の件前後の事情概略申進当部の意向は右改良工事を歓迎せざるやとの推察あるや愚考せるも其点御掛念なき事にて杞憂に過ぎず
- 一〇七四、坪山常美
 - 1 昭和七年五月二三日 小生を鉄道秘書官に御採用賜りたく懇願
- 一〇七五、鶴見祐輔
 - 1 昭和八年一〇月七日 御引見御饗応御高情拝謝 後藤伯伝記材料の件につきては北海道より帰京の上貴意を得たし
 - 2 昭和一〇年一月一日 後藤新平伯正伝は不日同編纂会より出版
- 一〇七六、出淵勝次
 - 1 大正一五年一二月二二日 閣下名刺持参せし佐藤吉郎氏に対し紹介状与へ置候処今回大橋領事より別紙の通申越 不良行為ありたる趣にて貴間に達置候（付）大橋忠一「佐藤吉郎に関する件」 出淵勝次宛 大正一五年一一月二四日付 本人当地に於て多額の金銭を詐取し其際本官紹介状を利用したる事実あり
 - 2 昭和五年四月一日 小生は今回の協定を以て寧ろ予期以上の成功と認むるものの一人 鷹揚なる態度を以て内外の信望を繋かれんこと切望
 - 3 年一月九日 ウエルシュ叙勲の件は詮議の結果本日勲三等旭日章下賜方総理大臣に申立
- 一〇七七、寺内正毅
 - 1 明治三三年八月二日 連合軍去る八日より北京に向け進軍開始の旨来電あり
 - 2 明治四三年九月一日 稲葉式部官に御礼の芳書落手 併合条約も御稜威に依り大過なく結了 島村中將も昨今台湾付近に遊弋中

- 3 明治年九月二日 後藤男書翰供員覽 昨日閣議に於る意見承知 御一考相叶はば至上（付）後藤新平書翰 寺内正毅宛 八月三日付 都督府より帝国軍艦にて徐総督一行を営口に送り示威と好意を示し置たしとの議あり 此議好方案方斎藤海相へ閣下より御一声願上
- 4 明治年月日 松本大佐も私交上篤と事情承知 此方にも調査を要す事情もあり
- 5 年一〇月三十一日 殿下進級の件は大磯にて交渉 尚佐官の値位に居られても軍事的進歩の見込もなし 寧ろ昇進の事に奏上方然るべし
- 6 年一一月二四日 海軍将校異動の際山県少将転任の義承知
- 7 年一月九日（山本権兵衛宛）台湾守備軍司令官の件は陸軍中将黒瀬義門を補任致したき旨内奏

● 一〇七八、寺垣猪三

- 1 明治二二年三月二一日 当地方は此頃雨期にて困却 先日清国の海軍少将薩澳水他を本艦へ招待し清国海軍拡張の意見を聴取
- 2 明治二五年九月五日 軍艦吉野回航委員の中に加へられたく御周旋依頼
- 3 明治二七年一〇月一一日 水雷敷設部員は従軍の取扱にて然るべし
- 4 明治二八年九月一七日 先日舟越男爵外貴族院議員来横の時下士卒集会所に三十円寄附あり
- 5 明治三三年一二月一七日 本艦十九日佐世保出航芝罘直行と取極当港にてコンデンサー及汽罐を取替 同時にチューブの取替及総検査が必要
- 6 明治三四年一月一日 去る廿八日山海関着到 英独分担の棧橋工事は来年二三月に及ぶ見込 山海関と太沽又は天津間の通信機関の不完全には意外千万
- 7 明治三四年四月二日 去月廿二日芝罘へ着到 浪花・愛宕在泊 愛宕入河せしも役務は殆ど無用 愛宕を替ゆるに駆逐艦を以てせは十分効能あり 陸軍に於て分取米を売却し機密費等に充当の由
- 8 明治三四年四月一四日 当分太沽碇泊に変更 北京の外国武官等に日露開戦の風説あり 駆逐艦か水雷艇の派遣の儀は尤も必要
- 9 明治三四年六月一五日 北清地方は各国軍艦も追々交代又は艦数減の様 本艦解任の義御取計下されたし
- 10 明治三四年七月二〇日 小村公使千歳にて帰朝願 舟木富士艦長落第とは気の毒の至 休職とかの方国家の利益と愚考（後半欠）
- 11 明治三五年二月九日 松尾大尉水雷長兼務は不適任の極
- 12 明治三五年八月二日 台北にて成川君と面会 鼓浪島地所買入の件総督峻拒の由 石炭庫の目的ならば此の地所にて然るべし
- 13 明治三六年四月四日 九日に本艦佐世保へ入港 大演習も第一期中は天気悪敷第二期中は好天気 本艦を韓国へ派遣せしめられたく希望 本艦は予備艦に編入 兎角転職毎に予備艦と相成り遺憾千万
- 14 明治三六年一〇月一四日 我兵員教育の事に付て大に熱中補充交代期を年一回に改め志願兵を基とし艦内教育は年三期に分ちて然るべし 今一兩年艦隊に在て自分の研究と訓練を致したく希望
- 15 明治三七年五月二二日 食卓手当の件は初瀬主計長より上申し其認否を本艦主計長へ移牒と相成 本艦分隊長今に全快致さず此際八島の分隊長を本艦へ転補せしめられたし
- 16 明治三七年六月一五日 本艦分隊長今に入院中に付き代りの分隊長補職速に相違ばる様懇願
- 17 明治三七年七月一九日 今回の士官以上の昇級を見るに其割合は甚だ少なく解する能さる処 艦船部隊共定員通り進級せしめ差支なかるべし
- 18 明治三七年一一月四日 旅順容易に陥落は六ヶ敷 本艦は戦門航海には差支なきも何れ修理必要 バルチック艦隊を威嚇する為め駆逐艦及巡洋艦を馬公要港以南に出没せしめては如何（付）尊文書翰 斎藤中將宛 明治三七年一一月四日付 バルチック艦隊の暴挙は公法違反 浮田氏の奇論我軍人社会には気に入らざる様子 旅順陥落何時の事やら分らず
- 19 明治三七年一一月二一日 バルチック艦隊は東航を継続 炭水供給を行ひし第三国は露国の戦門準備を援助 断然英国は我帝

国を援助する義務ありと確信

- 20 明治三十八年一月二〇日 本艦副長吉見中佐の進級見送り遺憾 至急進級方御尽力下されたし
- 21 明治三十八年三月二六日 我満州軍の今度の捷は誠に愉快敵の第二艦隊も孰れに向ひしや速に決戦致したし別紙は此頃一寸気附に付き申上（付）「敬礼式に関し気附」
- 22 明治三十八年九月三日 扶桑艦長と協議の上例の官吏二名が乗艇せば扶桑は品海にて小蒸汽を下し台場内・水交社に至る事に取極 水交社より迎ひの者を差遣し相成たし
- 23 明治八年一〇月一日 宮岡より津軽海峡防禦司令部にて地方官民在留外国人招待の経費支出方周旋依頼あり 貴下の御尽力願上
- 24 明治三十八年一〇月三〇日 本戦役に尽力の東京横浜並に当地の者招待致したく予算御補助下さらば幸甚
- 25 明治三十八年十一月五日 岩崎進級見送り及び大井上大佐病氣引入願出の件に付て差支なき限りは御洩し下されたし
- 26 明治三十九年九月三〇日 艦隊若は旅順・大連へ転職致したく希望
- 27 明治三十九年十一月二日 艦隊栄転又は参謀に横鎮参謀兼副官の宇佐川大尉を希望
- 28 明治四〇年二月七日 田中特使韓国滞在中は小生も相伴に預り光栄の至 紀元節には釜山・馬山・木浦、仁川在泊の各艦にて奉祝せしむる予定 其接待費の配布に預り深謝
- 29 明治四〇年三月八日 伊藤統監渡韓の爲め第二艦隊の内を以て乗艦致したしとの申込ありしも四季演習施行の予定に付き不悪御了承下されたし 本隊の機密費長官より御渡の時と同額ならん事を希望
- 30 明治四〇年八月七日 京城暴動も昨今地方と共に平穩と相成 今度の事件に外国軍隊一隻も当地に来らず又日仏日露の協約成立せるに付き特に第二艦隊を北清韓国警備として置く必要なしと愚考
- 31 明治四一年三月二五日 明年度以降の海軍予算にて軍艦新造費並修理費増額は出来さるや
- 32 明治四一年五月八日 松嶋変災の原因は未だ不承なるも何れ三笠と同様ならんかと推察 予防法に付き各艦に於ても十分講究致すべし
- 33 明治四一年十一月一七日 清国兩陛下崩御政變の掛念あり 警備任地出發の予定は清国異変以前の腹案通りにて宜敷哉如何 新高の代艦希望 対馬の行動費に付ても増額相成たき旨上申愚考 南清艦隊参謀として二人を附属せしめ英語に熟達し伶俐の者を撰定下されたし
- 34 明治四二年七月二日 今般訓令に基き明三日音羽明石を卒ひ香港に出航 端方總督今度の転任には失望 名和少将伝言の砲艦艦装意見の儀は各艦長へ下問 本隊参謀舟越大尉は海軍大学校乙種を志願につき伊集院参謀（俊）交代舟越大尉と同時に相成ては聊か閉口
- 35 明治四二年一〇月一三日 上海着以来袁世凱の免職等あるも上海南京共に至極平穩 南京にて總督端方を訪問 南清艦隊長江以南の沿海巡航警備に付て日程報知 南清艦隊来年度の接待費・機密費増額下されたし 清国兩陛下崩御に当り天皇の御喪と政府より警告の件に付端總督態々挨拶
- 36 明治四二年一〇月二五日 上海在泊中に北京・天津へ旅行致したく本日上申 皇帝への献上品購入の可否に付き愚妻に指図下されたし
- 37 明治四二年一二月一〇日 今般小生進級偏に閣下の御心配を煩候次第と深謝
- 38 明治四三年三月二七日 巡航中台湾南部西岸各地に寄泊し生蕃及び土人に乗艦許可 馬公に施設増設希望
- 39 明治四三年八月 一日 特命検閲に引続き艦砲射撃の爲め馬公滞泊 南清各地方平穩 進級会議に召集のときは着京後十日間は皇室に遠慮致すべき哉 第三艦隊司令官の旗艦として三等巡洋艦艦装必要
- 40 明治四四年二月二日 失火にて対馬竹敷工場的能力皆無と相成誠に遺憾 汽鐘式個共火中となり役に立や否覚束なし
- 41 明治四四年八月一四日 水雷艇第三十一号乗員醜業婦密航事件に対しては汗顔の至 如此事件の根絶の爲め将校には職責感

念の自確・下士卒には地方人民からの疎隔・外には悪風誘致機関の取締などの手段を採る方針

- 42 明治四四年九月二日 水雷艇三十一号の件に附ては該隊司令・艦長等の処分済 小生進退伺に付て御内報深謝 一日も速に命令希望
- 43 明治四五年七月三〇日 天皇陛下崩御恐懼此事 御大葬に当り小官にして御役の一端を辱ふ致したく願上
- 44 明治年一月九日 両院議員八日呉着 造船廠・造兵廠・海兵団・兵学校など観覧
- 45 明治年四月一七日 今日浅野に面談 毫も疎通致さざるに付き席を払ふて立帰り申候
- 46 明治年四月二四日 北京にて両陛下に拝謁し天津にて袁世凱に面会 天津は袁総督赴任以来発展し日本人顧問も篤く信任 海底線布設は商業保護の点よりも必要
- 47 明治年七月六日 先般呈出の服制中改正の件（副官飾緒等） 上奏相成候処御上にも貴官帰京御待の由 機関術練習所条例改正の件に付き発布暫時見合を内閣書記官依頼 貴官帰京迄は御裁可相成間敷
- 48 明治年一〇月三〇日 同窓会開催通知
- 49 明治年一二月二三日 御品御恵与又御面倒の儀願上候処態々御送附下され御礼
- 50 大正元年一二月一〇日 高桑茂の壹百円を坂本へ届候処即日茂より借入金証返戻に付き昨日室蘭へ発送
- 51 大正四年一月一八日 議員の件に付き八代大臣は小生海軍側にて四番目と申間殆ど望みなき様なれど何とかして特別に此際御心配を煩したし
- 52 大正六年五月一九日 豊川氏創立準備委員快諾 加藤正義も承諾 早川千吉郎 郵船の林総務に対し閣下より快諾方御教示を仰ぎたし
- 53 大正六年六月七日 海軍協会の件全力傾注 国民上下思想統一の爲め大学校に古典講座を新設し又青年団の爲にも尽力致したし 貴族院議員の件御尽力下されたし
- 54 大正八年九月二五日 奥沢福太郎より朝鮮にて私設輕便鉄道布設経営を目論見総督府へ願書提出し不許可の内命ありしも後願者たる平北鉄道起業者に許可さるる模様にて深憂に堪へずとの談あり 何卒御裁断与へられたし
- 55 大正八年一二月九日 高橋静柳氏死去には驚入 蔵男を相続者として今手続中 乃木講只今大分発展
- 56 大正八年一二月九日 敬三仲子結婚の節御祝儀御礼 敬三第一潜水隊の艦長と相成 三男捷三も近衛歩兵第三連隊第三大隊第九中隊へ入隊
- 57 大正九年五月三〇日 清子再婚の件に付き荒川規志より千田武彦氏へ差上如何との相談あり 実に決心致兼候に付き御意見聞せ下されたし
- 58 大正九年七月一二日（出羽重遠と連名） 寺垣・出羽両家の協議に依り清は寺垣家に入籍 長女初子及三女広子は寺垣家の養子となり出羽家より扶養料の提供を協定
- 59 大正九年七月一五日 今般出羽家の希望にて清子を寺垣へ復籍方申出に依り長女初子三女広子を連れ入籍
- 60 大正一〇年九月一日 今度川面凡児氏南滿洲有志者の招請に依り大連へ直行 帰途朝鮮各地を訪問予定 便宜与へられたく願上
- 61 大正一一年三月四日 去る二日田村家と結納取交結構の御品と御祝恐縮去る一日には田村大佐拙宅来訪懇談
- 62 大正一一年三月七日 去る二日結納取交 明八日には自動車台拝借仕りたく願上
- 63 大正一三年五月二〇日 国境に於て閣下御一行に対し何者か狙撃の由 御無事を奉祈
- 64 大正一三年六月日 揮毫依頼
- 65 大正一五年一二月一三日 先般上京の節供覧の天照大神宮朝鮮各種学校に備附のこと総督府にて詮議御願致したし
- 66 大正一五年一二月二〇日 鶴肉并漬物拝受御礼
- 67 昭和四年九月二日 御陰にて志願相叶候時は総督府御用掛をも勤め候位置にある由なれば本人も名誉 其節は指導鞭立つ

撻願上

- 68 昭和二年九月二七日 目出度御帰朝慶賀 世界平和の為に御努力の程感佩 荊妻療養も遂に其効なく死去
- 69 昭和二年一〇月二五日 亡妻五十日祭に当り御菓子御供下され謹謝
- 70 昭和四年一二月二日 孝三鎮海参謀として総督府御用掛拜命 御指導御教示下されたし
- 71 昭和五年一〇月一〇日 宮岡君の病状重態となりし頃は気仙沼の大嶋に避暑中にて最後の見舞も手伝も出来ず実に残念別紙 宮岡氏よりの礼状回覧（付）宮岡公夫書翰 同窓会宛 昭和五年一〇月一日付 弔慰に対する謝辞
- 72 昭和八年一一月一八日 初子結婚に付き御祝品難有拜受
- 73 昭和一〇年一二月二九日 御栄任に御就職御目出度御座候 猪肉御恵贈御礼
- 74 二年一一月二四日 高桑茂申越の百三十五円の件に付き然るべく御取計下されたし
- 75 昭和四年四月三〇日 破談の件に付て今更彼是意見なし 結納目録返却の上親類に破談通知にて然るべし
- 76 昭和四年五月一八日 結納物品態々御届下さり恐縮 貴書中同封の他書御送附
- 77 七年一〇月三〇日 茸御恵贈御礼
- 78 年一月一五日 一ノ宮別邸の件に付き御配慮を煩し御礼
- 79 年五月二日 小生今一兩年は此尙常備艦隊に置かれ候様御尽力下されたし
- 80 年五月八日 愚息捷三・伊藤悌治末女喜久恵の縁談に付き媒酌方御承諾謹謝 捷三を本社又は目黒工場勤務に相成候様御配慮を煩したく奉願
- 81 年五月一八日 田中一正氏の為め不一方御尽力に不拘通知の結果は全く田中氏の不肖にて誠に申訳なき次第82 年六月二五日 風説には長沙暴動の背後に革命党の教唆 来る秋に暴徒蜂起との由なるも騒動あるとは認められず 馬公にて射撃等教育に従事希望 警備艦を増加し広東・福建方面に配置必要
- 83 年六月二七日 久世君の件仰通りに捺印御返戻
- 84 年七月五日 親類の宮北亀太郎朝鮮の古筆手鑑帖持参 閣下の御一覽にも供したく御面会を御許し下されたし
- 85 年七月二九日 私は不相替元氣にて此頃一泊にて胆沢川上流へ鮎かけに出掛 八月三日より気仙沼大嶋へ避暑
- 86 年八月一九日 御申附の水源池に付き技師は試堀を致されは確答致兼ねるとの事にて予算を出す様申付 陸軍用地使用の儀及辻愛村海岸地買上の儀可成速に決定下されたし
- 87 年八月二七日 下士卒共励会への下附物品に付き特別の法規を設ける様御詮議下されたし
- 88 年九月三〇日 外務大臣・伊集院公使に友人として懇談 明朝官舎へ罷出意見申述べたし
- 89 年一一月一一日 御栄進祝詞
- 90 年一二月八日 かに贈呈
- 91 年一二月二七日 服地等の代価は如何程に相成候哉 不足なれば仰下されたし
- 92 年一二月二九日 同号会の儀に付き御意見の趣至極賛成 貴見に於て然るべく御取計下されたし

- 一〇七九、寺垣孝三
 - 1 明治四五年七月一〇日 不意に大なる振動三度坐礁 武蔵各艦来援の為め艦命保持 意外なる椿事
 - 2 六年五月二九日 京城に於ける海軍記念日には講演三ヶ所受持夜は海軍省より借用の映画や大原利武氏の講演も交へ海軍の夕開催盛会裡に終了

- 一〇八〇、寺垣捷三
 - 1 大正八年八月一二日 今般朝鮮総督の栄職拜命の趣祝詞

- 一〇八一、出羽重遠

- 1 大正一二年一月二九日 歴史画家池田寒山朝鮮出張に付き閣下へ御面会の上朝鮮方面の知人一兩名御紹介依頼 御面会下されたし
- 2 明治一八年七月二九日 (餅原平二・伊東祐亨と連名) 本地製造の浪速号は一昨日より入渠スクール取附 総落成は十一月中の見込
- 3 明治二四年四月二二日 伊東少将より露西亜軍艦三艘長崎着皇太子は乗らずとの電報到達 本日長崎表に投錨 野元大尉と祝砲のことに付き協議
- 4 明治二四年五月一日 魯国皇太子去る廿七日に到着 皇太子は威仁親王と対面後上陸市中巡覧 其内礼砲条例の不完全なるには閉口
- 5 明治二四年五月一四日 大国は大国丈けあり人心平穩 我が国の人にあらしめなば人心騒擾なるべし 聞く処によれば東京魯国公使館に悪意の投書ありと歎敷次第 (付) 出羽重遠書翰 斎藤実宛 五月一四日付 皇太子殿下の遭難今日迄の大体一通り記載 御聴問を煩したし 返す返すも歴史上に一の汚点を残こし残念
- 6 明治二七年一月二三日 廿三日に至り水雷発射開始 水雷への空気装充より発射用意迄一時間位にて不熟練の致す所と断定 石炭も追々欠耗に付き一先帰京
- 7 明治二八年九月三〇日 如何斗り歎揚陸上困難と推察 小生帰京後西京丸ノ義に付き所轄変更等伊十院氏に協議 露国軍艦サラトフ号長崎到着も税関吏の乗船拒絶等挙動不審
- 8 明治三〇年一〇月二〇日 (春子宛) 軍艦富士来る三十一日横須賀着
- 9 明治三二年一月一日 年賀状 次官昇任への祝詞
- 10 明治三三年 七月二五日 目下艦隊の任務も是ぞという著しき事なく軍艦増発は不必要 将官の滞在必要なしと認むも列国と均衡上東郷長官の帰朝は一考を要す 常磐笠置吉野追々入渠必要 長官帰朝後は常磐を司令官旗艦に指定されることを望む
- 11 明治三三年七月二八日 常磐は吉野と交代せしめられたし 笠置も入渠期日迫り居り高砂を残さしめたる方至当
- 12 明治三三年八月三日 臨検の為に派出の分遣艦隊指揮官の件今更悔ゆとも詮なし 東郷長官明日出港 一昨日大北電信会社の電線敷設船到着 天津より楊村迄の進軍は英米は我軍と同行の準備整へたるもの 露は曖昧
- 13 明治三三年八月一六日 当方面にて明日頃は北京陥落の報あらんと列国も報を待ちつつあり 速報は芝罘より打電 森中佐より北京情勢についての電報再報 福井中佐の交代には明石副長・吉見少佐を本朝派遣
- 14 明治三三年八月二一日 清の皇室北京陥落前に西安府へ逃走 不日講和開始あるやも計られず 戦死負傷者等に十分追賞し得る御計算希望
- 15 明治三三年一二月二一日 松島・吉野・浪速三艦への派遣命令及び浅間・高砂・千代田・鳥海への帰朝命令敬承 大北電信会社太活・北京間に陸上電信架設着手 氷結中通信船に付き参謀本部と協議然るべし 列国との会議仏語に精通するもの必要 (付1) 電信線の略図 (付2) 出羽重遠書翰 斎藤実宛一二月二二日付 氷結中は三艦にて交代の方休養とも相成べし
- 16 明治三四年一二月一一日 北清事件に関する第五師団の軍事改良意見なるものは甚だ不当卑劣 就ては小栗案を多少修正海軍省の意見として参謀本部へ差出方得策
- 17 明治三五年六月一八日 米軍軍艦内に於ける事件に関し本長官より往復書類を添へ報告
- 18 明治三六年一二月二七日 昇任祝詞
- 19 明治三八年一二月一一日 軍務局員山口少佐時局解決後は英国駐在仰付けらる様希望
- 20 明治三九年一月七日 海軍大臣就任の祝詞
- 21 明治四一年七月二日 赴任以来射撃水雷発射は殊の外多忙 伊藤統監上京に付き吾妻を差向くべく予定
- 22 明治四二年一〇月二七日 公爵伊藤閣下遭難の凶報に接し哀悼
- 23 明治四五年七月一一日 今日武臣の榮譽を辱ふしたるは感佩に堪へず感謝

24 明治 年一月三十一日 浪速艦は彼是工事の都合にて大延引 過日大砲試発の際艦尾艦梁に少しく損害を生し又々修覆本地出發
は来月下旬歟三月初旬なるべし

- 25 明治年三月一日 当艦隊昨朝帰投 早速有馬司令官を病院に見舞ふも殆んと平常の様子
- 26 明治年七月四日 文明国の常道として交戦国の負傷者をも交戦国の一方に於いて救護することは承知
- 27 明治年八月一六日 (斎藤・竹の内宛) 安全な航海を遂げられ帰朝を待つ
- 28 大正一〇年一二月一五日 故有栖川元帥銅像除幕式通知 (付) 式次第
- 29 大正一一年五月九日 横田茂よりボセット渾春鉄道布設の件につき御厚配頂き居る由 横田の従弟中島敏成も該鉄道の権利
丈なりとも日本人の手に握りたしと懇望閣下の一層の御厚配依頼
- 30 年二月二八日 今回賢台の世話にて田村子爵方へ清子縁談纏まり此上なき良縁と慶賀
- 31 年六月七日 東北旧藩罷爵一件に付き内々に相談申上げたく御都合通知願
- 32 年六月一日 例の件に付き早速御手下され奉謝 本日山川氏に面会懇談
- 33 年七月二二日 江田島兵学校生徒卒業式臨場仰付られ明朝尾ノへ出發 東京より第一局長と同行 御申越の件予算に組入御安
意下されたし
- 34 年七月二七日 旗普第八二五号の通りに改正すれば海軍兵員部署程式に記載ある事項に相違 諸艦長並に副長等列席の上
にて一定の方法を決議しては如何
- 35 年八月二三日 本年卒業の兵学校生徒卒業の上は松島形三艦に分乗練習従事 乗艦前に多少の設備修理も必要目下其程度に
つき三艦長に内々調査申付
- 36 年九月二〇日 配置一定の義は何れ会議にて一定致すべし
- 37 年一〇月五日 前任旒掲揚は碇泊中のみなりとて司令長官旗を掲揚せられさるときは表面上不都合
- 38 年一〇月一五日 第一艦長長崎港発港の際カッター一壱隻川に顛覆七名の溺死者行方不明壱名を出すの大失体遭難顛末に関
する報告提出方取急き御届仕るべし
- 39 年一一月二八日 先頃の会費御申越に付き仕払方然るべく取計願上 御申越の該石炭は目下陸揚試験中にて付ては部員今井
少佐出省の上十分御聞取下されたし
- 40 年一二月七日 御来示の趣敬承 小生十二日頃着京の予定

● 一〇八二、田健治郎

- 1 明治三八年三月一三日 逋信省勅任参事官湯川寛吉今回退官の上大阪住友家支配人と相成 御引見下されたし
- 2 明治四〇年四月八日 来る十一日築地香雪軒へ寵招を辱ふし感謝 当日参趨可仕
- 3 明治年五月一七日 遼東沿岸掃海事業に関し宮古艦撃沈は歎惜 掃海作業に鱧網使用を献策
- 4 大正八年八月三十一日 朝鮮総督赴任の祝詞
- 5 大正八年九月三日 朝鮮総督就任の祝詞 不逞鮮人の暴挙に対する見舞
- 6 大正一一年一〇月三日 朝鮮総督府逋信局長竹内友次郎を台湾警務局長に採用致したく御承諾の程切望
- 7 昭和三年九月二八日 御帰朝祝賀
- 8 年五月二六日 田中崇一御引見願上
- 9 年一一月八日 写真一葉贈呈

● 一〇八三、伝田芳吉

- 1 年二月二四日 (斎藤男爵家執事宛) 閣下には朝鮮内地工場御視察の際機関破裂あり御負傷の趣驚愕 御見舞

● 一〇八四、東宮職

- 1 明治三十一年一月二四日 賜物有之 明廿五日午後一時当御所へ参殿あるべし
- 2 大正五年一月二七日 来二十九日午餐の場合霞閣離宮に於ける席割其他別紙の通（付1）霞ヶ閣離宮内部図解（付2）午餐時の席割図
- 一〇八五、道家濟
 - 1 明治四四年六月二〇日 今日の四国海獣会議予想より一層困難なるも何とか落着致すべしと愚考
- 一〇八六、東郷平八郎
 - 1 明治二九年五月一五日 別紙差廻 御領収下されたし
 - 2 明治三二年一月九日 当府第一船渠改築工事の義につき過日村上経理局長来府去五日村上局長・石黒工務監・当府参謀長 経理部長其他各掛員にて会議の未概定年度即ち三十三年度中に峻成決定
 - 3 明治三四年七月二〇日 来る二十二日午後六時紅葉館に於て粗酒差上たし 御来臨の栄を得たし
 - 4 明治三四年九月三日 隣邦巡航中大久保駆逐隊司令脳痛の為め目下転地療養中 此際巡洋艦の艦長にても転せしめられたるならば本人も満足し加療の道もあるべし
 - 5 明治三四年一月二二日 二十一日紅葉館にて高雄安平占領の紀年会御催の旨態々御通知拝謝
- 一〇八七、東郷正路
 - 1 年一月一日 有栖川裁仁王御教育掛諸友へ宮家より賞与の義は甲乙丙の三種に区分し御手許迄差出 物品の撰定等頗る繁雑につき金円下賜にても差支なし
- 一〇八八、頭山満
 - 1 大正二年二月二六日 日本は有史以来の大国難に直面 内外国雄の打開に当るは刻下の急務左記の如く 聖餐会開催につき御来臨の栄を得たし
 - 2 大正一五年五月一五日 金玉均祭祀井に遺族救済に付き葛生能久氏参上 御引接の上然るべく御高慮御願申上たし
 - 3 昭和四年二月二〇日 不戦条約文問題は国体上由々敷問題 該問題に関し善処の措置を講ずる様御取計らひ相仰ぎたし
 - 4 昭和四年九月三〇日 此度普天教の件に付き小幡虎太郎氏拝訪の節は事情聴取の上宜敷御高慮相仰ぎたし
 - 5 昭和七年五月二五日 市来乙彦氏の件に付き早速御協議を得奉謝 蔵相には高橋氏留任の由伝聞も恐らくは暫定にて閣下の御裁量に信頼 丸山鶴吉氏犠牲的の行動にて出てられ居る由にて閣下の留意然るべし
 - 6 昭和七年六月一二日 来る廿一日戌辰倶楽部に一席相設け候に付き御案内
- 一〇八九、土岐裕
 - 1 年四月三日 勅諭の件に付電報「軍艦和泉の勅諭は既に横須賀鎮守府に付し竜田に棉し本艦に送る事になり居れり 然るに竜田再修復の為め右送り方少し遅延するならん」
- 一〇九〇、徳川平之亮
 - 1 昭和六年二月一二日 渡部俊現御地京城府へ分院設置 内鮮融和民衆教化に微力を尽したく着々事業進行右俊現并に分院惣代御引見の上事情御聴取下されたし
- 一〇九一、徳川家達
 - 1 明治三四年二月一四日 北清事件にて彼の地へ出駐の将校外交官等に対し慰勞の為め来る十八日華族一同より招待 此段御案内
 - 2 明治四二年六月六日（春子宛）別紙の通り香川皇后宮大夫より通報御通知（付）香川敬三書翰徳川家達宛明治四二年六月

五日付 来る七日開会の慈恵会総会へ皇后・皇太子・同妃行啓

- 3 大正八年八月一四日 今般閣下朝鮮総督拜命慶賀の至
 - 4 大正八年九月八日 御地御着の際御遭難驚入 何等御障もなく慶賀の至
 - 5 大正八年一〇月二三日 過日は御地へ罷越厚遇を蒙り難有 昨二十二日奉天出發 二十三日当地へ到着
 - 6 大正一二年九月一九日 (粕屋義三・渋沢栄一・山科礼蔵と連名) 小生等同志大震災善後会を組織 格別の御援助下されたし
(付1) 大震災善後会趣意書・規約 (付2) 寄附申込書
 - 7 大正一五年一月四日 年賀状
 - 8 昭和四年一二月一三日 今回帝室博物館復興翼賛会理事黑板勝美氏貴庁の御用務にて近く渡鮮の趣 就ては主事重松清行氏を同行せしめ本会事業基金醸出に関し関係各位と協議致したく便宜御取計相願たし
 - 9 昭和七年一二月一二日 此度日本赤十字社理事法学博士桑田熊蔵死去 勲二等・旭日重光章を賜候様御高配懇願10 昭和八年八月一六日 態々横浜迄御見送難有 明後日午後ホノルル着の予定 日本赤十字社明秋国際大会開催に付き国庫補助の件并に済生会に関する件多大なる御高配切に懇願
 - 11 昭和九年四月九日 此品英国より持帰候に付き御笑納下さらば大幸の至
 - 12 昭和一一年一月三〇日 海防義会副総裁就任の件御引受のことに決心
 - 13 昭和年一一月二日 近日貴族院勅選議員補充奏請の様子につき前紙記入の人何とか御配慮相叶間敷哉 此際更に懇願
- 一〇九二、徳川達孝
 - 1 大正年一二月一五日 賜物有之 来る十八日参内あるべし
- 一〇九三、徳大寺実則
 - 1 明治三二年八月四日 海軍拡張費用の総額并第一期より第二期第三期と順次其金額承知致したく御取調至急御差出ありたし
 - 2 明治三五年三月二六日 (山本権兵衛宛) 小松宮歐行随行員として海軍より侍従武官井上大佐が閣下意見の趣 此頃侍従武官出張多く渡辺は大山参謀総長出張先へ出向にて松村は近日韓国へ派出 他の海軍大佐を撰抜の旨御沙汰あり
 - 3 明治三六年三月六日 御用の義に付き面談致したく明十七日午前十時参職ありたし
 - 4 明治三六年三月二六日 (山本権兵衛宛) 本日独国巡洋艦隊司令官伯爵パウヂッシン拜謁仰付 過日閣下言上の独帝より伝言は陛下へ言上振と同一のものに候哉御尋に付き貴報願人 (付) 斎藤実覚書カ 陛下へ言上次第は独国艦隊司令官に面会せし処 独帝より予て同人へ日本に到着の上は速かに陛下に拜謁を願ひ且つ海軍大臣にも面会し日本海軍の隆盛を頌賛敬慕す云々と仰せありしとの旨申出に付き其趣を言上
 - 5 明治三九年七月五日 明六日大学校卒業証書授与式 関係員礼装判明致兼候につき御答下されたし
 - 6 明治四〇年六月二四日 来廿六日参内あるべし
 - 7 明治四〇年九月一八日 昨日内議の件に付き供奉員は東郷大将へ被仰付方弁理宜敷 左様御取計相成たし
 - 8 明治四一年一月一七日 木戸東宮侍従長辞表差出 後任に一条海軍中佐内定 一条海軍中佐此際大佐進級相叶候哉
 - 9 明治四二年六月二三日 賜物有之 来る廿五日参内あるべし
 - 10 明治四三年一二月二一日 賜物有之 来る廿四日出頭相成たし
 - 11 明治四四年六月一五日 賜物有之 来る十七日参内あるべし
 - 12 明治四四年一〇月二五日 今朝奉答の趣申上候処井上大将のみ今度は元帥府に被列候思召
 - 13 明治年三月一三日 御来示拜答 午後早々拜趨仕るべし
 - 14 明治年五月一八日 貴省文官普通懲戒委員人名承知致したく折返し申出ありたし
 - 15 明治年六月一五日 賜物有之 来る十七日参内あるべし
 - 16 明治年六月二三日 賜物有之 来る二十五日参内ありたし

- 17 明治年六月二四日 賜物有之 来廿六日参内あるべし
 - 18 明治年六月二四日 賜物有之 明廿五日当職へ出頭相成たし
 - 19 明治年七月八日 昨日陛下御手許へ御差出の山本大将機密信は写あらば御上奏の分御留置に相成候間宜敷哉
 - 20 明治年一二月二〇日 賜物有之 来る廿二日参内可あるべし
 - 21 明治年一二月二二日 賜物有之 来る廿四日参内可あるべし
 - 22 明治年一二月二四日 賜物有之 来る廿五日参内可あるべし
- 一〇九四、徳富猪一郎
 - 1 明治三七年一月四日 愈よ時機も切迫 此際は御奉公相励たし よろしく御引立願上
 - 2 明治三七年二月五日 非常の場合には何卒御垂誨の程伏して願上
 - 3 明治三七年四月一〇日 広瀬中佐戦死葬儀に関する広告本日の時事朝日其他二三の新聞に掲載 国民新聞も有力新聞と均霑致したく然るべく御配慮下さらば幸甚
 - 4 明治三九年六月一四日 海軍防備隊より愁篤なる待遇を辱ふし閣下御高配感謝 旅順に於て三須中将訪問も不在にて余時なき為めに面会不能
 - 5 明治四〇年九月二一日 今回の叙爵大慶至極（付）徳富猪一郎名刺
 - 6 明治四四年九月二四日 老父無恙九十歳の誕辰 内祝を兼御礼申上たし
 - 7 大正四年一月日 今般故桂公伝記編纂に着手 同公書簡及同公に直接間接関係ある書類恩貸相叶間敷哉
 - 8 大正九年三月一〇日 理学博士三宅驥一氏は朝鮮人蔘に関し十数年来研究 御接見の上同人の意見御聴取下さらば大幸9 大正一〇年四月一一日 今度老妻同行史跡查跡旁錦地に罷出につきよろしく願上申候
 - 10 大正一〇年九月二七日 福田生は山水画家として江湖に著名 今度金剛山に赴き候間御保護願上
 - 11 大正一一年三月三日 青山会館は朝鮮方面に尤も貢献致すべき旨趣は定て阿部君より御聴取の事と奉存 願くは尊閣は勿論朝鮮関係銀行会社等御一声願上 会館完成の日には必らず多大の効果確信
 - 12 大正一五年四月九日 三宅驥一博士朝鮮蔘播殖に付き功勞の一件御貴命書付同人より御手許迄奉呈 然るべく御尋酌願上
 - 13 昭和二年四月二三日 黄白人種水平問題に付ては奮勵期待 日本の朝鮮統治に関する真相は悪宣伝の影響猖獗 日本の朝鮮に於ける善政善治は英の印度仏のアルゼルヤ米の比律賓の比にあらさることを無遠慮に闡明願上
 - 14 昭和二年四月二三日 今度社員森山生随行に付き然るべく御指導下されたし
 - 15 昭和二年九月一一日 老閣の君国に貢献の功大矣是公論 帝国平和倦々の誠衷を宇内に知らしめたること洵に帝国の位地をして九鼎大呂より重からしめ候
 - 16 昭和三年四月一七日 青山会館主催国民新聞社後援の下に松菊先生遺墨展覧会開催本会特別協賛員たることを御許諾懇願（付）松菊先生遺墨展覧会趣意書及会期・会場・出品・講演の案内
 - 17 昭和三年月日 今回昭和戊辰を機とし静寛院宮（和宮）親筆日記上下二巻公刊 一般家庭に推薦につき何分の御高配を蒙りたし
 - 18 昭和四年八月三一日 老閣渡鮮の際は阿部充家氏の事御記憶下さる様希望 朝鮮に於ても老閣による新局面打解最近の弊習一洗を翹望
 - 19 昭和四年一二月日 結城礼一郎君は老生多年の友人にて新聞界の奇材 今回四谷区選出の市会議員たらんとす 君は必らず区民諸君の希望に副ふ所あるべし
 - 20 昭和八年三月一四日 過日奎堂老伯及拙子より御高配煩せし貴族院勅選につき本山翁後任として光永星郎氏推薦の一件は即今書記官長更迭に付き杞憂禁ずる能はず 只今首相官邸に於て堀切翰長に面会し従前の成行を陳述
 - 21 昭和八年四月一八日 別紙投書供貴覧 下情上達の為め其の標本を差出（付）佐倉宗五郎書翰 徳富猪一郎宛 昭和八年四月一

七日付 一つ精一杯官吏を訓戒してやつて下さい 人民に非常時を説法し乍らお役人がこれでよろしいか (裏) 昭和八年四月一
七日付新聞記事「政変の気構へから各省は怠業状態 陰うつ政局を覆う」

- 22 昭和八年一二月五日 勅選議員発表只今拝見 老閣能く衆望の邀ふ所を御洞察下され忝なし
- 23 昭和九年月日 日日だより切抜二葉 蘇峰生「斎藤内閣の前途一速に怪雲暗霧を一掃せよ」 「斎藤内閣本領失墜の掛念」

• 一〇九五、床次竹二郎

- 1 明治年四月二六日 (木村秘書官宛) 拙著欧米小観忝部貴大臣へ進呈致したし
- 2 大正一一年六月一二月日 水野君後任に山ノ内一次君推挙
- 3 大正年月日 宮中顧問官平山成信等苦心の列聖全集漸く完成
- 4 昭和八年七月三日 日本興国同盟理事長井上仁吉博士並幹部諸君を紹介 貴下も右同盟の賛助員として加入協力を得たく希望 (付) 日本興国同盟趣旨書 昭和八年六月
- 5 七年八月二九日 来九月六日花田君上京の筈 同七日午後五時より中央亭に於て例会 御出席下されたく通知
- 6 年一二月一八日 例の中央亭の会合を来廿二日午後五時より内務大臣官邸に開催 此段通知
- 7 年四月九日 宮手君手紙の通に有之 但小生半分までは六ヶ敷とも寄せ集めて出馬せしめたきに付き御奮発下され間敷哉
- 8 年六月一日 米国投資団の一なるブレア会社代表者コロネス・ヘルムス氏紹介 御引見御話下さらば仕合

• 一〇九六、豊島二郎

- 1 昭和四年一〇月二四日 川渡山林購入 塩竈山林売却 松井家道具売却 仙台男爵家に種々の事起り閉口
- 2 昭和五年一二月一六日 先般家政協議員会開催来年度予算可決 鮭一尺及金五拾円御受納下されたし 西行上人間書牒本一部進呈
- 3 昭和九年九月一八日 本夕墓参の為め水沢に御帰省の趣河北新報にて承知 寸志を表したく御花料として別封差上
- 4 年三月五日 今回提出の解囑願に就ては緊急協議会開催の上諮問の事と相成 内意は到底御聴許なき模様一〇九七、戸嶋祐次郎
- 1 昭和六年一二月一九日 過日渡鮮の際は結構なる品拝受御礼 林檎二箱朝鮮キムチ漬 (自製品) 一樽差送

• 一〇九八、戸島

- 1 大正年月日 御両人様御身大切に下されたし 仁礼御尊母様に宜敷 朝鮮羅南の師団が出兵しました トウマン港に出発致しました

• 一〇九九、戸田氏共

- 1 明治四〇年一二月二五日 本月二十八日帝国議會開院式につき貴族院へ行幸 正服着用該院へ先着あるべし
- 2 明治四〇年一月二五日 来廿八日勲章授与 正服着用参内あるべし
- 3 明治四二年一二月二二日 本月二十四日帝国議會開院式につき貴族院へ行幸 該院へ先着あるべし (付) 帝国議會開院式次第・式場図
- 4 明治四三年三月二三日 本月廿四日貴族院に於て帝国議會閉会式執行につき参院あるべし (付) 帝国議會閉会式次第・式場図
- 5 大正元年九月一六日 来る十八日英国皇族アーサー・オフ・コンノート親王殿下参内同国皇帝陛下より贈進のガーター勲章 捧呈につき参内相成たし (付) 「宮中に参入する者の桂袴の制」 (皇室令第八号) 大正四年七月二四日
- 6 大正四年四月五日 昭憲皇太后一周年祭に付き通知 (付) 山陵の儀参集諸員用臨時列車発着時刻
- 7 大正四年九月二九日 即位礼及大嘗祭・大饗に召せらるる筈に付き参列の有無確定の上折返し回答相成たし (付) 「今秋大

典各儀に於る女子の服装」

- 一一〇〇、戸田経彦
 - 1 昭和七年六月一六日 御執奏奉願（付）戸田経彦「蘭谷機械農場運営引継ぎに際して」昭和七年六月
- 一一〇一、栃内曾次郎
 - 1 明治三三年一月二二日 日高中将は二十二日夜発二十四日著との電報 仁礼中将の計及葬式日取は先刻急報 山ノ内大佐は二十六日迄に着京（付）栃内曾次郎「葛城に関する件」其の後同艦の消息なし 各部に遭難事件電話済
 - 2 明治三四年一月二九日（小村寿太郎書翰 山本権兵衛宛）露国艦隊司令官スリドロフ中将及参謀長叙勲の儀は他の海軍将校六十余名の分と共に叙煎奏請取計 兩名分は上裁次第勲章廻送の旨賞勲局へ申送
 - 3 明治三四年月日（小村寿太郎書翰）露国將軍・参謀長叙勲の件につき今朝上奏書を賞勲局へ送致 至急上裁を仰ぎ兩人の勲章は出発迄に取計（後半欠）
 - 4 明治三四年八月一八日 横鎮經由大臣より電話「三十五年度予算査定書桂首相より落手 該査定の方針に従ひ調整すへし」
 - 5 明治三九年三月一三日 御申付の品物は林大使の便に頼み送付 三月十二日林大使送別会日本協会に依て企画
 - 6 明治四〇年一月一九日 マクドナルド大使外二人への贈物夫々送り届け方取計 拙者へも珍画送致御礼 此度頂戴のもの類を十枚位御惠送願いたし 山本前大臣渡英の由 我海軍の好消息拝聴を楽み罷在
 - 7 明治四〇年一月二五日 過日転送方取計の絵はノーエル大将・マクドナルド大使・ブリッジ大将各自筆の挨拶に接し候に付き本件結了
 - 8 明治四〇年四月一〇日 日本海々戦の図マクドナルド・ブリッジ・ノーエル各氏に配送 拙者へ送付の分は難有頂戴 山本大将は十日セノア著の予定 伊集院艦長もポートセイド辺にあり
 - 9 明治四一年八月一日 一千円此程到着につき井出に面会の上処分 内閣更迭に付き結局留任は然るべし 阪谷男に在英中工業地遊覧を勧奨 毘社製造の我潜水艦も旬日内に公試の予定
 - 10 明治四一年一〇月一〇日 平賀のデボンポート工廠にて新艦実施見学は我海軍造船界に貢献大 秘書官より送付の千円井出氏に交付 小村伯に依り願上たる件取計下されぬ由
 - 11 明治四一年一二月二日 紙包二個去る十九日入手 ハチソンの外は総て栗栖升前に到着候様発送 トローブリッジよりは受領の回答 掛物一つ絵二函拝納
 - 12 明治四五年三月九日 御下命の件を帯ひ外務省に参り候処大内閣東都督府民政長官代理より外相宛仰訓来り居り白仁氏も来会 倉知氏に於て遼西直隸地方にては我態度の不干渉たるべき旨の要領起案
 - 13 明治年四月八日 御依頼の名刺出来 第三拡張を待つ非されは外国製の見込のものは来年度よりの甲鉄艦とさ来年度よりの四艦あるのみ
 - 14 大正三年六月三日 進級に付ては年来御引立の致す所 村上小栗両氏の復職同慶の至 本日の海軍省は防務会議にピーアクト等にて多忙なる如く見受15 大正四年八月六日 第二艦隊年度作業の最中にて鎮海を中心に所謂蠢動 鎮海も大水路の如き施備大に面目を改め鎮海市街も第二艦隊入来後景気稍恢復 兵営も鎮海に設けられるへきを適當と致候
 - 16 大正五年一月二二日 別紙ウインスロー大將近信中先海相とあるは閣下の事と覚へ供覧
 - 17 大正五年一〇月一日 明夕は軍令部長の御招あるに付き明後三日午後四時頃参邸
 - 18 大正七年一〇月一日 官房会の第二会を来る七日午後六時花月にて開催 御来会下されたく招待
 - 19 大正七年一二月二三日 佐藤昌介氏よりの来状御目にかけ候（付）佐藤昌介書翰 栃内曾次郎宛 大正七年一二月二〇日付 齋藤大将代人の件封中名刺の人物は信用し得べきものに付き左様御承下されし 俵長官に会見齋藤大将より書面達せる由拝承
 - 20 大正八年二月一日 尊翰拜見原氏へ御伝言敬承 安場男爵家に御紹介下さる為め十六日午後二時妻及三女引連れ御宅へ伺

うべき旨御下命御請申上

- 21 大正八年九月三日 兇変の報に接し驚入 御難を遁れられ国家の為め恐悦至極
 - 22 大正八年九月二九日 先般野村大佐の出張御役に相立欣幸 其節第一の御希望山川参事官も御垂示に依り取計申すべし
 - 23 大正八年一〇月一九日 大臣より申されるには東条大佐は来る十二月には現職変更の必要あり代りは中少佐辺にて目下物色中なる旨
 - 24 大正九年一二月六日 昨夜は拝顔を得欣幸 十二月月上旬には長門にて横須賀に回航仕るべく此新艦を御覧願いたし 明日は一時帰鮮の由平安を祈候
 - 25 大正一一年七月一日 其の日の時化は午後二時最甚 釜山外港に下向に吹込み飛沫中天に巻揚く恰も霧の如し碇泊中激浪前甲板を越し或は後甲板に大滝を込むなど珍らしき時化
 - 26 大正一二年六月三日 今般最高軍職に補任感銘 佐鎮在職中尊来を願ひしも先般取止に相成残念 大門機関少将に依り御希望拝承に付き後任者に申継
 - 27 大正一二年一二月一五日 此度ホームを建設 来る二十日午後六時より紅葉館へ御出てを願上
 - 28 大正一三年三月一三日 去月二十五日を以て予備役被仰付 段々の御礼申上たし
 - 29 大正一三年八月三日 長女京子爵山内豊健氏の兄豊陽に縁談あり六月末結婚 世間下岡氏は加藤子に嫌はれ閣下を担ぎ次の内閣を計画中和取沙汰 又同氏は就任早々鮮人に対する言葉不用意の為反感を受け居る由
 - 30 大正一四年四月一〇日 此度陞爵の趣 謹て祝詞申述
 - 31 大正一四年一〇月一日 工業に関する博物館設立の計画にて実務に当るべき人を海軍に物色中の由 宮川氏の代りとして重村義一氏を推薦致したし
 - 32 大正一四年一〇月二二日 重村義一氏の件に付き拝晤仕りたし 都合宜しき日時を御報賜りたし
 - 33 大正一四年一二月三〇日 重村氏の件にて御手書下され難有本人貴地出向の節は御配慮願上
 - 34 大正一五年一二月二五日 寄宿舎岩手寮世話人予備憲兵中佐奥村恵氏より閣下へ紹介を請はれしに付き名刺付与 一度御引見を許されたく懇願
 - 35 昭和四年一二月二一日 御地産苹果惠送御礼
 - 36 年一月二二日 昨日は大勢参艦致し御丁寧なる案内及御馳走にあつかり姉深く満足 右御礼申上たし
 - 37 年三月一三日 斎藤文也様に托され結構なる御品御惠贈感銘殿下愈御著誠の一字を以て輔道申上げなば大任を完ふする事得へきかと存念
 - 38 年一二月二五日 紙包一つ御受取仕候也
 - 39 年月日 任地非常なる洪水の由御見舞 先般島崎大将帰京近況拝承 四月末以来第三回の臨時講習に参加聴講 政界又々発作を始め此度は何等か具体的に結果を生ずるには無きかと拝察
 - 40 年月日 艦隊仁川寄港に付き多大の厚情感激の至 李王殿下御来臨に関し不備の点あり恐縮 艦隊は本日午後一時出帆 七月二十二日迄鎮海を中心とし馬山釜山各地に分遣の予定
- 一一〇二、富井政章
 - 1 年一二月四日 任地の名産紅蔘一箱御惠贈下され厚意難有
 - 一一〇三、富岡定恭
 - 1 明治三八年八月一五日 ナカタレ号本校附属船として採用の適否に付き調査 船体薄弱にして不適當 新式の螺旋船付属せしめられたく希望
 - 2 明治三九年一〇月一日 先般御話の生徒過る日曜日本人を自宅に招致し素志貫徹に努むべき旨懇諭 御安心相成たし

- 3 明治四三年四月一日 当経理部長真野秀雄本年八月を以て年齢満限 此際進級の栄を荷ひ相当の要職に就くも更に実績を挙げ得る事と確信4 明治年月一四日 此度南洋より持参の鼈甲并にパインアップル進呈
- 一一〇四、戸水寛人
 - 1 大正一三年三月一日 問題の焦点は李容翊氏が第一銀行に預たる金は性質上果して公金なりしや抑も亦私金なりしやに在り 思想指導の趣旨に依り速に返金の御処置仰きたし 本事件に関し劉臣赫氏御引見懇願
 - 2 大正年六月五日 平岡重太郎は支那近代文学に長ずる篤学の人物 今回其門下結城廉造を伴ひ日清文化事業の為め支那漫遊につき御引見下さ、れたし
 - 3 年二月二九日 劉臣赫氏参上せば面会下されたし
- 一一〇五、富田禎二郎
 - 1 明治三十一年一〇月五日 当地に碇泊中は色々難有感謝 過世日又々暴風 幸にて損害もなし
- 一一〇六、富田義男
 - 1 昭和五年一月日 謹賀新年
- 一一〇七、富田隆治
 - 1 昭和九年九月一〇日 染筆揮毫御礼
- 一一〇八、富永一二
 - 1 大正一三年一月一日 謹奉賀新年
- 一一〇九、友松八郎
 - 1 明治五年一二月七日 揮毫御礼
 - 2 昭和八年九月七日 思想対策の一として断然悪たれ新聞雑誌に廃刊を命ずる事先つ世番に実業の世界を断然廃刊して可なりと信ずる（付）新聞記事切抜 昭和八年八月二七日付「若槻さんは挨拶に来られた会見後に於て斎藤首相語る」
- 一一一〇、外山正一
 - 1 明治年七月一〇日 江田島海軍兵学校生徒各店県別人員報告依頼
 - 2 明治年七月一九日 依頼の件御取計下され御礼
- 一一一一、豊川良平
 - 1 明治三二年五月三一日（水谷六郎と連名）晚餐差上たく来月二日築地瓢屋へ御光来仰ぎたく案内
 - 2 明治三四年八月二日 武田秀雄氏今般仏国渡航に付き送別の小集案内
 - 3 明治三六年一二月二日 御高話拝聴致したく来る廿七日築地瓢屋へ御来臨下されたく案内
 - 4 明治四一年五月二五日 昨廿四日当社の和田栲橋披露会に宮原中将の御貴臨を辱ふし御芳情感謝
 - 5 大正四年七月一二日 御高話拝聴旁粗餐差上たく築地新喜楽へ御光来下されたく御案内
 - 6 大正六年四月一二日 過日来リュウマチスの為め御悩ませられ候由 御静養の程奉祈 斉も愈学習院へ入学寄宿
 - 7 大正八年八月九日 新聞紙の報ずる処によれば朝鮮総督たるの大命閣下に下らん事最早疑もなき事 邦家の為め御自愛專一に奉願
 - 8 大正八年九月五日 京城南大門外狂漢あらはれ爆弾投下の由驚入 閣下御武運の盛なる慶賀に堪へず
 - 9 大正八年一二月五日 孫和子死去に御悔状給はり御礼 朝鮮陰謀団一掃の由邦家の為め慶賀の至
 - 10 大正九年一月一二日 過日齊殿帰京の際は珍しきもの御恵投下され御芳情深謝

- 11年三月二七日 辻村氏来訪懇談 某会社の社長として立つを欲せざる様の回答
- 12年一〇月一五日 来る廿五日常盤屋にて晚餐差上たく御来臨希上
- 13年一二月二日 昨夜は大酔帽子取違着用は甚無鄭法と汗顔の至 只今使者に参上致させ候間御受納下されたし

- 一一一、 豊田貞次郎
 - 1 大正一四年七月二七日 陸爵同慶に堪へず祝詞 欧州見物観察も皮相の感に過ぎずかと懸念 御依頼の名刺調整一部郵送
 - 2 大正一四年一二月三〇日 著任後彼是二年任務遂行も容易 矢野陸軍大尉にも面晤 松村秘書官とも入違と相成残念 吉村其他の諸官にも面晤致し朝鮮の様態等も聴取
 - 3 昭和二年一〇月三〇日 我々随員の重任遂行は全権代表たる閣下の人格努力の賜 海軍大演習に便乗見学有益なる収穫

- 一一二、 鳥海経吉
 - 1 明治年四月一〇日 今朝拝謁の際御願上の理事長以下の役員補欠選任の義御高配の事御承諾下され感佩の至